相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事
(構造)

構　造　図		（本部庁舎）			（車庫棟）			（訓練棟）			（その他）		
図面番号		図　面　名　称	図面番号		図　面　名　称	図面番号		図　面　名　称	図面番号		図　面　名　称	図面番号		図　面　名　称
1	S-000	表紙・図面リスト	1	S-101	消防本庁（署）棟　構造特記仕様書（1）	51	S-151	消防本庁（署）棟　鉄骨詳細図（8）	1	S-301	車庫棟 構造特記仕様書（1）	1	S-401	訓練棟 構造特記仕様書（1）	1	S-501	その他 構造特記仕様書（1）
2	S-001	構造関係共通事項（構造関係共通事項）	2	S-102	消防本庁（署）棟　構造特記仕様書（2）	52	S-152	消防本庁（署）棟　鉄骨詳細図（9）	2	S-302	車庫棟 構造特記仕様書（2）	2	S-402	訓練棟 構造特記仕様書（2）	2	S-502	その他 構造特記仕様書（2）
3	S-002	構造関係共通事項（配筋標準図その１）	3	S-103	消防本庁（署）棟　ボーリング位置図、地盤改良配置図	53	S-153	消防本庁（署）棟　鉄骨詳細図（10）	3	S-303	車庫棟 ボーリング位置図、地盤改良配置図	3	S-403	訓練棟 ボーリング位置図、地盤改良配置図	3	S-503	その他 屋内貯蔵所 伏図、軸組図
4	S-003	構造関係共通事項（配筋標準図その２）	4	S-104	消防本庁（署）棟　土質柱状図（1）	54	S-154	消防本庁（署）棟　鉄骨詳細図（11）	4	S-304	車庫棟 伏図（1）	4	S-404	訓練棟 伏図（1）	4	S-504	その他 屋内貯蔵所 架構配筋図
5	S-004	構造関係共通事項（配筋標準図その３）	5	S-105	消防本庁（署）棟　土質柱状図（2）	55	S-155	消防本庁（署）棟　鉄骨屋根伏図	5	S-305	車庫棟 伏図（2）	5	S-405	訓練棟 伏図（2）	5	S-505	その他 地下燃料タンク配筋図・地盤改良図・山留計画図（参考図面）
6	S-005	構造関係共通事項（配筋標準図その４）	6	S-106	消防本庁（署）棟　基礎伏図	56	S-156	消防本庁（署）棟　鉄骨屋根取合い詳細図	6	S-306	車庫棟 軸組図（1）	6	S-406	訓練棟 軸組図	6	S-506	その他 外構基礎図（1）
7	S-006	構造関係共通事項（鉄骨標準図その１）	7	S-107	消防本庁（署）棟　1階床梁伏図	57	S-157	消防本庁（署）棟　ALC版取合要領図（1）	7	S-307	車庫棟 軸組図（2）	7	S-407	訓練棟 柱芯寄図・柱断面リスト	7	S-507	その他 外構基礎図（2）
8	S-007	構造関係共通事項（鉄骨標準図その２）	8	S-108	消防本庁（署）棟　2階床梁伏図	58	S-158	消防本庁（署）棟　ALC版取合要領図（2）	8	S-308	車庫棟 柱芯寄図・柱断面リスト	8	S-408	訓練棟 大梁断面リスト	8	S-508	その他 外構基礎図（3）
9	S-008	高強度せん断補強筋施工仕様書	9	S-109	消防本庁（署）棟　3階床梁伏図				9	S-309	車庫棟 大梁断面リスト・小梁断面リスト・床版リスト・壁リスト	9	S-409	訓練棟 小梁断面リスト・床版リスト・壁リスト			
10	S-009	定着板工法標準書（参考図）	10	S-110	消防本庁（署）棟　R階床梁伏図				10	S-310	車庫棟 基礎リスト	10	S-410	訓練棟 基礎リスト			
11	S-010	梁貫通孔補強材 標準仕様書（参考図）	11	S-111	消防本庁（署）棟　軸組図（１）				11	S-311	車庫棟 鉄骨部材リスト・大梁継手リスト・柱脚詳細図	11	S-411	訓練棟 架構配筋図			
12	S-011	梁貫通孔補強材 寸法・重量表（参考図）	12	S-112	消防本庁（署）棟　軸組図（２）				12	S-312	車庫棟 架構配筋図	12	S-412	訓練棟 鉄骨階段詳細図			
13	S-012	地盤改良工事特記仕様書(1)（参考図）	13	S-113	消防本庁（署）棟　軸組図（３）				13	S-313	車庫棟 鉄骨詳細図（1）	13	S-413	訓練棟 雑配筋図（1）			
14	S-013	地盤改良工事特記仕様書(2)（参考図）	14	S-114	消防本庁（署）棟　軸組図（４）				14	S-314	車庫棟 鉄骨詳細図（2）	14	S-414	訓練棟 雑配筋図（2）			
15	S-014	地盤改良工事特記仕様書(3)（参考図）	15	S-115	消防本庁（署）棟　軸組図（５）				15	S-315	車庫棟 鉄骨階段詳細図（1）	15	S-415	訓練棟 雑配筋図（3）			
			16	S-116	消防本庁（署）棟　軸組図（６）				16	S-316	車庫棟 鉄骨階段詳細図（2）						
			17	S-117	消防本庁（署）棟　軸組図（７）				17	S-317	車庫棟 雑配筋図						
			18	S-118	消防本庁（署）棟　軸組図（８）												
			19	S-119	消防本庁（署）棟　柱断面リスト・床版リスト・壁リスト												
			20	S-120	消防本庁（署）棟　大梁断面リスト(1)												
			21	S-121	消防本庁（署）棟　大梁断面リスト(2)												
			22	S-122	消防本庁（署）棟　小梁断面リスト												
			23	S-123	消防本庁（署）棟　プレストレストコンクリート特記仕様書												
			24	S-124	消防本庁（署）棟　PC梁KEYPLAN・梁リスト												
			25	S-125	消防本庁（署）棟　PC梁配線断面図												
			26	S-126	消防本庁（署）棟　PC梁定着端部詳細図												
			27	S-127	消防本庁（署）棟　　架構配筋図(1)												
			28	S-128	消防本庁（署）棟　　架構配筋図(2)												
			29	S-129	消防本庁（署）棟　　架構配筋図(3)												
			30	S-130	消防本庁（署）棟　　架構配筋図(4)												
			31	S-131	消防本庁（署）棟　PC特記仕様書・平面割付図・詳細図												
			32	S-132	消防本庁（署）棟　雑配筋図（１）												
			33	S-133	消防本庁（署）棟　雑配筋図（２）												
			34	S-134	消防本庁（署）棟　雑配筋図（３）												
			35	S-135	消防本庁（署）棟　屋上機械基礎配筋図												
			36	S-136	消防本庁（署）棟　玄関庇詳細図												
			37	S-137	消防本庁（署）棟　袖壁パネル詳細図												
			38	S-138	消防本庁（署）棟　耐震天井要領図												
			39	S-139	消防本庁（署）棟　鉄骨屋根トラス図（1）												
			40	S-140	消防本庁（署）棟　鉄骨屋根トラス図（2）												
			41	S-141	消防本庁（署）棟　鉄骨屋根トラス図（3）												
			42	S-142	消防本庁（署）棟　鉄骨屋根トラス図（4）												
			43	S-143	消防本庁（署）棟　鉄骨部材リスト兼継手リスト												
			44	S-144	消防本庁（署）棟　鉄骨詳細図（1）												
			45	S-145	消防本庁（署）棟　鉄骨詳細図（2）												
			46	S-146	消防本庁（署）棟　鉄骨詳細図（3）												
			47	S-147	消防本庁（署）棟　鉄骨詳細図（4）												
			48	S-148	消防本庁（署）棟　鉄骨詳細図（5）												
			49	S-149	消防本庁（署）棟　鉄骨詳細図（6）												
			50	S-150	消防本庁（署）棟　鉄骨詳細図（7）												

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【共通】 表紙・図面リスト		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
	小田　文武	安川　雅巳	A1:- A3:-	S-000

構造関係共通事項

構-1 総則

1.1 適用範囲
（1）構造関係共通事項(配筋標準図)は鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄筋の加工、組立等の一般的な標準図とする。
（2）構造関係共通事項(鉄骨標準図)は鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄骨の加工、組立の一般的な標準図とする。

1.2 優先順位
設計図書の図面のうち建築構造図に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。
1．構造図及び構造関係共通事項（構造関係共通事項）
2．構造関係共通事項（配筋標準図、鉄骨標準図）

1.3 特記仕様
項目は、番号に⊙印の付いたものを適用する。
特記事項は、⊙の付いたものを適用する。
⊙印の付かない場合は※印の付いたものを適用する。
⊙印と※印の付いた場合は共に適用する。

1.4 用語の定義
（1）構造図とは、建築構造図のうち構造関係共通事項以外の図面をいう。
（2）異形鉄筋の径(本文、図、表において「D、d」で示す)は、呼び名に用いた数値とする。
（3）長さ、厚さ等の単位は、特記なき限りmmとする。

1.5 記号等
図面で使用する記号等は表1.1～表1.8、図1.1を標準とする。

表1.1 異形鉄筋の断面表示記号

区分＼径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建築	●	×	⌀	◉	○	⊙	⊗	◎

表1.2 各階伏図における記号

記号	説明	記号	説明
S※	スラブの配筋種別		杭の位置
	スラブ厚さ		試験杭の位置
	階段の配筋種別		打増しの範囲
DO	土間コンクリート		スラブ開口
	コンクリートブロック壁（CB壁）		ボーリング位置
	梁・スラブの上がり下がりの範囲	（±　）	FLからの上がり下がり
EW○○ EKW○○ ERW○○	耐力壁 片持ちスラブ階段を受け、かつ耐力壁 土圧を受け、かつ耐力壁		

表1.3 梁貫通孔記号

区分＼径	50	75	100	125	150	175	200	225	250	275	300	325	350	375	400
建　築	⊖	⊗	┼	⊗	⊖	⊗	╪	⊗	⊖	⊗	≡	⊗	⊖	⊗	≡

表1.4 スリーブ材質の凡例

管　名	鋼　管	溶融亜鉛めっき鋼版	硬質塩化ビニル管（薄肉管）	つば付き鋼管（黒管）
記号（建築用）	SP（白管）	GA	VU	RS

※建築用以外のスリーブ材質は各工事による。

表1.5 高力ボルト径の記号

区分＼径	M12	M16	M20	M22	M24
高力ボルト（F10T、S10T）	●	◆	◆	⊗	⊗
溶融亜鉛めっき高力ボルト（F8T相当）	／	｜	┼	⊗	⊗

表1.6 普通ボルト径の記号

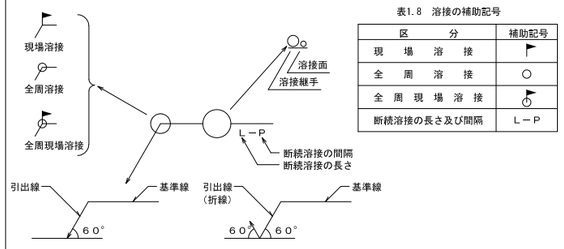
区分＼径	M12	M16	M20	M22	M24
普通ボルト	○	◇	◇	⊗	⊗

表1.7 溶接継手及び溶接面の分類別記号

分類			記号
溶接継手	完全溶込み溶接	突合わせ継手	B
		T型継手	T
		かど継手	L
	隅肉溶接		F
	部分溶込み溶接		P
	フレア溶接		FL
溶接面	片面溶接		1
	両面溶接		2

表1.8 溶接の補助記号

区分	補助記号
現場溶接	⚑
全周溶接	○
全周現場溶接	⚑○
断続溶接の長さ及び間隔	L－P



※特記無き限り、完全溶込溶接の溶接方法・溶接面は適切な溶接方法等による。

構-2 建物概要等

項目	特記事項
1.建物概要等 ※主要建物について記載	消防本庁（署）建物概要 構造概要 車庫棟 建物概要 構造概要 訓練棟 建物概要 構造概要

消防本庁（署）建物概要

		備考
工事名称	相楽中部消防組合消防本部(署)新庁舎建設工事	
工事場所	京都府木津川市城山台九丁目1番の一部他	
延べ面積	（　4608.00　）m²	
建築面積	（　2334.43　）m²	
階数	地上（ 3 ）階 地下（ － ）階 塔屋（ － ）階	階数に算入しない階 ⊙無し　・有り（　　）
高さ関係	高さ（ 14.00 ）m 軒高（ 13.40 ）m	
工事種別	⊙新築　・増築　・改築　・移転 ・大規模の修繕　・大規模の模様替	

構造概要

				備考
構造種別	地上	（1）階～（3）階（RC）造 （　）階～（　）階（　　）造	地下	（　）階～（　）階（　　）造 （　）階～（　）階（　　）造	ー部SRC+S造
架構形式	X方向	（耐震壁付ラーメン　　）構造			
	Y方向	（耐震壁付ラーメン　　）構造			
耐震構造	⊙耐震構造　・制振構造				
方式	・免震構造(免震層の位置　・基礎下免震　・中間階免震（　　）階				
基礎方式	・直接基礎(・独立　・連続　⊙べた　・　　) ・杭基礎(・場所打ちコンクリート杭　・既製コンクリート杭 ・鋼管杭　⊙地盤改良　　)			適用箇所は図示による（　　）	
耐震安全性の分類	⊙Ⅰ類(1.5)　・Ⅱ類(1.25)　・Ⅲ類(1.0)				

車庫棟 建物概要

		備考
工事名称	同上	
工事場所	同上	
延べ面積	（　387.22　）m²	
建築面積	（　268.36　）m²	
階数	地上（ 3 ）階 地下（ － ）階 塔屋（ － ）階	階数に算入しない階 ⊙無し　・有り（　　）
高さ関係	高さ（ 11.40 ）m 軒高（ 10.50 ）m	
工事種別	⊙新築　・増築　・改築　・移転 ・大規模の修繕　・大規模の模様替	

構造概要

				備考
構造種別	地上	（1）階～（3）階（RC）造 （　）階～（　）階（　　）造	地下	（　）階～（　）階（　　）造 （　）階～（　）階（　　）造	ー部S造
架構形式	X方向	（ラーメン　　）構造			
	Y方向	（耐震壁付ラーメン　　）構造			
耐震構造	⊙耐震構造　・制振構造				
方式	・免震構造(免震層の位置　・基礎下免震　・中間階免震（　　）階				
基礎方式	・直接基礎(⊙独立　・連続　・べた　・　　) ・杭基礎(・場所打ちコンクリート杭　・既製コンクリート杭 ・鋼管杭　⊙地盤改良　　)			適用箇所は図示による（　　）	
耐震安全性の分類	⊙Ⅰ類(1.5)　・Ⅱ類(1.25)　・Ⅲ類(1.0)				

訓練棟 建物概要

		備考
工事名称	同上	
工事場所	同上	
延べ面積	（　472.52　）m²	
建築面積	（　136.58　）m²	
階数	地上（ 4 ）階 地下（ － ）階 塔屋（ － ）階	階数に算入しない階 ⊙無し　・有り（　　）
高さ関係	高さ（ 18.35 ）m 軒高（ 13.70 ）m	
工事種別	⊙新築　・増築　・改築　・移転 ・大規模の修繕　・大規模の模様替	

構造概要

				備考
構造種別	地上	（1）階～（4）階（RC）造 （　）階～（　）階（　　）造	地下	（　）階～（　）階（　　）造 （　）階～（　）階（　　）造	
架構形式	X方向	（ラーメン　　）構造			
	Y方向	（ラーメン　　）構造			
耐震構造	⊙耐震構造　・制振構造				
方式	・免震構造(免震層の位置　・基礎下免震　・中間階免震（　　）階				
基礎方式	・直接基礎(⊙独立　・連続　・べた　・　　) ・杭基礎(・場所打ちコンクリート杭　・既製コンクリート杭 ・鋼管杭　⊙地盤改良　　)			適用箇所は図示による（　　）	
耐震安全性の分類	・Ⅰ類(1.5)　・Ⅱ類(1.25)　⊙Ⅲ類(1.0)				

構-3 あらかじめの検討

2.構造設計条件等

計算方法

	X方向	Y方向	備考
許容応力度計算（令第82条各号＋令第82条の4）【ルート1】			X方向、Y方向の適用する計算法に○を記載する
許容応力度等計算　【ルート2】			
保有水平耐力計算　【ルート3】	○	○	
限界耐力計算			
その他の計算法（　　）			
特別な検証法(時刻歴応答解析による)			
大臣認定(認定番号　　)			
指定性能評価機関名（　　）			
評価　・高層評価　・免震評価　・その他			
(評価番号　　)			

外力等

				備考
地震力	設計用一次固有周期	（本庁棟：0.268　倉庫棟：0.092）秒 （車庫棟：0.210　　）秒 （訓練棟：0.274　　）秒		
	地震地域係数(Z)	Z=⊙1.0　・0.9　・0.8　・0.7		
	地盤の種別	第（　）種地盤 Tc=（ 0.6 ）秒		
	標準せん断力係数	X方向	Y方向	
	一次設計	C₁=（ 0.2 ）	C₁=（ 0.2 ）	
	二次設計	C₁=（ 1.0 ）	C₁=（ 1.0 ）	
風圧力(施行令第87条)(消防本庁(署))	地表面粗度区分	基準風速(V_0)	速度圧(q)	
	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	（ 32 ）m/s	1077	
風圧力(施行令第87条)(車庫棟)	地表面粗度区分	基準風速(V)	速度圧(q)	
	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	（ 32 ）m/s	1013	
風圧力(施行令第87条)(訓練等)	地表面粗度区分	基準風速(V)	速度圧(q)	
	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	（ 32 ）m/s	1157	
風圧力(施行令第82条の4)	地表面粗度区分	基準風速(V_0)	平均速度圧(q)	
	・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	（　）m/s		
積雪荷重	区域	・多雪区域　⊙多雪区域以外		
	設計垂直積雪量	（ 30 ）cm		
	単位荷重	（ 600 ）N/m²/cm		
	垂直積雪量の低減	・低減する　⊙低減しない		

3.地盤調査資料

調査報告書
⊙当該敷地の既往調査報告書のみによる
・当該敷地の既往調査報告書及び今回工事に含まれる地盤調査報告書による
※工事着手前に当該敷地内で（　　）図に示す地盤調査を行う
調査内容(既往調査内容含む)
・サウンディング
※標準貫入試験
・スウェーデン式サウンディング試験
・オランダ式二重管コーン貫入試験
・
⊙土質試験
⊙物理的性質試験
（・土粒子密度試験　⊙含水比試験　⊙粒度試験　・液性限界、塑性限界試験
・細粒分含有率試験　・湿潤密度試験　・　　）
⊙力学的性質試験
（⊙一軸圧縮試験　・圧密試験　・直接せん断試験　・三軸圧縮試験
・振動三軸試験　・中空ねじりせん断試験　・　　）
・現場透水試験
⊙孔内水平載荷試験
・弾性波速度検層
・常時微動測定
・平板載荷試験
・

4.液状化対策

・有り
範囲・工法・仕様・計測・試験等
※図示による（　　）
⊙無し

構-4 施工方法等計画書関連等

1.コンクリートの単位水量測定

(1)単位水量の測定は、150㎥に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。
(2)単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(f)(c)による。
(3)単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。
1)測定した単位水量が、配合計画書の設計値（以下、「設計値」という。）±15kg/㎥の範囲にある場合はそのまま打設する。
2)測定した単位水量が設計値±15を超え±20kg/㎥の範囲にある場合は、その運搬車の生コンは打設してよいが、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示する。その後、設計値±15kg/㎥以内に安定するまで、運搬車の３台毎に１回、単位水量の測定を行う。
3)測定した単位水量が設計値±20kg/㎥を超える場合は、その運搬車は打込まずに持ち帰らせるとともに、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示する。その後、単位水量が設計値±20kg/㎥以内になるまで全運搬車の測定を行い、更に設計値±15kg/㎥以内に安定するまで、運搬車の３台毎に１回、単位水量の測定を行う。
4)3)の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。
(4)単位水量管理についての記録を書面(配合計画書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により提出する。
(5)単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法(電子レンジ法)、エアメータ法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。

1.軽微な変更への対応（あらかじめの検討）

施工の関係上やむを得ず発生する可能性の高い変更等(位置の変更)
施工誤差を考慮して構造耐力上支障がない検討が行われている部分（変更に係る部材及び当該部材に接する部材以外に応力度の変更がない場合であって、変更に係る部材及び当該部材に接する部材が令第82条各号に規定する構造計算によって確かめられる安全性を有するものに限る）

・くいの芯ずれを考慮した検討
許容誤差(　　)
あらかじめの検討範囲
※図示による(　　)　・
・小ばりの位置の変更を見込んだ大ばり等の検討
位置の変動寸法(　　)
あらかじめの検討範囲
※図示による(　　)　・
・大きさの変更を見込んだスラブ等の検討(屋根床版含む)
許容される大きさ、荷重の条件(　　)
あらかじめの検討範囲
※図示による(　　)　・
・はり貫通孔の大きさと位置の変更を見込んだ検討
大きさに変動寸法（　　）
位置の変動寸法(　　)
あらかじめの検討範囲
※図示による(　　)　・
・壁開口の位置の変更を見込んだ検討
開口の移動範囲（　　）
ただし構造計算及びモデル化において耐力壁の剛性・耐力が変わらず、荷重が増加しない移動範囲に限る
あらかじめの検討範囲
※図示による(　　)　・
・スラブの開口及び段差の変更を見込んだ検討
開口の移動範囲（　　）
ただし構造計算及びモデル化においてスラブの断面及び配筋、開口補強が変わらず、荷重が増加しない範囲に限る
あらかじめの検討範囲
※図示による(　　)　・
・間柱の位置の変更を見込んだ検討
位置の変動寸法（　　）
あらかじめの検討範囲
※図示による(　　)　・

工事名	図面の名称	作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事	【共通】 構造関係共通事項（構造関係共通事項）	2023/03

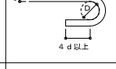
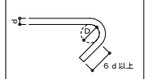
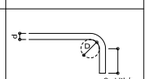
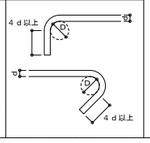
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
	小田　文武	安川　雅巳	A1:－ A3:－	S-001

構造関係共通事項(配筋標準図)

1.1 鉄筋の加工

鉄筋の折曲げ内法直径は、表1.1を標準とする。

表1.1 鉄筋の折曲げ内法直径

折曲げ角度	折曲げ図（余長）	折曲げ内法直径(D)		
		SD295A SD295B,SD345		SD390
		D16以下	D19～D38	D19～D38
180°		3d以上	4d以上	5d以上
135°				
90°				
135°及び90°（幅止め筋）				

1．片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は４ｄ以上とする。
2．９０°未満の折曲げの内法直径は特記による。

2.1 異形鉄筋の末端部

次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。
（１）柱及び梁（基礎梁を除く）の出隅部

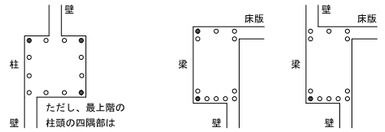


図2.1 末端部にフックを必要とする出隅部の鉄筋（ ● 印）

（２）煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
（３）杭基礎のベース筋
（４）帯筋、あばら筋及び幅止め筋

3.1 継手及び定着

（ａ）鉄筋の重ね継手
（１）径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
（２）柱及び梁の主筋並びに耐力壁を除く鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。

表3.1 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	L_1（フックなし）	L_{1h}（フックあり）
SD295A SD295B	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24，27	35d	25d
	30，33，36	35d	25d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24，27	40d	30d
	30，33，36	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24，27	45d	35d
	30，33，36	40d	30d

（注）１．L_1，L_{1h}：フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ。
２．フックありの場合のL_{1h}は、図3.1に示すようにフック部分Q を含まない。
３．軽量コンクリートの場合は、表の値に５ｄを加えたものとする。

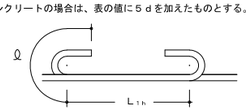
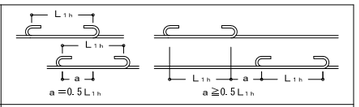
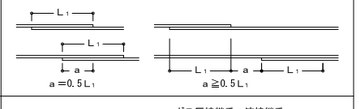
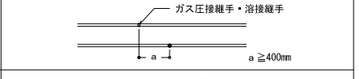
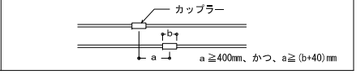


図3.1 フックありの場合の重ね継手の長さ

（３）耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、フックありなしにかかわらず４０ｄ以上（軽量骨材を使用する場合は５０ｄ以上）と表3.1の鉄筋の重ね継手の長さのうち大きい値とする。

（４）隣り合う継手の位置は、表3.2による。
ただし、壁の場合及びスラブ筋でＤ１６以下の場合は除く。

表3.2 隣り合う継手の位置

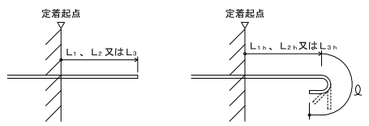
重ね継手	フックありの場合	
	フックなしの場合	
ガス圧接継手 溶接継手	－	
機械式継手	－	

（ｂ）鉄筋の定着
（１）鉄筋の定着の長さは、表3.3及び図3.2による。

表3.3 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	直線定着の長さ L_1	直線定着の長さ L_2	直線定着の長さ L_3 小梁	直線定着の長さ L_3 スラブ	フックあり定着の長さ L_{1h}	フックあり定着の長さ L_{2h}	フックあり定着の長さ L_{3h} 小梁	フックあり定着の長さ L_{3h} スラブ
SD295A SD295B	18	45d	40d	20d	10d かつ 150mm 以上	35d	30d	10d	－
	21	40d	35d			30d	25d		
	24，27	35d	30d			25d	20d		
	30，33，36	35d	30d			25d	20d		
SD345	18	50d	40d			35d	30d		
	21	45d	35d			30d	25d		
	24，27	40d	35d			30d	25d		
	30，33，36	35d	30d			25d	20d		
SD390	21	50d	40d			35d	30d		
	24，27	45d	40d			35d	30d		
	30，33，36	40d	35d			30d	25d		

（注）１．L_1，L_{1h}：２．以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
２．L_2，L_{2h}：割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
３．L_3 ：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ（基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。）。なお、片持小梁及び片持スラブの場合は、20d及び10dを25d以上とする。
４．L_{3h}：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ。
５．フックあり定着の場合は、図3.2に示すようにフック部分 Q を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
６．軽量コンクリートの場合は、表の値に５ｄを加えたものとする。



直線定着の長さ　　フックあり定着の長さ

図3.2 直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

（２）梁主筋の柱内折曲げ定着又は小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の方法は、図3.3により、次の（Ⅰ）、（Ⅱ）及び（Ⅲ）をすべて満足するものとする。
（Ⅰ） 全長は表3.3に示す直線定着の長さ以上
（Ⅱ） 余長は８ｄ以上
（Ⅲ） 仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さは表3.4に示す長さとする。ただし、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

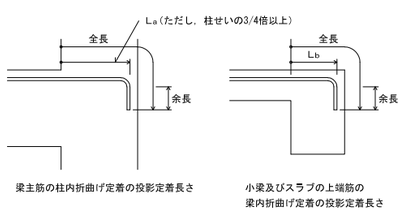


図3.3 折曲げ定着の方法

表3.4 鉄筋の投影定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	L_a	L_b
SD295A SD295B	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24，27	15d	15d
	30，33，36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24，27	20d	15d
	30，33，36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24，27	20d	20d
	30，33，36	20d	15d

（注）１．L_a ：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ。
（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）
２．L_b ：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ。
（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）
３．軽量コンクリートの場合は、表の値に５ｄを加えたものとする。

（３）溶接金網の継手及び定着は、図3.4による。
なお、L_1は表3.1に、L_2及びL_3は表3.3による。

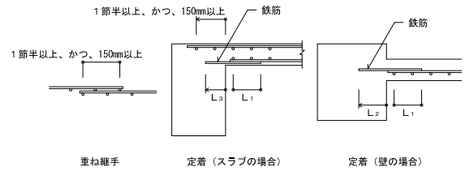


図3.4 溶接金網の継手及び定着

（４）スパイラル筋の継手及び定着は、図3.5による

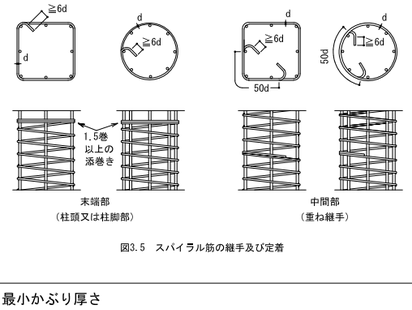


図3.5 スパイラル筋の継手及び定着

4.1 最小かぶり厚さ

（ａ）鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。
ただし、柱及び梁の主筋にＤ２９以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表4.1 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ（単位：mm ）

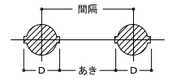
構造部分の種別				最小かぶり厚さ
土に接しない部分	スラブ，耐力壁以外の壁		仕上げあり	20
			仕上げなし	30
	柱，梁，耐力壁	屋内	仕上げあり	30
			仕上げなし	30
		屋外	仕上げあり	30
			仕上げなし	40
	擁壁，耐圧スラブ			40
土に接する部分	柱，梁，スラブ，壁			*40
	基礎，擁壁，耐圧スラブ			*60
煙突等高熱を受ける部分				60

（注）１．＊印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は特記による。
２．「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。
３．スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
４．杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭天端からとする。
５．塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。

（ｂ）柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに１０mmを加えた数値を標準とする。

（ｃ）鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

（ｄ）鉄筋相互のあきは図4.1により、次の値のうち最大のもの以上とする。
（１）粗骨材の最大寸法の1.25倍
（２）２５mm
（３）隣り合う鉄筋の平均径（呼び名の数値）の1.5倍



Dは、鉄筋の最大外径

図4.1 鉄筋相互のあき

（ｅ）鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(d)による。

（ｆ）貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、(c)による。

5.1 基礎梁

（ａ）一般事項
（１）梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。
（２）梁筋を柱内に定着する場合は、7.1(b)(4)による。

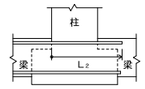
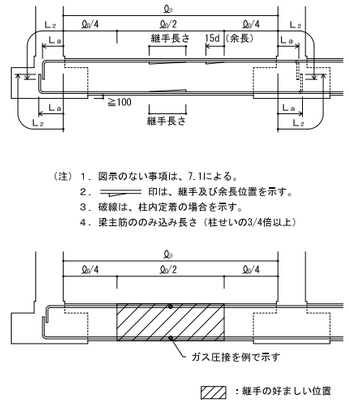


図5.1 梁筋の基礎梁内への定着

（ｂ）独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.2による。

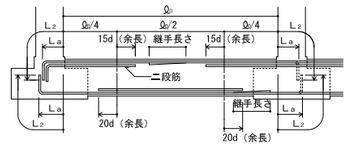


（注）１．図示のない事項は、7.1による。
２． 印は、継手及び余長位置を示す。
３．破線は、柱内定着の場合を示す。
４．梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

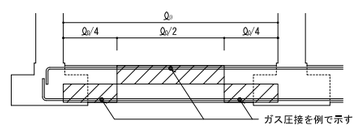
：継手の好ましい位置

図5.2 主筋の継手、定着及び余長（その１）

（ｃ）独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.3による。
ただし、耐圧スラブが付く場合は、（d）による。



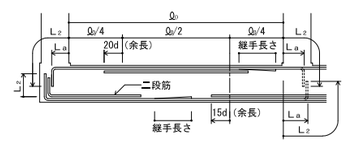
（注）１．図示のない事項は、7.1による。
２． 印は、継手及び余長位置を示す。
３．破線は、柱内定着の場合を示す。
４．梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）



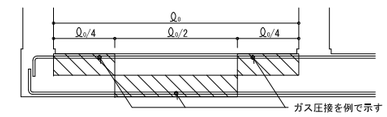
：継手の好ましい位置

図5.3 主筋の継手、定着及び余長（その２）

（ｄ）連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.4による。



（注）１．図示のない事項は、7.1による。
２． 印は、継手及び余長位置を示す。
３．破線は、柱内定着の場合を示す。
４．梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）



：継手の好ましい位置

図5.4 主筋の継手、定着及び余長（その３）

5.2 基礎梁のあばら筋等

（ａ）一般事項
（１）あばら筋の径および間隔は、構造図による。
（２）あばら筋組立の形及びフックの位置は、7.2(b)による。
ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図5.5によることができる。

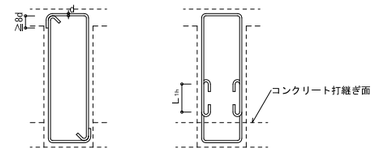


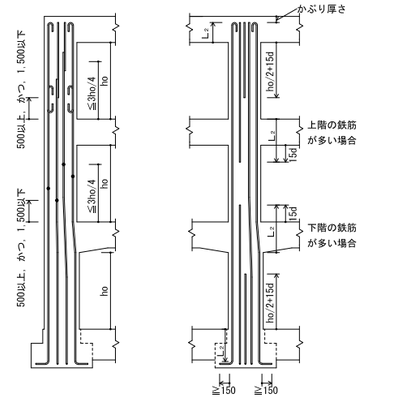
図5.5 あばら筋組立の形及びフックの位置

（ｂ）腹筋及び幅止め筋は、7.2による。ただし、梁せいが1.5m以上の場合は構造図による。

（ｃ）あばら筋の割付けは、7.2(c)による。

6.1 柱

（ａ）一般事項
（１）継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、3ho/4（hoは柱の内法高さ）以下とする。
（２）継手、定着及び余長は、図6.1による。
ただし、柱頭定着長さL_2が確保できない場合は、構造図による。



（注）１．柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。
２．隣り合う継手の位置は、表3.2［隣り合う継手の位置］による。
３．継手及び定着は、すべての階に適用できる。

図6.1 柱主筋の継手、定着及び余長

工事名	図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事	【共通】 構造関係共通事項（配筋標準図その１）		2023/03
NEWJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田 文武	設計者名 安川 雅巳	縮尺 A1:－ A3:－ / 図面番号 S-002

（b）柱打増し部

（1）打増し部分に、壁、梁、スラブ等がとりつく場合の壁、梁、スラブ筋等の定着長さは、打増し部分を含まない。

（2）土に接する柱周囲の打増しは図6.2による。

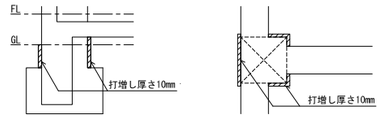


図6.2　柱打増し部

6.2　帯筋

（a）帯筋の種類及び間隔は、構造図による。

（b）帯筋組立の形は図6.3により、適用は構造図による。

（1）H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W－I形とする。

（2）溶接する場合の溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。

（3）SP形において、柱頭及び柱脚の端部は1.5巻以上の添巻き行う。

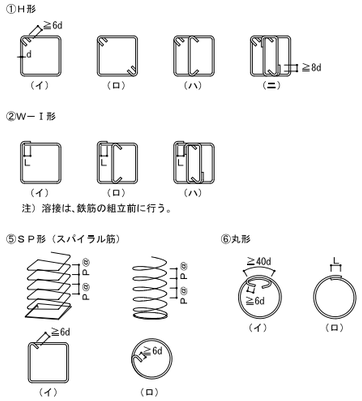
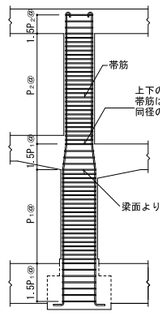


図6.3　帯筋組立の形

（c）フック及び継手の位置は交互とする。

（d）帯筋の割付けは図6.4とし、それ以外の場合は構造図による。



（注）1．柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P₁@または1.5P₂@とする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。

2．図中のP₁@　、P₂@は、特記された帯筋の間隔を示す。

図6.4　帯筋の割付け

7.1　大梁

（a）一般事項

（1）梁の上がり下がりは FLを基準とした寸法値とする。

（2）地中梁下の砂利地業厚及び捨てコンクリート地業厚は構造図による。

（3）打増し部分に、スラブ、壁、梁筋等が取り付く場合のスラブ、壁、梁筋等の定着長さは、打増し部分を含まない。

（b）大梁主筋の継手及び定着の一般事項

（1）継手中心位置は、次による。
上端筋：中央 Q o/2以内
下端筋：柱面より梁せい（D）以上離し、Q o/4を加えた範囲以内

（2）継手中央部の位置、定着長さ及び余長は図7.3及び図7.4による。

（3）梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図7.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。

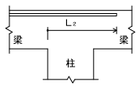


図7.1　梁主筋の梁内定着

（4）梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。
なお、定着の方法は3.1(b)(2)による。
上端筋：曲げ降ろす
下端筋（一般）：原則、曲げ上げる。
下端筋（ハンチ付き）：原則、曲げ上げる。

（5）梁にハンチをつける場合、その傾斜は構造図による。

（6）段違い梁は、図7.2による。

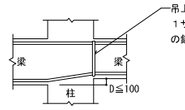
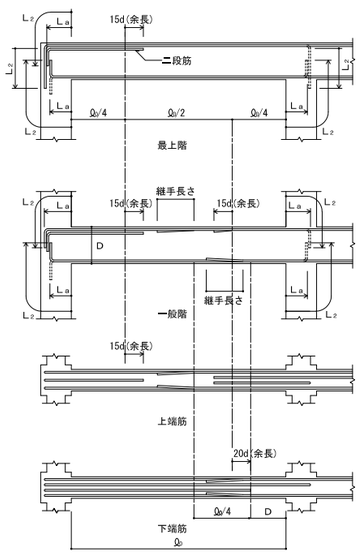


図7.2　段違い梁

（c）ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図7.3による。



（注）1．梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。

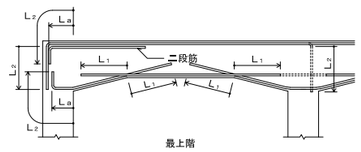
2．═══ 印は、継手及び余長を示す。

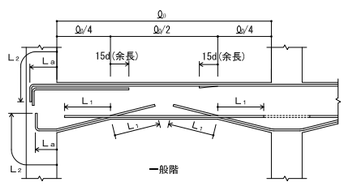
3．破線は、柱内定着の場合を示す。

4．梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

図7.3　大梁の重ね継手、定着及び余長

（d）ハンチのある場合の定着及び余長は、図7.4による。





（注）1．梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。

2．═══ 印は、継手及び余長を示す。

3．梁内定着の端部下端筋が接近するときは、⋮⋮⋮⋮ のように引き通すことができる。

4．破線は、柱内定着を示す。

5．梁主筋ののみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）

図7.4　ハンチのある大梁の定着及び余長

7.2　あばら筋等

（a）あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項

（1）あばら筋の種類、径及び間隔は、構造図による。

（2）腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とし、定着長さは図7.6による。
ただし、腹筋を計算上考慮している場合の継手長さ、定着長さは構造図による。

（3）幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10−1,000@程度とする。

（b）あばら筋組立の形及びフックの位置

（1）形は、図7.5（イ）とする。
ただし、L形梁の場合は、（ロ）または（ハ）、T形梁の場合は（ロ）～（ニ）とすることができる。

（2）フックの位置
ⅰ．（イ）の場合は交互とする。
ⅱ．（ロ）の場合　L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。
ⅲ．（ハ）の場合は床版の付く側を90°折曲げとする。

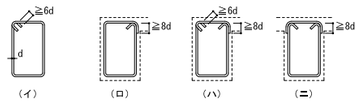
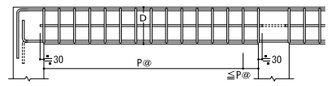


図7.5　あばら筋組立の形

（c）あばら筋の割付け

（1）間隔が一様でハンチのない場合は、図7.6による。

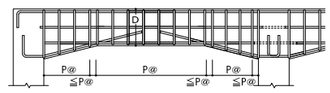


（注）1．あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。

2．図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.6　あばら筋の割付け（その1）

（2）間隔が一様でハンチのある場合は、図7.7による。

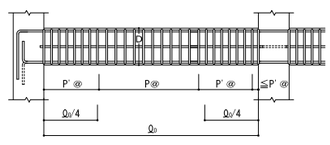


（注）1．あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。

2．図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.7　あばら筋の割付け（その2）

（3）梁の端部で間隔の異なる場合は、図7.8による。



（注）1．あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。

2．図中のP@、P'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.8　あばら筋の割付け（その3）

（d）腹筋及び幅止め筋

（1）一般の梁は、図7.9による。

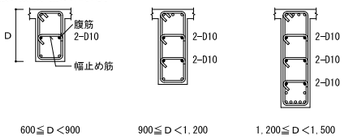
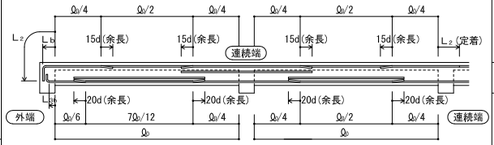


図7.9　腹筋および幅止め筋

7.3　小梁

（a）小梁主筋の継手、定着及び余長

（1）連続小梁の場合は、図7.10による。

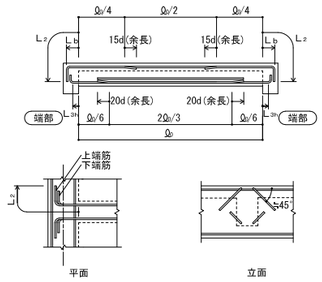


（注）1．図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。

2．═══ 印は、余長位置を示す。

図7.10　小梁主筋の継手、定着及び余長（その1）

（b）単独小梁の場合は、図7.11による。



直交する梁へ斜めに定着する場合

（注）1．図示のない事項は、5.1及び7.1に準ずる。

2．═══ 印は、余長位置を示す。

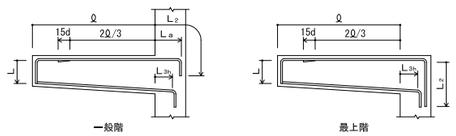
図7.11　小梁主筋の継手、定着及び余長（その2）

（c）あばら筋は、7.2による。

7.4　片持梁

（a）片持梁主筋の定着及び余長

（1）先端に小梁のない場合は、図7.12による。



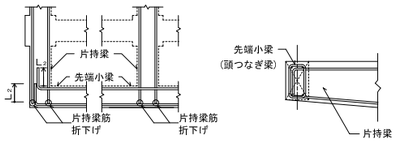
（注）1．図示のない事項は、7.1による。

2．═══ 印は、余長位置を示す。

3．先端の折曲げの長さLは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。

図7.12　片持梁主筋の定着及び余長

（2）先端に小梁がある場合は、図7.13による。



（注）1．図示のない場合は、（1）による。

2．先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。

3．先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図7.13　片持梁主筋の定着

（b）あばら筋は、7.2による。

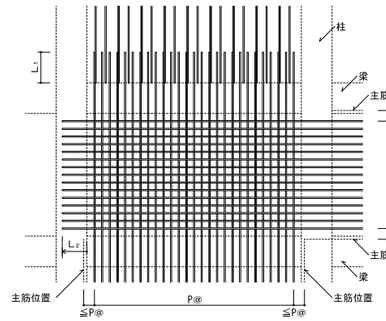
8.1　壁

（a）一般事項

（1）壁配筋の重ね継手の長さはL_1、定着の長さはL_2とし、鉄筋の継手位置は、柱・梁部以外とする。

（2）幅止め筋は、縦横ともD10−1,000@程度とする。

（3）打増し部分に、壁、スラブ等が取り付く場合の壁、スラブ筋等の定着長さは、打増し部分を含まない。



（注）図中のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。

図8.1　壁の配筋

（b）壁の配筋は表8.1により、種別は構造図による。

表8.1　壁の配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図　(mm)
W12	D10−200@シングル	120
W15A	D10−150@シングル	150
W15B	D10−100@シングル	
W18A	D10−200@ダブル	180
W18B	D10−150@ダブル	
W20A	D10−200@ダブル	200
W20B	D10−150@ダブル	

（注）壁筋の配筋順序は、規定しない。

（c）片持スラブ形階段を受ける壁の配筋は表8.2により、種別は構造図による。

表8.2　片持スラブ形階段を受ける壁の配筋

種別	縦筋及び横筋		断面図　(mm)	階段の配筋種別(表10.1)
KW1	縦筋	D13−200@ダブル	180	KA1
	横筋	D10−200@ダブル		KA3
KW2	縦筋	D13−150@ダブル	200	KA2
	横筋	D10−200@ダブル		KA4

（注）縦筋は、横筋の外側に配筋する。

（d）土圧を受ける壁の配筋は、構造図による。

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【共通】　構造関係共通事項（配筋標準図その2）		2023/03
	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
NEXJEC　株式会社ニュージェック	小田　文武	安川　雅巳	A1:− A3:−	S-003

（ｅ）壁の交差部及び端部の配筋は、図8.2による。

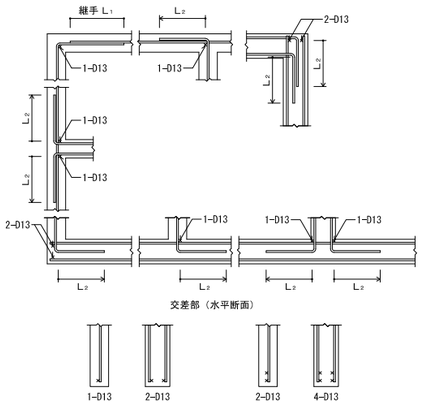


図8.2　壁の交差部及び端部の配筋

8.2　壁の補強

（ａ）壁開口部の補強

（１）耐力壁を除く壁開口部の補強筋は、Ａ形は表8.3、Ｂ形は表8.4とし、適用は構造図による。
なお、耐力壁の補強筋は、構造図による。

表8.3　壁開口部補強筋（Ａ形）

壁の種別	補強筋	
	縦横	斜め
W12，W15	1-D13	1-D13
W18，W20	2-D13	2-D13

表8.4　壁開口部補強筋（Ｂ形）

壁の種別	補強筋	
	縦横	斜め
W12，W15	2-D13	1-D13
W18，W20	4-D13	2-D13

（２）壁開口部補強の定着長さは、図8.3による。

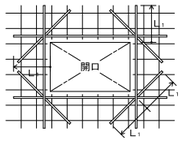


図8.3　壁開口部補強筋の定着長さ

（ｂ）コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、構造図による。

9.1　スラブ

（１）スラブ及び土間コンクリートの上がり下がりは、FLを基準とした寸法値とする。
（２）土間スラブ下の砂利地業厚及び捨てコンクリート厚は構造図による。
（３）土間コンクリート補強筋（D0）の配筋及びコンクリート厚さは構造図による。
（４）スラブの配筋（Ｓ形配筋）は表9.1及び図9.1により、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。

表9.1　Ｓ形配筋

配筋種別	短辺方向（主筋）全域	長辺方向（配力筋）全域
Ｓ１	D13-100@	D13-100@
Ｓ２	同　上	D13-150@
Ｓ３	同　上	D10,D13-150@
Ｓ４	D13-150@	D13-150@
Ｓ５	同　上	D10,D13-150@
Ｓ６	同　上	D10-150@
Ｓ７	D10,D13-150@	D10,D13-150@

配筋種別	短辺方向（主筋）全域	長辺方向（配力筋）全域
Ｓ８	D10,D13-150@	D10-150@
Ｓ９	同　上	D10-200@
S10	D10,D13-200@	D10,D13-200@
S11	同　上	D10-200@
S12	同　上	D10-250@
S13	D10-200@	D10-200@
S14	同　上	D10-250@

（注）上端筋，下端筋とも同一配筋とする。

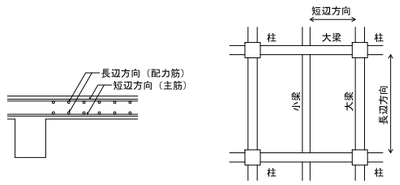


図9.1　スラブの配筋

（５）配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
（６）鉄筋の重ね継手長さは、L１とする。
（７）定着長さ及び受け筋は、図9.2による。
ただし、引き通すことができない場合は、図9.3により梁内に定着する。

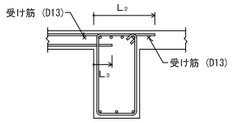
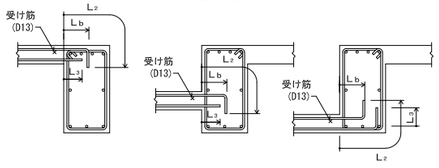
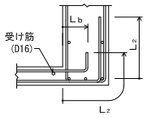


図9.2　スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その１）



一般スラブの場合



耐圧スラブの場合

図9.3　スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その２）

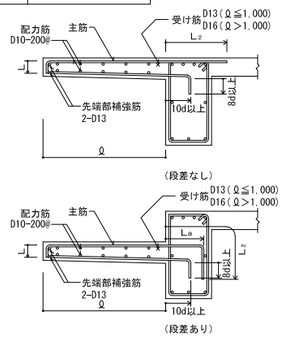
9.2　片持スラブ

片持スラブの配筋は、次による。
（１）片持スラブの配筋（ＣＳ形配筋）は、表9.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。

表9.2　ＣＳ形配筋

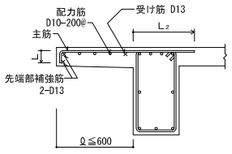
配筋種別		主筋
CS1	上	D13-100@
	下	D13-200@
CS2	上	D13-150@
	下	D13-300@
CS3	上	D10,D13-150@
	下	D10,D13-300@
CS4	上	D10,D13-200@
	下	D10-200@

配筋種別		主筋
CS5	上	D10-200@
	下	D10-400@
CS6	上	D10,D13-200@
	下	——
CS7	上	D10-200@
	下	——



（注）１．先端の折り曲げ長さＬは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図9.4　片持スラブの配筋（ＣＳ１からＣＳ５）



（注）１．先端の折り曲げ長さＬは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図9.5　片持スラブの配筋（ＣＳ６及びＣＳ７）

（２）先端に壁が付く場合の配筋は、図9.6による。

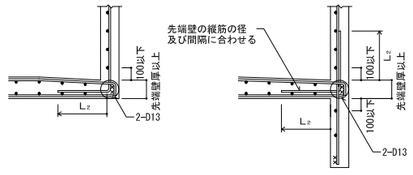


図9.6　先端に壁が付く場合の配筋

（３）出隅部
（ⅰ）補強の配筋は構造図により、配筋方法は、図9.7による。
（ⅱ）出隅受け部分（図9.7の斜線部分）の補強筋は構造図による。

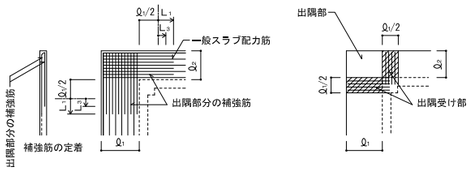


図9.7　片持ちスラブ出隅部の補強配筋

9.3　スラブ等の補強

（ａ）スラブ開口部の補強
スラブ開口部の補強方法は、構造図による。構造図になければ、（Ⅰ）（Ⅱ）による。
（ⅰ）スラブ開口の最大径が700mm以下の場合は、図9.8により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13（Q＝2L１）シングルを上下筋の内側に配筋する。

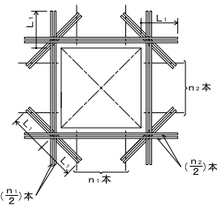


図9.8　スラブ開口部の補強配筋

（ⅱ）スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

（ｂ）屋根スラブの補強
屋根スラブの出隅及び入隅部分には、図9.9により、補強筋を上端筋の下側に配置する。

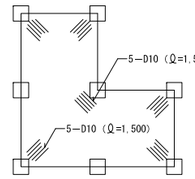
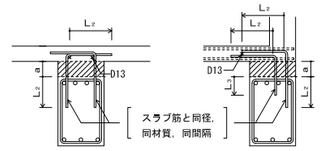


図9.9　出隅及び入隅部の補強配筋

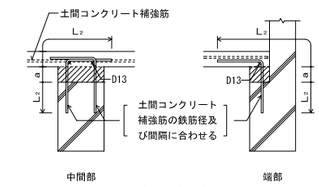
（ｃ）土間スラブの打継ぎ補強
基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は図9.10による。
ただし、土間スラブとは、土に接するスラブでＳ形の配筋によるものをいう。



（注）ａ≦300の場合

図9.10　打継ぎ補強配筋

（ｄ）土間コンクリートの補強
土間コンクリートの補強筋は、構造図による。なお、基礎梁との接合部は、図9.11による。



（注）ａ≦300の場合

図9.11　土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

10.1　片持スラブ形階段

片持スラブ形階段の配筋は、表10.1及び図10.1により、寸法及び配筋種別は、構造図による。

表10.1　片持スラブ形階段の配筋

配筋種別	KA1	KA2
配筋図	D13 D13 D10-300@ D10-300@ t	2-D13 D13 D10-300@ D10-300@ t
配筋種別	KA3	KA4
配筋図	D10-300@ t t D13 D13	D10-300@ t t D13 2-D13

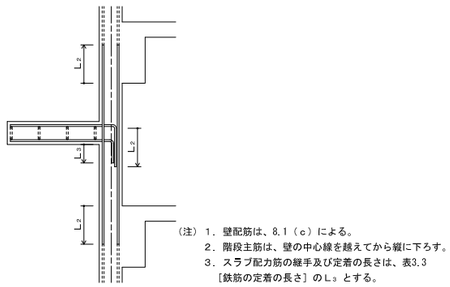


図10.1　片持スラブ形階段配筋の定着

10.2　二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段の配筋は表10.2並びに図10.2及び図10.3により、寸法及び配筋種別は、構造図による。

表10.2　二辺固定スラブ形配筋

配筋種別	上端筋、下端筋とも（全域）
KB1	D13-200@
KB2	D13-150@
KB3	D13-100@
KB4	D13,D16-150@
KB5	D16-150@
KB6	D16-125@
KB7	D16-100@

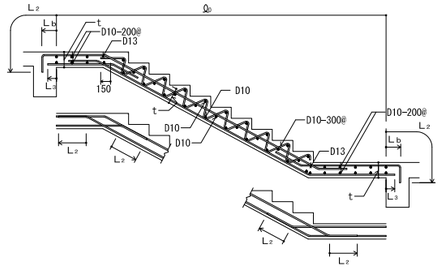
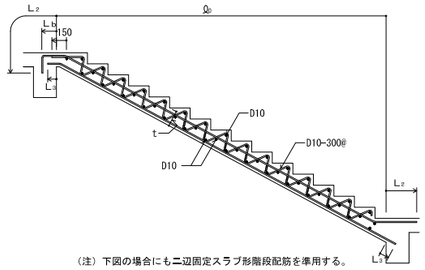


図10.2　二辺固定スラブ形階段配筋（その１）



（注）下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

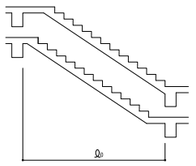


図10.3　二辺固定スラブ形階段配筋（その２）

工事名			図面の名称			作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事			【共通】　構造関係共通事項（配筋標準図その３）			2023/03
NEXJEC　株式会社ニュージェック	管理技術者名		設計者名		縮尺	図面番号
	小田　文武		安川　雅巳		A1:－ A3:－	S-004

11.1　梁貫通孔

（ａ）梁貫通孔は、次による。
（１）　梁貫通孔補強筋の名称等は、図11.1による。
（２）　孔の径は、梁せいの1/3以下とする。
（３）　孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりＤ/3（Ｄは梁せい）の範囲には設けてはならない。
（４）　孔は、柱面から原則として、1.5Ｄ以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
（５）　孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の３倍以上とする。
（６）　縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
（７）　補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図11.2による。
（８）　孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋でき、補強を省略することができる。
（９）　溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
（10）　溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋 1-13φのリング筋を取り付ける。
なお、リング筋は、溶接金網に４箇所以上溶接する。
（11）　溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

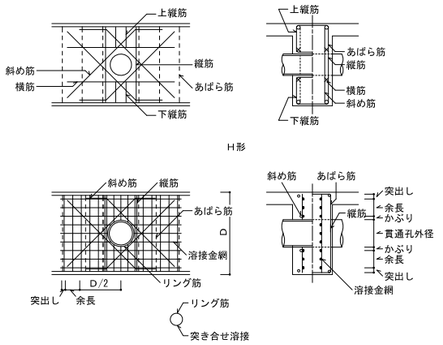


図11.1　梁貫通孔補強筋の名称等

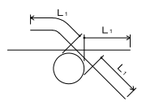


図11.2　補強筋の定着長さ

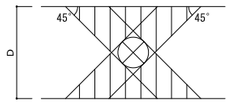


図11.3 他の開孔を設けない範囲

（ｂ）梁貫通孔の補強形式は表11.1～表11.3により、配筋種別は構造図による。

表11.1　H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				

（注）------　は、━般部分のあばら筋を示す。

表11.2　M形配筋

配筋種別	縦筋	溶接金網	配　筋　図
M1	2-2-D13	なし	
M2	4-2-D13		
M3	4-2-D13	2-6φ-100@	
M4	6-2-D13		

（注）------　は、━般部分のあばら筋を示す。

表11.3　MH形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	
MH2		2-2-D13		
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100@	
MH4	4-2-D13			
MH5	4-2-D16			
MH6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100@	
MH7	4-2-D19			

（注）------　は、━般部分のあばら筋を示す。

11.2　コンクリートブロック帳壁との取合い

（ａ）控壁は、次による。
（１）控壁の配置は、構造図による。
（２）配筋は、図11.4による。

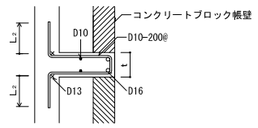


図11.4　控壁の配筋（水平、垂直とも）

（ｂ）帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、図11.5による。

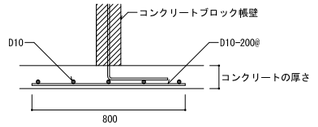


図11.5　壁付き土間コンクリートの補強配筋

11.3　パラペット

パラペットの先端補強筋は図11.6により、コンクリート厚さ及び配筋は構造図による。

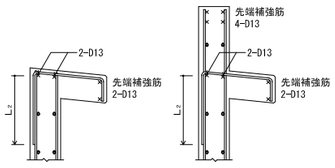


図11.6　パラペットの先端補強筋

12.1　擁壁

宅地造成等規制区域外での高さ2m以下の擁壁の鉄筋の定着長さは図12.1により、コンクリートの厚さ及び配筋は構造図による。

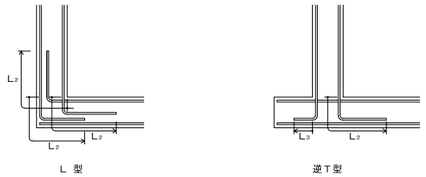


図12.1　擁壁の鉄筋の定着長さ

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【共通】　構造関係共通事項（配筋標準図その４）		2023/03
NEXJEC　株式会社ニュージェック	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
	小田　文武	安川　雅巳	A1:－ A3:－	S-005

構造関係共通事項(鉄骨標準図)

1-1 縁端距離及びボルト間隔

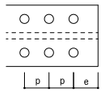
（ａ）縁端距離及びボルト間隔

縁端距離及びボルト間隔は、表1.1による。ただし、引張材の接合部分において、せん断力を受けるボルトが応力方向に３本以上並ばない場合の縁端距離は、構造図による。構造図になければ、ボルト軸径の2.5倍以上とする。

また、アンカーボルトの縁端距離は構造図による。

表1.1　縁端距離及びボルト間隔　（単位mm）

ねじの呼び	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M12 M16 M20 M22	40	60
M24	45	70

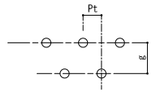


（ｂ）千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔

千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔は、表1.2による。

表1.2　千鳥のゲージ及びボルト間隔　（単位mm）

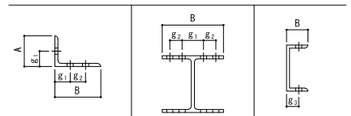
ゲージ g	千鳥打ちのボルト間隔　Pt ねじの呼び	
	M12,M16,M20,M22	M24
35	50	65
40	45	60
45	40	55
50	35	50
55	25	45
60	－	40



（ｃ）形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径

形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は、表1.3による。

表1.3　形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径　（単位mm）



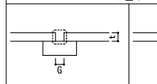
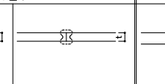
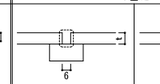
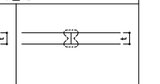
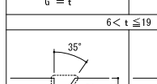
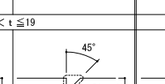
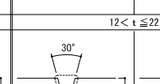
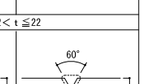
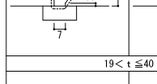
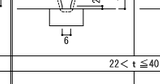
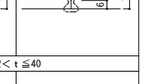
A又はB	g_1	g_2	最大軸径	B	g_1	g_2	最大軸径	B	g_2	最大軸径
45	25		12	100	56		16	50	30	12
50	28		16	125	75		16	65	35	20
60	35		16	150	90		22	70	40	20
65	35		20	175	105		22	75	40	22
70	40		20	200	120		24	80	45	22
75	40		22	250	150		24	90	50	24
80	45		22	300	150	40※1	24	100	55	24
90	50		24	350	140	70	24			
100	55		24	400	140	90	24			
125	50	35	24							
130	50	40	24							
150	55	55	24							
175	60	70	24							
200	60	90	24							

※1　千鳥打ちとした場合

1-2 溶接継手の種類別開先標準

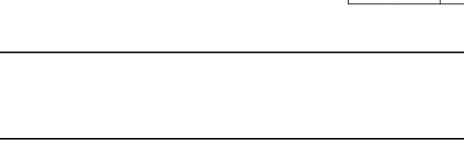
突合わせ継手(B)の開先標準

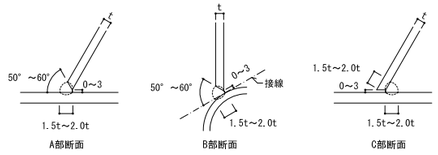
（単位：mm）

H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）		A（サブマージアーク自動溶接）	
1（片面溶接）	2（両面溶接）	1（片面溶接）	2（両面溶接）
t≦6		t≦12	
			
6＜t≦19		12＜t≦22	
			
19＜t≦40		22＜t≦40	
			
	D1＝2（t－2）/3 D2＝（t－2）/3		D1＝（t－2）/2 D2＝（t－2）/2

1-3 鋼管分岐継手詳細

自動機械により開先加工を行う場合はこの限りではない。　（単位：mm）



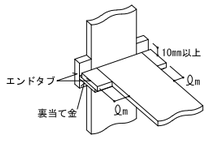


1-4 鉄骨溶接施工

（ａ）エンドタブ・裏当て金の鋼材の種別及び引張強さによる区分は、母材と同等とする。

（ｂ）エンドタブ

エンドタブの形状は母材と同厚・同開先のものとする。

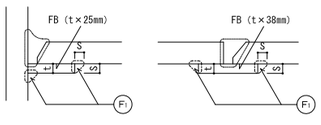


溶接方法	Qm
手溶接	35以上
半自動溶接	38以上
自動溶接	70以上

（ｃ）裏当て金

（１）裏当て金の組み立て溶接は、接合部に影響を与えないように、エンドタブの位置又は梁フランジ幅の1/4の位置に行い、梁フランジ両端から10mm以内の位置には行ってはならない。

（２）完全溶込み溶接の片面溶接に用いる裏当て金は原則としてフランジの内側に設置する。



裏当て金の厚さ　（単位：mm）

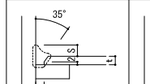
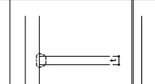
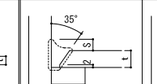
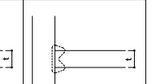
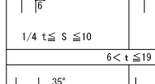
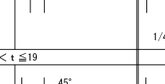
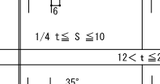
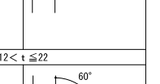
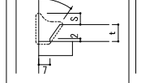
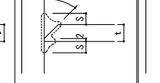
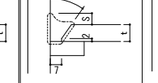
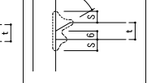
溶接方法	t
手溶接	6以上
半自動溶接	9以上
自動溶接	12以上

溶接のサイズ　（単位：mm）

裏当て金の厚さ	S
t≦9	5
t＞9	9

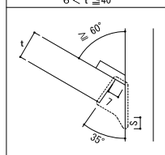
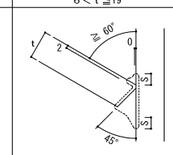
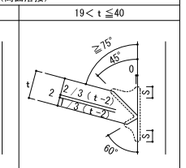
Ｔ型継手(T)の開先標準

（単位：mm）

H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）		A（サブマージアーク自動溶接）	
1（片面溶接）	2（両面溶接）	1（片面溶接）	2（両面溶接）
t≦6		t≦12	
 1/4 t≦ S ≦10		 1/4 t≦ S ≦10	
6＜t≦19		12＜t≦22	
 1/4 t≦ S ≦10	 1/4 t≦ S ≦10	 1/4 t≦ S ≦10	 1/4 t≦ S ≦10
19＜t≦40		19＜t≦40	
	 D1＝2（t－2）/3 D2＝（t－2）/3 1/4 t≦ S ≦10	 1/4 t≦ S ≦10	 D1＝（t－6）/2 D2＝（t－6）/2 1/4 t≦ S ≦10

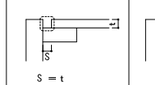
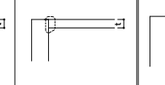
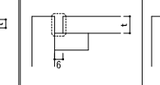
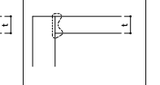
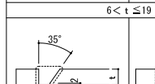
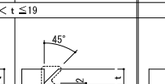
部材が直交しない場合の開先標準

（単位：mm）

H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）		
1（片面溶接）	2（両面溶接）	
6＜t≦40	6＜t≦19	19＜t≦40
 1/4 t≦ S ≦10	 1/4 t≦ S ≦10	 1/4 t≦ S ≦10

かど継手(L)の開先標準

（単位：mm）

H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）		A（サブマージアーク自動溶接）	
1（片面溶接）	2（両面溶接）	1（片面溶接）	2（両面溶接）
t≦6		t≦12	
			
6＜t≦19		12＜t≦19	
	 1/4 t≦ S ≦10	 1/4 t≦ S ≦10	 1/4 t≦ S ≦10
19＜t≦40		19＜t≦40	
	 D1＝2（t－2）/3 D2＝（t－2）/3 1/4 t≦ S ≦10	 1/4 t≦ S ≦10	 D1＝（t－6）/2 D2＝（t－6）/2 1/4 t≦ S ≦10

隅肉溶接(F)の開先標準

（単位：mm）

H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）		
1（片面溶接）	2（両面溶接）	
t≦16	t≦16	16＜t≦40

隅肉溶接のサイズ

（単位：mm）

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
s	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	11	13	15	17	19	21	24

部分溶込み溶接(P)の開先標準

（単位：mm）

H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）	
1（片面溶接）	2（両面溶接）
12≦t≦40	16≦t≦40
 t 12 16 19 22 25 28 32 36 40 D 10 11 12 13 13 14 15 15 16 1/4 t≦ S ≦10	 D1＝（t－2）/2 D2＝（t－2）/2 1/4 t≦ S ≦10

フレア溶接(FL)の開先標準

（単位：mm）

H（被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接）			
1（丸鋼等片面溶接）	2（丸鋼等両面溶接）	3（軽量形鋼Ｖ形溶接）	4（軽量形鋼レ形溶接）

（ｄ）スカラップ

改良型スカラップ

（１）スカラップ半径Sr，は35mmとする。Sr，は10mmとする。

（２）スカラップ円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合円は滑らかに仕上げる。

従来型スカラップ

（１）スカラップ半径Srは35mmとする。

（ｅ）スニップカット

（１）スニップカット部は溶接により埋めるものとする。

（２）スニップカットの寸法は、下表による。ただし、既製形鋼のスニップカットについては、Sc=r＋2により求めるものとする。

t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15

（ｆ）溶接部分の段差

完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段違いが10mmを超える場合

（ｇ）鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件

鋼材の種類	規格	溶接材料	入熱 (KJ/cm)	パス間温度 (℃)
400N級鋼	JIS Z 3211	引張強さ570MPa以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW11, 15	40以下	350以下
		YGW18, 19	30以下	450以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40以下 30以下	350以下 450以下
	JIS Z 3214	引張強さ570MPa以上のものを除く		
	JIS Z 3315	G49A0U-CCJ G49A0U-NCC, NCCT 等	40以下	350以下
490N級鋼	JIS Z 3211	引張強さ570MPa以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW11, 15	30以下	250以下
		YGW18, 19	40以下	350以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	30以下	250以下
		T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40以下	350以下
	JIS Z 3214	引張強さ570MPa以上のものを除く		
	JIS Z 3315	GA49A0U-CCJ GA49A0U-NCC, NCCT 等	40以下	350以下
520N級鋼	JIS Z 3312	YGW18, 19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U		
400N級STKR、BCR及びBCP	JIS Z 3312	YGW11, 15	30以下	250以下
		YGW18, 19	40以下	350以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	30以下	250以下
		T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40以下	350以下
490N級STKR、及びBCP	JIS Z 3312	YGW18, 19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U		

1-5 フレア溶接を行う場合の溶接長さ

鉄筋又は軽量形鋼にフレア溶接を行う場合の溶接長さ（Ｌ）は、ビードの始点（La）及びクレーター（Lb）を除いた部分の長さとする。

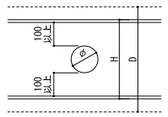
Ｌ：片面フレア溶接の場合　10d
　　両面フレア溶接の場合　5d
Ｌａ及びＬｂは１ｄ（軽量形鋼については１Ｓ）以上
　ｄ：異形鉄筋の呼び名に用いた数値
　Ｓ：溶接のサイズ

工事名		図面の名称			作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【共通】 構造関係共通事項（鉄骨標準図その１）			2023/03
NEWJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名	設計者名		縮尺	図面番号
	小田　文武	安川　雅巳		A1:－ A3:－	S-006

1-6 梁貫通孔補強

（a）鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨梁ウェブ部材に貫通孔を設ける場合は、次による。
（1）貫通孔の内径寸法は、鉄骨せいの1/2以下かつ鉄筋コンクリート梁せいの1/3以下とする。
（2）貫通孔間隔は、両側の貫通孔径の平均値の、鉄骨造で２倍以上、鉄骨鉄筋コンクリート造で３倍以上確保する。

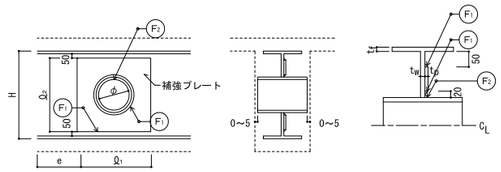
貫通孔の位置の限度（単位：mm）



H ：鉄骨せい
D ：はりせい
φ：貫通孔内径寸法
（φ≦H/2かつφ≦D/3）

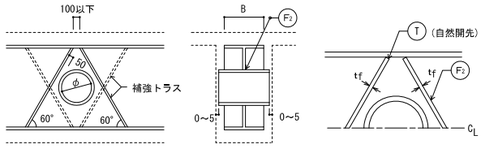
（b）貫通孔の補強方法は、構造図による。
（1）補強プレート法及び補強トラス法の溶接等は、以下による。

補強プレート法
（1）補強プレートが16mm以上となる場合は、必要な長さの1/2以上の補強プレートをウェブ両面から溶接する。
（2）補強プレートは丸型としても良い。上下フランジとのあき50mmについては施工性を考慮して小さくすることもできる。

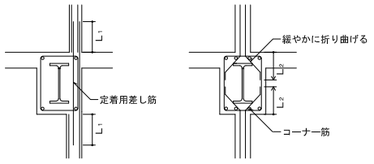


Q1は３φまたはQ2のうち小さい方とする。（e≧ H とする）
e ：材端と補強プレートの間隔

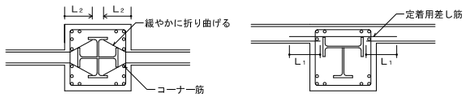
補強トラス法
（1）スリーブの取付けは、全周隅肉溶接とする。



1-7 壁筋の周辺部材への定着

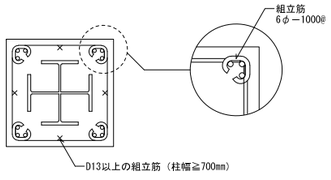


梁への定着方法



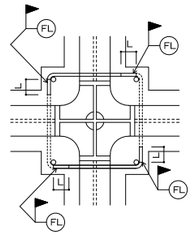
柱への定着方法

1-8 柱組立筋



1-9 仕口部内の帯筋の加工及び組立

片面溶接の溶接長さ（L）は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上とする。ただし、溶接によらない場合は135°曲げフックとする。



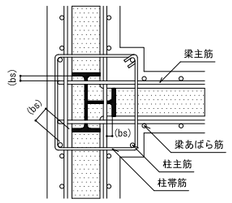
1-10 鉄筋貫通孔の径及び位置

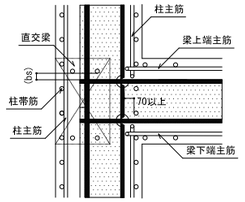
鉄筋の貫通孔径の最大値は、下表による。

（単位：mm）

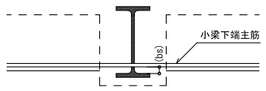
鉄筋の呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
鉄筋貫通孔の径	21	24	28	31	35	38	43	46

鉄骨フランジには、鉄筋貫通孔を設けないものとする。

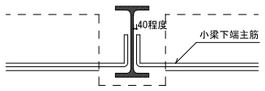




小梁下端主筋が貫通する場合



小梁下端主筋が貫通しない場合（単位：mm）



(bs)：主筋と平行する鉄骨とのあき

1-11 広幅平鋼の取り扱いについて

		厚さ										
		6	9	12	16	19	22	25	28	32	36	40
幅	100	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	125	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	150	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	175	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	200	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	250	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	300		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	350		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	400		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	450					○	○	○	○	○	○	○
	500					○	○	○	○	○	○	○

1-12 普通ボルト接合

もや、胴縁類の取付け用ボルトを普通ボルト接合とする場合は、二重ナットとする。

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【共通】 構造関係共通事項（鉄骨標準図その２）		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田 文武	設計者名 安川 雅巳	縮尺 A1:－ A3:－	図面番号 S-007

高強度せん断補強筋施工仕様書２０２２年度版

§１　一般事項

1－1 適用範囲

本仕様書は鉄筋コンクリート造の梁及び柱のせん断補強筋（スパイラル筋、中子筋付スパイラル筋、溶接閉鎖形筋及びフック付筋）として使用される高強度鋼棒によるあばら筋及び帯筋の施工に適用する。この仕様書に記載していない事項に関しては「ＪＡＳＳ５」及び「メーカーの一般認定書」によるものとする。
ただし、コンクリートの設計基準強度は Fc21N/mm² ～ Fc60N/mm²の普通コンクリートに適用する。
JISA5308から外れるコンクリートを使用する場合は、別途仕様書による。

1－2 その他

㈱向山工場の MK785 は梁成1.5m以上の曲げ降伏しない基礎梁に重ね継手を使用できる。5-3 4)参照

§２　材　　料

2－1 材種

1) JIS G 3137 「細径異形ＰＣ鋼棒」SBPD 1275/ 1420 に相当する 1275N/mm² 級のＰＣ鋼棒
2) 低合金キルド鋼を熱間異形圧延し、制御冷却し、必要に応じて熱処理した線材コイルを素材として、冷間直線矯正加工を施して製造された 785N/mm² 級の鋼棒(KSS785,KW785)

2－2 呼び名 断面形状

3) 成分調整したキルド鋼の鋼塊から熱間圧延によって製造された685N/mm²，785N/mm² 級の鋼棒（SHD685,SHR685,KH785,SPR785,MK785,OT685,JH785,KH685,USD685）

(表1)

1275N/mm² 級			785N/mm² 級			685N/mm² 級		
呼び名 d	公称径 mm	断面積 mm²	呼び名 d	公称径 mm	断面積 mm²	呼び名 d	公称径 mm	断面積 mm²
P6.2	6.2	30	K6	6.35	31	U6	6.35	31
P7.1	7.1	40	K8	7.94	49	U9	9.00	63
P9.0	9.0	64	K10	9.53	71	U10	9.53	71
P10.7	10.7	90	K13	12.7	126	U13	12.7	126
P12.6	12.6	125	K16	15.9	198	U16	15.9	198

註　径・断面積等はメーカーにより多少の相違がある。

2－3 機械的性質

(表2)

	1275N/mm² 級			785N/mm² 級			685N/mm² 級		
試験片	降伏点 N/mm²	引張強さ N/mm²	伸び % (8d)	降伏点 N/mm²	引張強さ N/mm²	伸び % (8d)	降伏点 N/mm²	引張強さ N/mm²	伸び % (8d)
母材	1 275	1 420	7	785	930	8	685	860以上	10
溶接部	1 275	1 420	5	785	930	5	685	860以上	5

註　降伏点等はそれぞれの記入数値以上とする。

2－4 図示記号

図面には通常、 1275N/mm² 級はP6.2 ～P12.6
785N/mm² 級はK6 ～K16
685N/mm² 級はU6 ～U16

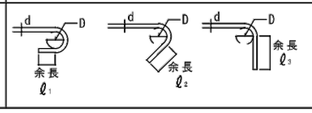
§３　加　　工

3－1 曲げ加工 溶接

曲げ加工及び溶接は、一般評定条件に従って行わねばならない。
1275N/mm² 級は高周波熱錬㈱，JFEテクノワイヤ㈱
785N/mm² 級は㈱神戸製鋼，住友電気工業㈱,新日鐵住金㈱　KSS785
JFEテクノワイヤ㈱　KW785，東京鉄鋼㈱ SPR785，
㈱岸鋼加工（旧 岸和田金属㈱）KH785，㈱向山工場 MK785，JFE条鋼㈱ JH785
685N/mm² 級は北越メタル㈱ SHD685　SHR685，大谷製鉄㈱ OT685，
㈱岸鋼加工（旧 岸和田金属㈱）KH685，共英製鋼㈱ USD685

3－2 曲げ角度 余長

(表3)

折曲げ部分	末端部			中間部
折曲げ角度	180°	135°	90°	90°以下
余長				

（註）　1. dは呼び名に用いた数値とする。
2. 折曲げ角度 90°は、スラブと同時に打ち込むＴ形及びＬ形ばりの場合にＵ字形あばら筋と共に用いるタイプ及びコアコンクリート内に定着する場合に用いる。
3. Ｐ6.2 の180°及び135°の余長は 8d かつ 55mm 以上とする。

3－3 加工寸法 加工形状

(表4)

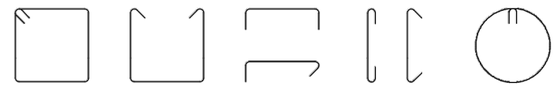
	折り曲げ内のり直径 (D)	余長		
		ℓ_1(180°)	ℓ_2(135°)	ℓ_3(90°)
1275N/mm² 級	5d 以上	8d 以上	8d 以上	12d 以上
785N/mm² 級	4d 以上	6d 以上	8(6)d※1 以上	12(10)d※2 以上
685N/mm² 級（下段はSHR685）	4d 以上	6d 以上	6(8)d※3 以上	10d 以上
	3d 以上	6d 以上	8d 以上	10d 以上

※1　（ ）内はKW785･MK785･JH785 のみとする。
※2　（ ）内はKW785･JH785 のみとする。
※3　（ ）内は柱外周に用いる135°フック閉鎖形帯筋 UD の余長のみとする。

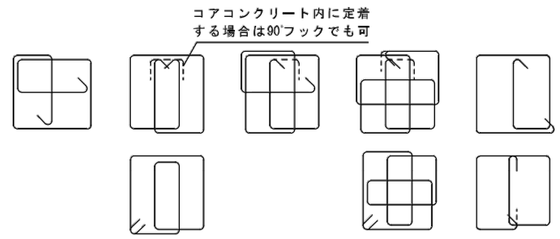
加工できる一辺の長さに制限があるのでメーカー仕様書に注意すること。

曲げ加工種別　（代表例を示す）

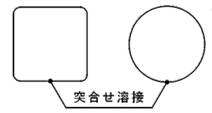
1) 単筋フック付



2) 単筋中子筋付（一筆書，マルチ加工）フック付



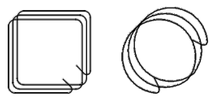
3) 単筋溶接閉鎖形





必要かぶり厚さは溶接部よりとる。

4) スパイラル筋



5) 中子筋付スパイラル筋
2)の形状でスパイラルに加工する。

§４　保管及び清掃

4－1 保管

せん断補強筋は直接地上に置くことを避ける。又、雨・潮風等にさらされず、ごみ、泥油等で汚さない様に保管する。

4－2 清掃

せん断補強筋は組み立てに先立ち、浮き錆・油類・ごみ・泥等コンクリートとの付着を妨げるおそれの有るものは除去する。

§５　組み立て

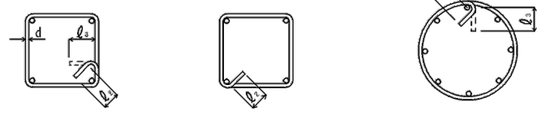
5－1 組み立て

せん断補強筋は設計図及び施工図に従い正しく配筋し、コンクリートの打ち込み完了まで移動しない様十分堅固に組み立てる。

フック付単筋を用いる場合はフック位置を交互に配置する。
溶接閉鎖形筋の溶接面は交互に配置する。

5－2 末端処理

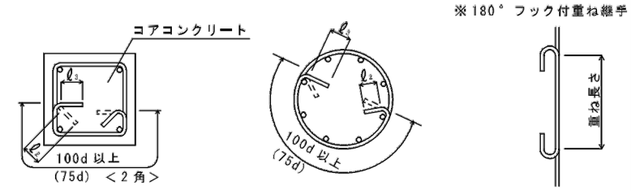
1) 角スパイラル筋の末端は１巻き以上の添え巻きをし、末端には表－４規定の余長をもつフックを付ける。但し、90° フックの場合はコアコンクリート内に定着する。
2) 円形スパイラル筋の末端の処理は１巻以上の添え巻きをし、末端には表－４規定の余長を持つフックをつけ、主筋に密着させて曲げる。



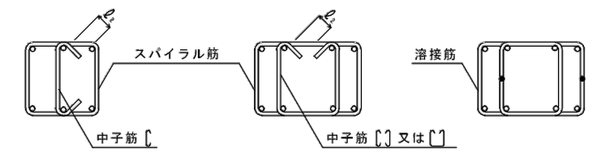
5－3 継手

1) 角スパイラル筋を部材途中で継ぐ場合、継手重ね長さは 100d（75d）以上とし、かつ重ね長さ中に少なくとも２角以上を含む様に設けるものとする。又末端には表－４規定のフックをつける。但し、90° フックの場合はコアコンクリート内に定着する。
2) 円形スパイラル筋を部材途中で継ぐ場合、継手重ね長さは 100d（75d）以上とし、かつ末端には表－４規定のフックをつけ、主筋に密着させて折曲げる。
3) 中子筋付スパイラル筋の場合はメーカー仕様による。
4) ※180° フック付重ね継手は MK785,KH785,KH685 のみとする。
（重ね長さはメーカー仕様による。）

※180° フック付重ね継手

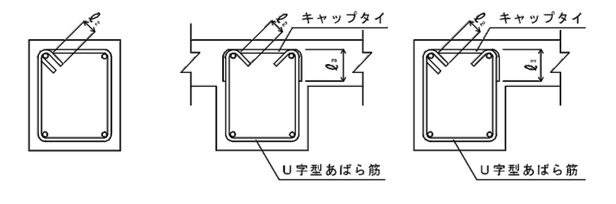


5－4 スパイラル筋（又は溶接筋）と中子筋の併用



5－5 あばら筋

単筋フック付きのあばら筋を使用する場合、あばら筋の末端には表－４規定のフックをつける。但し、90° フックとする場合はスラブと同時に打込むＴ形及びＬ形はりに用いるＵ字形あばら筋キャップタイに限る。



Ｔ形はり　　Ｌ形はり

§６　その他

6－1 注意事項

1) 高強度鋼棒せん断補強筋は現場溶接を行ってはならない。又、主筋等の溶接に際してはせん断補強筋にアークストライク等過度の加熱をせぬよう十分注意する。
2) 高強度鋼棒の切断はシャーカッター、電動のこにより行なう。
3) 曲げ加工したものを曲げもどし、曲げ位置を変更する様な再加工を行ってはならない。

6－2 配筋の検査

配筋後、コンクリート打ちに先立ち係員の検査を受けなければならない。

6－3 梁貫通補強

高強度鋼棒で梁貫通補強を行う場合は、大臣認定を得た補強筋を用いる。又、施工に先立ちメーカー側において強度計算を行うものとする。

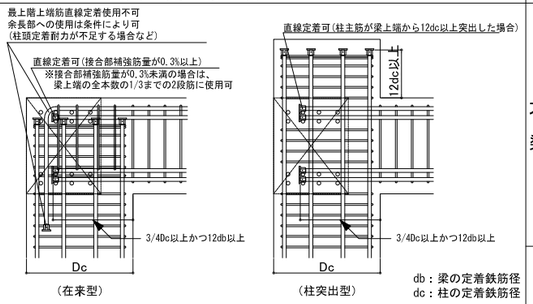
（販売元）一般社団法人日本建築構造設計事務所協会連合会　http://fasa-net.jp
（発行元）一般社団法人関西建築構造設計事務所協会　TEL(06)6763-8205　FAX(06)6763-8206　http://www.kse-web.com/
2022年2月1日作成
（不許複製）

工事名			図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事			【共通】 高強度せん断補強筋施工仕様書		2023/03
NEWJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名		設計者名	縮尺	図面番号
	小田 文武		安川 雅巳	A1:－ A3:－	S-008

プレートナット工法標準書（SD490以下）

大梁部分

最上階

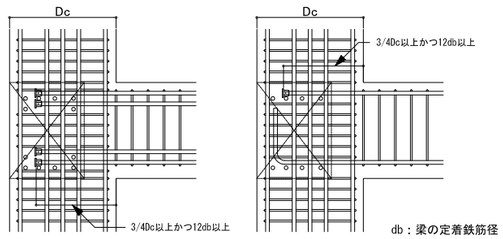


（在来型）　（柱突出型）

db：梁の定着鉄筋径
dc：柱の定着鉄筋径

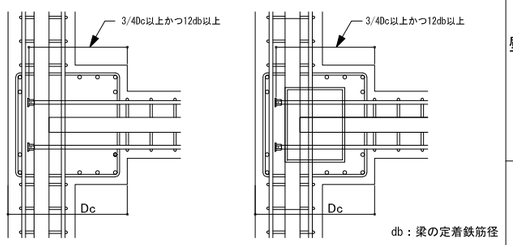
中間階

RC梁筋の定着



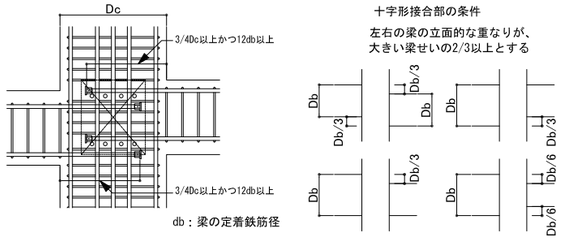
db：梁の定着鉄筋径

SRC・CFT柱への定着



db：梁の定着鉄筋径

段差梁の定着

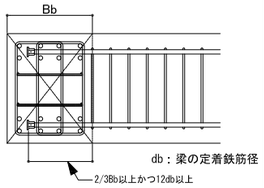


十字形接合部の条件
左右の梁の立面的な重なりが、
大きい梁せいの2/3以上とする

db：梁の定着鉄筋径

その他部分

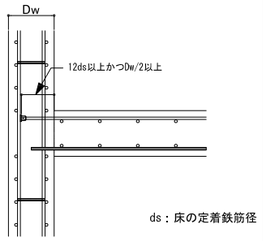
大梁



db：梁の定着鉄筋径

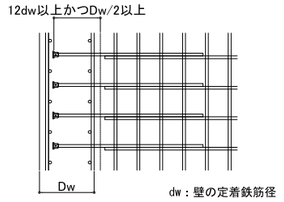
注）直交梁主筋の内側に定着筋を配筋する

床



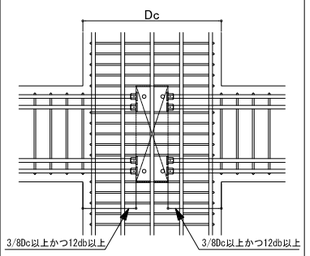
ds：床の定着鉄筋径

壁



dw：壁の定着鉄筋径

壁柱への定着



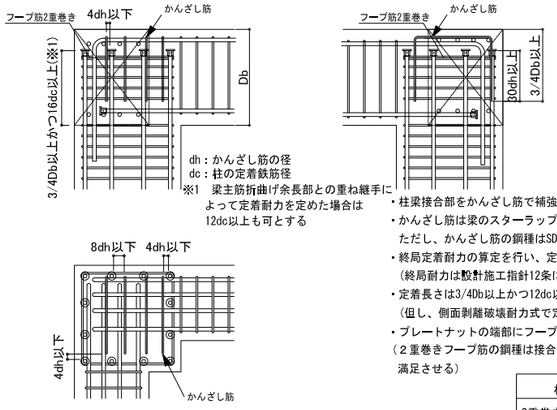
db：梁の定着鉄筋径

壁柱の形状

壁柱とは、その断面の長辺長さが短辺長さに対して概ね２～８程度の長方形断面をした柱部材を想定しているが、それよりも正方形に近くても壁柱と総称することにする。（長辺と短辺の比率が1.6程度）

柱部分

L字型架構部

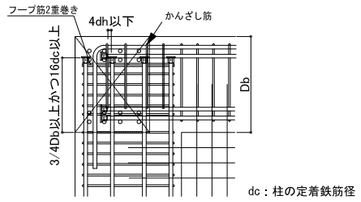


dh：かんざし筋の径
dc：柱の定着鉄筋径
※1　梁主筋折曲げ余長部との重ね継手によって定着耐力を定めた場合は12dc以上も可とする

- 柱梁接合部をかんざし筋で補強を施す。
- かんざし筋は梁のスターラップと同径以上をスターラップのピッチ以下で配筋する。
  ただし、かんざし筋の鋼種はSD295A材としてもよい。
- 終局定着耐力の算定を行い、定着強度を確認する。
  （終局耐力は設計施工指針12条による ）
- 定着長さは3/4Db以上かつ12dc以上とする。
  （但し、側面剥離破壊耐力式で定着耐力を評価する場合、定着長さは16dc以上とする）
- プレートナットの端部にフープ筋を2重巻きにする。
  （２重巻きフープ筋の鋼種は接合部補強筋以上とし、フープ筋径は柱主筋径に応じ下表を満足させる）

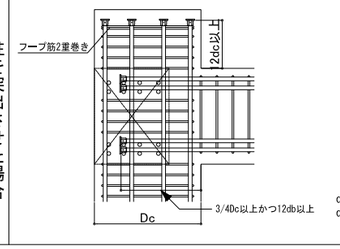
柱主筋径	D16以上	D29以上	D38以上
2重巻きフープ筋径	D10以上	D13以上	D16以上

耐震壁を付帯した場合



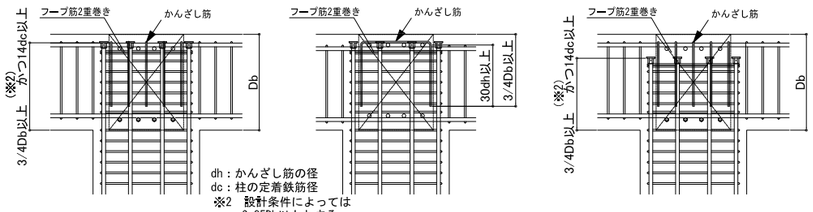
dc：柱の定着鉄筋径

柱を突出させた場合

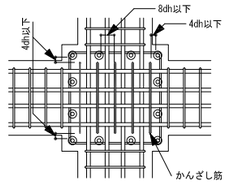


db：梁の定着鉄筋径
dc：柱の定着鉄筋径

T字型架構部



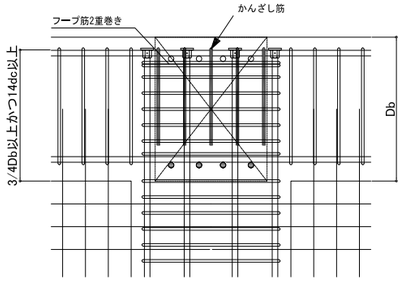
dh：かんざし筋の径
dc：柱の定着鉄筋径
※2　設計条件によっては0.85Db以上とする



- 柱梁接合部をかんざし筋で補強を施す。
- かんざし筋は梁のスターラップと同径以上をスターラップのピッチ以下で配筋する。
- 終局定着耐力の算定を行い、定着強度を確認する。
- 定着長さは3/4Db以上かつ12dc以上とする。
  （但し、側面剥離破壊耐力式で定着耐力を評価する場合、定着長さは14dc以上が望ましい）
- プレートナットの端部にフープ筋を2重巻きにする。
  （２重巻きフープ筋の鋼種は接合部補強筋以上とし、フープ筋径は柱主筋径に応じ下表を満足させる）

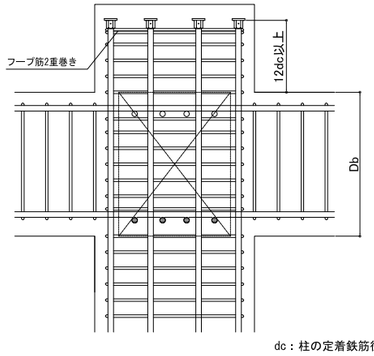
柱主筋径	D16以上	D29以上	D38以上
２重巻きフープ筋径	D10以上	D13以上	D16以上

耐震壁を付帯した場合



dh：かんざし筋の径
dc：柱の定着鉄筋径

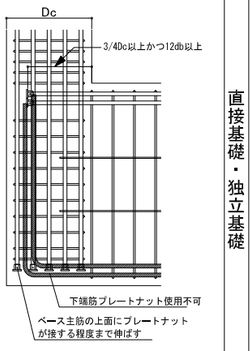
柱を突出させた場合



dc：柱の定着鉄筋径

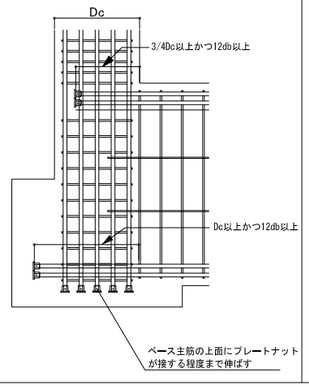
基礎梁部分

ベタ基礎・布基礎



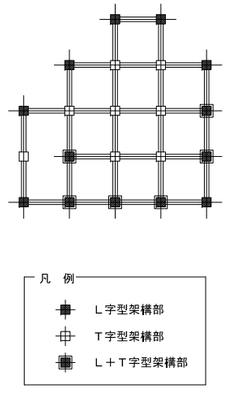
db：梁の定着鉄筋径

直接基礎・独立基礎



db：梁の定着鉄筋径

T字型・L字型架構部の定義

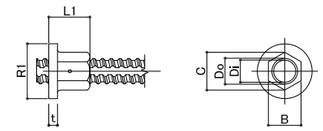


評定番号

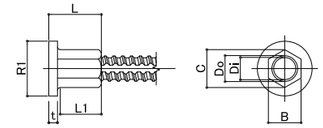
（財）日本建築センター　一般評定
ＢＣＪ評定－ＲＣ０１５２－１０

形状

貫通タイプ



標準タイプ

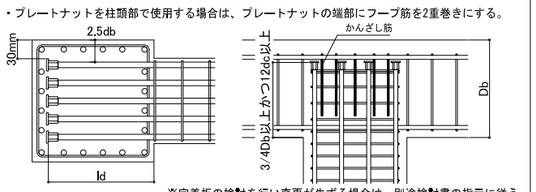


寸法表（標準・貫通）　（特記以外の単位：mm）

呼び名	内径 Di	外径 Do	定着板径 R1	対辺 B	対角 C	定着板板厚 t	全長 L	ねじ部長さ L1	支圧面積 (cm²) Ap
D16	15.7	18.6	43	26	30	7	47	37	12.5
D19	18.9	22.3	50	32	36	7	47	37	16.8
D22	21.8	25.6	55	35	39	8	53	42	19.9
D25	24.8	29.0	65	41	46	9	59	47	28.1
D29	28.2	33.0	75	46	51	10	70	57	37.8
D32	31.4	36.6	80	50	54	11	76	62	42.3
D35	34.4	40.0	90	54	59	13	83	67	54.0
D38	37.5	43.5	95	58	63	15	90	72	59.5
D41	40.5	47.3	100	63	69	16	96	77	65.1

構造規定

- プレートナットの梁主筋定着長さ（ld）は、12db以上とする。
  （定着耐力式を側面剥離破壊の耐力式で検討する場合には、3/4Dc以上とする）
- プレートナットの柱主筋定着長さ（ld）は、3/4Db以上かつ12dc以上とする。
  （定着耐力式を側面剥離破壊の耐力式で検討する場合には、T形は14dc以上、L形は16dc以上とする）
- プレートナットを使用した梁定着鉄筋の定着部かぶり厚さは2.5db以上とし、プレートナット定着板の側面かぶり厚さは柱・梁主筋共に定着板側面より30mm以上とする。
- プレートナットを使用した隣接する定着鉄筋の最小間隔は、ＪＡＳＳ５の規定値による。
- プレートナットを柱頭部で使用する場合は、プレートナットの端部にフープ筋を2重巻きにする。



※定着板の検討を行い変更が生ずる場合は、別途検討書の指示に従う。

施工

施工要領

（施工方法）

1.樹脂グラウト式　2.無機グラウト式　3.トルク式

（標準タイプ グラウト固定検査項目）

1.グラウト充填前に鉄筋端面がプレートナットに当たっていることを、グラウト注入口から目視確認する
2.グラウト充填後、プレートナット端面からグラウト材がはみだしていることを目視確認する

（貫通タイプ グラウト固定検査項目）

1.グラウト充填前にプレートナットから鉄筋が貫通していることを目視確認する
2.グラウト充填後、プレートナット端面からグラウト材がはみだしていることを目視確認する

技術講習

継手工事管理者及び継手作業を行う作業者は全員、東京鉄鋼(株)による仕様書の内容及び実技の技術講習を受講し、継手作業資格認定証を取得しなければならない。

工事名	図面の名称	作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事	【共通 】定着板工法標準書（参考図）	2023/03

管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
小田　文武	安川　雅巳	A1:- A3:-	S-009

NEOJEC 株式会社ニュージェック

梁貫通孔補強材　**ＭＡＸウエブレン標準仕様書**

１．一般事項

（１）本仕様書は、(財)日本建築センターの一般評定「BCJ評定-RC0097-07」に適合するように標準仕様を定めるものであり、各設計における特記仕様は、本仕様書に優先して適用する。

（２）本仕様書に定めなき事項は、日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」及び「建築工事標準仕様書・同解説（JASS5）鉄筋コンクリート工事」による。

２．適用範囲

（１）使用材料

a）コンクリート設計基準強度

$21 \leqq Fc \leqq 80 N/mm^2$

b）主筋

普通鉄筋のうち以下の種類

SD295A，SD345，SD390，SD490

高強度鉄筋のうち以下の種類

SD590，SD685 ただし、建築基準法第37条第二号の規定に基づく国土交通大臣認定品

c）あばら筋

普通鉄筋のうち以下の種類

SD295A，SD345，SD390

高強度鉄筋のうち以下の種類

$685N/mm^2$,$785N/mm^2$級または$1275N/mm^2$級高強度鉄筋のうち、建築基準法第37条第二号の規定に基づく国土交通大臣認定品

d）開孔補強筋

$785N/mm^2$級せん断補強筋ストロングフープ用棒鋼【認定番号 MSRB-0005】

$785N/mm^2$級せん断補強筋ストロングフープ用棒鋼（インデント付）【認定番号 MSRB-0124】

$785N/mm^2$級せん断補強筋ストロングフープ用棒鋼（インデント無）【認定番号 MSRB-0125】

（２）開孔径および位置

a）開孔径　H

あばら筋に普通強度鉄筋を用いる梁　　100mm≦H≦750mm

あばら筋に高強度鉄筋を用いる梁　　100mm≦H≦450mm

開孔の形状は円形または多角形とし、梁成の1/3以下とする。

（多角形の場合は外接する円形とみなす。）

b）開孔中心間距離　L

開孔中心間距離は、開孔径の3倍以上とする。また、隣り合う開孔径が異なる場合には、双方の開孔径の平均値の3倍以上とする。

c）柱際から開孔中心までの距離　L’

柱面から梁せい以上離すこととする。



d）へりあきの最小寸法

梁せい　450mm≦D＜700mm　　へりあき 175mm

梁せい　700mm≦D＜900mm　　へりあき 200mm

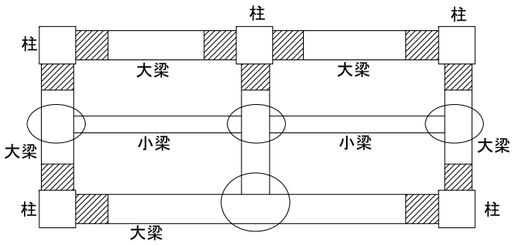
梁せい　900mm≦D　　へりあき 250mm

e）梁が交差する場合の梁面から開孔中心までの距離

開孔補強筋が直交する梁の配筋と干渉しない範囲で開孔を設けることができる。

：柱面から梁せい以上離す。

：大梁、小梁とも開孔補強筋が直交する梁の配筋に干渉しない範囲で開孔可。



３．標準配筋図

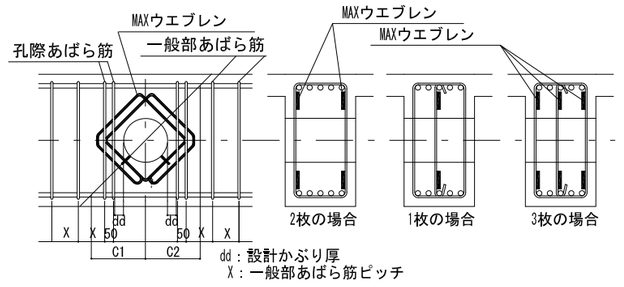
（１）ＭＡＸウエブレンの取り付け位置

ＭＡＸウエブレンはあばら筋の内側に取り付ける。

3枚以上施工する場合は中子筋へ取り付けるか、開孔補強筋を連続固定できるＪ筋（ジョイント金具）により施工する。

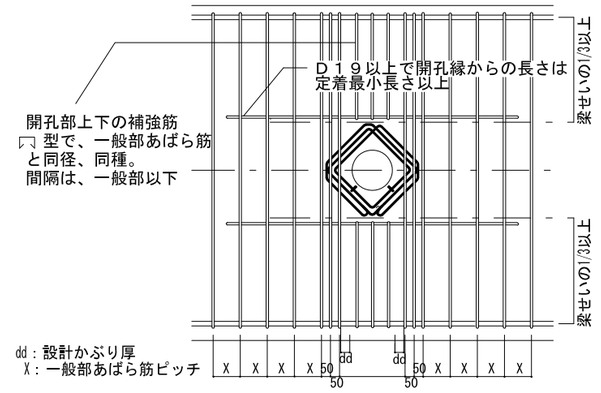
（２）孔際あばら筋

孔際あばら筋は、原則として一般部あばら筋と同種、同径、同本数とし、開孔部の両側に１組以上配筋する。位置は開孔縁から設計かぶり厚さを確保した位置に１組目を配筋し、複数組配筋する場合は、その間隔を50mmとする。



４．大開孔時の補強方法

開孔径が400mm以上で主筋とＭＡＸウエブレンの最外位置との間隔が梁せいの1/3以上となる場合は右図に示す補強を行う。なお、この補強が必要となる条件は(財)日本建築センターの評定時に指導された最低基準であるので、開孔位置等の状況によっては図に示す数値以下であっても補強が必要となる場合がある。従って開孔部の上下補強については設計担当者と協議検討のうえ決定する。



５．施工要領

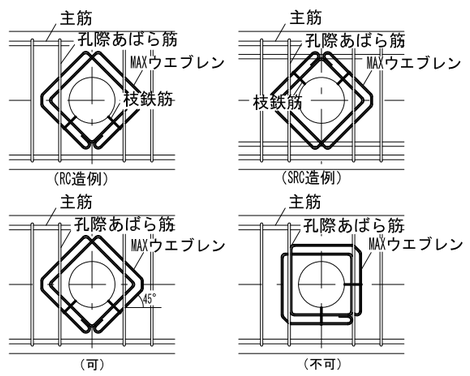
（１）標準的な施工順序

a）ＲＣ造　1）開孔位置の芯出しを行う。

（例）　2）ＭＡＸウエブレンをあばら筋内に挿入し、枝鉄筋を下側または上側に向け所定の位置に固定する。

b）ＳＲＣ造　1）あばら筋の配筋前に、鋼管スリーブにＭＡＸウエブレンを掛け、仮置きする。

（例）　2）あばら筋を配筋後、枝鉄筋を下側または上側に向け所定の位置に固定する。



（２）ＭＡＸウエブレンの取り付け方向

ＭＡＸウエブレンはあばら筋に対して環状鉄筋が45°になるように取り付ける。

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【共通】 梁貫通孔補強材　標準仕様書(参考図)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:- A3:-	図面番号 S-010

梁貫通孔補強材

ＭＡＸウエブレン　寸法・重量表

d40型(かぶり厚40mm仕様　単位mm)

呼び径	開孔径	適用孔径		S6-2R	S8-2R	S10-2R	S13-2R	S16-2R	S16-3R
100	106φ	86 ～ 106	内環	193	195	197	200	203	203
			中環						363
			外環	265	275	297	330	363	523
			縦外形	307	310	322	339	356	504
			横外形	333	339	358	386	414	512
			重量 kg	0.49	0.78	1.22	2.24	3.69	6.54
125	132φ	112 ～ 132	内環	219	220	222	225	228	228
			中環						388
			外環	291	300	322	355	388	548
			縦外形	344	345	357	374	391	539
			横外形	369	375	393	421	449	548
			重量 kg	0.55	0.85	1.33	2.44	4.00	7.00
150	158φ	138 ～ 158	内環	245	246	248	251	254	254
			中環						414
			外環	317	326	348	381	414	574
			縦外形	381	382	394	411	428	576
			横外形	406	411	430	458	486	584
			重量 kg	0.60	0.93	1.45	2.65	4.33	7.49
175	183φ	163 ～ 183	内環	270	271	273	276	279	279
			中環						439
			外環	342	351	373	406	439	599
			縦外形	416	418	429	446	463	611
			横外形	441	447	465	493	521	620
			重量 kg	0.65	1.01	1.56	2.85	4.64	7.96
200	209φ	189 ～ 209	内環	296	297	299	302	305	305
			中環						465
			外環	368	377	399	432	465	625
			縦外形	453	454	466	483	500	648
			横外形	478	483	502	530	558	656
			重量 kg	0.70	1.09	1.68	3.06	4.96	8.44
225	235φ	215 ～ 235	内環	322	323	325	328	331	331
			中環						491
			外環	394	403	425	458	491	651
			縦外形	490	491	503	520	537	685
			横外形	515	520	539	567	595	693
			重量 kg	0.75	1.17	1.79	3.26	5.29	8.93
250	260φ	240 ～ 260	内環		348	350	353	356	356
			中環						516
			外環		428	450	483	516	676
			縦外形		526	538	555	572	720
			横外形		556	574	602	630	729
			重量 kg		1.25	1.91	3.46	5.60	9.40
275	286φ	266 ～ 286	内環		374	376	379	382	382
			中環						542
			外環		454	476	509	542	702
			縦外形		563	575	592	609	757
			横外形		592	611	639	667	765
			重量 kg		1.33	2.02	3.67	5.92	9.89
300	312φ	292 ～ 312	内環		400	402	405	408	408
			中環						568
			外環		480	502	535	568	728
			縦外形		600	611	629	646	794
			横外形		629	648	676	704	802
			重量 kg		1.41	2.14	3.88	6.25	10.37
325	338φ	318 ～ 338	内環		426	428	431	434	434
			中環						594
			外環		506	528	561	594	754
			縦外形		637	648	665	682	830
			横外形		666	685	713	741	839
			重量 kg		1.49	2.25	4.08	6.57	10.86
350	370φ	344 ～ 370	内環		458	460	463	466	466
			中環						626
			外環		538	560	593	626	786
			縦外形		682	693	711	728	876
			横外形		711	730	758	786	884
			重量 kg		1.59	2.40	4.34	6.97	11.46

d50型(かぶり厚50mm仕様　単位mm)

呼び径	開孔径	適用孔径		S6-2R	S8-2R	S10-2R	S13-2R	S16-2R	S16-3R
100	106φ	86 ～ 106	内環	213	215	217	220	223	223
			中環						383
			外環	285	295	317	350	383	543
			縦外形	335	338	350	367	384	532
			横外形	361	367	386	414	442	541
			重量 kg	0.54	0.84	1.32	2.42	3.95	6.92
125	132φ	112 ～ 132	内環	239	240	242	245	248	248
			中環						408
			外環	311	320	342	375	408	568
			縦外形	372	374	385	402	419	567
			横外形	398	403	422	450	478	576
			重量 kg	0.59	0.92	1.43	2.61	4.26	7.39
150	158φ	138 ～ 158	内環	265	266	268	271	274	274
			中環						434
			外環	337	346	368	401	434	594
			縦外形	409	411	422	439	456	604
			横外形	434	440	458	486	514	613
			重量 kg	0.64	1.00	1.55	2.82	4.59	7.88
175	183φ	163 ～ 183	内環	290	291	293	296	299	299
			中環						459
			外環	362	371	393	426	459	619
			縦外形	444	446	457	474	492	639
			横外形	470	475	494	522	550	648
			重量 kg	0.69	1.08	1.66	3.02	4.90	8.34
200	209φ	189 ～ 209	内環	316	317	319	322	325	325
			中環						485
			外環	388	397	419	452	485	645
			縦外形	481	483	494	511	528	676
			横外形	506	512	530	558	586	685
			重量 kg	0.74	1.16	1.78	3.23	5.22	8.83
225	235φ	215 ～ 235	内環	342	343	345	348	351	351
			中環						511
			外環	414	423	445	478	511	671
			縦外形	518	519	531	548	565	713
			横外形	543	549	567	595	623	722
			重量 kg	0.80	1.24	1.89	3.43	5.55	9.32
250	260φ	240 ～ 260	内環		368	370	373	376	376
			中環						536
			外環		448	470	503	536	696
			縦外形		555	566	583	600	748
			横外形		584	603	631	659	757
			重量 kg		1.32	2.01	3.63	5.86	9.79
275	286φ	266 ～ 286	内環		394	396	399	402	402
			中環						562
			外環		474	496	529	562	722
			縦外形		592	603	620	637	785
			横外形		621	639	667	695	794
			重量 kg		1.40	2.12	3.84	6.18	10.27
300	312φ	292 ～ 312	内環		420	422	425	428	428
			中環						588
			外環		500	522	555	588	748
			縦外形		628	640	657	674	822
			横外形		657	676	704	732	830
			重量 kg		1.48	2.24	4.05	6.51	10.76
325	338φ	318 ～ 338	内環		446	448	451	454	454
			中環						614
			外環		526	548	581	614	774
			縦外形		665	676	694	711	859
			横外形		694	713	741	769	867
			重量 kg		1.56	2.36	4.25	6.83	11.25
350	370φ	344 ～ 370	内環		478	480	483	486	486
			中環						646
			外環		558	580	613	646	806
			縦外形		710	722	739	756	904
			横外形		739	758	786	814	912
			重量 kg		1.66	2.50	4.51	7.23	11.84

d50型(かぶり厚50mm仕様　単位mm)

呼び径	開孔径	適用孔径		S10-2R	S13-2R	S16-2R	S16-3R
400	420φ	400 ～ 420	内環	530	533	536	536
			中環				696
			外環	630	663	696	856
			縦外形	792	810	827	975
			横外形	829	857	885	983
			重量 kg	2.72	4.91	7.86	12.78
450	470φ	450 ～ 470	内環	580	583	586	586
			中環				746
			外環	680	713	746	906
			縦外形	863	880	897	1045
			横外形	900	928	956	1054
			重量 kg	2.95	5.30	8.48	13.72
500	524φ	504 ～ 524	内環	634	637	640	640
			中環				800
			外環	734	767	800	960
			縦外形	940	957	974	1122
			横外形	976	1004	1032	1130
			重量 kg	3.19	5.73	9.15	14.73
550	582φ	562 ～ 582	内環	692	695	698	698
			中環				858
			外環	792	825	858	1018
			縦外形	1022	1039	1056	1204
			横外形	1058	1086	1114	1212
			重量 kg	3.45	6.20	9.88	15.81
600	630φ	610 ～ 630	内環	740	743	746	746
			中環				906
			外環	840	873	906	1066
			縦外形	1089	1107	1124	1272
			横外形	1126	1154	1182	1280
			重量 kg	3.66	6.58	10.48	16.71
650	682φ	662 ～ 682	内環	792	795	798	798
			中環				958
			外環	892	925	958	1118
			縦外形	1163	1180	1197	1345
			横外形	1199	1227	1255	1354
			重量 kg	3.90	6.99	11.13	17.69
700	720φ	690 ～ 720	内環	830	833	836	836
			中環				996
			外環	930	963	996	1156
			縦外形	1217	1234	1251	1399
			横外形	1253	1281	1309	1407
			重量 kg	4.07	7.29	11.60	18.40
750	750φ	730 ～ 750	内環	860	863	866	866
			中環				1026
			外環	960	993	1026	1186
			縦外形	1259	1276	1293	1441
			横外形	1296	1324	1352	1450
			重量 kg	4.20	7.53	11.97	18.96

※　孔径判別・腐食防止用キャップをスリーブ受けの枝鉄筋
2箇所に装着しております。(下表参照)

孔径別キャップ色分け表

黄　100φ、225φ、350φ、600φ
青　125φ、250φ、400φ、650φ
白　150φ、275φ、450φ、700φ
赤　175φ、300φ、500φ、750φ
黒　200φ、325φ、550φ
※緑　S8-2R・S13-2Rのみ各孔径の枝鉄筋１箇所に装着

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【共通】 梁貫通孔補強材　寸法・重量表(参考図)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:- A3:-	図面番号 S-011

地盤改良工事特記仕様書(1)

§１．工法概要

本地業は、機械式撹拌工法による改良地盤地業であり、スラリー状のセメント系固化材を地盤中に供給し、[共回り]・[つれ回り]を防止して強制的なねりこみ作用をもつ複合相対撹拌翼を用いて原地盤土と機械的に混合撹拌し、固化材の化学的反応により所要の強度を持つ改良コラムを造成する工法である。　また、練り込み撹拌は低速回転・高トルクにて三次元的な撹拌性能を有し、大口径(2.0m以上)改良に於も均一で良好な撹拌混練が証明された工法とする。

§２．特記事項

本工事工法は、撹拌能力・撹拌径・品質（変動係数）に対して「建設技術審査協議会」にて証明された技術審査証明取得工法とする。
また、事前にその証明書を監理者に提出し、承認を得ることとする。

※　図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、下記による。
・改訂版　建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針
日本建築センター

§３．一般事項

１．施工業者

本工事の施工業者は地盤改良工法の施工技術及び計測装置の取扱いに精通したもので、エポコラム協会に所属する会員とする。

２．施工計画書

工事に先立ち、施工計画書（ ２ 部）を提出し、工事監理者の承認を受ける。施工計画書には次の事項を明記する。

（１）　工事概要
（２）　地盤概要
（３）　工事内容及びコラム仕様
（４）　実施工程表
（５）　施工機器
（６）　施工方法
（７）　施工管理
（８）　品質管理
（９）　仮設計画
（10）　安全対策
（10）　環境の保全対策
（11）　施工業者及び施工員の組織表
（12）　品質証明書（技術審査証明書等）

３．設計変更

施工に際して、コラムの径・長さ・本数・位置及び固化材液の配合等は土質や地盤状況により、変更を余儀なくされた場合、工事監理者と協議の上変更する。その場合、後日設計変更により処理するものとする。

４．立　　会

工事の請負業者は、本工事責任者（請負業者の中から選定）及び施工責任者（施工業者の中から選定）を定め、両者は施工中は立会うものとする。

§４．コラム仕様

１．設計基準強度

コラムの設計基準強度　（本庁、地下燃料タンク）Ｆc＝1100kN/m²とする。

２．固　化　材

固化材の配合は原則として、改良部分の検査対象土を採取し、３種類以上の添加量にて室内配合試験を行い、試験結果と配合強度を基に添加量を決定する。添加量は280kg/m³とする。
※使用する固化材は、六価クロム等の土壌環境基準に適合することを確認する。

３．配合強度

配合強度Ｘfは、設計基準強度Ｆcと変動係数・採取ヶ所数による割増係数αtを用いて、次式による。

Ｘf＝αt×Ｆc

割増し係数αtは、下表による

採取ヶ所数　N		1	2	3	4～6	7～8	9～
変動係数Vc	20%	1.82	1.66	1.59	1.52	1.47	1.43
	25%	2.16	1.92	1.82	1.72	1.65	1.59
	30%	2.61	2.24	2.10	1.96	1.87	1.79

４．室内配合強度

室内配合強度Ｘlは、配合強度Ｘfを現場／室内強度比αflで除して、次式による。

Ｘl＝Ｘf／αfl

§５．施　工

１．ｽﾗﾘｰ吐出方法

固化材液（スラリー）の吐出方法は、貫入時に先端より掘削と撹拌を同時に行い、引抜き時に撹拌のみを行う貫入時吐出とする。

２．コラム余長

コラム頭部の余長は、10cm以上とする。

３．処　理　機（撹　拌　翼）

コラムの施工に於て、コラムの高強度・高品質化のために共回り、つれ回りを防止し且つコラム中に狭窄された土塊の崩壊を促進する翼でありコラムをラップさせて築造する施工を行なう場合、既設した隣接コラムが未固化状態であり、新設ラップコラムの掘削土を捲き出せない機能を持った翼である、複合相対撹拌翼を装備したものとする。

４．残土処理

構内指示の場所に敷きならし

５．疑　　義

施工に対して疑義が生じた場合、ただちに工事監理者と協議し、その指示を受ける。

§６．施工管理

管理方法：コラム築造の施工手順に沿って次の仕様で行う。

（１）改良材の配合管理
水の計量　　：自動計量にて行う。
固化材の計量：自動計量又はトン袋にて行う。
（２）コラムの鉛直度
処理機に装着するリーダー内に設置された傾斜計で管理する。
（３）スラリーの注入量
流量計で計測し、デジタル表示及びグラフ表示によって管理する。
（４）貫入・引抜速度
施工深度と施工時間により算出する。
（５）電流値の測定
支持層確認を行う場合は、オーガーの負荷電流を測定し、デジタル表示及びグラフ表示にによって土質等を管理する。
（６）施工深度
リーダーと処理機本体に設置された深度計で計測し、デジタル表示によって管理する。

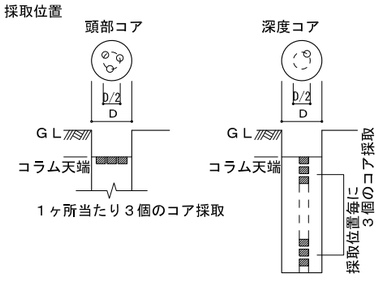
§７．品質管理

（１）調査ヶ所（検査対象群に対して）

改良長	供試体の採取方法 採取位置 頭部コア	深度コア
２ｍ以下の場合	100ｺﾗﾑに１ヶ所以上	―――
２ｍ以上の場合	100ｺﾗﾑに１ヶ所以上	100ｺﾗﾑに１本※以上

※深度コアは、１本以上のボーリングコアを含むものとする。
頭部コアは、モールドコアにより１ヶ所当り３個のコア採取を標準とする。
深度コアは、１本当り３ヶ所かつ土層毎に３個のコア採取を標準とする。

（２）採取位置



§８施工報告書

工事完了後、施工報告書（ ２ 部）を提出し、工事監理者の承認を受ける。
施工報告書は次の事項を明記する。

（１）工事内容、及びコラム仕様
（２）コラムの伏図、及び番号
（３）コラムの施工日
（４）コラムの径及び長さ
（５）貫入速度及び引抜速度
（６）機械的負荷電流の測定値
（７）改良深度
（８）固化材液の配合と固化材使用量
（９）コラムの強度管理試験
（10）その他の試験結果

（３）品質検査

材令28日における圧縮強度試験結果が下記のいずれかの手法による式を満足しなければならない。

①．統計的検査手法

$\bar{X}N \geqq XL = Fc + ka \cdot \sigma d$

$\bar{X}N$：Ｎヶ所の一軸圧縮強さの平均値（kN/m²）

$\bar{X}N = \frac{\Sigma \bar{X}i}{N}$

$\bar{X}i$：抜取ヶ所毎の一軸圧縮強さで、３個のコア供試体の一軸圧縮強さの平均値（kN/m²）＝（ ${}_1Xi + {}_2Xi + {}_3Xi$ ）/3

${}_1Xi + {}_2Xi + {}_3Xi$ ：コア供試体の一軸圧縮強さ（kN/m²）

XL：合格判定値（kN/m²）

Fc：設計基準強度（kN/m²）

ka：合格判定係数

抜取ヶ所数と合格判定係数　ka

採取ヶ所数　N	1	2	3	4～6	7～8	9～
合格判定係数ka	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

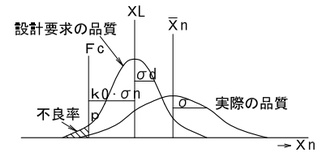
N　：検査対象層の抜取ヶ所数（１ヶ所３個の供試体）

σd：設計で想定したコア強度の標準偏差（kN/m²）

$\sigma d = Vd \cdot \bar{q}ud$

$\bar{q}ud$：想定した平均一軸圧縮強さ（kN/m²）

Vd：想定した強度の変動係数



②．現場強度の特性値による検査手法

$\bar{X}n \geqq XL = Fc + 1.3 \cdot \sigma n$

$\bar{X}n$：検査対象層から採取したｎ個のコアの一軸圧縮強さの平均値（kN/m²）

XL：合格判定値（kN/m²）

Fc：設計基準強度（kN/m²）

σn：抜き取ったｎ個のコア強度の標準偏差（kN/m²）

ｎ　：コアの抜取個数（25個以上）

※小規模等工事においては、次項の検査手法を用いる。
小規模等工事でコアの抜取個数が25個未満の場合は下記の式を満足しなければならない。

$\bar{X}n \geqq 2 \cdot Fc$　　$\bar{X}o \geqq Fc$

$\bar{X}n$：検査対象層から採取したｎ個のコアの一軸圧縮強さの平均値（kN/m²）

$\bar{X}o$：各コアの一軸圧縮強さ（kN/m²）

Fc：設計基準強度（kN/m²）

工事名	図面の名称	作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事	【共通】　地盤改良工事特記仕様書(1)(参考図)	2023/03

NEXJEC　株式会社ニュージェック	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
	小田　文武	安川　雅巳	A1: － A3: －	S-012

地盤改良工事特記仕様書(2)

１．工事概要

本地業は、表層混合処理工法による地盤改良地業である。

表層混合処理工法は、改良対象土上に改良材を散布し（粉体方式）、バックホウを用いて所定の改良深度まで掘り起こすと同時に、改良材と原土の撹拌混合を行い（原位置撹拌混合方式）改良地盤を造成するものである。

２．一般事項

本工事は、本特記仕様書によるほか「改訂版 建築物のための改良地盤の設計及び施工管理指針（日本建築センター）による。

３．特記事項

（１）改良範囲、改良深度等は設計図書による。ただし、改良範囲および深度、固化材添加量等について土質や地盤条件により変更した方が適切であると判断される場合には、監督員の承認の下に変更することができる。

（２）改良地盤の設計基準強度は、本庁棟・屋内貯蔵所はFc＝150kN/m2とする。

（３）固化材の推定添加量は、本庁棟・屋内貯蔵所は110kg/m3とする。

施工に際しては、当該地において改良対象土を採取の上、室内配合試験を行って固化材添加量を決定する。

ただし、固化材添加量は、粘性土系地盤については改良対象土1m3に対し60kg、砂質土系地盤については改良対象土1m3に対して50kgを下限値とする。

４．施工計画

（１）本工事施工業者は、本工事の施工技術に精通した者とする。

（２）工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。

５．施工

（１）作業地盤は、施工機械が傾斜・転倒しないよう養生を行う。

（２）基本的な施工手順を以下に示す。施工の障害となる事項が発生した場合には、別途検討する。

a)あらかじめ定められた品種、荷姿の固化材を現場に搬入する。

b)室内配合試験、その他の方法により定められた添加量になるよう、固化材を散布する。

c)混合機械により所定の深さまで地盤を掘り起こし、固化材が充分均一になるよう撹拌混合する。

d)撹拌混合後、不陸を整正し転圧機により所定の密度になるまで転圧する。

（３）改良対象土の自然含水比が小さい場合、固化材の水和反応が起こらない可能性があるため、必要に応じて硬化に必要な量の散水を行う。

６．施工機械

（１）固化材と原位置土の撹拌混合にはバックホウを用いるものとする。

（２）整正後の転圧には、タイヤローラ・タイピングローラ等確実に転圧できる施工機械を用いるものとする。

７．配合管理

（１）使用する材料は、セメント系固化材・特殊土用（ジオセット200）同等品以上とする。

（２）室内配合強度：X1は（現場／室内）強度比を考慮し、下式により算定する。

X1≒qul=quf/d1

X1　：室内配合強度

quf　：現場平均一軸圧縮強度（=Fc/(1-m･V)

qul　：室内平均一軸圧縮強度

d1　：（現場／室内）強度比（=quf/qul）

Fc　：設計基準強度

m　：qu,V,Pyを関連づける定数(=1.3)

V　：一軸圧縮強度の変動係数(=0.45)

（現場／室内）強さ比〔d1〕の一例

固化材の添加方式	改良の対象	施工機械	（現場／室内）強さ比
粉　体	軟弱土＊	スタビライザ バックホウ	0.5～0.8 0.3～0.7
	ヘドロ 高含水有機質土	クラムシェル バックホウ	0.2～0.5
スラリー	軟弱土＊	スタビライザ バックホウ	0.5～0.8 0.4～0.7
	ヘドロ 高含水有機質土	処理船 泥上作業車 クラムシェル・バックホウ	0.5～0.8 0.3～0.7 0.3～0.6

＊締固めを行う場合も含む。

（３）固化材の添加量は、室内配合試験結果に基づき（現場／室内）強度比を考慮して、配合強度を満足するように決定する。

８．品質検査

地盤改良後の品質検査は、モールド採取による一軸圧縮試験または平板載荷試験により行う。

一軸圧縮試験

地盤改良施工後の品質検査は、現場撹拌混合時の未固結の改良土を現場の締固め・転圧と同様な状態で突き固めながらモールドに充填し強度試験用供試体を作成する。この供試体に対し所定の材令で一軸圧縮試験を実施し、第三者機関において強度確認試験を行う。

（１）検査結果の合否判定は下式による。

Xl≧Fc

Xl　：各調査地点の検査結果

Fc　：設計基準強度

（２）改良土量500m3あたり１ヵ所を目安として供試体を作成し（供試体本数：１ヵ所当たり３本）、全ての供試体の強度がFcを上回れば合格とする。

（３）養生日数は28日以降を基準とするが、養生日数の影響を正当に評価できる資料があれば、監督員の承認を得た上で養生日数３日、７日などの期間で評価することもできる。作成した供試体は乾燥を防ぐために密封材で覆い、必要養生日数まで20±3℃で湿空養生する。

平板載荷試験

一軸圧縮試験未実施の箇所について、1000m2あたり１ヵ所を目安として平板載荷試験を実施する。

（１）検査結果の合否判定は下式による。

qb≧3qa

qa　：改良地盤の許容応力度

qb　：平板載荷試験による極限応力度

（２）養生日数は28日以降を基準とするが、養生日数の影響を正当に評価できる資料があれば、監督員の承認を得た上で養生日数3日、7日などの期間で評価することもできる。

９．その他

施工にあたっては、六価クロムの溶出試験を実施し、環境庁告示第46号の基準値を満足するよう必要な措置を講じること。

試験方法、試験個数等については、平成13年4月20日付 国官技16号、国営建第1号「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領（案）の一部変更について」による。

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【共通】 地盤改良工事特記仕様書(2)(参考図)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名：小田　文武	設計者名：安川　雅巳	縮尺：A1: －　A3: －	図面番号：S-013

ＧＩコラム-S工法　特記仕様書

1　工法概要

本地業はＧＩコラム-S工法による地盤改良地業であり、スラリー状のセメント系固化材を地中に注入しながら、ＧＩコラム-S工法専用の攪拌翼（共廻り防止翼付きの6枚翼）を装備した攪拌ヘッド（攪拌装置）を用いて、現地盤を機械的に混合撹拌し、固化材の化学反応により所要の強度を持つ改良体を築造する工法である。

2　一般事項

（1）本工法は「建築技術性能認証委員会」にて証明された技術性能証明取得工法（GBRC 性能証明 第18-01号）とする。

（2）本工事は本特記仕様書によるほか、「改訂版　建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」（2018年11月　一般財団法人　日本建築センター　以下指針という）による。

3　特記事項

（1）本工事は、本工法の施工技術に精通し、ＧＩコラム-S工法委員会に所属する指定施工会社が施工するものとする。

（2）コラムの径、掘削深度（改良長+空堀長）、本数配置等は、設計図書による。

（3）コラムの改良強度

設計基準強度は Fc＝　1100　kN/m^2 とする。（車庫棟・訓練棟）

4　施工

（1）実施コラム長は、設計図書で示された長さとする。

（2）現設計との相違が予想されたり、発生した場合、監督員との協議を行う。

5　施工機器

（1）ＧＩコラム-S工法専用の攪拌翼が装備された攪拌ヘッドを用いること。

（2）所定の施工管理項目の計測及び記録ができる管理装置を用いること。

（3）改良機本体は YBM製の GI-80C 及び GI-130C を標準とし、リーダー付きで自走式であること。

（4）スラリープラントのスラリーミキサーは所定吐出量を十分供給できる能力を有しており、圧送ポンプはスラリー吐出量を制御できる機能を備えたものとする。

6　配合試験及び配合管理

（1）使用する固化材は、セメント又はセメント系固化材とする。

（2）改良体施工に先立ち、改良対象土による室内配合試験を実施し、所定の強度を満足する固化材添加量、セメント水比を決定する。

※使用する固化材は、六価クロム溶出試験の実施により、六価クロム等の土壌環境基準に適合することを確認するとともに、試験結果（計量証明書）を提出するものとする。

（3）配合強度 X_f は、設計基準強度 Fc と変動係数及び採取箇所数により割増係数 α_t を用いて、次式による。

$X_f = \alpha_t \times Fc$

割増係数 α_t は下表による。（変動係数 ： 25%）

採取箇所数　N		1	2	3	4～6	7～8	9～
割増係数	合格率80%	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594
	合格率95%	2.900	2.301	2.090	1.907	1.799	1.718

（4）室内配合強度

室内配合強度 X_l は次式の値とする。

$X_l = X_f / \alpha_{f1}$　3385 kN/m^2

α_{f1} ： 現場/室内強度比(=quf/qul)

quf ： 現場平均一軸圧縮強さ

qul ： 室内配合試験供試体の一軸圧縮強さ

現場室内強度比 α_{f1} は砂質土 α_{f1}=0.66、粘性土 α_{f1}=0.59とする。

（5）固化材液の配合及び使用量

固化材添加量	180	kg/m^3
水/固化材比	100	%

※本工法の標準的なセメント水比は60～100%である。

7　施工管理

施工過程における各項目の管理方法は施工管理装置モニターに表示され、次の通りとする。

- コラムの鉛直度　：傾斜計で管理する。
- 固化材スラリーの吐出量　：流量計で計測し記録する。
- 掘進速度　：速度計で計測し記録する。
- 回転数　：回転計より計測し記録する。
- 掘削深度　：深度計で計測し記録する。
- 改良体先端層　：トルク計で測定し記録する。

8　品質管理

（1）調査箇所数（検査手法A）

	設計対象層が天端部		設計対象層が深部
	改良長 L＜2 m、かつ、改良対象層が単一層	改良長 L＞2 m、または、改良対象層が複数層	
天端部コア	50 コラムに 1 箇所以上、かつ、1 検査対象群に 1 箇所以上	100 コラムに 1 箇所以上 かつ 1 検査対象群に 1 箇所以上	
ボーリングコア（全長コア）	1 検査対象群に 1 箇所以上		

※頭部管理試験は 1箇所あたり 3個のコア採取を標準とする。

※深度方向管理試験は、設計対象層毎に採取したコアを用いる。

（2）合否の判定

① 各々の設計対象土質での採取箇所数をN（1箇所当り3個の供試体）とし、一軸圧縮試験より採取箇所毎の平均強度を求める。

② 一軸圧縮試験は第三者で行うものとする。

③ 検査手法 Aによる品質検査

合否の判定は設計対象層におけるN箇所（抜き取り箇所）の一軸圧縮試験結果が、下式を満足する場合を合格とする。

$X_N \geqq X_L = Fc + Ka \times \sigma_d = Fc + Ka \times \{ Fc \times V_d / (1 - 1.3\, V_d) \}$

X_N ： N箇所の一軸圧縮強さの平均値

X_L ： 合格判定値　X_L　1753　kN/m^2

Fc ： 設計基準強度

σ_d ： 標準偏差

V_d ： 変動係数、品質確認書より想定する。

合格判定係数

採取箇所数　N	1	2	3	4～6	7～8	9～
合格判定係数　Ka	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【共通】　地盤改良工事特記仕様書(3)(参考図)		2023/03
NEXJEC　株式会社ニュージェック	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
	小田　文武	安川　雅巳	A1:－ A3:－	S-014

構 造 特 記 仕 様 書 (1)

§1 一般事項

選択項目は ⦿ 印を適用し、◉ 印が無い場合は ※ 印を適用する。
○ 印が複数有る場合は、共に適用する。

1-1 使用材料は原則としてJIS規格品、JAS規格品、又は大臣認定品とする。

1-2 設計図書の優先順位は下記による。

1) 本特記仕様書
2) 設計図
3) 構造関係共通事項
4) 仕様書 （◉ 公共建築協会 ※ 日本建築家協会 ）
5) 日本建築学会標準仕様書 ， JASS5 ， JASS6（最新版とする）

1-3 各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承諾を得る。

1-4 構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。
第三者機関による検査・試験費用は工事費に（ ※ 含む • 含まない ）

1-5 設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承諾を得る。

1-6 梁貫通位置、径、及び箇所数は（ • 意匠図 ⦿ 構造図 ⊛ 設備図 ）による。
なお、スリーブ径は内径を示す。

1-7 その他

§2 構造計算ルート

2-1

方 向	構造計算ルート
X	• ルート1 • ルート2 ⦿ ルート3 •
Y	• ルート1 • ルート2 ⦿ ルート3 •

2-2 鉄筋の継手（ 定着については設計図若しくは標準図による ）
構造計算ルート別による主筋又は、耐力壁の鉄筋の継手の重ね長さ
※ 建築基準法施行令第73条第2項による仕様規定
• 日本建築学会 JASS5(2018),鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説
• 日本建築学会 RC規準2018
XY両方向共ルート3及び限界耐力計算の場合は、令第73条第2項の仕様規定によらずJASS5(2018),鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びRC規準2018とすることができる。

§3 仮設工事,土工事

3-1 山留め、根切り

3-2 埋戻し土、盛土、残土処分
埋戻し土 ※ 根切り土の中の良土 ⦿ 搬入良土(埋戻し土は30cm毎に転圧締固めを行うこと)
盛土 ※ 根切り土の中の良土 ⦿ 搬入良土(盛土は30cm毎に転圧締固めを行うこと)
残土処分 • 場内地均し ※ 場外搬出処分（ ※ 自由 • 指定場所 ）

§4 地業工事

4-1 基礎及びスラブ下地業（単位mm）

場所		注1) 捨てコンクリート厚さ	A:砕石 B:割栗石	厚さ
基礎	独立,布	※ 50 • 60 • 100	※ A • B	※ 60 • 100 • 150 •
基礎	ベタ	⊛ 50 • 60 • 100	⊛ A • B	⊛ 60 • 100 • 150 •
基礎梁		※ 50 • 60 • 100	※ A • B	※ 60 • 100 • 150 •
土間スラブ		※ 50 • 60 • 100	※ A • B	※ 60 • 100 • 150 •
土間コンクリート	屋内	⊛ 50 • 60 • 100	• A • B	• 60 • 100 • 150 •
	屋外	⦿ 50 • 60 • 100	⊛ A • B	⦿ 60 ※ 100 • 150 •

注1).アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。
注2).端部aは100以上とする。



4-2 設計地耐力 （長期）深層混合処理工法：140kN/m2
（長期）浅層混合処理工法： 50kN/m2
地耐力載荷試験 • 行う （ 箇所,長期設計耐力の3倍を確認する） ※ 行わない

4-3 地盤改良
• 無筋コンクリート地業 • 締固め工法 • ソイルセメント杭
⦿ セメント系固化材撹拌 • 圧密排水工法 •
[• 載荷試験 ⦿ 一軸圧縮試験] ⦿ 行う ※ 行わない
[⦿ 六価クロム溶出試験] ⦿ 行う ※ 行わない

4-4 既製コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭
1)杭種
• PHC杭 • A種 • B種 • C種
• ST杭 • A種 • B種 • C種
• SC杭 t mm • • •
• PRC杭 • Ⅰ種 • Ⅱ種 • Ⅲ種 • Ⅳ種
• 節杭 • A種 • B種 • C種
• 鋼管杭
2)工法
• 打撃工法 • 油圧ハンマー • ディーゼルハンマー
• 埋込み工法 • プレボーリングセメントミルク注入工法
• プレボーリング拡大根固め工法(認定工法)
杭周固定液 ※ あり • なし
• 中掘拡大根固め工法(認定工法)
• 回転埋設根固め工法(認定工法)
• 回転杭工法
先行掘削 ※ あり • なし

3) 杭径,設計耐力,本数表

杭径(拡底部)mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考
( )					
( )					
( )					
( )					

4) 杭の構成は設計図による。

5) 杭頭補強
• かご筋 • スタッド溶接 • 杭外周溶接

4-5 場所打鉄筋コンクリート杭,場所打鋼管コンクリート杭

1) 工法
• アースドリル工法 • 拡底アースドリル工法
• リバース工法 • オールケーシング工法 （• ベノト工法 • ）
• BH工法 •

2) 杭径,設計耐力,本数表(拡底部は施工径を示す)

杭径(拡底部)mm	管厚 mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考
( )						
( )						
( )						
( )						
( )						

3) 杭先端深さ • GL− m • 杭リストによる • 杭伏図による

4) 孔壁測定 （ 2方向 ）
※ 行う （• 全数 • % ） • 行わない

5) 使用材料 コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合JASS5水中コンクリートによる。
コンクリート Fc （• 普通ポルトランドセメント • 高炉セメントB種 ）
鉄筋 • D 以下 SD295 • D 以上 SD345
• D 以上 SD390
鋼管(リブ付) • SKK400 • SKK490

4-6 杭打地業共通事項

1) [• 試験杭 • 試験掘] • 行う（ 本） • 行わない
2) 載荷試験 • 行う （ 箇所,長期設計耐力の3倍を確認する） ※ 行わない
3) SL塗布 • 行う ※ 行わない

§5 鉄筋工事

5-1 材種

種類	径	継手
⦿ SD295	D 16 以下	※ 重ね継手 • スパイラル • 工場溶接
⦿ SD345	D 19 以上	• 重ね継手 ※ ガス圧接 • 溶接継手
⦿ SD390	D 29 以上	※ ガス圧接 • 溶接継手 • 機械継手(級)
• SD490	D 以上	• ガス圧接 ※ 溶接継手 • 機械継手(級)
• 溶接金網		• 重ね継手
• 高強度せん断補強筋	• 1275級 P	• フック加工 • スパイラル • 工場溶接
	• 785級 K	
	• 685級 U	

5-2 ガス圧接部の検査(第三者機関による)外観検査全数(引張り試験の場合、施工者自主検査でもよい)
⦿ 抜取り検査
• 引張り試験 (JISZ3120)
1検査ロットにつき ※ 3 本 • 原則 柱・梁の径毎に3本
⦿ 超音波探傷試験 (JISZ3062) • 熱間押抜き試験
1検査ロットにつき ⦿ 30箇所 •
◦ 不合格となった圧接部は切り取って再圧接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。
1検査ロットは1組の作業班が1日に施工した圧接箇所の数量で200箇所以内

5-3 溶接、機械式継手の検査は各々の認定方法による他,日本継手協会仕様書(2017年)及び下記を参照する。
JIS Z 3063 (鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波探傷試験方法及び判定基準)
JIS Z 3064 (鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定試験方法及び判定基準)

5-4 梁貫通補強
補強筋は原則として工場製品(評定品)を使用する。

5-5 その他
基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として • ①一般 ⦿ ②地反力を受ける
• ③上載荷重が大きい場合 とする。
梁の余長 ℓ1 の採用 ~~大梁・小梁 ※ D'(梁有効成) • 端部上下筋15d 中央上下筋20d~~
~~基礎梁 ※ min(D', L2) • 端部上下筋15d 中央上下筋20d~~
構造関係共通図による。
鉄筋の組立は適切な位置にスペーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。
コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。
コンクリート打設前に工事監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

§6 コンクリート工事

6-1 レディーミクストコンクリート(JIS A5308-2019)

1) セメント ※ 普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ JISR5210 • 高炉ｾﾒﾝﾄB種
• 低熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ JISR5210 •
2) 粗骨材 • 砂利 ※ 砕石 • 高炉ｽﾗｸﾞ骨材 • 人工軽量骨材 • 再生骨材
最大径(mm) ※ 20 • 25 • 40
3) 設計基準強度 (N/mm2) （使用区分は設計図の軸組図に示す）
⦿ 普通コンクリート
• Fc18 • Fc21 • Fc24 • Fc27 • Fc30 ⦿ Fc36 • Fc
• 軽量コンクリート （※ 1種 • 2種 気乾単位容積質量 ※ 18.5 • ）
• LFc18 • LFc21 • LFc24 • LFc27 • LFc30 • LFc
4) 土間コンクリート ⦿ Fc24（屋内）Fc18（屋外)(ただし柱,壁等と同時に打込む場合は躯体の強度とする)
5) 捨てコンクリート ⦿ Fc18
6) 防水押さえコンクリート ⦿ Fc18 • LFc （ 気乾単位容積質量 ※ 18.5 • ）
7) かさ上げコンクリート ⦿ Fc18 • LFc （ 気乾単位容積質量 ※ 18.5 • ）

6-2 混和材 ※ AE減水剤 • 高性能AE減水剤 • 躯体防水材 • 膨張材
注1).混和剤は所定の品質を確保するためにプラントの特性に応じたもの使用する。

6-3

箇所	基礎・基礎梁	一般			備考
スランプ cm	15	18			
水セメント比 %					65以下
単位水量 kg/m3					185以下
単位セメント量 kg/m3					270以上

注2).スランプは特配なき限り施工者が決め監理者に報告する。

6-4 試験 (躯体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う)
1) 骨材 [⦿ 塩分含有量 ⦿ アルカリシリカ反応性] ※ 行う • 行わない
2) フレッシュコンクリート [⦿ スランプ ⦿ 空気量] ※ 行う • 行わない
3) 躯体のせき板取り外し時期決定圧縮試験 ※ 行う • 行わない
4) コンクリートコア抜き取り圧縮試験 • 行う ※ 行わない
5) マスコンクリートのひび割れ照査(温度応力解析) • 行う ※ 行わない
6) 単位水量測定 ⦿ 行う • 行わない

6-5 調合 (補正値は工事費に含む)
計画供用期間の級( )は耐久設計基準強度 Fd
• 短期(18) ⦿ 標準(24) • 長期(30) • 超長期(36)
調合管理強度 Fm=Max(Fc,Fd)+S S=3〜6
材齢28日の調合強度Fは下記の両式を満足するものとする。
F≧Fm+1.73σ F≧0.85Fm+3σ

6-6 せき板及び支柱の存置期間(普通ポルトランドセメントの場合)

		基礎、梁側、柱、壁	スラブ下	梁下
コンクリートの材齢による場合	15 ℃以上	3 日	17 日	28 日
	5 ℃以上	5 日	25 日	
	0 ℃以上	8 日	28 日	
圧縮試験による場合		5N/mm2	注) 0.85Fcまたは12N/mm2	注) 設計基準強度

注) かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全が確認されるまで。

6-7 住宅性能表示
劣化等級 • 等級 2 • 等級 3
劣化等級2又は3を指定する場合は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)2-7かぶり厚さが変わる為,かぶりを訂正又は,設計図に明示する

6-8 Fc36を超える場合は高強度コンクリートとし、仕様は別配特配仕様書（JASS5等）による。

§7 鉄骨工事

7-1 材種及び使用箇所

規格名称	鋼材名	柱	通しダイア	内ダイア	大梁	ﾌﾞﾚｰｽ	小梁他
一般構造用圧延鋼材	⦿ SS400 •					○	○
溶接構造用圧延鋼材	• SM400A • SM490A						
建築構造用圧延鋼材	• SN400A •						
	⦿ SN400B ⦿ SN490B	○			○		○
	• SN400C ⦿ SN490C	○					
一般構造用角形鋼管	• STKR400 • STKR490						
冷間成形角形鋼管	• BCR295 •						
	• BCP235 • BCP325						
熱間成形角形鋼管	• SHC400B • SHC400C						
	• SHC490B • SHC490C						
一般構造用炭素鋼管	• STK400 • STK490						
	• STKN400 • STKN490						
一般構造用軽量形鋼	⦿ SSC400 •						○
建築構造用圧延棒鋼	• SNR400						
建築構造用TMCP鋼材	⦿ HBL355B ⦿ HBL355C	○	○				

7-2 高力ボルト

高力ボルトの種類		使用箇所
トルシア形高力ボルト	※ S10T	全般
JIS形高力ボルト	• F10T	トルシア形が使用できない部分
溶融亜鉛メッキ高力ボルト	⦿ F8T	母材が亜鉛メッキされている部分
超高力ボルト	• S14T	屋内環境

7-3 普通ボルト,アンカーボルト
1) 材質 ⦿ SS400 • SS490(M 以上)
• ABR400 • ABR490 • ABM400 • ABM490(ABMはM24以上)
2) 大臣認定柱脚(メーカー仕様による) • 使用する ⦿ 使用しない

7-4 頭付きスタッド

径	長さ (mm)	使用箇所
16 φ	• 80 • 100 • 120 • 150 •	
19 φ	• 80 • 100 • 120 • 150 •	
22 φ	• 100 • 120 • 150 • •	

7-5 溶接材料
1) アーク溶接に使用する溶接棒,ワイヤ及びフラックスは母材の種類,寸法,及び溶接条件に相応したものを選定する。
2) ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。

7-6 スカラップ形状 ※ ノンスカラップ工法 ⦿ スカラップ工法

7-7 継手

	柱		梁	
フランジ	• 高力ボルト	• 現場溶接	※ 高力ボルト	• 現場溶接
ウェブ	• 高力ボルト	• 現場溶接	※ 高力ボルト	• 現場溶接

7-8 溶接手法及び管理
1) 使用する溶接ワイヤー、入熱量及びパス間温度等の仕様については鉄建協又は全構協の仕様で、専任の溶接施工管理技術者により管理を行うこと。
2) 完全溶け込み溶接はAW検定の有資格者が行うとする指定を ※ 行う • 行わない
3) 本工事で代替タブを使用する場合は、代替タブ溶接技能者技量検定付加試験を ※ 行う • 行わない
但し、-代替タブのAW検定有資格者は技量検定付加試験を免除する。

7-9 デッキプレート （単位mm）
1) 床用 高さ • 板厚 •
2) 合成スラブ用 高さ • 板厚 •
3) 型枠用 高さ • 板厚 • 形版 タイプ
4) 防錆処理 • プライマー • 亜鉛メッキ • Z12 • Z27

7-10 塗装(工場塗 ※ 2回 • 1回、現場タッチアップ程度とする)
1) 素地調整 ※ ケレン ⦿ ブラスト
2) 下塗り用塗料

適用 屋外	適用 室内	塗料		種別		標準膜厚
	※	鉛、クロムフリー錆び止め	JISK5674	⊛1種	※2種	30μm
	•	水系さび止めペイント	JASS18 M-111			30μm
•		変性エポキシ樹脂プライマー	JASS18 M-109	• 1種	• 2種	40μm
•		有機ジンクリッチプライマー	JISK5552		• 2種	15μm
•		構造物用さび止めペイント	JISK5551	A種		30μm

3) 溶融亜鉛メッキ ⦿ 行う • 行わない
4) 常温亜鉛メッキ ⦿ 行う • 行わない ※原則、溶融亜鉛メッキ
5) 高耐食メッキ鋼板（t3.2mm以下） • 用いる ⦿ 用いない

7-11 溶接部の検査(受入検査) ※ 行う • 行わない
1) 受入検査を行う第三者検査機関は、建築主、設計者、工事監理者又は工事施工者(元請)との直接契約による。
2) 第三者検査機関は(社)日本溶接協会によるCIW検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を取得した事業者とし、当該工事の鉄骨製作工場の社内検査を行っていない事業者とする。
3) 受入検査は目視による外観検査と超音波探傷検査とし、社内検査完了後に行う。
4) 外観検査の合否判定は国土交通省告示1464号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会「JASS6 鉄骨工事 2018 付則6. 鉄骨精度検査基準」の限界許容差による。
5) 超音波探傷検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説」2018により、合否判定は7.2.1疲労を考慮しない溶接部のうち、引張応力が作用する溶接部の項を適用する。
6) 溶接箇所数の数え方は「JASS6 鉄骨工事 2018」表10.1溶接箇所数の数え方による。
7) 受入検査の抜取り方法及び抜取り率は以下による。
a) 工場溶接の場合
ⅰ.検査ロットは各節、各工区毎に溶接箇所300箇所以内で構成する。
ⅱ.抜取り数は各ロット毎に30箇所をランダムにサンプリングする。
ⅲ.大きさ30個のサンプル中の不適合個数が1個以下のときはロットを合格とし、4個以上のときはロットを不合格とする。ただし、サンプル中の不適合数が1個を超え4個未満のときは、同じロットからさらに30個のサンプルを抜取検査する。総計60個のサンプルについての不適合個数の合計が4個以下のときはロットを合格とし、5個以上のときはロットを不合格とする。
b)現場溶接の場合
ⅰ.全数検査とする。
8) 検査により不合格と判定された溶接部はすべて補修を行い、再検査して合格とならねばならない。
9) ずれ・食い違いの補修方法は、独立行政法人 建築研究所監修「突き合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。

7-12 鉄骨製作工場 下記○印のグレード認定工場の内、納期・製作能力・鉄骨数量を勘案して工場選択のこと

国土交通省大臣認定(グレード)					
S	H	Ⓜ	R	J	

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 構造特記仕様書 (1)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
	小田 文武	安川 雅巳	A1:− A3:−	S − 101

構 造 特 記 仕 様 書 (2)

§8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PCa板工事

選択項目は ⦿ 印を適用し、⦿ 印が無い場合は ※ 印を適用する。○ 印が複数有る場合は、共に適用する。

8-1　コンクリートブロック

1) 種類　• A種　• B種　• C種

2) 厚さ mm　• 100　• 120　• 150　• 190

8-2　ALCパネル

1) 使用箇所　• 床　• 屋根　⦿ 外壁　• 内壁

2) 厚さ mm　• 75 (80) ⦿ 100　• 120(125)• 150　• 175

3) 外壁取り付け構法

方　向	構　　法	使 用 箇 所	備　　考
縦	⦿ ロッキング構法	外壁	
横	• アンカー構法		

8-3　押出成形セメント板

外壁取付構法及び厚さ mm　•　•

方　向	構　　法	使 用 箇 所	備　　考
縦	• ロッキング構法		
横	• スライド構法		

8-4　PCa板

1) 床及び屋根　• 床　• 屋根

⦿ PCa板単独 厚さ200 mm　•　•

• 合成板

PCa板厚さ　mm	現場打厚さ　mm	合計厚さ　mm	備　　考
200	0	200	

2) 外壁 厚さ　mm　•　•

§9 施工方法等計画書

9-1　構造体コンクリート強度の検査

1) 構造体コンクリートの圧縮強度の検査は、工事現場で試料を採取して作製した円柱供試体の圧縮強度試験によって行う。

2) 1回の試験は、コンクリートの打込み日ごと、打込み工区ごとに行う。ただし、1日の計画打込み量が150m3を超える場合には、150m3以下にほぼ均等に分割した単位ごとに1回行う。

3) 1回の試験には、適当な間隔をおいた3台の運搬車から、1個ずつ採取した合計3個の供試体を使用する。

4) 試験結果の判定は、1回ごとに行う。

5) 試験結果が、表9-1-1を満足すれば、合格とする。

6) 5)において、標準養生供試体の代わりに、あらかじめ準備した現場水中養生供試体によることができる。その場合の判定基準は、材齢28日までの平均気温が20℃以上の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値が調合管理強度以上であり、平均気温が20℃未満の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値から3N/mm2を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

7) 5)において、コア供試体の代わりに、あらかじめ準備した現場封かん養生供試体によることができる。その場合の判定基準は、材齢28日を超え91日以内にn日において、3個の供試体の圧縮強度の平均値から3N/mm2を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

8) 試験結果が、表9-1-1または 6)あるいは 7)を満足しない場合の措置は、工事監理者の指示による。

表9-1-1 構造体コンクリートの圧縮強度の判定基準

供試体の標準方法	試験材齢(※1)	判定基準
標準養生(※2)	28日	X ≧ Fm
コ　ア	91日	X ≧ Fq

ただし、 X：1回の試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値(N/mm2)

Fm：コンクリートの調合管理強度(N/mm2)

Fq：コンクリートの品質基準強度(N/mm2)

注）（※1）所定の年齢より早い材齢において試験を行った結果が合否判定基準を満たした場合は、合格とする。

（※2）工事監理者の承認を得て、供試体成型後、翌日までは20±10℃に日光および風が直接当たらない箇所で、乾燥しないように養生して保管することができる。

9-2　材料及び調合の条件

コンクリートの耐久性を確保するための材料及び調合の条件は、 特記された事項以外は下記による。

1) AE剤、AE減水剤または高性能AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は、特記による。特記のない場合は4.5%とする。

2) 水セメント比は、調合強度が得られる値とする。

3) 水セメント比の最大値は、表9-2-1による。表9-2-1に示す以外のセメントを用いる場合の水セメント比の最大値は、特記による。

4) コンクリートに含まれる塩化物量は、塩化物イオン量で0.30kg/m3以下とする。

5) コンクリートは、アルカリシリカ反応を生じるおそれのないものとする。

表9-2-1　水セメント比の最大値

	セメントの種類	水セメント比の最大値（%）	
		短期・標準・長期	超長期
ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 中庸熱ポルトランドセメント	65	55
	低熱ポルトランドセメント	60	
混合セメント	高炉セメントA種 フライアッシュセメントA種 シリカセメントA種	65	ー
	高炉セメントB種 フライアッシュセメントB種 シリカセメントB種	60	

9-3　養　生

9-3-1　養生温度

1) 外気温の低い時期においては、コンクリートを寒気から保護し、打込み後５日間以上温度を２℃以上に保つ。ただし、早強ポルトランドセメントを用いる場合は、この期間を3日間以上としてよい。

2) コンクリートの打込み後、初期凍害を受けるおそれがある場合は，初期養生を行う。

3) コンクリートの打込み後、セメントの水和熱により部材断面の中心部温度が外気温より25℃以上高くなるおそれがある場合は、温度応力の悪影響が生じないような養生を行う。

9-3-2　湿潤養生

打込み後のコンクリートは、透水性の小さいせき板による被覆、養生マットまたは水密シートによる被覆、散水、噴霧、膜養生剤の塗布などにより湿潤養生を行う。その期間は、計画供用期間の級に応じて表9-3-1によるものとする。

表9-3-1　湿潤養生の期間

計画供用期間の級 ／ セメントの種類	短　期 および 標　準	長　期 および 超長期
早強ポルトランドセメント	3日以上	5日以上
普通ポルトランドセメント	5日以上	7日以上
中庸熱および低熱ポルトランドセメント 高炉セメントB種、フライアッシュセメントB種	7日以上	10日以上

9-3-3　振動及び外力からの保護

1) 凝結硬化中のコンクリートが、有害な振動や外力による悪影響を受けないように、周辺における作業の管理を行う。

2) コンクリートの打込み後、少なくとも1日間はその上で作業をしてはならない。やむを得ず歩行したり作業を行ったりする必要がある場合は、工事監理者の承認を受ける。

9-3-4　型枠の存置期間及び取外し

1) 型枠の取外しは、型枠の最小存置期間の経過後に行う。

2) 型枠の存置期間は、次による。

ア）最小存置期間は、表9-3-2及び表9-3-3により、コンクリートの材齢又はコンクリートの圧縮強度により定める。寒冷のため強度の発現が遅れるおそれのある場合は、コンクリートの圧縮強度により存置期間を定める。ただし、セメントの種類が普通エコセメントの場合の最小存知機関は、特記による。

イ）コンクリートの圧縮強度を圧縮強度試験により確認する場合は、コンクリートの試験結果及び関係法令等に基づく安全を確認するための資料により、工事監理者の承諾を受ける。

表9-3-2 せき板の最小存置期間

施工箇所 ／ セメントの種類 ／ 存置期間中の平均気温		基礎・梁側・柱・壁			
		早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント,高炉セメントA種，シリカセメントA種,フライアッシュセメントA種	高炉セメントB種,シリカセメントB種,フライアッシュセメントB種	中庸熱ポルトランドセメント,低熱ポルトランドセメント
コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	2	3	5	6
	5℃以上	3	5	7	8
	0℃以上	5	8	10	12
コンクリートの圧縮強度による場合	ー	圧縮強度が5N/mm2以上になるまで。			

注）圧縮強度を圧縮強度試験により確認する場合は、工事現場における水中養生供試体又は封かん養生供試体の圧縮強度とする。

表9-3-3 支柱の最小存置期間

施工箇所 ／ セメントの種類 ／ 存置期間中の平均気温		スラブ下			梁下
		早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント，高炉セメントA種，シリカセメントA種，フライアッシュセメントA種	中庸熱ポルトランドセメント，低熱ポルトランドセメント，高炉セメントB種，シリカセメントB種，フライアッシュセメントB種	左記の全てのセメント
コンクリートの材齢による場合（日）	15℃以上	8	17	28	28
	5℃以上	12	25		
	0℃以上	15	28		
コンクリートの圧縮強度による場合	ー	圧縮強度が設計基準強度(Fc)の85%以上又は12N/mm2以上であり、かつ、施工中の荷重及び構造計算外力について、により安全であることが確認されるまで。			圧縮強度が設計基準強度(Fc)以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで。

注） 圧縮強度を圧縮強度試験により確認する場合は、工事現場における水中養生供試体又は封かん養生供試体の圧縮強度とする。

3) 片持梁、ひさし、長大スパンの梁、大型スラブ等の型枠を支持する支柱、施工荷重が大きく、コンクリートに支障が生じるおそれがある場合の支柱等は、必要に応じて、存置期間を延長する。

4) スラブ下及び梁下のせき板は、支柱を取外し後に取外す。ただし、これにより難い場合は、工事監理者と協議する。なお、支柱の盛替えは行わない。

5) 支保工除去後、その部材に加わる荷重が構造計算書におけるその部材の設計荷重を上回る場合には、上述の存置機関にかかわらず、計算によって十分に安全であることを確かめた後に取り外す。

§10 施行令第129条の2の3の事項　※設計が該当する項目は、□ に ✓ を記入。

建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

☑ 建築設備（昇降機を除く。）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとすること。

☑ 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するもの（以下「屋上水槽等」という。）は、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。

□ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。

□ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。

☑ 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備（給湯設備[注]を除く。）は、

　☑ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。

　☑ 建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。

　☑ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。

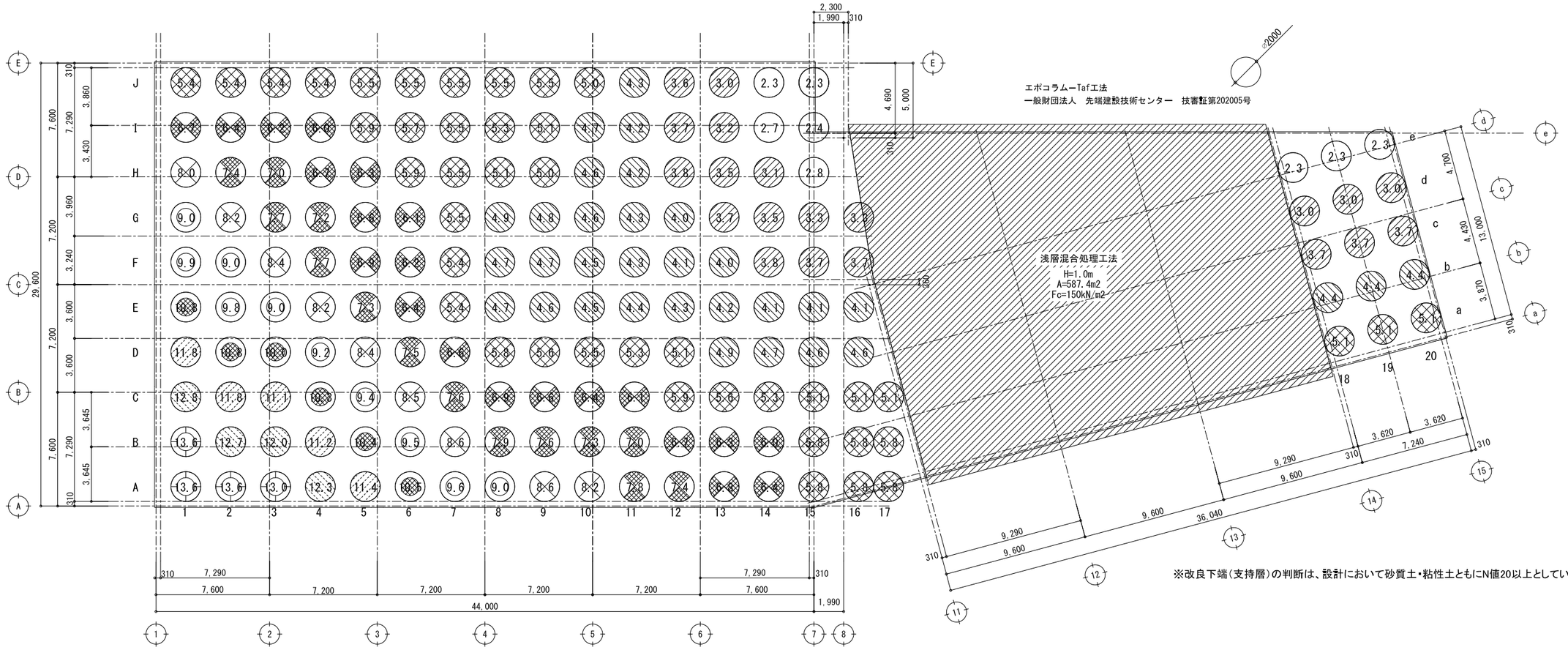
　☑ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。

☑ 法第20条第1項第一号から第三号までの建築物に設ける屋上水槽等にあっては、平成12年建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとすること。

☑ 給湯設備[注]は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。

注） 「給湯設備」：建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの。

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 構造特記仕様書 (2)		2023/03
管理技術者名	設計者名	縮尺		図面番号
NEXJEC 株式会社ニュージェック 小田　文武	安川　雅巳	A1:－ A3:－		S － 102



地盤改良配置図　1/150

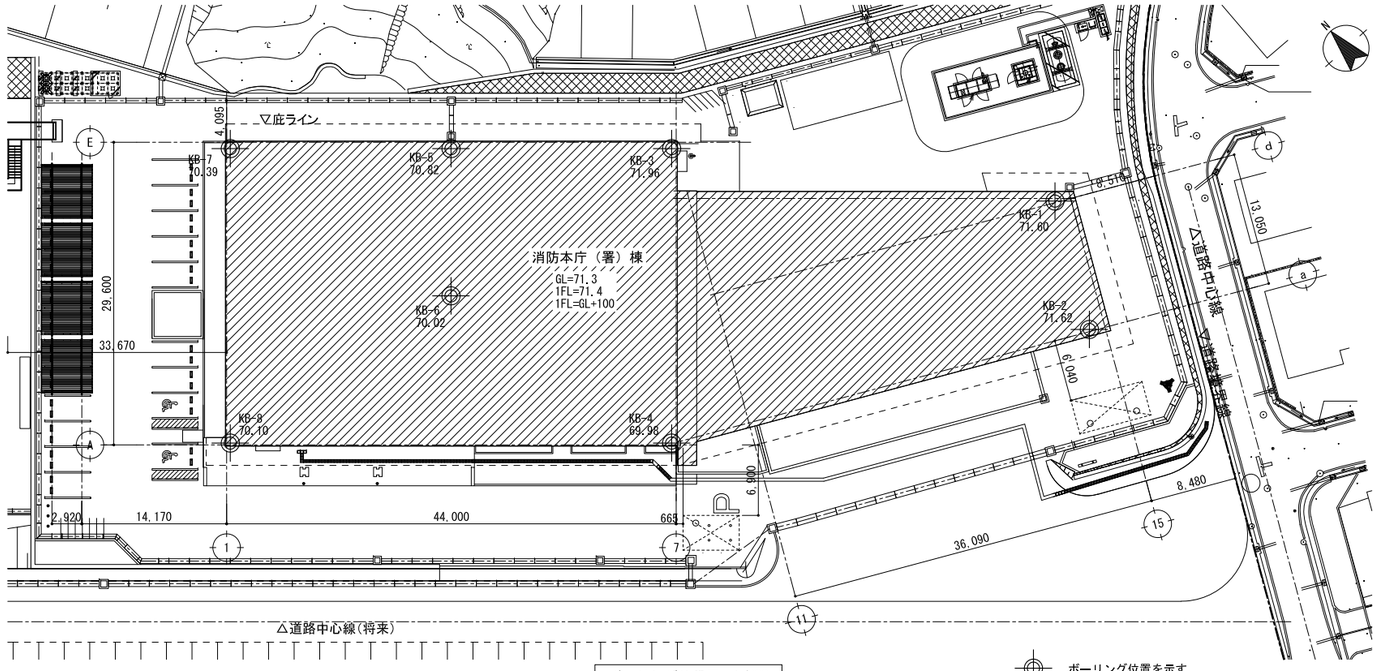
【凡例】
※改良体配置に記載の数字は「想定改良長」を示す。改良下端深度は、施工時に確認・見直しをすること。

改良長　2.3～2.8m　　改良長　3.0～3.8m　　改良長　4.0～4.9m　　改良長　5.0～5.9m

改良長　6.0～6.9m　　改良長　7.0～7.9m　　改良長　8.0～8.6m　　改良長　9.0～9.9m

改良長　10.0～10.8m　　改良長　11.1～11.8m　　改良長　12.0～12.8m　　改良長　13.0～13.6m

【特記】
改良径は2mとする。



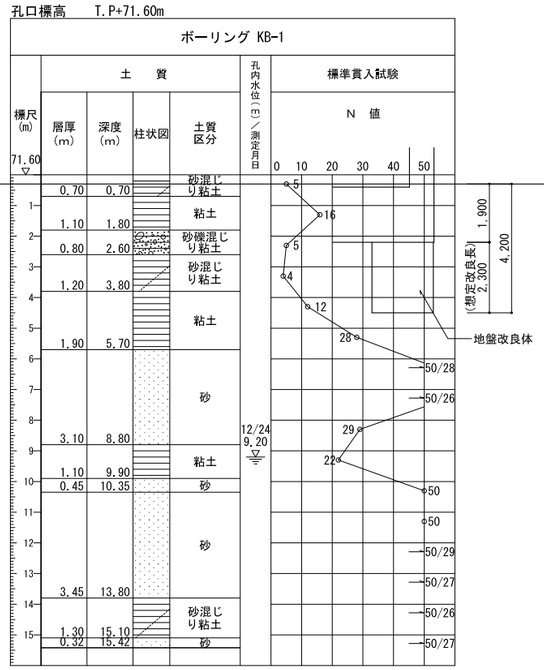
ボーリング位置図　1/300

ボーリング位置を示す

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁（署）】ボーリング位置図、地盤改良配置図		2023/03
NEWJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/150, 1/300 A3:1/300, 1/600	図面番号 S - 103

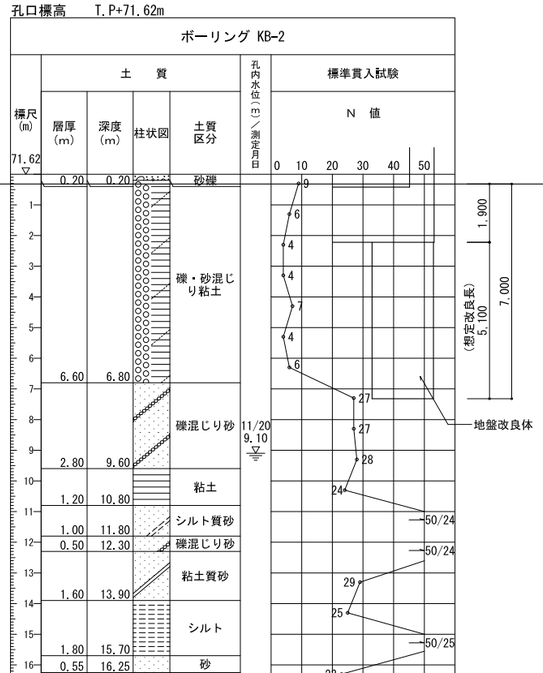
調査場所
調査期間　令和3年12月23日～令和3年12月24日
施工業者　株式会社 ニュージェック

孔口標高　T.P+71.60m



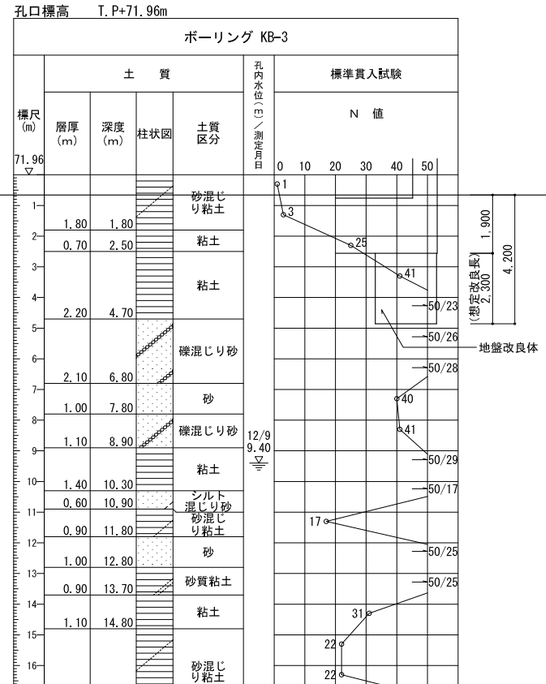
調査場所
調査期間　令和3年11月18日～令和3年11月20日
施工業者　株式会社 ニュージェック

孔口標高　T.P+71.62m



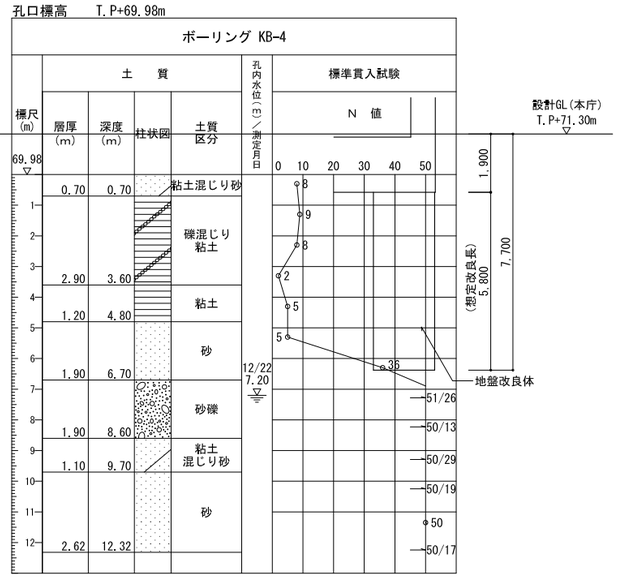
調査場所
調査期間　令和3年12月6日～令和3年12月9日
施工業者　株式会社 ニュージェック

孔口標高　T.P+71.96m



調査場所
調査期間　令和3年12月21日～令和3年12月22日
施工業者　株式会社 ニュージェック

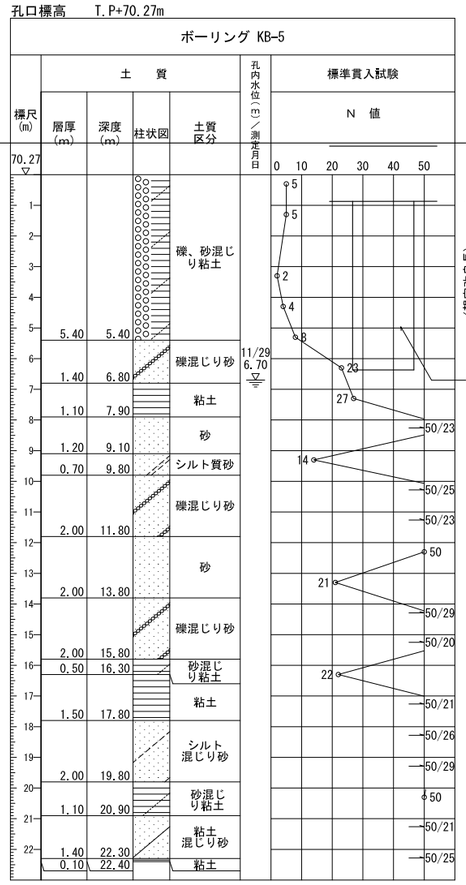
孔口標高　T.P+69.98m



工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 土質柱状図 (1)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
	小田　文武	安川　雅巳	A1:1/100 A3:1/200	S - 104

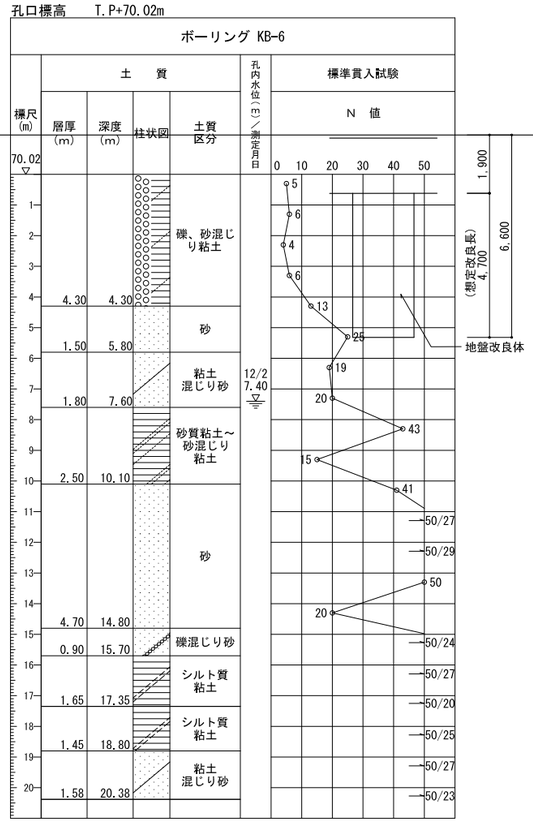
調査場所
調査期間　令和3年11月27日～令和3年11月29日
施工業者　株式会社 ニュージェック

孔口標高　T.P+70.27m



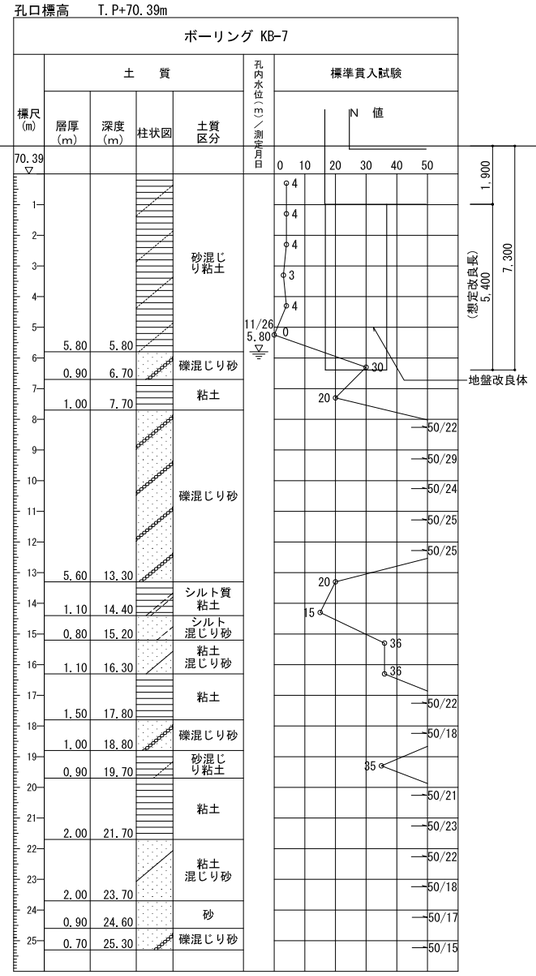
調査場所
調査期間　令和3年11月30日～令和3年12月1日
施工業者　株式会社 ニュージェック

孔口標高　T.P+70.02m



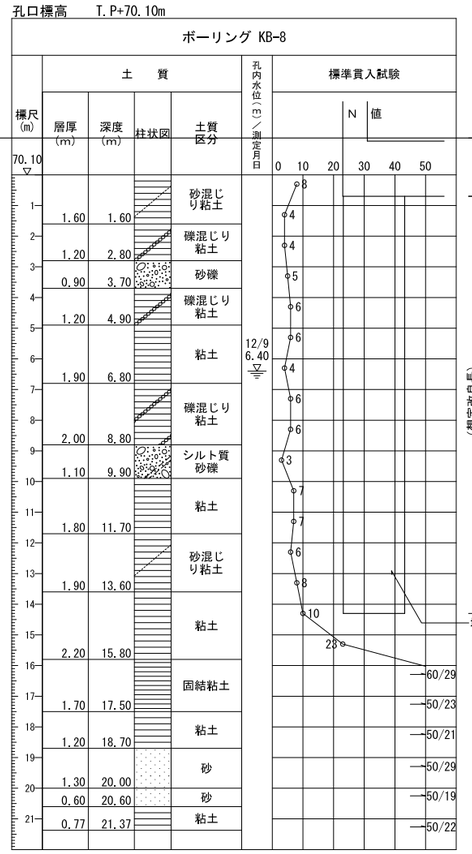
調査場所
調査期間　令和3年11月24日～令和3年11月26日
施工業者　株式会社 ニュージェック

孔口標高　T.P+70.39m

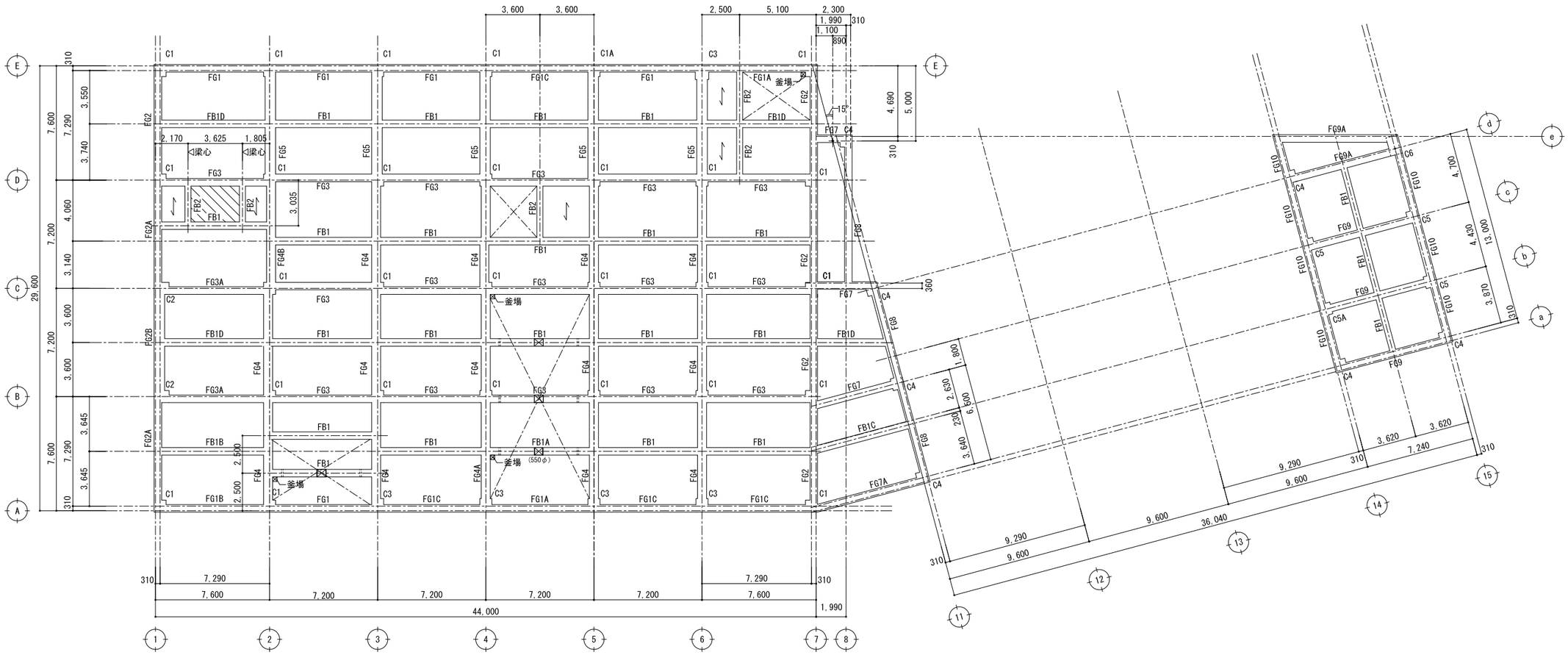


調査場所
調査期間　令和3年12月6日～令和3年12月9日
施工業者　株式会社 ニュージェック

孔口標高　T.P+70.10m



工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 土質柱状図（2）		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図面番号 S－105

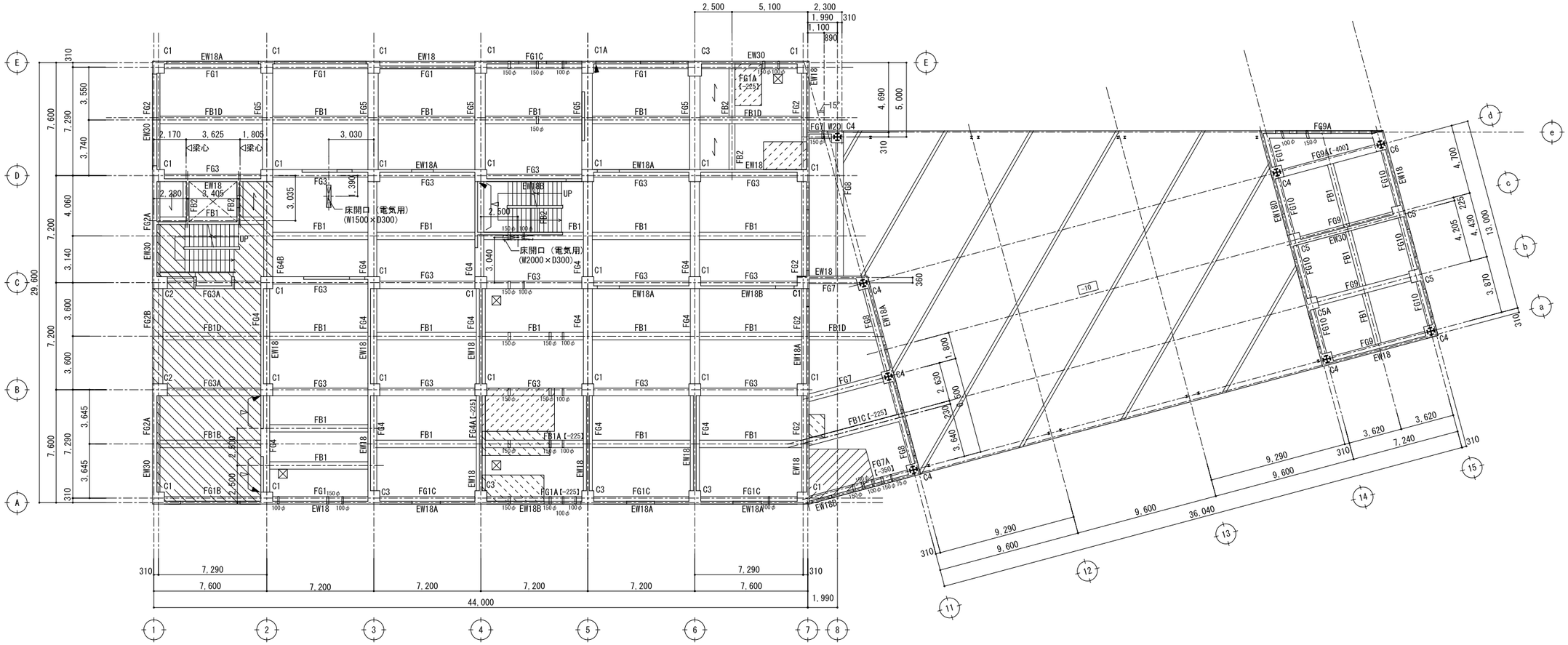


基礎伏図　1/150

特記なき限り以下とする。

- スラブはFS1とする。
- スラブ天端はFL-1650とする。
- ▨ はスラブ上に400mmRC嵩上げとする。
- ⋰⋱ はピット範囲を示す。（ピット範囲以外は良質土にて埋め戻しを行う。）
- ⊠ は人通口（φ600）を示す。
- ┈┈ は水抜きパイプを示す。
- スラブ主筋は短辺方向とする。
- ⤵ はスラブ主筋方向を示す。

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 基礎伏図		2023/03
NEOJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/150 A3:1/300	図面番号 S - 106



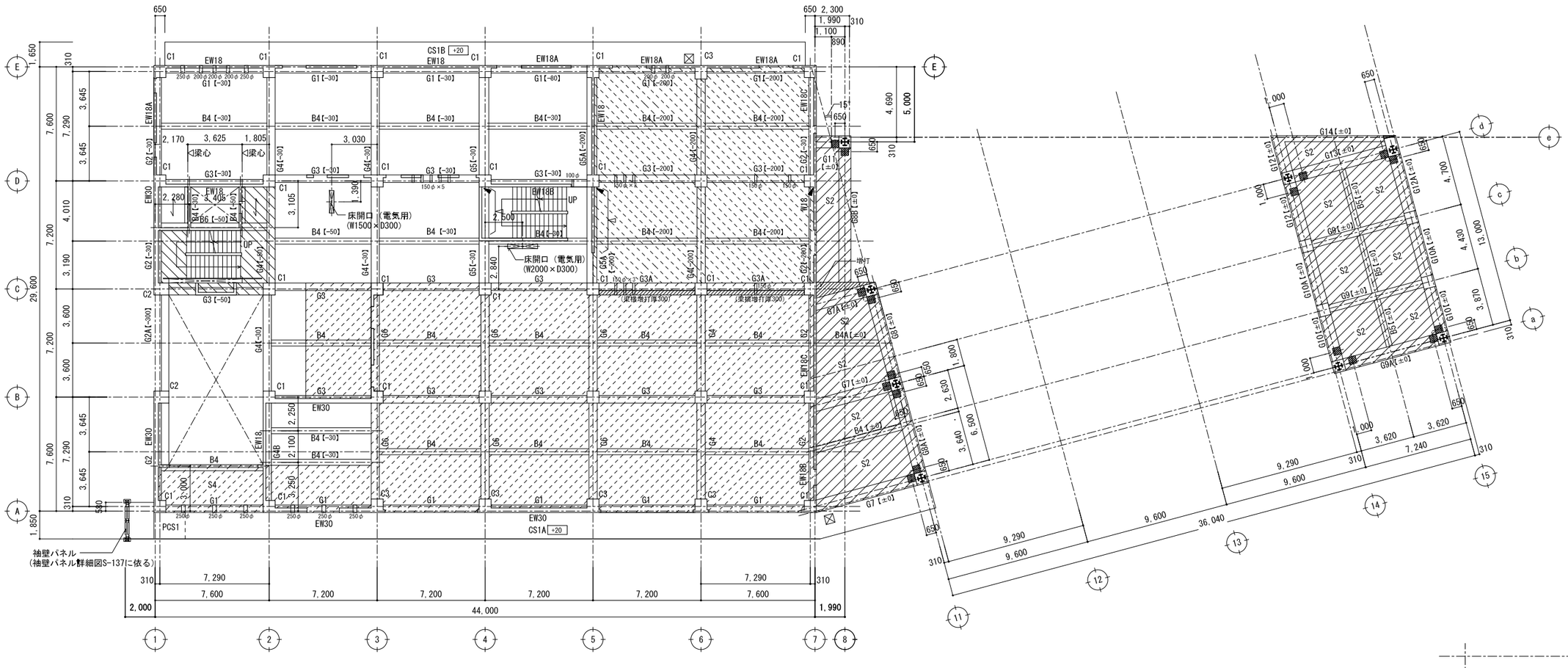
1階床梁伏図　1/150

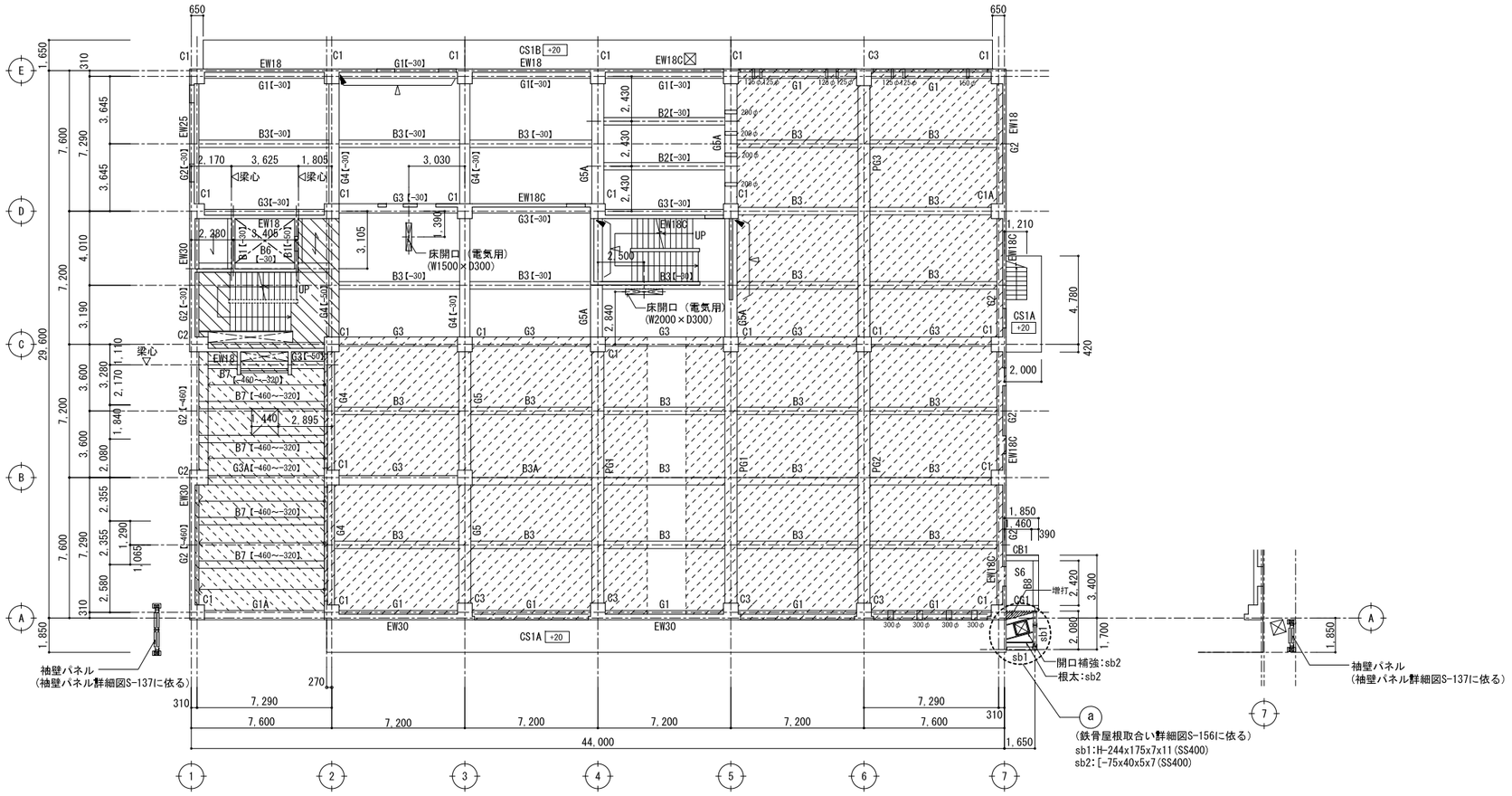
特記なき限り以下とする。

- 壁はW18とする。
- スラブはS5とする。
- 梁天端はFL- 200とする。
- 【数字】はFLからの梁天レベルを示す。
- スラブ天端レベルはFL-30とする。
- ▨ はスラブ天端FL-50とする。
- ▨ はスラブ天端FL-100とする。
- ▨ はスラブ天端FL-225とする。
- ▨ はスラブ天端FL-350とする。
- ☒ は点検口を示す。
- ▨ は土間コンクリートスラブを示す。(t=250)
- ◄ 構造鉛直スリットを示す。
- ▲ 構造水平スリットを示す。
- スラブ主筋は短辺方向とする。
- ⌇ はスラブ主筋方向を示す。

Y
X

工事名			図面の名称			作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事			【消防本庁(署)】 1階床梁伏図			2023/03
NEWJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名		設計者名		縮尺	図面番号
	小田　文武		安川　雅巳		A1:1/150 A3:1/300	S - 107


CS1B +20
CS1A +20
PCS1
袖壁パネル
(袖壁パネル詳細図S-137に依る)
床開口（電気用）
(W1500×D300)
床開口（電気用）
(W2000×D300)
UP
DN
梁心
梁心
EW18
EW18A
EW18B
EW18C
EW30
G1 [-30]
G1 [-80]
G1 [-200]
B4 [-30]
B4 [-50]
B4 [-200]
G3 [-30]
G3 [-50]
G3 [-200]
B4
S4
S2
G1 (±0)
G7 (±0)
G7A (±0)
G8 (±0)
G8A (±0)
G9 (±0)
G9A (±0)
G10 (±0)
G10A (±0)
G12 (±0)
G12A (±0)
G13 (±0)
G14 (±0)
44,000
7,600
7,200
7,290
310
650
2,000
1,990
29,600
1,850
4,700
13,000
4,430
3,810
3,620
7,240
9,290
9,600
36,040
6,600
2,630
1,800
2,300
1,990
1,100
890
4,690
5,000
1,650
1,000
2,000
3,620
3,620
7,240
310
650
1,000
1,000
1,000

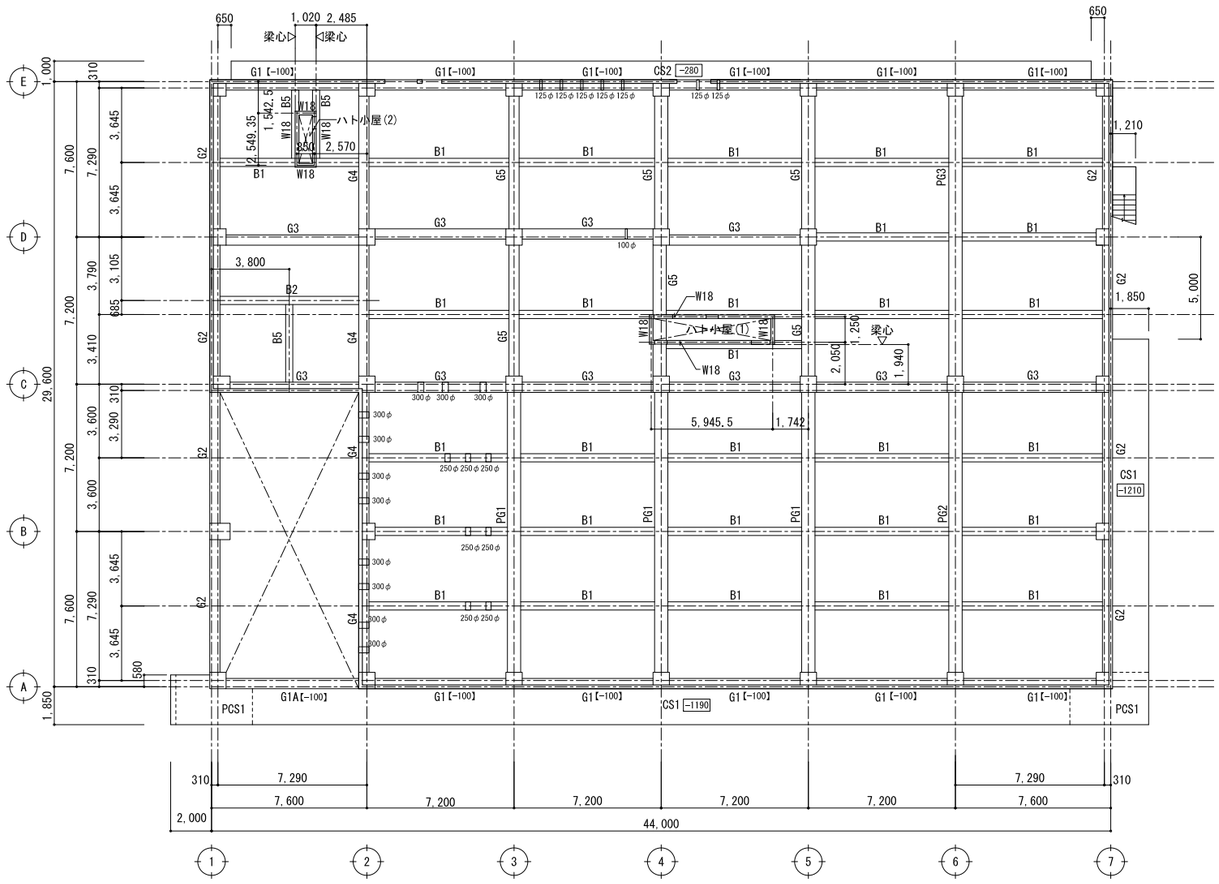


3階床梁伏図　1/150

特記なき限り以下とする。

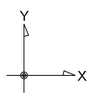
- 壁はW18とする。
- スラブはS3する。
- スラブ天端レベルはFL-30とする。
- 梁天端はFL- 100とする。
- 【数字】はFLからの梁天レベルを示す。
- ▭ はFLからのスラブレベル(水上)を示す。
- ▨ はスラブ天端FL-50とする。
- ▨ はスラブ天端FL-100とする。
- ▨ はスラブ天端FL-460～-320とする。
- ⊠ は避難ハッチを示す。
- ◄ 構造鉛直スリットを示す。
- ▽ 構造水平スリットを示す。
- スラブ主筋は短辺方向とする。
- ⤵ はスラブ主筋方向を示す。
- sb1:H-150×75×5×7

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 3階床梁伏図		2023/03
NEWJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/150 A3:1/300	図面番号 S - 109

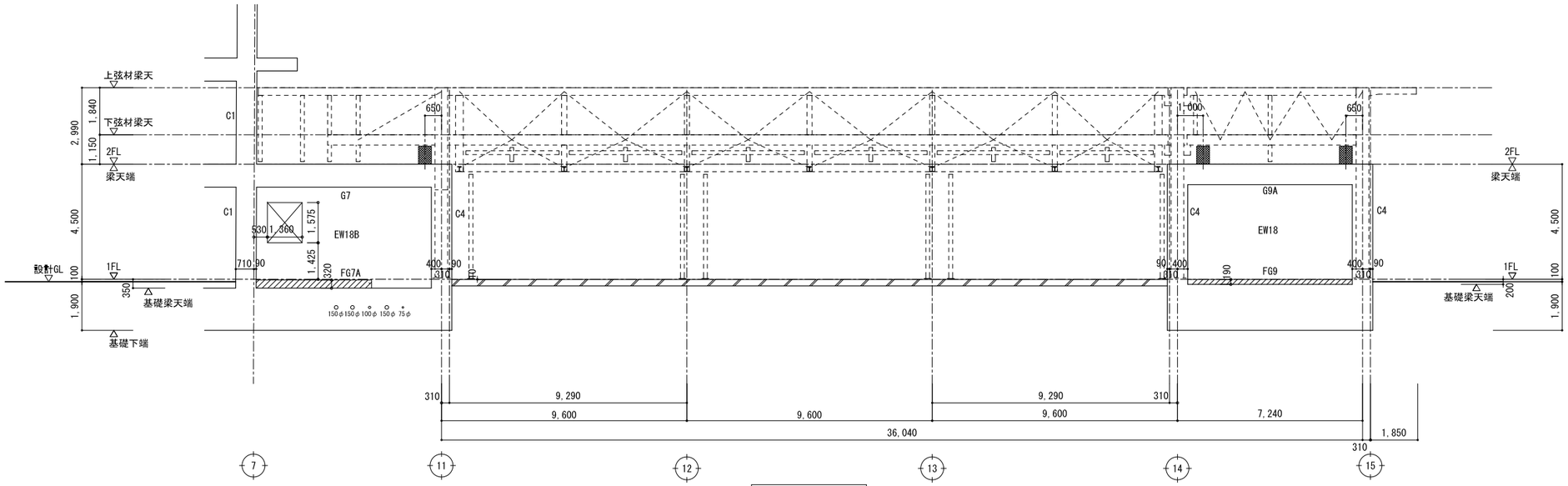


R階床梁伏図　1/150

特記なき限り以下とする。
- スラブはS1とする。
- スラブ天端レベルはFL±0とする。
- 【数字】はFLからの梁天レベルを示す。
- ▭ はRSL（水下）からのスラブレベル（水上）を示す。



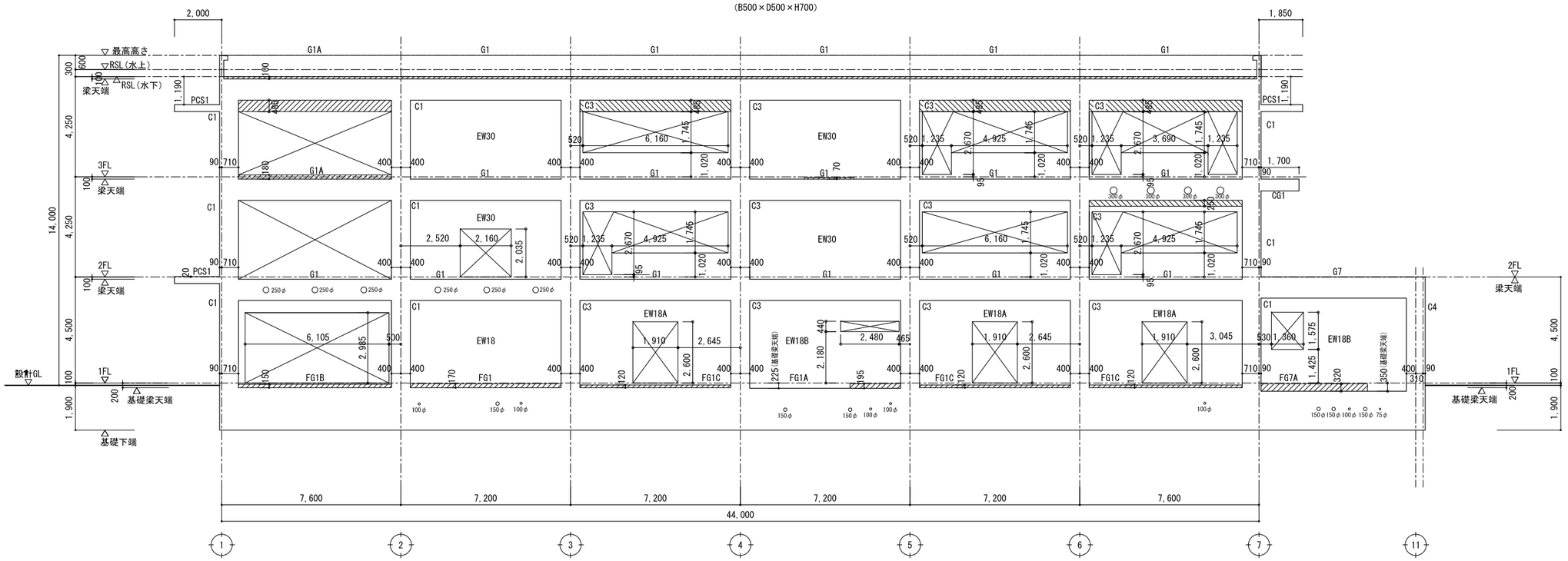
工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 R階床梁伏図		2023/03
NEWJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
	小田　文武	安川　雅巳	A1:1/150 A3:1/300	S - 110



a通軸組図　1/100

特記なき限り下記とする

- 壁はW18とする
- ▨ 梁増打ちコンクリートを示す
- ▨ は土間コンクリートスラブを示す。(t=250)
- ▩ は脱落防止立上がりコンクリートとする。
  (B500×D500×H700)

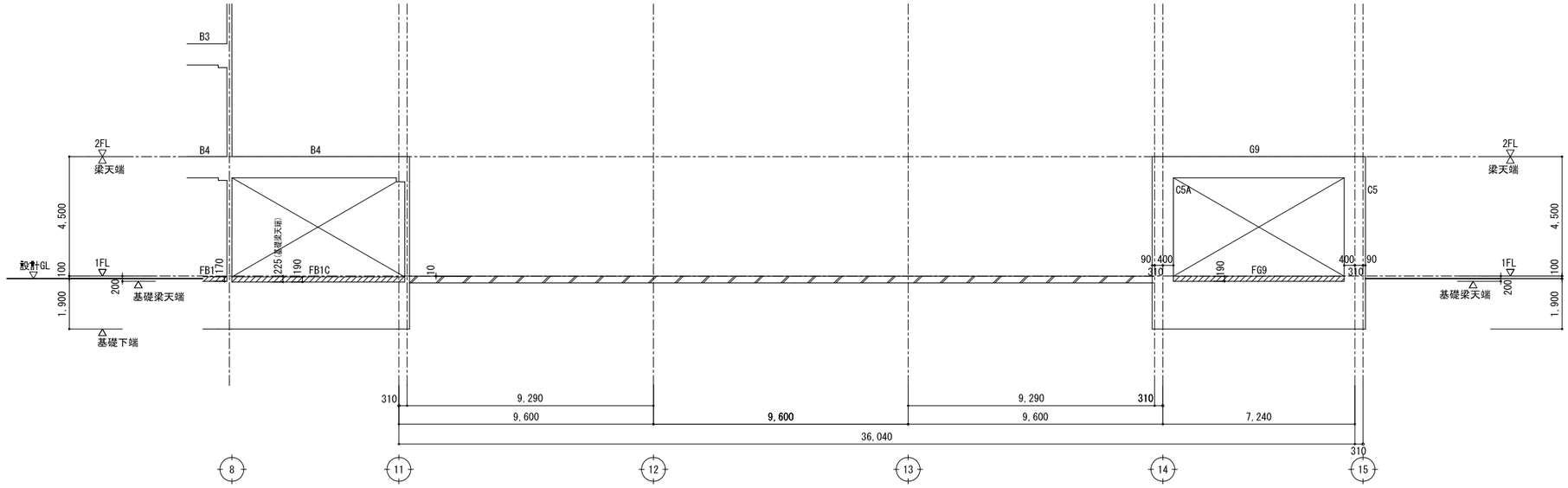


A通軸組図　1/100

特記なき限り下記とする

- 壁はW18とする
- ▨ 梁増打ちコンクリートを示す
- ▨ 壁増打ちコンクリートを示す

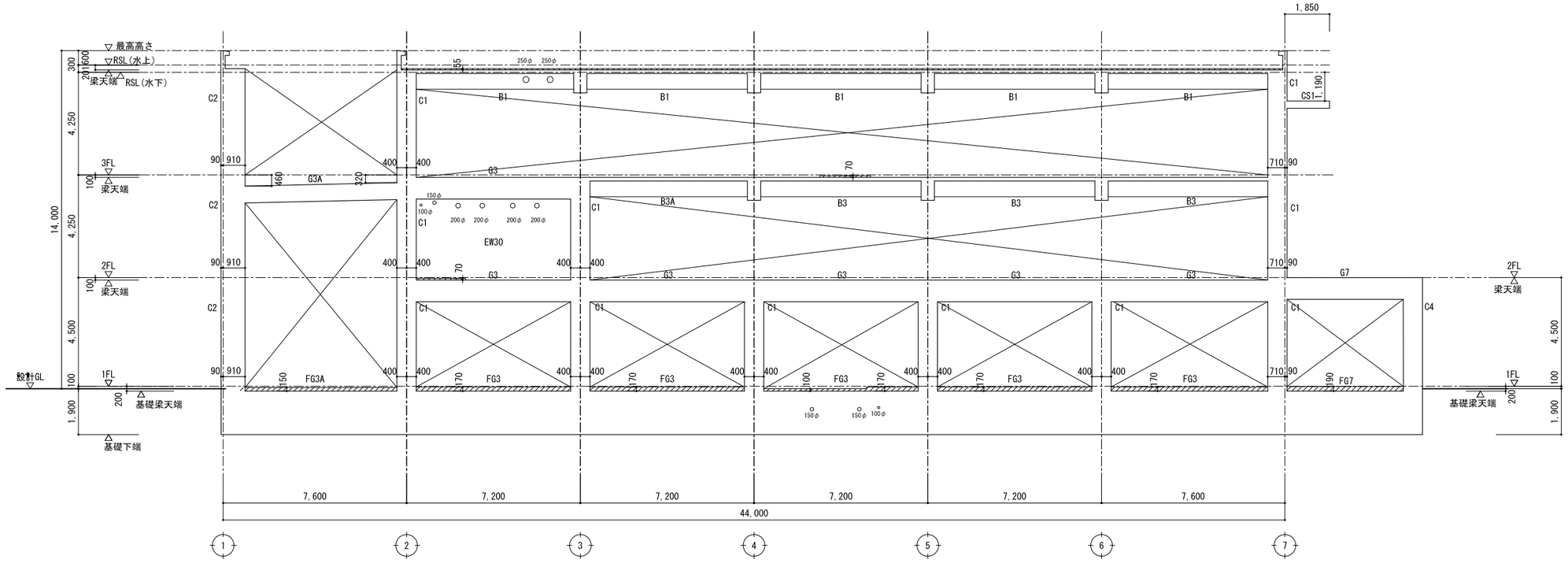
工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 軸組図 (1)		2023/03
NEWJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
	小田　文武	安川　雅巳	A1:1/100 A3:1/200	S - 111



b通軸組図　1/100

特記なき限り下記とする

- ▨ 梁増打ちコンクリートを示す
- ▨ は土間コンクリートスラブを示す。(t=250)

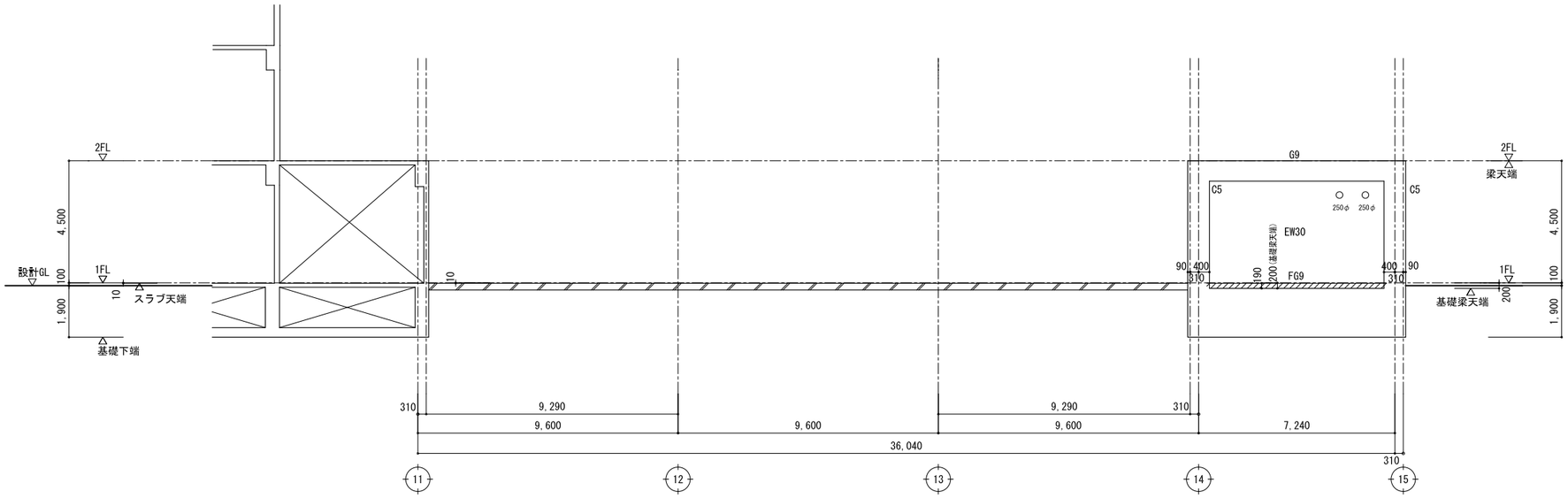


B通軸組図　1/100

特記なき限り下記とする

- ▨ 梁増打ちコンクリートを示す

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 軸組図 (2)		2023/03
NEWJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図面番号 S - 112



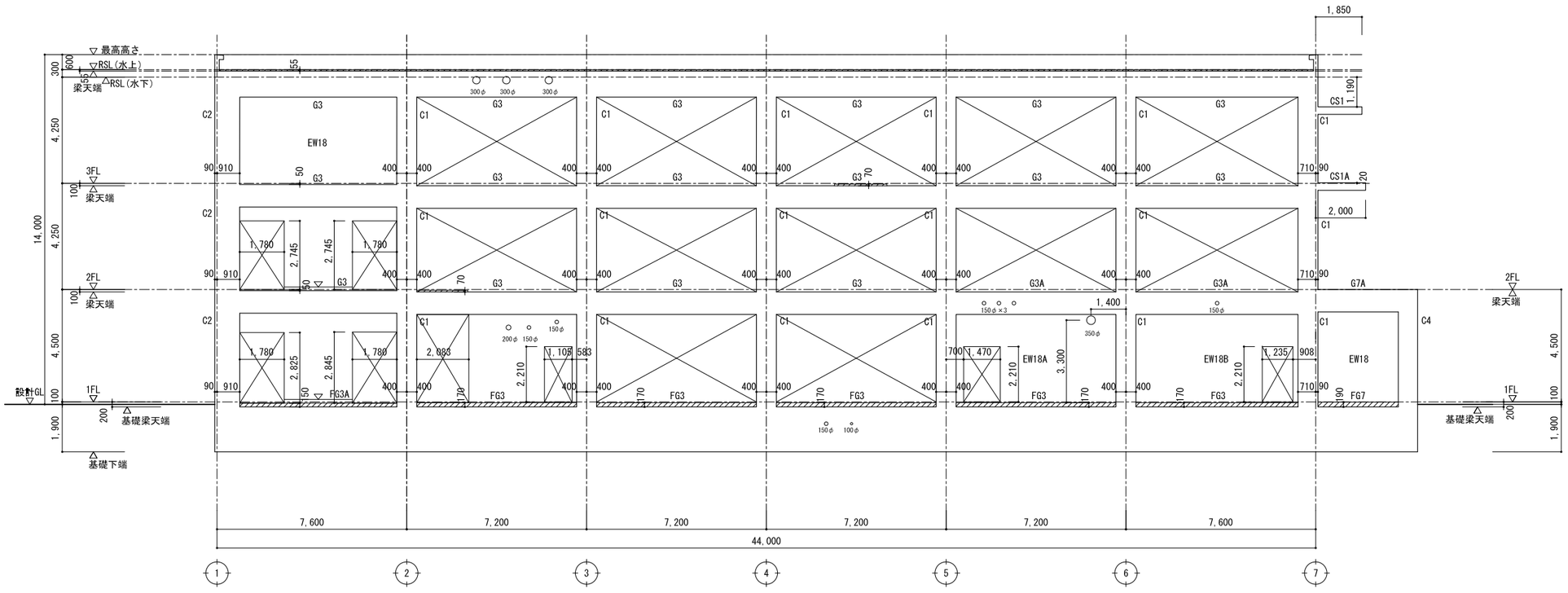
c通軸組図　1/100

特記なき限り下記とする

・壁はW18とする

・ ▨ 梁増打ちコンクリートを示す

・ ▨ は土間コンクリートスラブを示す。(t=250)



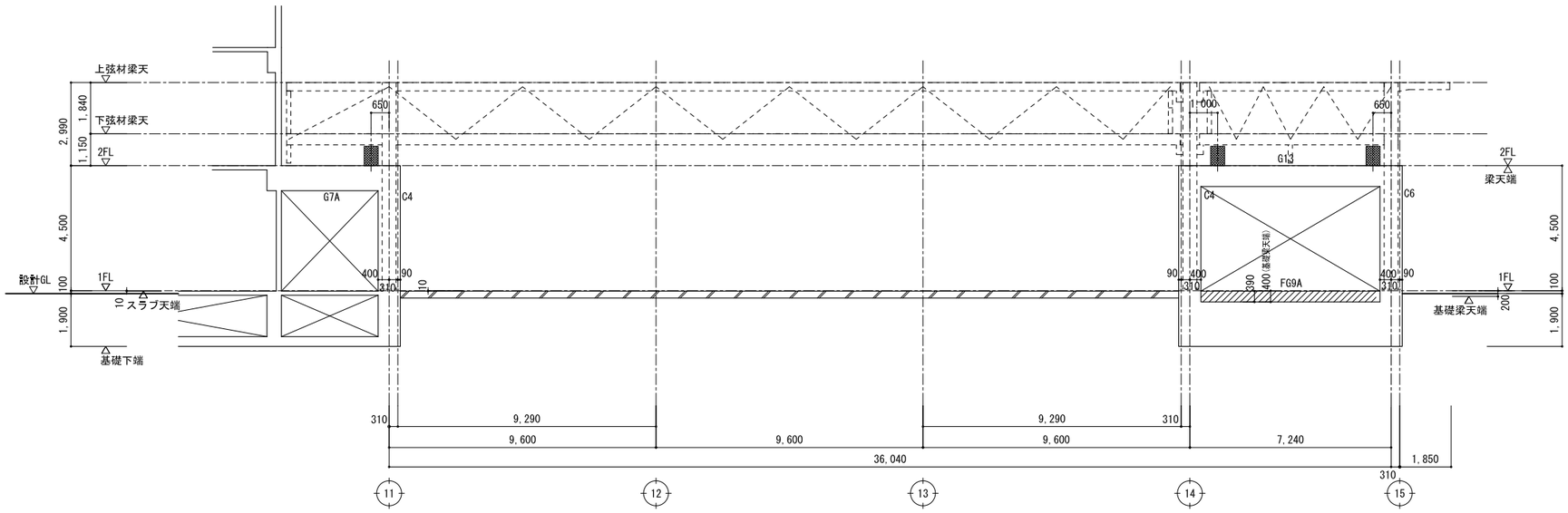
C通軸組図　1/100

特記なき限り下記とする

・壁はW18とする

・ ▨ 梁増打ちコンクリートを示す

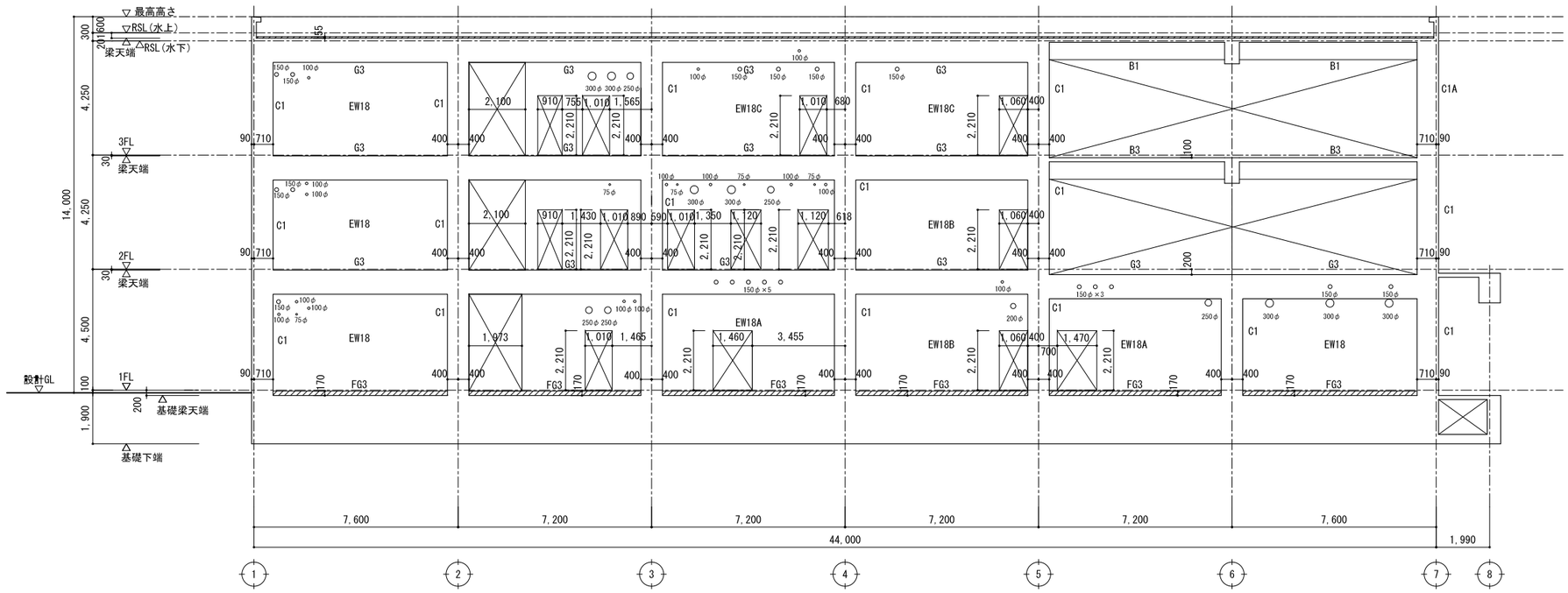
工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 軸組図 (3)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図面番号 S - 113



d通軸組図　1/100

特記なき限り下配とする

- 壁はW18とする
- ▨ 梁増打ちコンクリートを示す
- ▨ は土間コンクリートスラブを示す。(t=250)
- ▩ は脱落防止立上がりコンクリートとする。
  (B500×D500×H700)

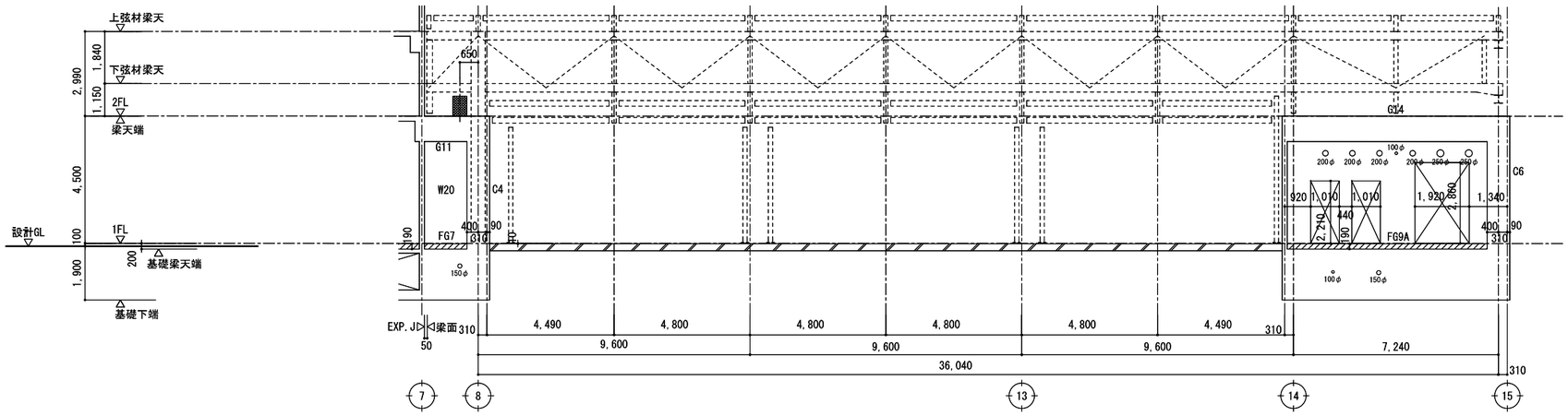


D通軸組図　1/100

特記なき限り下配とする

- 壁はW18とする
- ▨ 梁増打ちコンクリートを示す

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 軸組図 (4)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図面番号 S - 114



e通軸組図　1/100

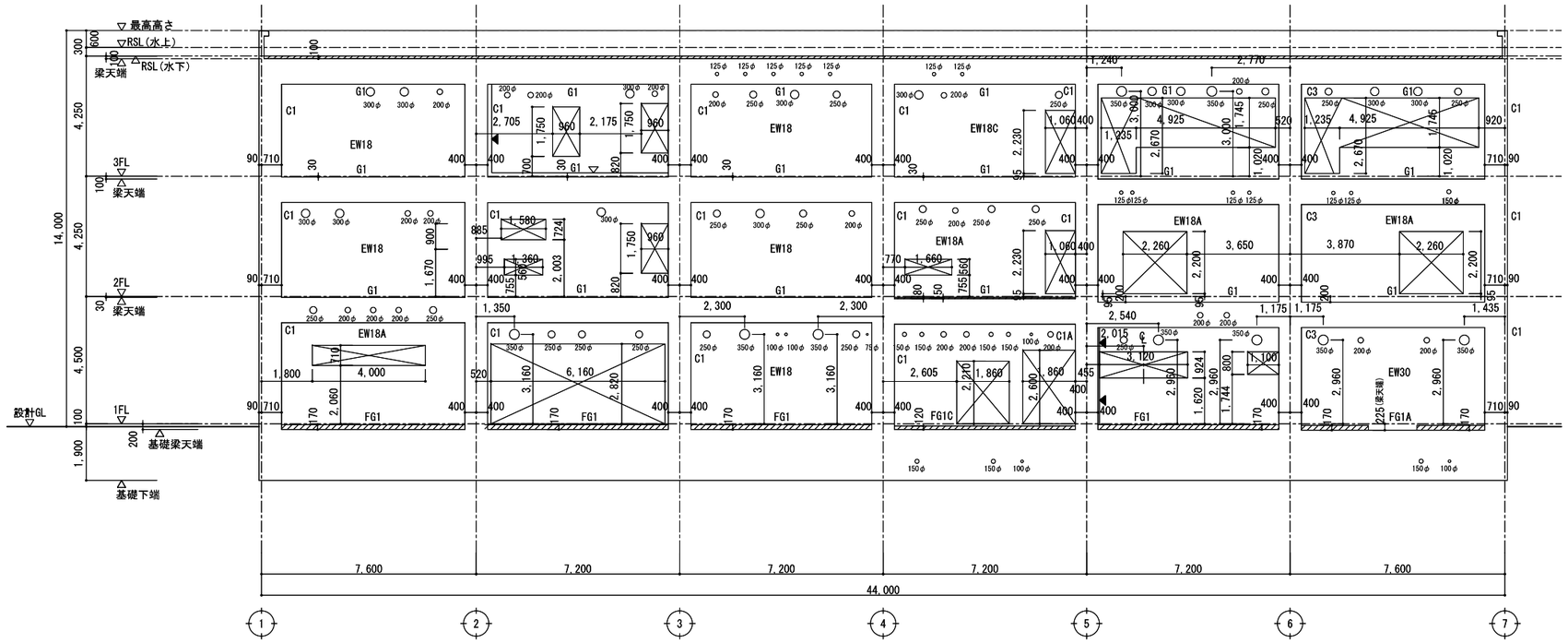
特記なき限り下記とする

・壁はW18とする

・ ▨ 梁増打ちコンクリートを示す

・ ▨ は土間コンクリートスラブを示す。(t=250)

・ ■ は脱落防止立上がりコンクリートとする。
(B500×D500×H700)



E通軸組図　1/100

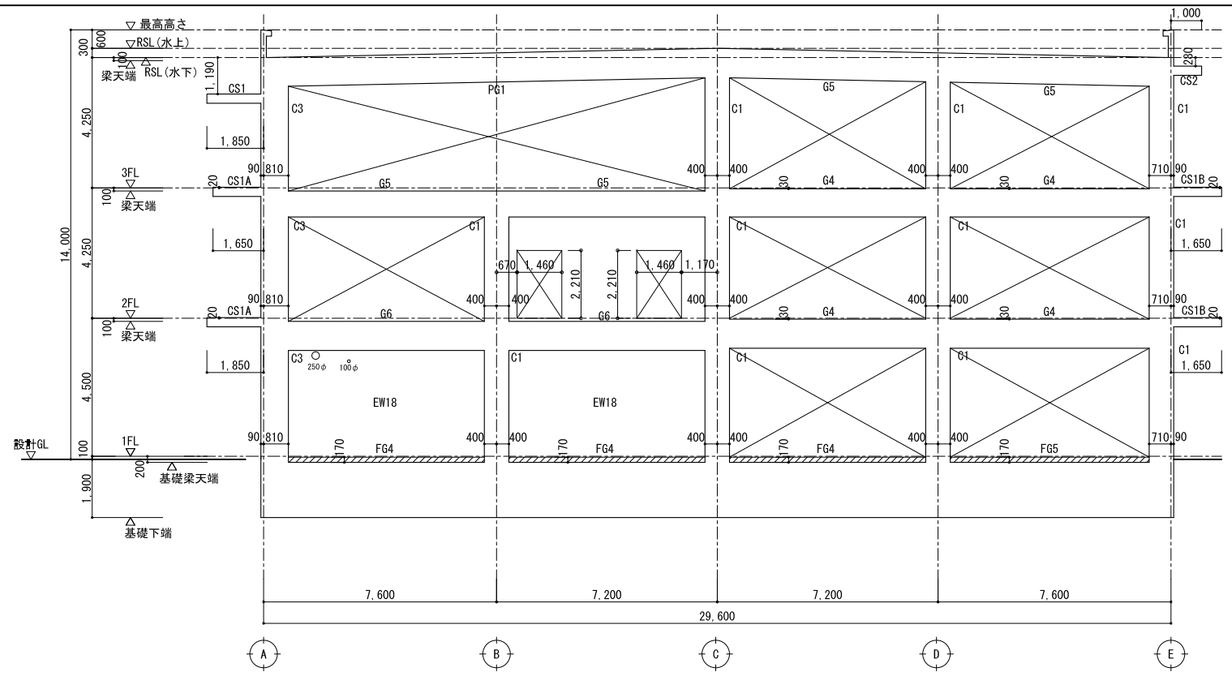
特記なき限り下記とする

・壁はW18とする

・ ▮ 構造鉛直スリットを示す

・ ▨ 梁増打ちコンクリートを示す

工事名			図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事			【消防本庁(署)】 軸組図 (5)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名	小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図面番号 S - 115

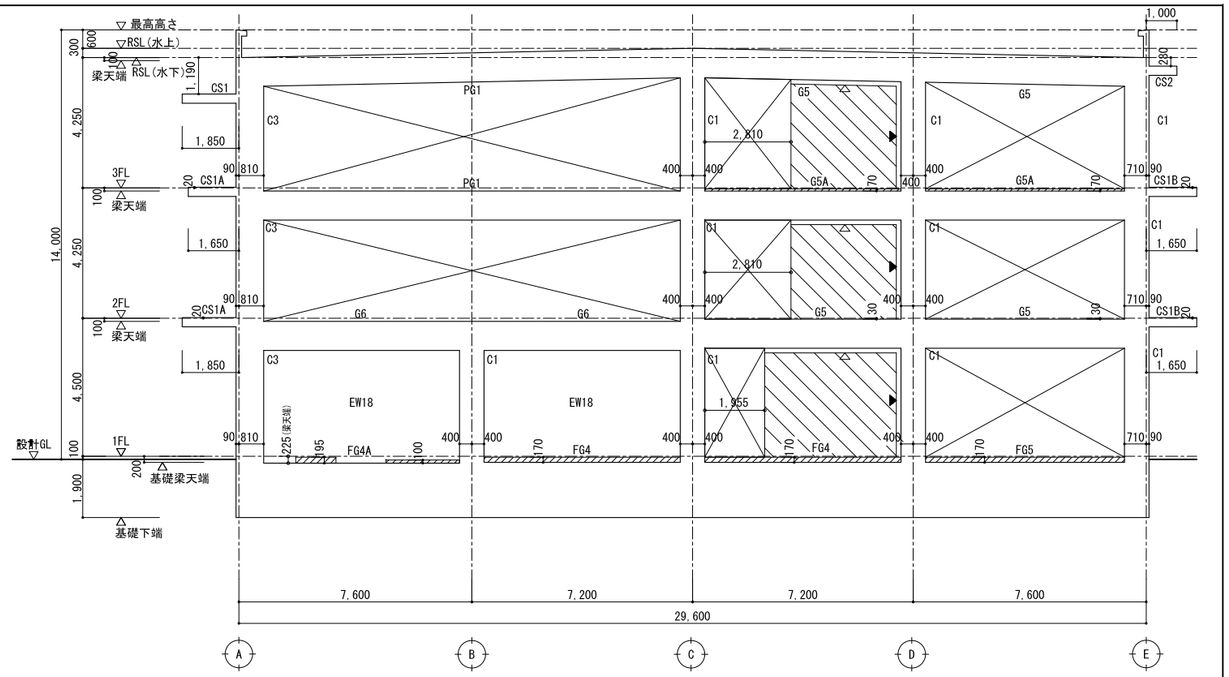


3通軸組図　1/100

特記なき限り下配とする

・壁はW18とする

・ ▨ 梁増打ちコンクリートを示す



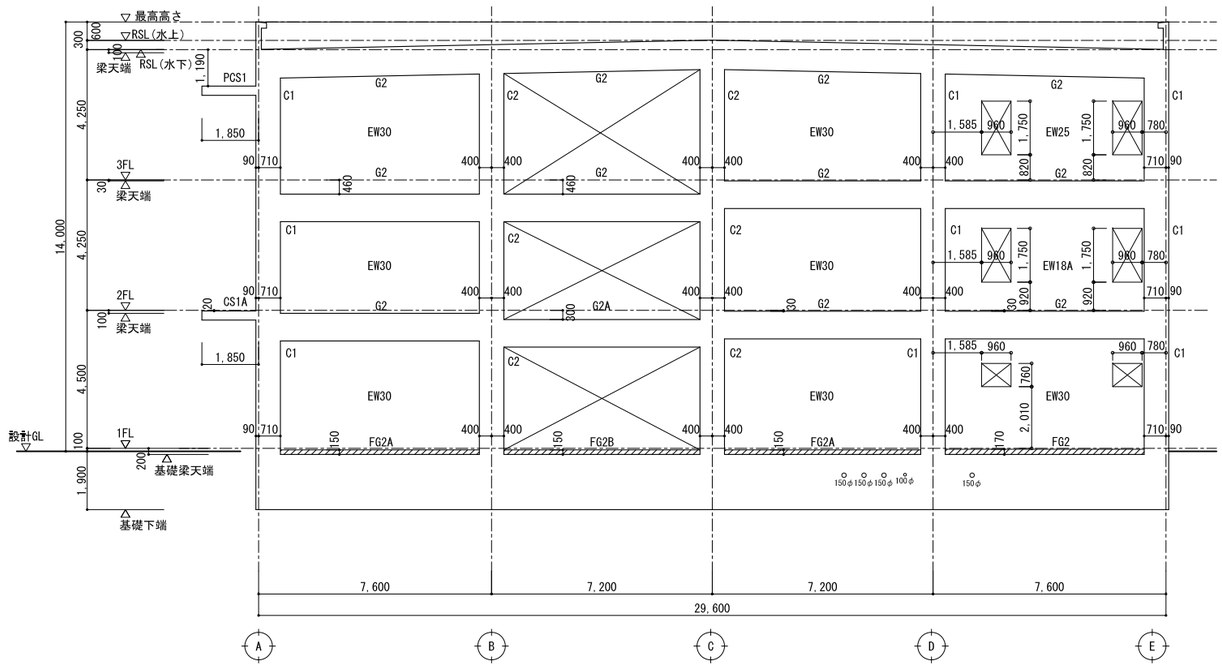
4通軸組図　1/100

特記なき限り下配とする

・壁はW18とする

・ ▨ 梁増打ちコンクリートを示す

・ ▨ 後打ち壁を示す

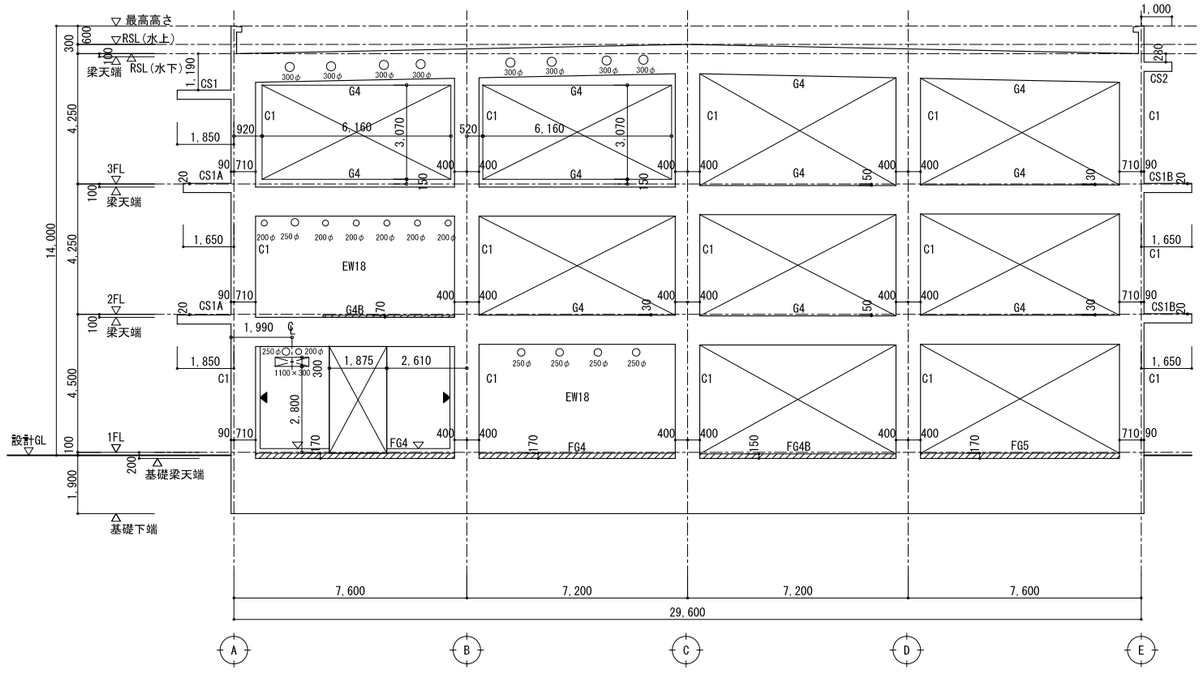


1通軸組図　1/100

特記なき限り下配とする

・壁はW18とする

・ ▨ 梁増打ちコンクリートを示す



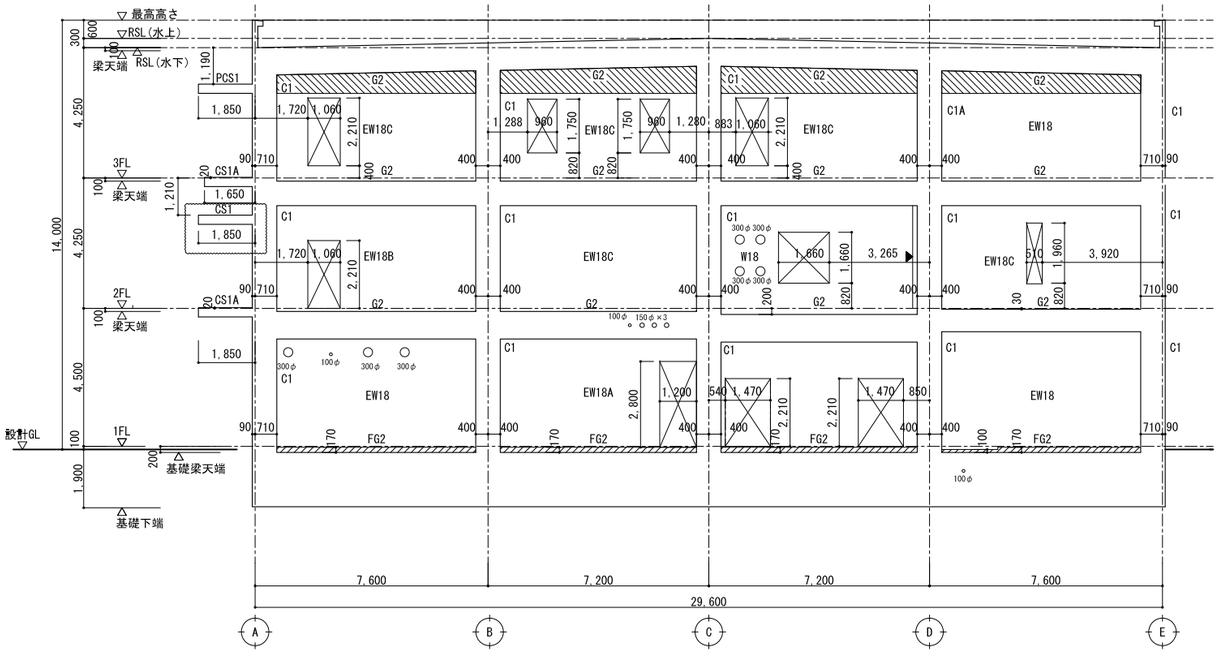
2通軸組図　1/100

特記なき限り下配とする

・壁はW18とする

・ ▨ 梁増打ちコンクリートを示す

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 軸組図 (6)		2023/03
	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
NEXJEC 株式会社ニュージェック	小田　文武	安川　雅巳	A1:1/100 A3:1/200	S - 116



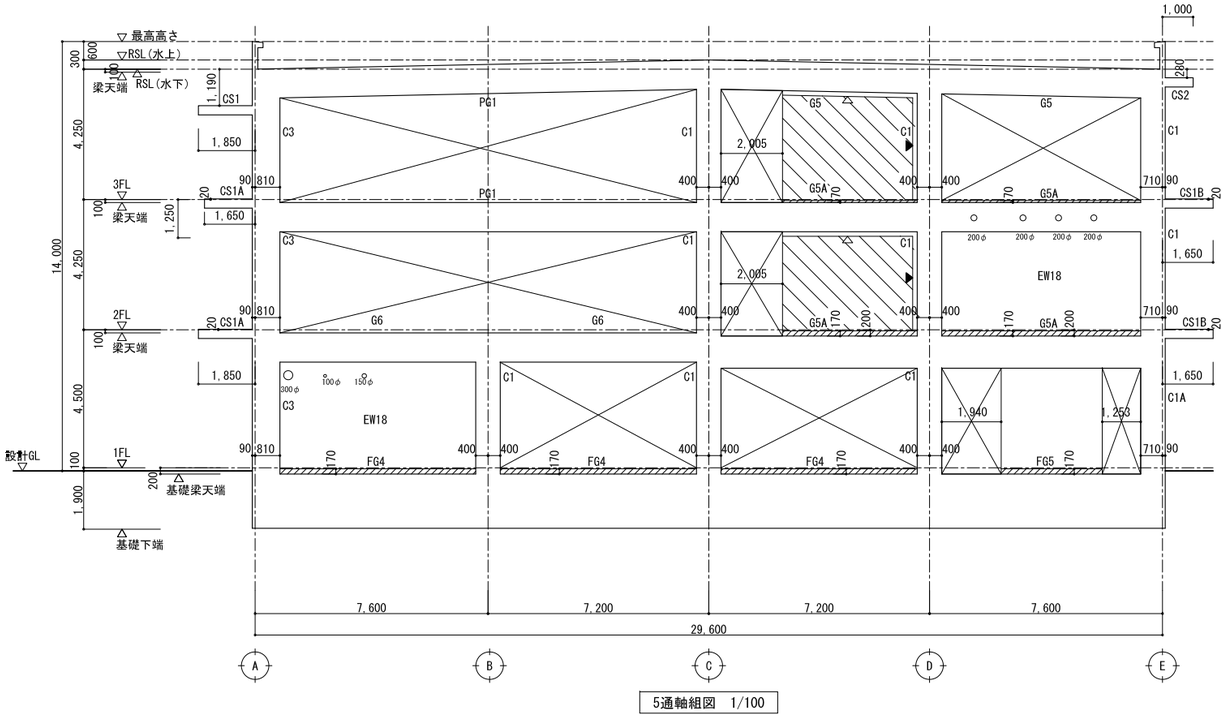
7通軸組図　1/100

特配なき限り下配とする

・壁はW18とする

・ ▨ 梁増打ちコンクリートを示す

・ ▨ 壁増打ちコンクリートを示す



5通軸組図　1/100

特配なき限り下配とする

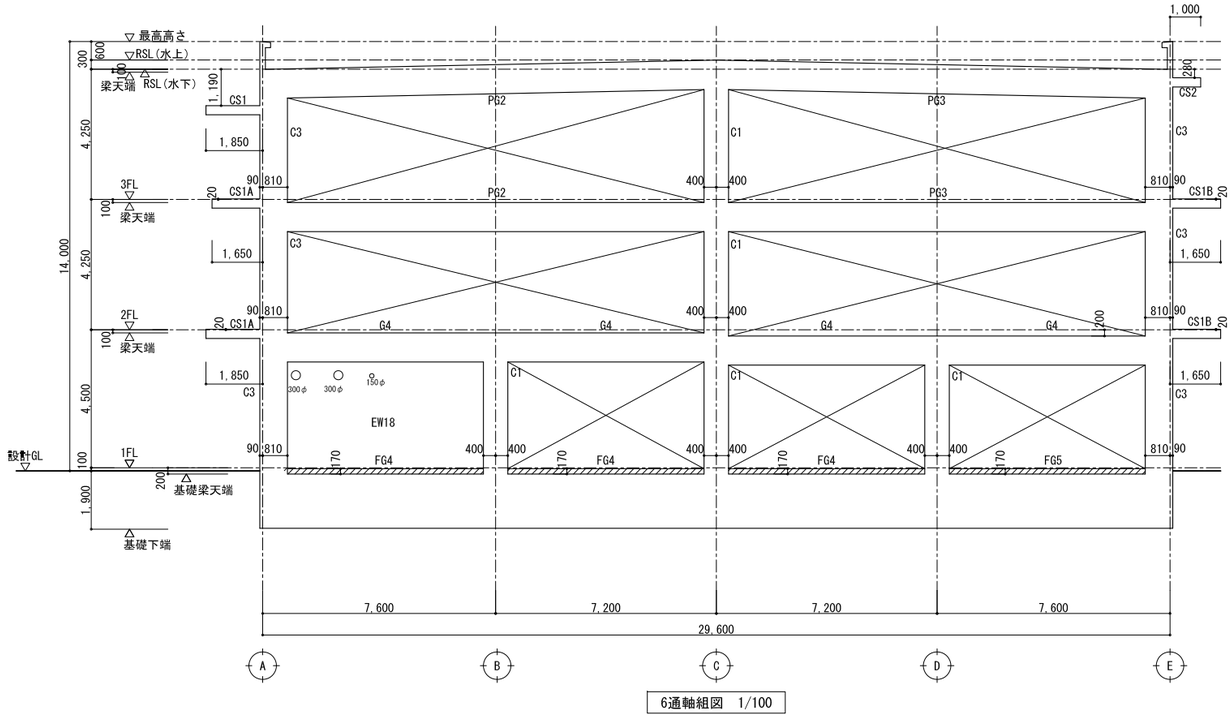
・壁はW18とする

・ ▮ 構造鉛直スリットを示す

・ ▽ 構造水平スリットを示す

・ ▨ 梁増打ちコンクリートを示す

・ ▨ 後打ち壁を示す



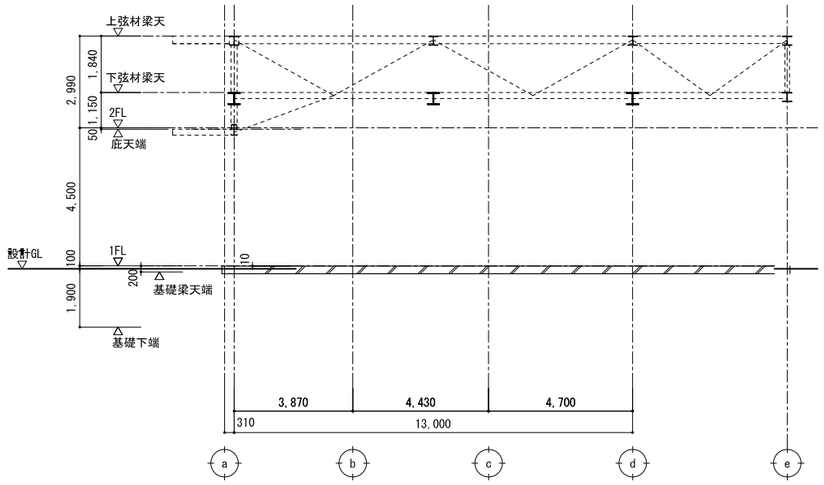
6通軸組図　1/100

特配なき限り下配とする

・壁はW18とする

・ ▨ 梁増打ちコンクリートを示す

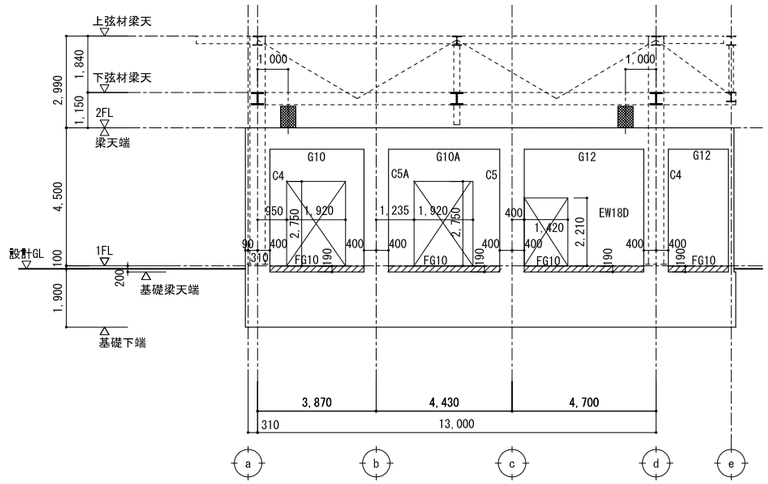
工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 軸組図 (7)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図面番号 S - 117



13通軸組図　1/100

特配なき限り下配とする

・ ▨ は土間コンクリートスラブを示す。(t=250)



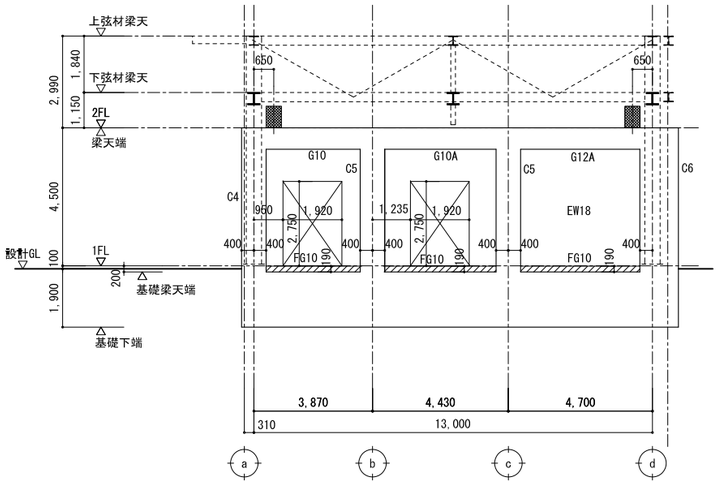
14通軸組図　1/100

特配なき限り下配とする

・壁はW18とする

・ ▨ 梁増打ちコンクリートを示す

・ ■ は脱落防止立上がりコンクリートとする。
(B500×D500×H700)



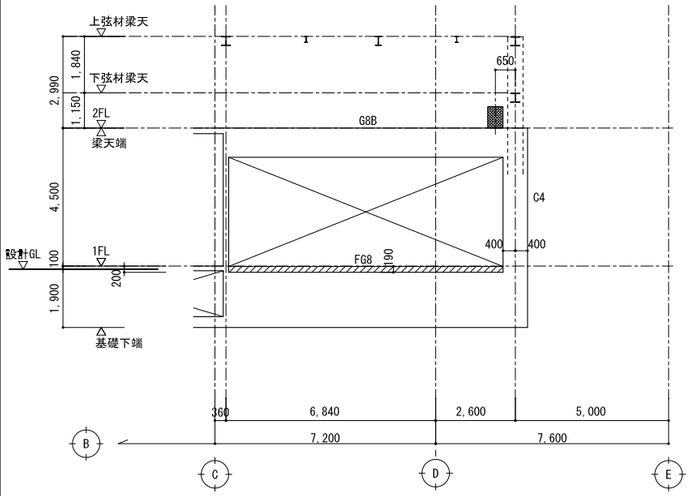
15通軸組図　1/100

特配なき限り下配とする

・壁はW18とする

・ ▨ 梁増打ちコンクリートを示す

・ ■ は脱落防止立上がりコンクリートとする。
(B500×D500×H700)

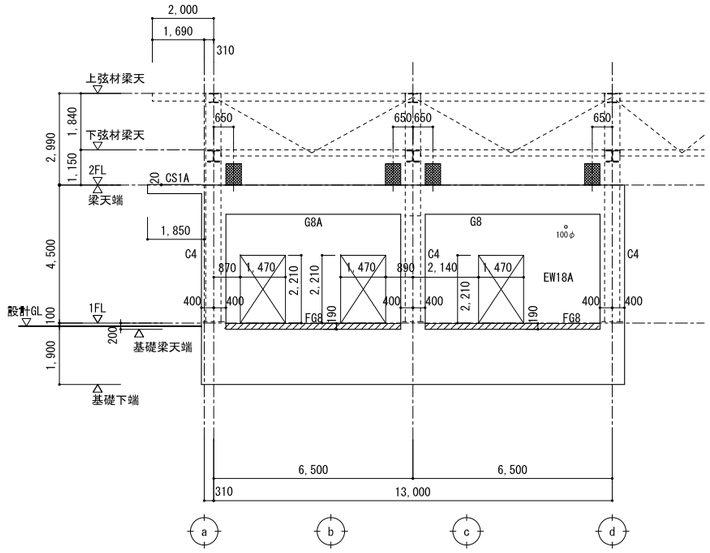


8通軸組図　1/100

特配なき限り下配とする

・ ▨ 梁増打ちコンクリートを示す

・ ■ は脱落防止立上がりコンクリートとする。
(B500×D500×H700)



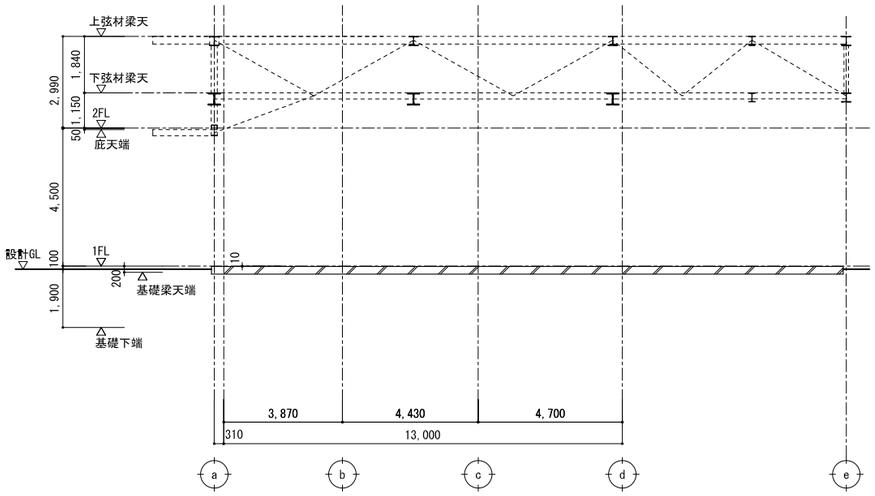
11通軸組図　1/100

特配なき限り下配とする

・壁はW18とする

・ ▨ 梁増打ちコンクリートを示す

・ ■ は脱落防止立上がりコンクリートとする。
(B500×D500×H700)



12通軸組図　1/100

特配なき限り下配とする

・ ▨ は土間コンクリートスラブを示す。(t=250)

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 軸組図 (8)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
	小田　文武	安川　雅巳	A1:1/100 A3:1/200	S－118

柱断面リスト　1/50

コンクリート強度は全てFC36とする

階	符　号	C1	C1A	C2	C3	C4	C5	C5A	C6
	断面名	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
3F	断　面								
	B×D	800 x 800	800 x 800	1,000 x 800	800 x 900				
	主　筋	12 - D25	24 - D25	20 - D25	12 - D25				
	フープ	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100				
	接合部フープ筋	□-D13@100	□-D13@100	◫-D13@100	⊟-D13@100				
	備　考								
2F	断　面								
	B×D	800 x 800		1,000 x 800	800 x 900				
	主　筋	12 - D25		14 - D25	24 - D25				
	フープ	□-D13@100		□-D13@100	⊟-D13@100				
	接合部フープ筋	□-D13@100		◫-D13@100	⊟-D13@100				
	備　考								
1F	断　面								
	B×D	800 x 800	800 x 800	1,000 x 800	800 x 900	800 x 800	800 x 800	800 x 800	800 x 1,250
	主　筋	12 - D25	12 - D25	14 - D25	12 - D25	20 - D25	16 - D25	20 - D29	24 - D25
	フープ	□-D13@100	⊟-D13@100	□-D13@100	⊟-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	▥-D13@100	□-D13@100
	接合部フープ筋	□-D13@100	⊟-D13@100	◫-D13@100	⊟-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	▥-D13@100	⊟-D13@100
	備　考					SRC ＊			SRC ＊

壁リスト　1/50

コンクリート強度は全てFC36とする
巾止め筋はD10@1000以内とする

符号		W18	W20	EW18	EW18A	EW18B	EW18C	EW18D	EW25	EW30
壁厚		180	200	180	180	180	180	180	250	300
断面										
縦筋		D10@150ダブル	D10@150ダブル	D10@150ダブル	D10@150ダブル	D10@150ダブル	D10@150ダブル	D10@150ダブル	D16@200ダブル	D16@200ダブル
横筋		D10@150ダブル	D10@150ダブル	D10@150ダブル	D10@150ダブル	D10@150ダブル	D10@150ダブル	D10@150ダブル	D16@200ダブル	D16@200ダブル
開口補強	タテ	2-D13	2-D13	2-D13	4-D19	4-D16	4-D13	6-D19	2-D19	4-D22
	ヨコ	2-D13	2-D13	3-D13	6-D19	4-D19	4-D16	6-D19	2-D16	6-D22
	ナナメ	2-D13	2-D13	3-D13	3-D16	4-D16	4-D16	3-D16	4-D19	3-D22

床版リスト

コンクリート強度は全てFC36とする

符号	版厚	位置	短辺方向（上端/下端）		長辺方向（上端/下端）		備考
			端部	中央	端部	中央	
S1	150	上端筋	D13@200	D13@200	D10D13@200	D10D13@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200	
S2	150	上端筋	D10D13@200	D10D13@200	D10@200	D10@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200	
S3	150	上端筋	D13@200	D13@200	D10D13@200	D10D13@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200	
S4	150	上端筋	D10D13@200	D10D13@200	D10@200	D10@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200	
S5	150	上端筋	D13@150	D13@150	D10D13@150	D10D13@150	
		下端筋	D10@150	D10@150	D10@150	D10@150	
S6	150	上端筋	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200	
FS1	350	上端筋	D19@200	D19@200	D19@200	D19@200	
		下端筋	D19@150	D19@150	D19@200	D19@200	

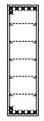
符号	版厚	位置	主筋（上端/下端）		配力筋（上端/下端）		備考
			元端	先端			
CS1・CS1A・CS1B	300（300～180）	上端筋	D13@200	D13@200	D10@200		
		下端筋	D13@200	D13@200	D10@200		
CS2	200	上端筋	D10@200	D10@200	D10@200		
		下端筋	D10@200	D10@200	D10@200		
PCS1	300（300～180）	配筋はS-131に依る					

工事名	図面の名称	作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事	【消防本庁（署）】柱断面リスト・床版リスト・壁リスト	2023/03

NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
	小田　文武	安川　雅巳	A1:1/ 50 A3:1/100	S - 119

大梁断面リスト(1)　1/50

（コンクリート強度は全てFC36とする）

階	符号	G1		G1A		G1B	G1C	G2		G2A		G2B	G3	G3A	G4		G4A	G4B	G5			G5A		
	断面名	端　部	中　央	端　部	中　央	全断面	全断面	端　部	中　央	端　部	中　央	全断面	全断面	全断面	端　部	中　央	全断面	全断面	外　端	中　央	内　端	外　端	中　央	内　端
RFL	断　面																							
	B×D	500x900		500x900				500x900					500x900		500x950				650x950					
	上端筋	4-D25		4-D25				4-D25					4-D25		5-D25				5/2-D25	5-D25	5/2-D25			
	下端筋	4-D25		4-D25				4-D25					4-D25		5-D25				5-D25					
	スターラップ	□-D13@200		□-D13@200				□-D13@200					□-D13@200		□-D13@200				□-D13@150					
	腹　筋	4-D10		4-D10				4-D10					4-D10		4-D10				4-D10					
	備　考																							
3FL	断　面																							
	B×D	500x900		500x900				500x900					500x900	500x700	550x950				650x950			650x950		
	上端筋	5/1-D25	5-D25	5/1-D25	5-D25			5-D25					4-D25	4-D25	5/1-D25	5-D25			5/3-D25	5-D25	5/2-D25	5/3-D25	5-D25	5/2-D25
	下端筋	5-D25		5-D25				5-D25					4-D25	4-D25	5-D25				5-D25			5-D25		
	スターラップ	□-D13@200		□-D13@200				□-D13@200					□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200				□-D13@150			□-D13@150		
	腹　筋	4-D10		4-D10				4-D10					4-D10	2-D10	4-D10				4-D10			4-D10		
	備　考																							
2FL	断　面																							
	B×D	500x900						500x900		500x900			500x900	500x900	550x950			550x950	650x950			650x950		
	上端筋	5/2-D25						5/2-D25		5/2-D25			5-D25	5-D25	5/1-D25	5-D25		5-D25	5/1-D25	5-D25	5/2-D25	5/1-D25	5-D25	5/2-D25
	下端筋	5-D25						5/1-D25	5/5-D25	5/1-D25	5/5-D25		4-D25	4-D25	5-D25			5-D25	5-D25			5-D25		
	スターラップ	□-D13@200						□-D13@200		□-D13@200			□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200			□-D13@200	□-D13@150			□-D13@150		
	腹　筋	4-D10						4-D10		4-D10			4-D10	4-D10	4-D10			4-D10	4-D10			4-D10		
	備　考																							
1FL	断　面																							
	B×D	500x1,800		500x1,775		500x1,800	500x1,800	500x1,800		500x1,800		700x1,800	500x1,800	500x1,800	600x1,800		600x1,800	600x1,800	700x1,800					
	上端筋	5/1-D29		5/1-D29		5/1-D29	5/1-D29	5/1-D29		5/1-D29		7/5-D29	5/2-D29	5/2-D29	6/6-D29		6/2-D29	6/6-D29	7/6-D29					
	下端筋	5/1-D29		5/1-D29		5/1-D29	5/1-D29	5/2-D29		5/2-D29		7/5-D29	5/2-D29	5/2-D29	6/6-D29		6/2-D29	6/6-D29	7/6-D29					
	スターラップ	□-D13@200		□-D13@200		□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200		□-D13@200		田-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200		□-D13@200	□-D13@200	田-D13@200					
	腹　筋	10-D10		8-D10		10-D10	10-D10	10-D10		10-D10		10-D10	10-D10	10-D10	10-D10		8-D10	10-D10	10-D10					
	備　考																							

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 大梁断面リスト(1)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
	小田　文武	安川　雅巳	A1:1/ 50 A3:1/100	S - 120

大梁断面リスト(2)　1/50

コンクリート強度は全てFC36とする
ひび割れ補強筋の柱へののみこみは腹筋と同様とする

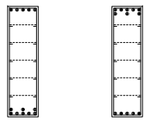
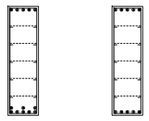
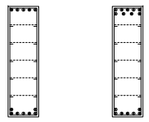
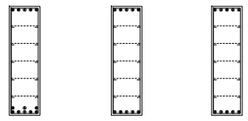
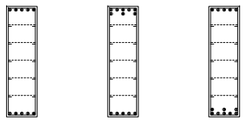
階	符号	G6		G7	G7A	G8	G8A	G8B	G9	G9A		G10	G10A			G11	G12	G12A	G13	G14
	断面名	端　部	中　央	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	端　部	中　央	全断面	左　端	中　央	右　端	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
RFL	断　面																			
	B×D																			
	上端筋																			
	下端筋																			
	スターラップ																			
	腹　筋																			
	備　考																			
3FL	断　面																			
	B×D																			
	上端筋																			
	下端筋																			
	スターラップ																			
	腹　筋																			
	備　考																			
2FL	断　面			2-D13* 2-D13*	2-D13* 2-D13*	2-D13* 2-D13*	2-D13* 2-D13*	2-D13* 2-D13*		2-D13* 2-D13*		2-D13* 2-D13*	2-D13* 2-D13*	2-D13* 2-D13*	2-D13* 2-D13*	2-D13* 2-D13*	2-D13* 2-D13*	2-D13* 2-D13*	2-D13* 2-D13*	
	B×D	550x950		800x900	800x900	800x1,100	800x1,100	800x900	400x800	800x800		800x1,000	800x1,000			800x1,000	800x1,000	800x1,000	800x1,000	400x950
	上端筋	5/2-D25		2-D38	2-D38	2-D38	2-D38	2-D38	4-D25	2-D35		2-D35	2-D35	2-D35	2/2-D35	2-D35	2/1-D35	2-D35	2-D38	4-D25
	下端筋	5-D25	5/2-D25	2-D38	2-D38	2-D38	2-D38	2-D38	4-D25	2-D35		2-D35	2-D35			2-D35	2-D35	2-D35	2-D38	4-D25
	スターラップ	□-D13@200		□-D13@150	田-D13@200	□-D13@150	□-D13@150	田-D13@200	□-D13@200	□-D13@150		田-D13@150	田-D13@150			□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@150	□-D13@200
	腹　筋	4-D10		4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	2-D10	2-D10		4-D10	4-D10			4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10
	カットオフ長さ	——		——	——	——	——	——	——	——		——	右端部：Lb=1,800			——	——	——	——	——
	梁端部定着板採用箇所	——		右端部	右端部	右端部	左端部	右端部	——	両端部		左端部	——			右端部	——	右端部	両端部	——
	備　考	——		*ひび割れ補強筋	*ひび割れ補強筋	*ひび割れ補強筋	*ひび割れ補強筋	*ひび割れ補強筋	——	*ひび割れ補強筋		*ひび割れ補強筋	*ひび割れ補強筋			*ひび割れ補強筋	*ひび割れ補強筋	*ひび割れ補強筋	*ひび割れ補強筋	——
1FL	断　面																			
	B×D			500x1,800	500x1,650	500x1,800			500x1,800	500x1,600		500x1,800								
	上端筋			5/1-D29	5/1-D29	5/1-D29			5/4-D29	5/1-D29	5/2-D29	5/1-D29								
	下端筋			5/1-D29	5/1-D29	5/2-D29			5/1-D29	5/1-D29		5/1-D29								
	スターラップ			□-D13@200	□-D13@200	田-D13@200			□-D13@200	□-D13@200		□-D13@200								
	腹　筋			10-D10	8-D10	10-D10			10-D10	8-D10		10-D10								
	備　考																			

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 大梁断面リスト(2)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
	小田　文武	安川　雅巳	A1:1/ 50 A3:1/100	S - 121

小梁断面リスト　1/50

コンクリート強度は全てFC36とする

符号	B1		B2		B3		B3A			B4		B4A			B5	B6		B7	B8
断面名	端部	中央	端部	中央	端部	中央	左端	中央	右端	端部	中央	左端	中央	右端	全断面	端部	中央	全断面	全断面
断面																			
B x D	400x800		400x900		400x800		400x800			400x800		400x800			350x700	500x900		400x700	300x500
上端筋	4/2-D22	4-D22	4-D22		4/1-D22	4-D22	4/4-D22	4-D22	4/1-D22	4/1-D22	4-D22	4/1-D22	4-D22	4-D22	3-D22	4-D25		4-D22	2-D19
下端筋	4-D22	4/1-D22	4-D22	4/3-D22	4-D22		4-D22			4-D22	4/1-D22	4-D22	4-D22	4-D22	3-D22	4-D25	4/4-D25	4-D22	3-D19
スターラップ	□-D13@200		□-D13@200		□-D13@200		□-D13@200			□-D13@200		□-D13@200			□-D13@200	□-D13@200		□-D13@200	□-D10@200
腹筋	2-D10		2-D10		2-D10		2-D10			2-D10		2-D10			2-D10	2-D10		2-D10	———
備考							左端部：Lb=2,350												

符号	FB1		FB1A		FB1B		FB1C			FB1D			FB2
断面名	端部	中央	端部	中央	端部	中央	左端	中央	右端	左端	中央	右端	全断面
断面													
B x D	500x1800		500x1775		500x1800		500x1775			500x1800			400x1800
上端筋	5-D25	5/3-D25	5-D25		5-D25	5/4-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5/3-D25	5-D25	4-D22
下端筋	5/3-D25	5-D25	5/3-D25	5-D25	5/2-D25		5/3-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5/3-D25	4-D22
スターラップ	□-D13@200		□-D13@200		□-D13@200		□-D13@200			□-D13@200			□-D13@200
腹筋	10-D10		10-D10		10-D10		10-D10			10-D10			10-D10
備考													
符号	CG1		CB1										
断面名	全断面		全断面										
断面													
B x D	300x500		300x500										
上端筋	3-D19		3-D19										
下端筋	2-D19		2-D19										
スターラップ	□-D10@200		□-D10@200										
腹筋	———		———										
備考													

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 小梁断面リスト		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
	小田　文武	安川　雅巳	A1:1/ 50 A3:1/100	S - 122

プレストレストコンクリート特記仕様書

1．一般事項

a．適用の範囲　本工事は設計図書並びに本特記仕様書の他、

全国官報販売協同組合『２００９年版プレストレストコンクリート造技術基準解説及び設計・計算例』（２００９年版）
日本建築学会　『プレストレストコンクリート設計施工規準・同解説』（２０２２年版）
『プレストレスト鉄筋コンクリート（Ⅱ種ＰＣ）構造設計・施工指針・同解説』（２００３年版）
『建築工事標準仕様書・同解説　ＪＡＳＳ５　鉄筋コンクリート工事』（２０１８年版）
による。

ただし、グラウト工事については
プレストレスト・コンクリート建設業協会『ＰＣグラウト施工マニュアル　建築編　２０１３』（２０１３年版）による。

b．構造方式　本構造の方式は鉄筋コンクリート造とプレストレストコンクリート（以下ＰＣ）造とを組み合わせたものであり、プレストレス導入はポストテンション方式である。
緊張方法については伏図参照とする。

c．施工計画書　施工の順序・方法・工法等の施工計画は工事着手前に充分検討し、その計画書を監督職員に提出し承諾を受ける。

d．ＰＣ工事　ＰＣ工事の施工は、株式会社　建研、オリエンタル白石株式会社、株式会社ピーエス三菱の３社の内１社の責任施工とし、施工の範囲はＰＣ鋼材の配置・緊張・グラウトまでの一式とする。

2．材料

a．鉄　筋　建築工事標準仕様書による。

b．ＰＣ鋼材　ＰＣ鋼材は有害な傷のないもので次に適合するものを使用する。
ＰＣ鋼材より線　ＪＩＳ　Ｇ　３５３６

記　号		SWPR7BL
呼び径		１２．７　ｍｍ
断面積		９８．７１ ｍｍ^2
引張荷重		１８３．０　ｋＮ／本
降伏荷重		１５６．０　ｋＮ／本
許容引張荷重	導入時	１３２．６　ｋＮ／本
	定着完了時	１２４．８　ｋＮ／本
緊張端部設計導入力		１２４．８　ｋＮ／本

※　一時的に過緊張する場合には降伏荷重の０．９倍まで許容するものとする。

c．セメント　セメントはＪＩＳ　Ｒ　５２１０　に規定するポルトランドセメントを使用し、普通ポルトランドセメントを原則とする。

d．コンクリート　コンクリートの品質は次の通りとする。

設計基準強度	３６　Ｎ／ｍｍ^2
プレストレス導入時強度	２７　Ｎ／ｍｍ^2　以上

e．混和剤　コンクリート中に混和剤を用いる場合は、その品質・使用量について監督職員の承諾を受ける。

f．プレストレッシング定着工法

（財）日本建築センターの評定または評価を取得している定着工法（ＶＳＬ工法等）とする。

3．型枠工事

１．緊張端定着具取り付け柱型枠にＰＣ鋼材の貫通孔を空けておき、柱型枠の締め付け金物・バタ角・単管等はＰＣ鋼材位置を避けて配置する。
２．ＰＣ梁型枠の組立は、ＰＣ鋼材の配置作業を考慮して下図実線を先組し、鉄筋ＰＣ鋼材配置後に破線部を組み立てる。



※　施工状況に応じ、型枠の両側面を開放することも検討すること。

３．梁側枠組立に際しては、事前にセパレーターの配置計画を行いＰＣ鋼材位置を避ける。
４．ＰＣ部分は壁の少ない構造であるので、支保工の横つなぎ・筋かい等を充分に入れ横力に対して安全な仮設計画を行う。
５．ＰＣ梁のコンクリートは打ち込みの際、セメントペーストが漏れることのないようにする。
６．型枠及びサポートは必ず２階分のサポートを使用し、コンクリート打設荷重を２層の梁で支持すること。かつサポートの存置期間はプレストレス導入完了までとする。
７．ＰＣ梁の貫通孔は監督職員の指示により行う。

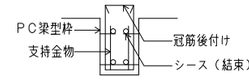
4．鉄筋工事

１．ＰＣ鋼材と鉄筋との取り合い（定着部近傍・直交梁交差部等）は、事前に施工図を作成して充分検討しておく。
２．ＰＣ鋼材配線作業中及び配線後は、原則として電気溶接及び溶断の作業は行わない。やむを得ず行う場合は充分に養生を置くこと。

5．ＰＣ鋼材の配置

１．ＰＣ鋼材（シース）の配置は、支持金物等により正確・強固に取り付ける。

（凡例）



２．緊張端端部は充分養生し、シース内に雨水等が入らないように注意する。
３．シース位置の許容誤差は下記による。
部材の最小寸法が６０ｃｍ未満の部分　±１．０ｃｍ
部材の最小寸法が６０ｃｍ以上の部分　±１．５ｃｍ
上記の許容差は、水平・垂直の方向に別々に適用される。
４．グラウト注入管及び排気管の口元はセメントペースト等が流入しないように充分養生する。

6．コンクリート工事

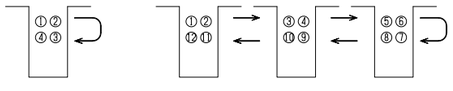
プレストレストコンクリートのコンクリート打設にあたっては次のことに留意する。
１．ＰＣ梁のコンクリートは、原則として打ち継ぎをしてはならない。
２．ＰＣ梁に低強度のコンクリートが混ざらないように打設順序及び養生等を考慮する。
３．定着部近傍は、プレストレス導入時局部応力が発生するので特に入念に締め固める。
４．ＰＣ鋼材・鉄筋・型枠が移動・損傷しないように注意する。
５．ＰＣ鋼材（シース）にはバイブレーターが触れてはならない。
６．スラブにもバイブレーターを使用して充分締め固める。

7．緊張工事

a．準備作業
１．ＰＣ鋼材・定着具の点検・清掃を行う。
２．緊張装置は事前にキャリブレーションを行う。
３．プレストレス導入時期は、コンクリートの圧縮強度が所定の強度以上に達したことを確認した後とし、監督職員の指示により行う。導入時期確認用テストピースは現場水中養生、または現場封かん養生とする。

b．緊張順序　プレストレス導入は、局部的に緊張を完了してしまうことなく構造全体にわたって進めなければならない。

（凡例）　単体　　連続



c．緊張管理　緊張力の管理は緊張装置の荷重計の示度及びＰＣ鋼材の伸びとを測定して行う。

8．グラウト工事

グラウトは、ＰＣ鋼材を充分包み込みＰＣ鋼材を錆させないように保護すると共にＰＣ鋼材とコンクリートとの付着を得ることを目的とする。

a．配　合　グラウトの配合は次を標準とし、圧縮強度は３０Ｎ／ｍｍ^2 以上とする。
セメント・・・普通ポルトランドセメント

水　セメント　比	４５％以下
混和剤（ノンブリージングタイプ）	セメント量の１．０％

グラウトの練り混ぜは電動グラウトミキサーまたはハンドミキサーを用いる。
プレミックスタイプを使用する場合は、監督職員の承諾を得る。

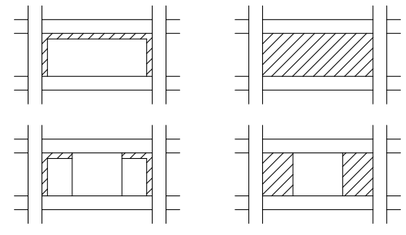
b．作　業
１．シース内の閉塞の有無を確認する。
２．グラウトの注入は、グラウトポンプを用いシース内に空隙を残さないように入念に行う。
３．排出孔より流出するグラウトが注入孔より注入するものと同じ濃度になるまで注入を続け、排出孔を塞ぐ。
４．排出孔を塞いだ後に続いて注入孔を塞ぐ。

9．ＰＣ鋼材の端部処理

ＰＣ鋼材定着具の露出部は、プレストレスト導入後すみやかに無収縮モルタル等で完全に保護する。

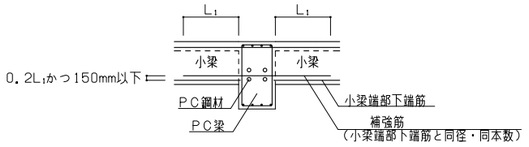
10．壁の取り扱い

ＰＣ梁を含む場合あるいはＰＣ梁に平行な耐震壁・雑壁がある場合は、所定の軸方向圧縮力が導入されるよう以下のような配慮を施す。



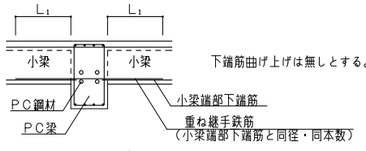
11．小梁下端筋の取り扱い

小梁の下端筋がシースとあたる場合には、シースの配置を優先し、以下のような配慮を施す。

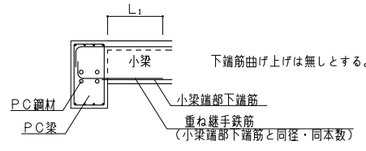


※　重ね継手が可能な場合、下記の通りとする。

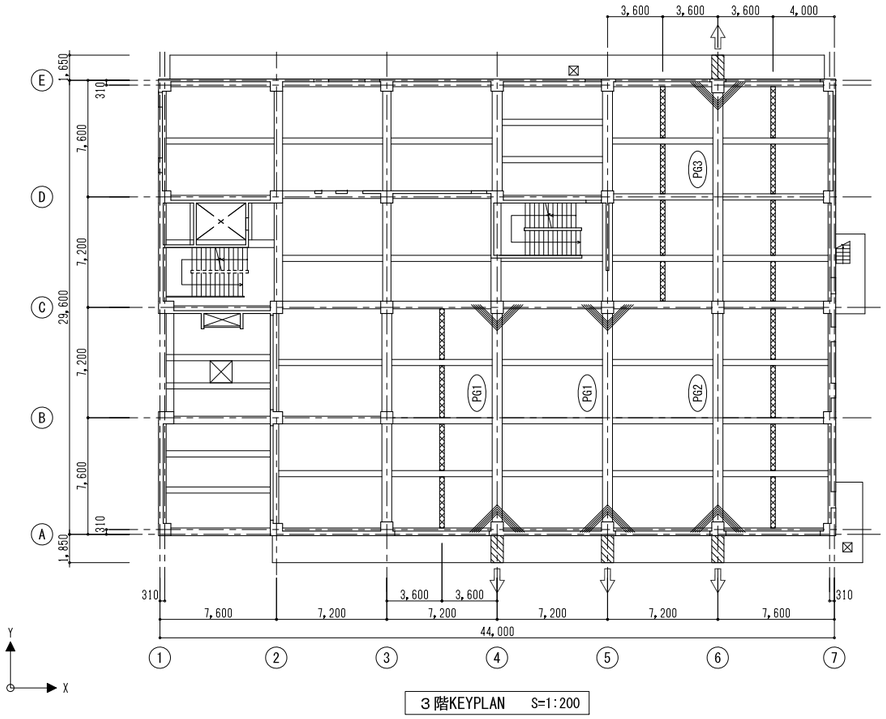
＜連梁＞



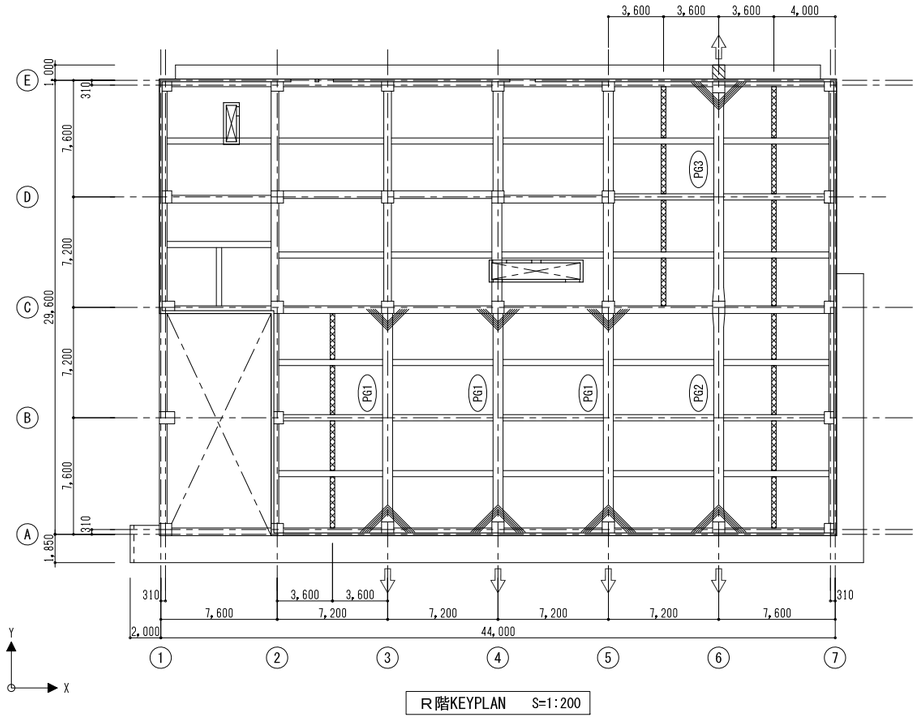
＜端部＞



工事名	図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事	【消防本庁(署)】プレストレストコンクリート特記仕様書		2023/03
管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
NEWJEC　株式会社ニュージェック　小田　文武	安川　雅巳	A1：－ A3：－	S－123



3階KEYPLAN　S=1:200



R階KEYPLAN　S=1:200

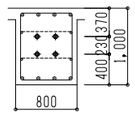
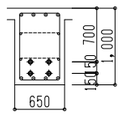
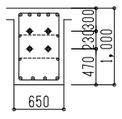
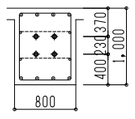
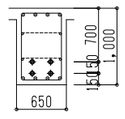
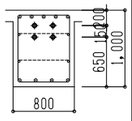
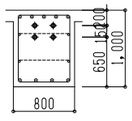
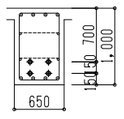
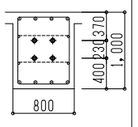
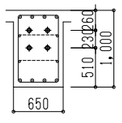
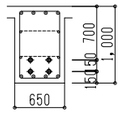
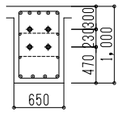
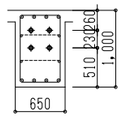
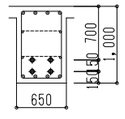
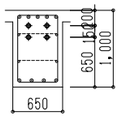
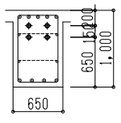
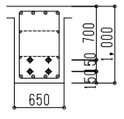
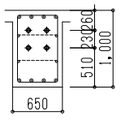
特記なき限り下記による。

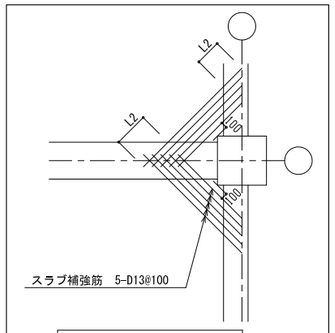
1.⇨　印は、ＰＣ梁緊張方向を示す。
2.▨　は緊張後コンクリートあと施工とする。
3.▩　はスラブスリット（幅300㎜）を示し、PC緊張後コンクリート打設するものとする。

特記なき限り下記による。

1.⇨　印は、ＰＣ梁緊張方向を示す。
2.▨　は緊張後コンクリートあと施工とする。
3.▩　はスラブスリット（幅300㎜）を示し、PC緊張後コンクリート打設するものとする。

ＰＣ梁リストS=1:40　特記外は下記に依る
・幅止め筋 D10-┐ -@1000

符　号	PG1			PG2			PG3		
位　置	Ⓐ通 端	中　央	Ⓒ通 端	Ⓐ通 端	中　央	Ⓒ通 端	Ⓒ通 端	中　央	Ⓔ通 端
R 階									
Ｂ×Ｄ	800×1,000	650×1,000	650×1,000	800×1,000	650×1,000	800×1,000	800×1,000	650×1,000	800×1,000
上端筋	4-D25	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25	5-D25	5-D25	4-D25	4-D25
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25
ＳＴＰ	□-D13@100	□-D13@150	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@150	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@150	□-D13@100
腹　筋	4-D10			4-D10			4-D10		
ケーブル	4c-7-SWPR7BL-12.7mm			4c-7-SWPR7BL-12.7mm			4c-7-SWPR7BL-12.7mm		
備　考	――			――			――		
3 階									
Ｂ×Ｄ	650×1,000	650×1,000	650×1,000	650×1,000	650×1,000	650×1,000	650×1,000	650×1,000	650×1,000
上端筋	4-D25	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25	5-D25	5-D25	4-D25	4-D25
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25
ＳＴＰ	□-D13@100	□-D13@150	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@150	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@150	□-D13@100
腹　筋	4-D10			4-D10			4-D10		
ケーブル	4c-7-SWPR7BL-12.7mm			4c-7-SWPR7BL-12.7mm			4c-7-SWPR7BL-12.7mm		
備　考	――			――			――		



スラブ補強筋要領図

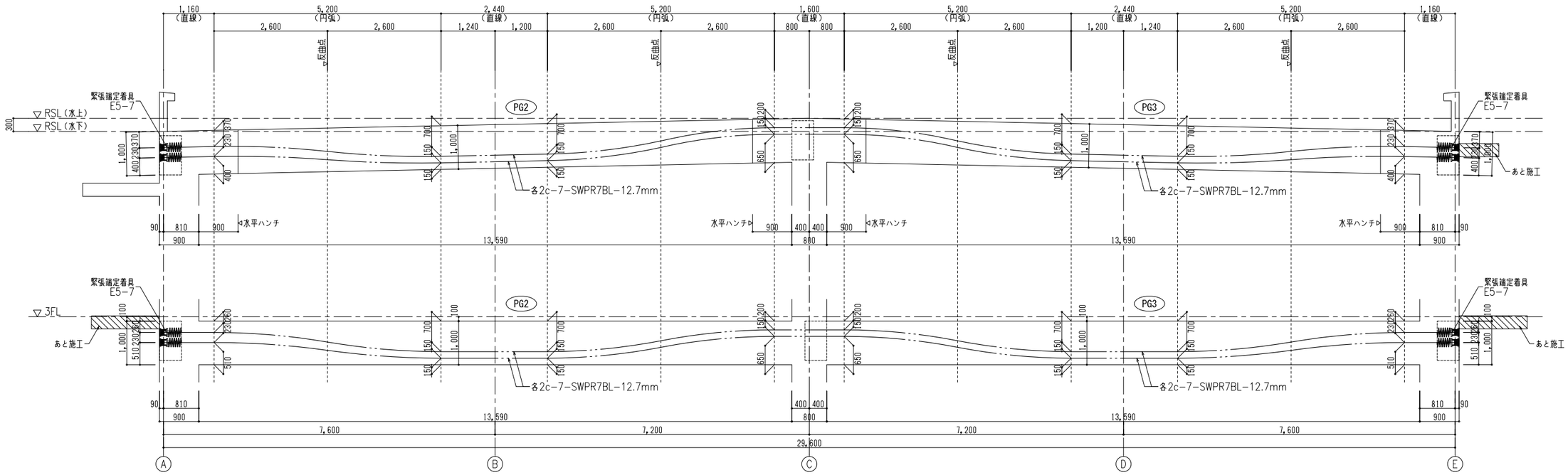
※スラブ補強筋は、スラブ上端筋の下に配置する。

使用材料表

コンクリート	設計基準強度		Fc=36N/mm²
	導入時強度		Fci=27N/mm²
ＰＣ鋼材	名　　称		7-SWPR7BL-12.7mm
	引張荷重		Pu=1,281 kN/ケーブル
	降伏荷重		Py=1,092 kN/ケーブル
	許容引張荷重	導入時	928 kN/ケーブル
		定着時	874 kN/ケーブル
	緊張端部設計導入力		Po= 874 kN/ケーブル
鉄　　筋	SD295（～D16）,SD345（D19～D25）,SD390(D29～)		

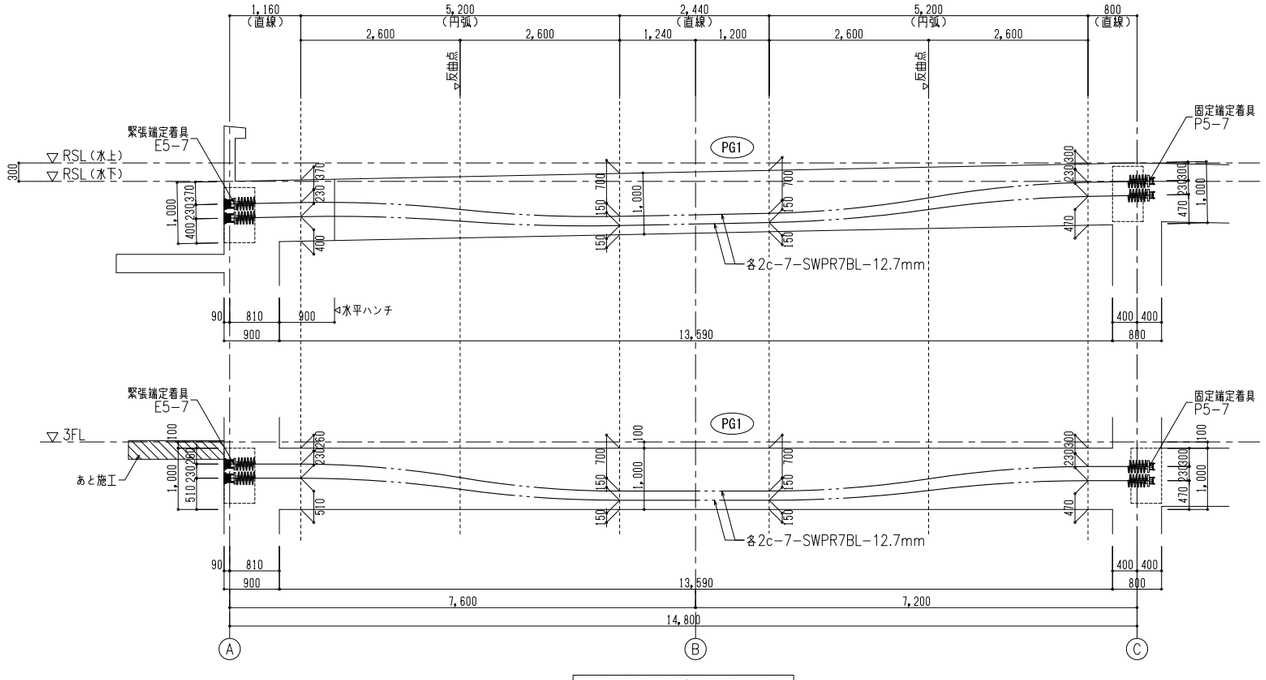
工事名	図面の名称	作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事	【消防本庁(署)】 PC梁 KEYPLAN, 梁リスト	2023/03

管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
NEWJEC 株式会社ニュージェック　小田　文武	安川　雅巳	A1:1/200,40 A3:1/400,80	S - 124



6通り 配線断面図 S=1:50

※. ▨ は緊張後コンクリートあと施工とする。

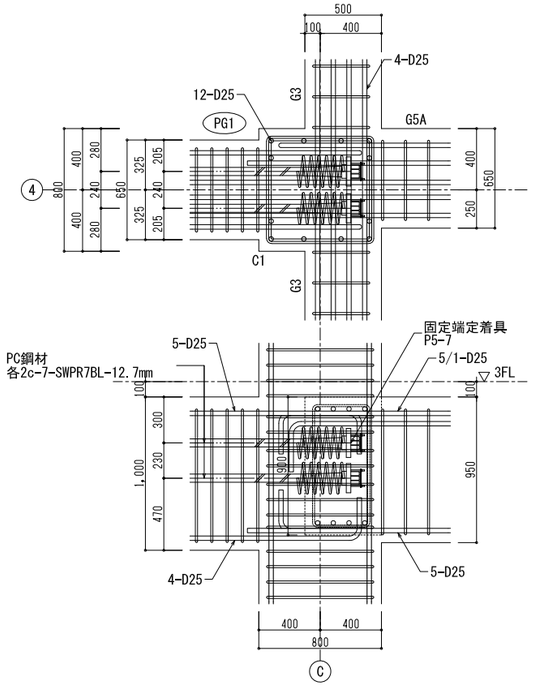


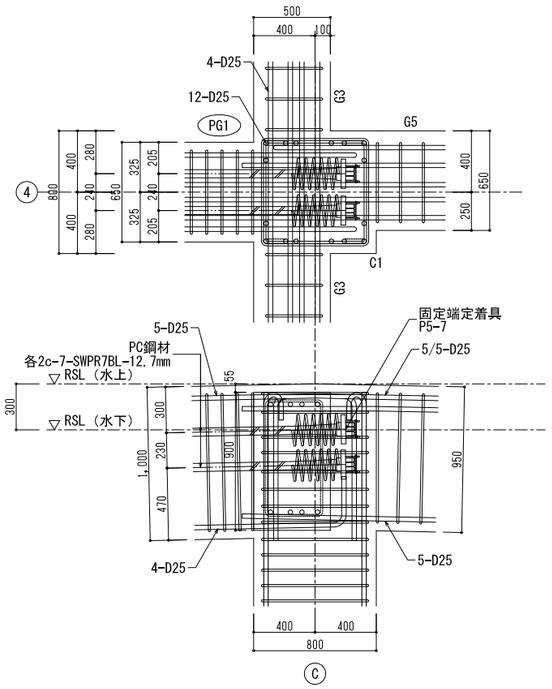
3～5通り 配線断面図S=1:50

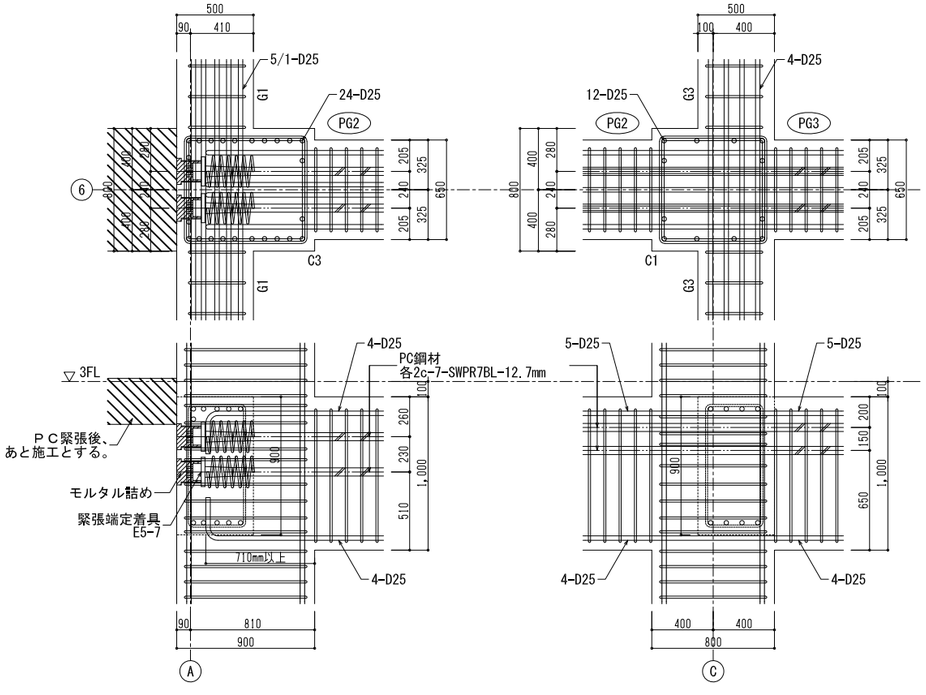
※. ▨ は緊張後コンクリートあと施工とする。

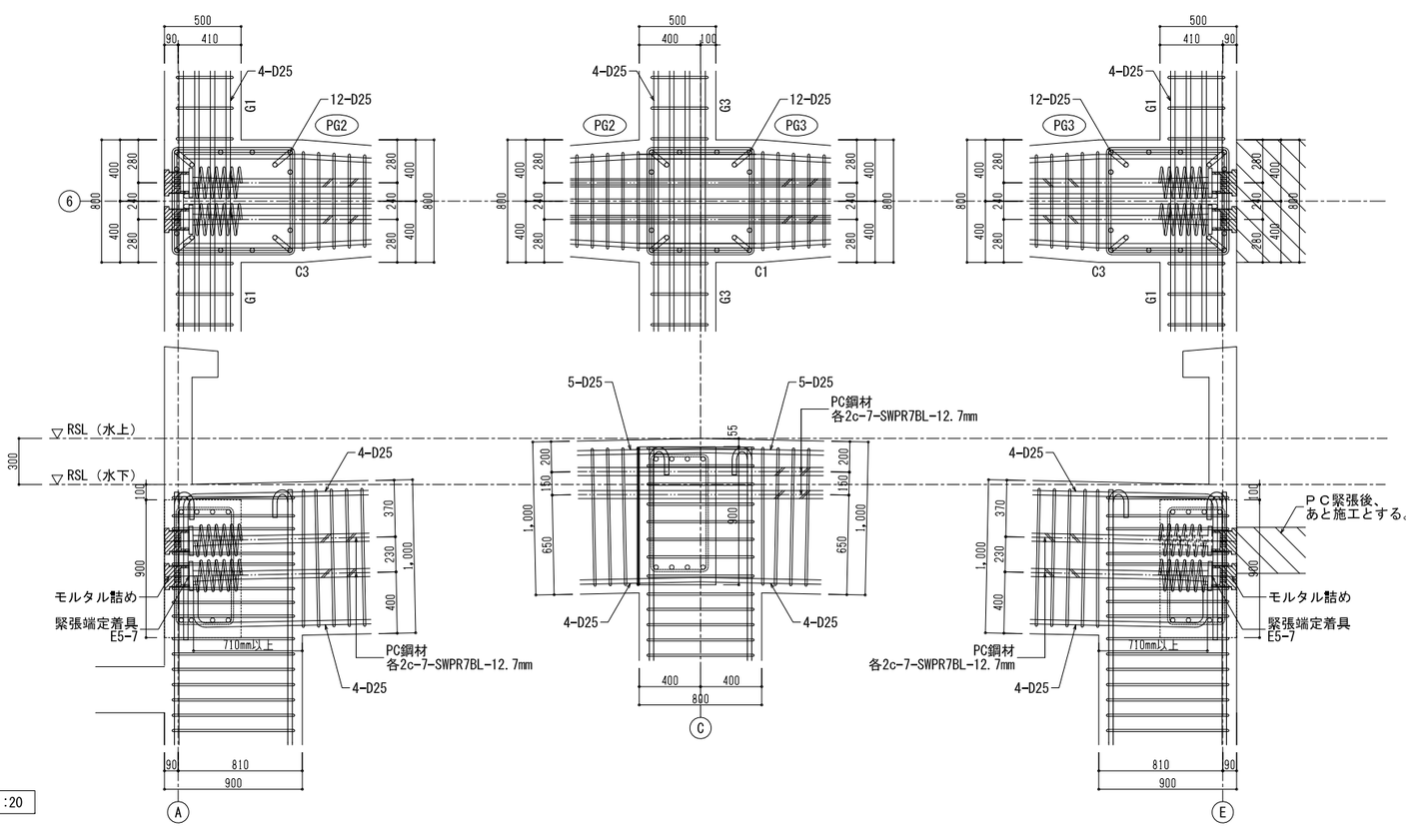
※. 3通りはR階のみ。

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 PC梁配線断面図		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田 文武	設計者名 安川 雅巳	縮尺 A1:1/ 50 A3:1/100	図面番号 S - 125



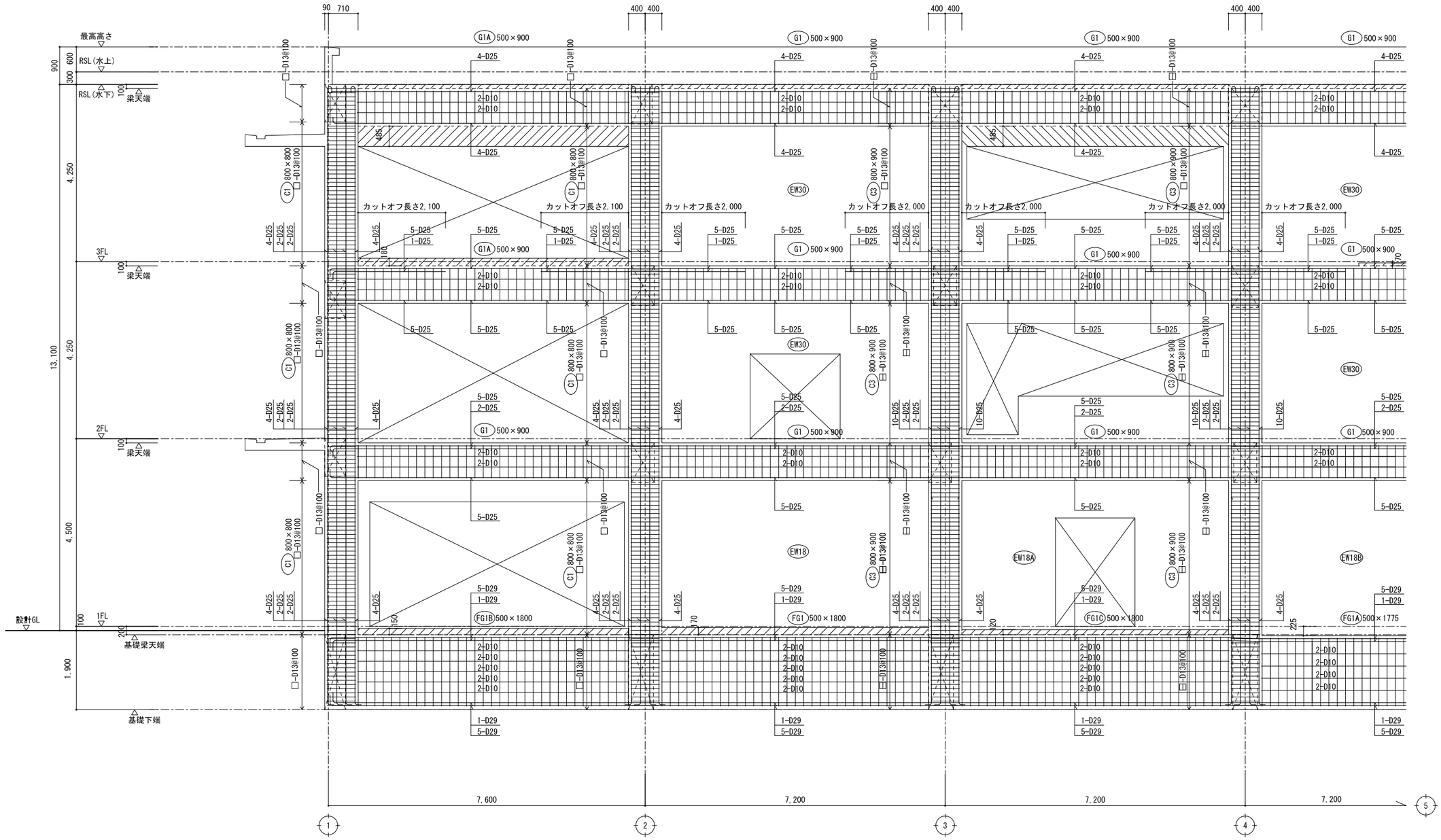






定着端部群詳細図 S=1:20

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 PC梁定着端部群詳細図		2023/03
NEWJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田 文武	設計者名 安川 雅巳	縮尺 A1:1/20 A3:1/40	図面番号 S - 126

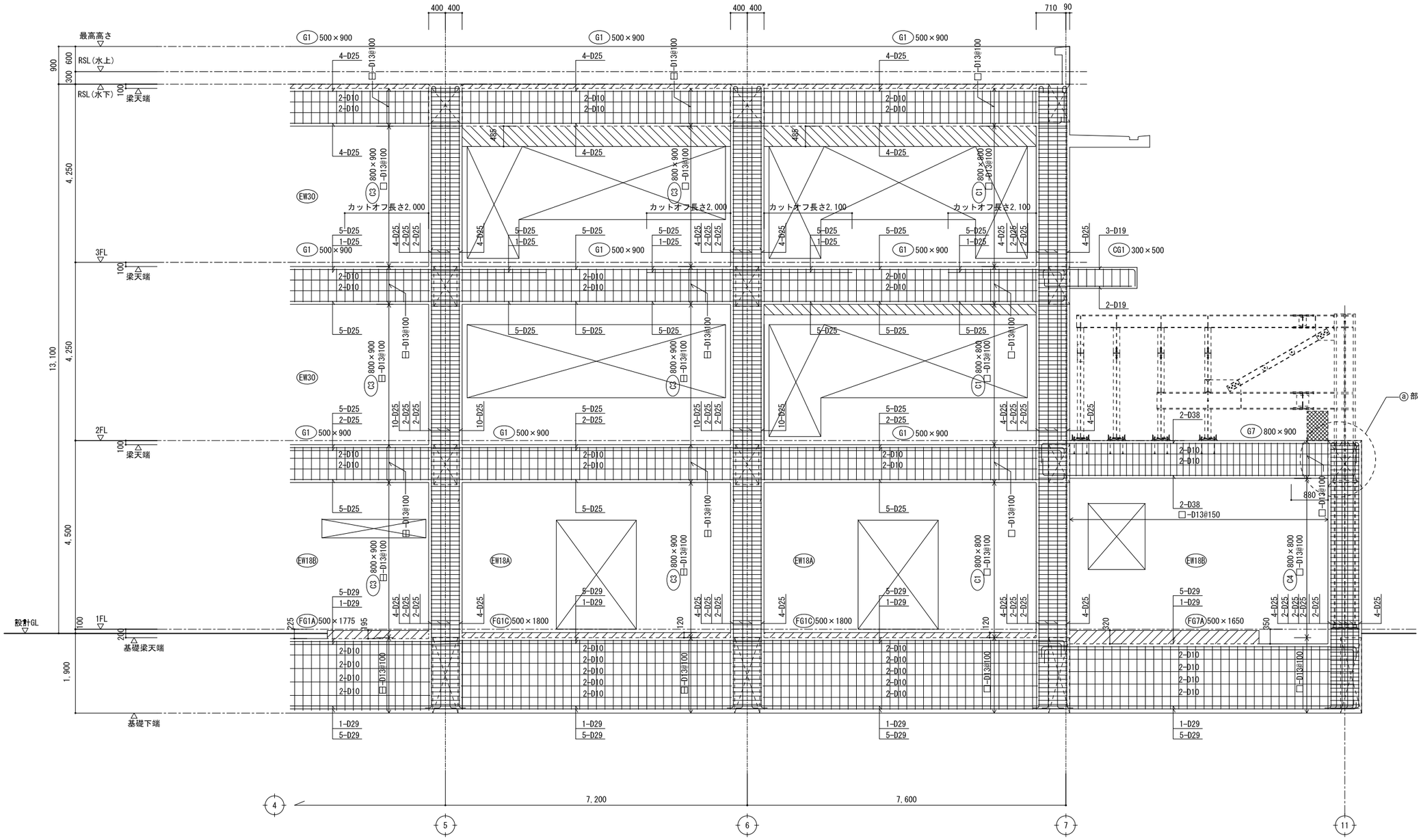


A通架構配筋図(1)　1/50

特記なき限り下配とする。

- 壁はW18とする。
- ▨ 梁増打ちコンクリートを示す。
- ▧ 壁増打ちコンクリートを示す。
- スターラップは □-D13@200とする。

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 架構配筋図(1)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/ 50 A3:1/100	図面番号 S - 127

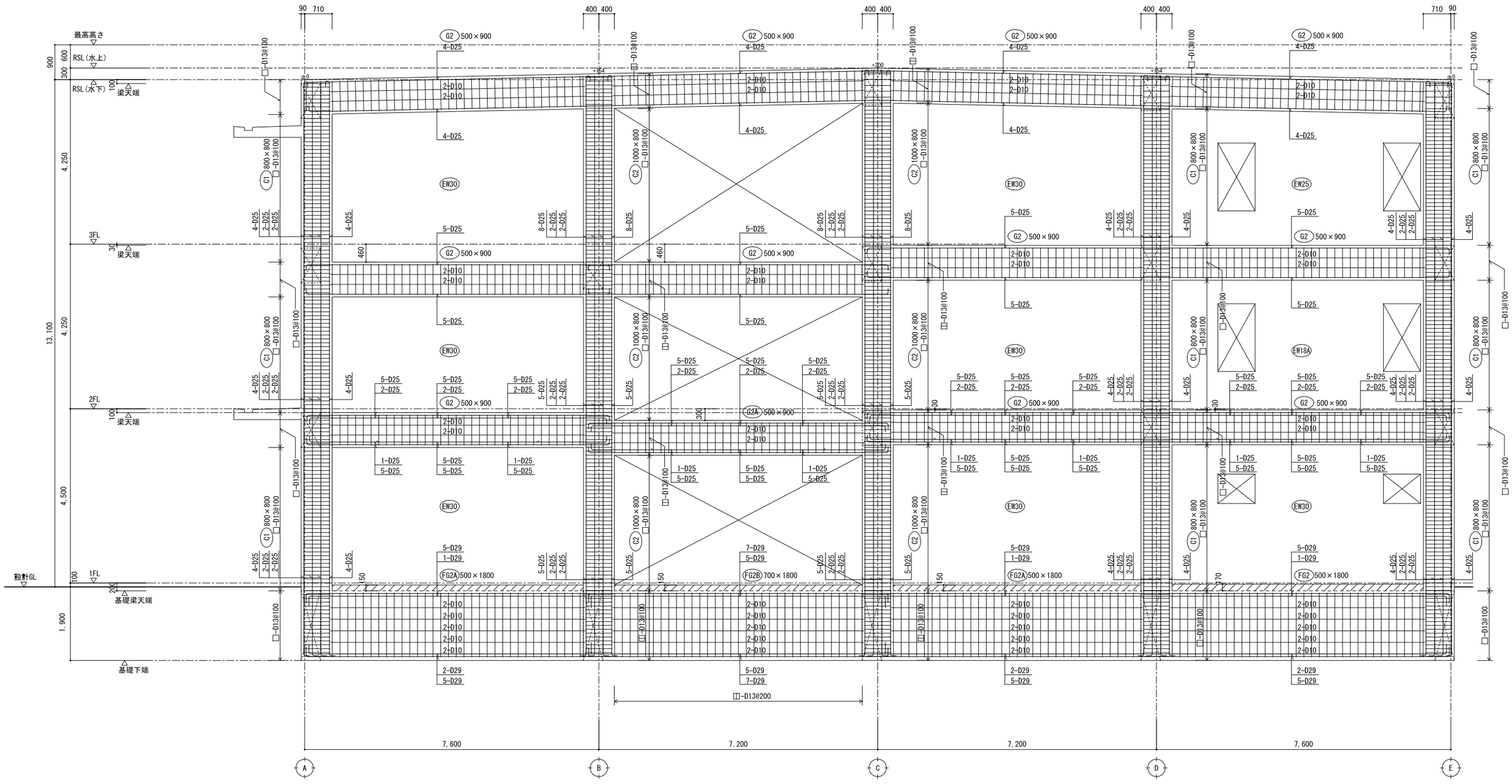


A通架構配筋図(2)　1/50

特記なき限り下記とする。

- 壁はW18とする。
- ▨ 梁増打ちコンクリートを示す。
- ▧ 壁増打ちコンクリートを示す。
- スターラップは □-D13@200とする。
- ▩ は脱落防止立上がりコンクリートとする。
  (B500×D500×H700)
- U字補強筋位置及び配筋要領は雑配筋図(3)S-134に依る。(ⓐ部)

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 架構配筋図(2)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/ 50 A3:1/100	図面番号 S - 128



1通架構配筋図　1/50

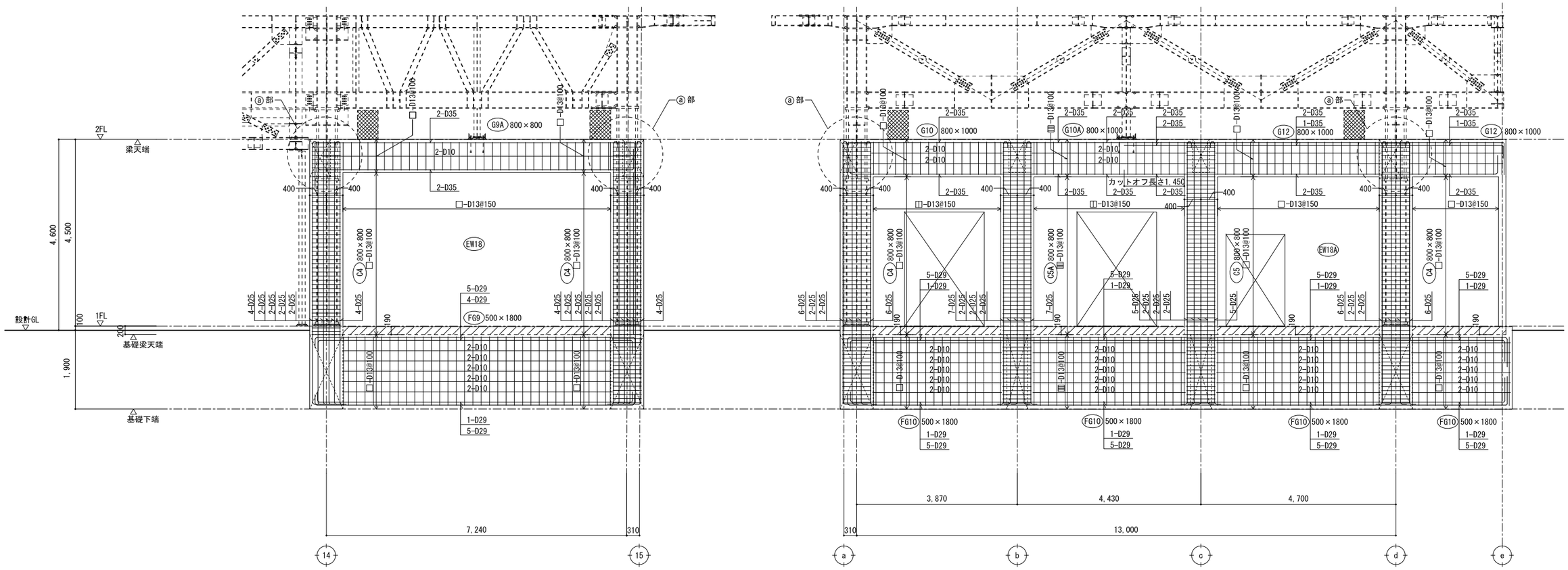
特記なき限り下配とする。

・壁はW18とする。

・ ▨ 梁増打ちコンクリートを示す。

・スターラップは □-D13@200とする。

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 架構配筋図(3)		2023/03
	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
NEXJEC 株式会社ニュージェック	小田　文武	安川　雅巳	A1:1/ 50 A3:1/100	S - 129



a通架構配筋図　1/50

特配なき限り下配とする。

・壁はW18とする。

・ ▨ 梁増打ちコンクリートを示す。

・スターラップは □-D13@200とする。

・ ▩ は脱落防止立上がりコンクリートとする。
(B500×D500×H700)

・U字補強筋位置及び配筋要領は雑配筋図(3)S-134に依る。（ⓐ部）

14通架構配筋図　1/50

特配なき限り下配とする。

・壁はW18とする。

・ ▨ 梁増打ちコンクリートを示す。

・スターラップは □-D13@200とする。

・ ▩ は脱落防止立上がりコンクリートとする。
(B500×D500×H700)

・U字補強筋位置及び配筋要領は雑配筋図(3)S-134に依る。（ⓐ部）

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 架構配筋図(4)		2023/03
	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
NEXJEC 株式会社ニュージェック	小田　文武	安川　雅巳	A1:1/ 50 A3:1/100	S - 130

プレグラウトＰＣスラブ特記仕様書

1．一般事項

a．適用の範囲

本工事は設計図書並びに本特記仕様書の他、
全国官報販売協同組合　『２００９年版プレストレストコンクリート造技術基準解説及び設計・計算例』
日本建築学会　『プレストレストコンクリート設計施工規準・同解説』
『プレストレスト鉄筋コンクリート（Ⅲ種ＰＣ）構造設計・施工指針・同解説』
『建築工事標準仕様書・同解説　ＪＡＳＳ５　鉄筋コンクリート工事』
による。

b．構造方式

本構造の方式は鉄筋コンクリート造のスラブにプレグラウトＰＣ鋼材を用いてプレストレスを導入して
ひび割れ・たわみ等の制御を行うものとし、プレストレス導入はポストテンション方式である。

c．施工計画書

施工の順序・方法・工法等の施工計画は工事着手前に充分検討し、その計画書を監督職員に提出し
承認を受ける。

d.PC工事

PC工事の施工は、株式会社　建研、オリエンタル白石、株式会社ピーエス三菱の３社の内の１社の
責任施工とし、施工の範囲はPC鋼材の配置・緊張・グラウトまでの一式とする。

2．材　料

a．鉄　筋

建築工事標準仕様書による。

b．ＰＣ鋼材

プレグラウトPC鋼材（以下PC鋼材という）は有害な傷のないもので次に適合するものを使用する。

記　号		SWPR19L
呼び径		１７．８　mm
断面積		２０８．４　mm²
引張荷重		３８７．０　ｋＮ／本
降伏荷重		３３０．０　ｋＮ／本
許容引張荷重	導入時	２８０．５　ｋＮ／本
	定着完了時	２６４．０　ｋＮ／本
緊張端部設計導入力		２６４．０　ｋＮ／本

c．コンクリート

コンクリート品質は次のとおりとする。

設計基準強度	36　N／mm²
プレストレス導入時強度	24　N／mm²

d. 混和剤

コンクリート中に混和剤を用いる場合は、その品質・使用量について監督職員の承認を受ける。

3．型枠工事

緊張端定着具取り付け型枠にＰＣ鋼材の貫通孔を空けておき、型枠の締め付け金物・バタ角・単管
等はＰＣ鋼材位置を避けて配置する。

4．鉄筋工事

１．ＰＣ鋼材と鉄筋との取り合い（定着部近傍）は、事前に施工図を作成して充分検討しておく。
２．ＰＣ鋼材配線作業中及び配線後は、原則として電気溶接及び溶断の作業は行わない。
やむを得ず行う場合は充分に養生を置くこと。

5．ＰＣ鋼材の配置

１．ＰＣ鋼材の配置は、支持金物等により正確・強固に取り付ける。
２．緊張端端部は充分養生し、セメントペーストが入らないように注意する。
３．シースのレベル許容誤差は、下記による。
スラブ厚が２０ｃｍ未満の部分　±０．７ｃｍ
スラブ厚が２０ｃｍ以上の部分　±１．０ｃｍ

6．コンクリート工事

コンクリート打設にあたっては次のことに留意する。
１．定着部近傍はプレストレス導入時局部応力が発生するので特に入念に締め固める。
２．ＰＣ鋼材・鉄筋が移動・損傷しないように注意する。
３．ＰＣ鋼材には、バイブレータが触れてはならない。

7．緊張工事

a．準備作業

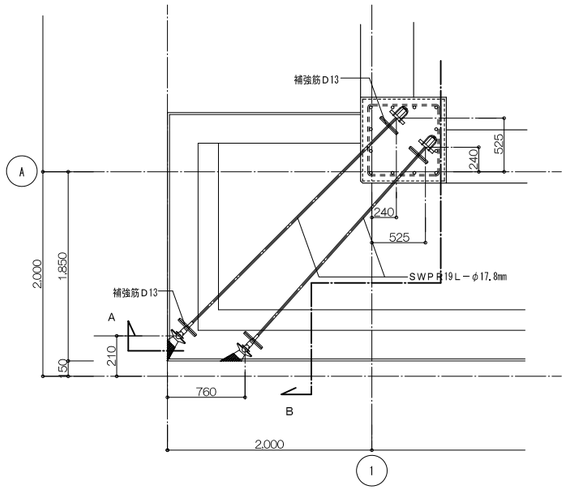
１．ＰＣ鋼材・定着具の点検・清掃を行う。
２．緊張装置は事前にキャリブレーションを行う。
３．プレストレス導入時期は、コンクリートの圧縮強度が所定の強度（24N／㎟）に
達したことを確認した後とし、監督職員の指示により行う。
導入時期確認用テストピースは現場水中養生または現場封かん養生とする。

b．緊張管理

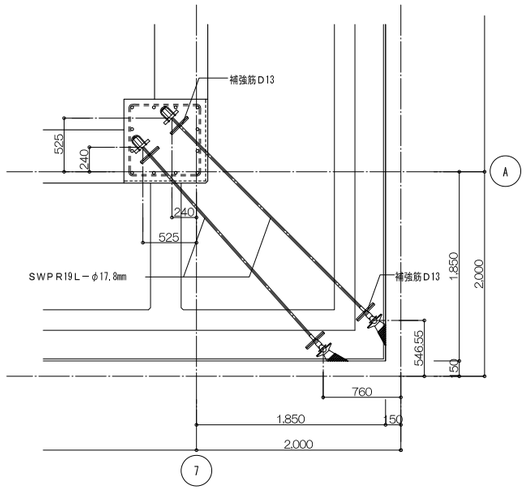
緊張力の管理は緊張装置の荷重計の示度及びＰＣ鋼材の伸びを測定して行う。

8．ＰＣ鋼材の保護

ＰＣ鋼材定着具の露出部は、プレストレス導入後すみやかに無収縮モルタル等で完全に保護する。

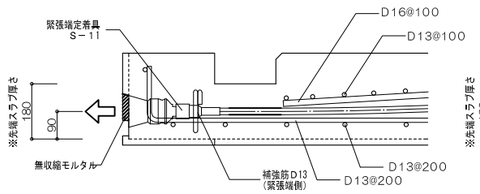


2F・RF

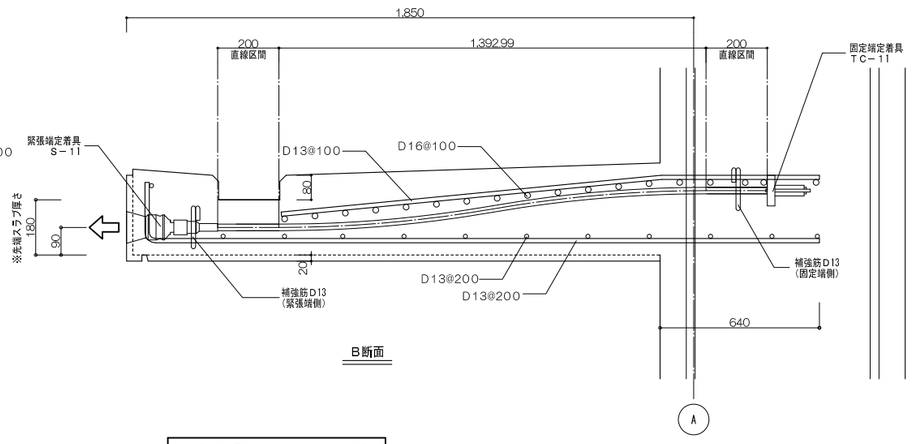


RF

PC鋼材平面割付図　S＝1：30



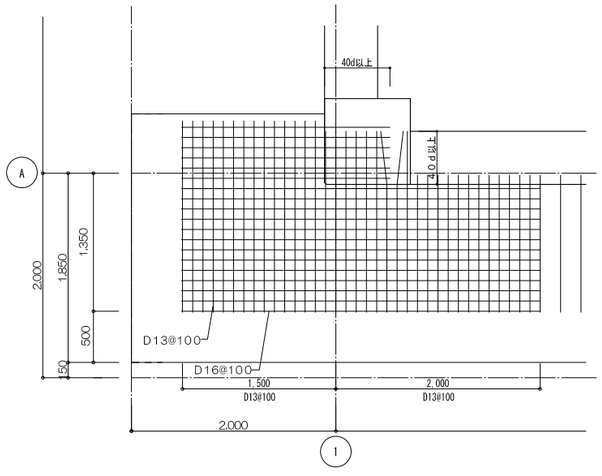
A断面



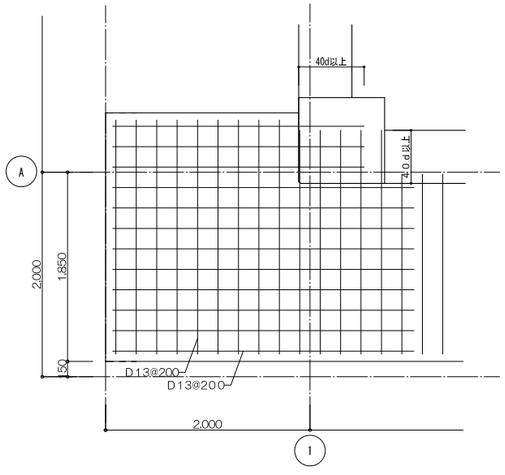
B断面

断面詳細図　S＝1：10

※⇦　は緊張方向を示す。



上端筋

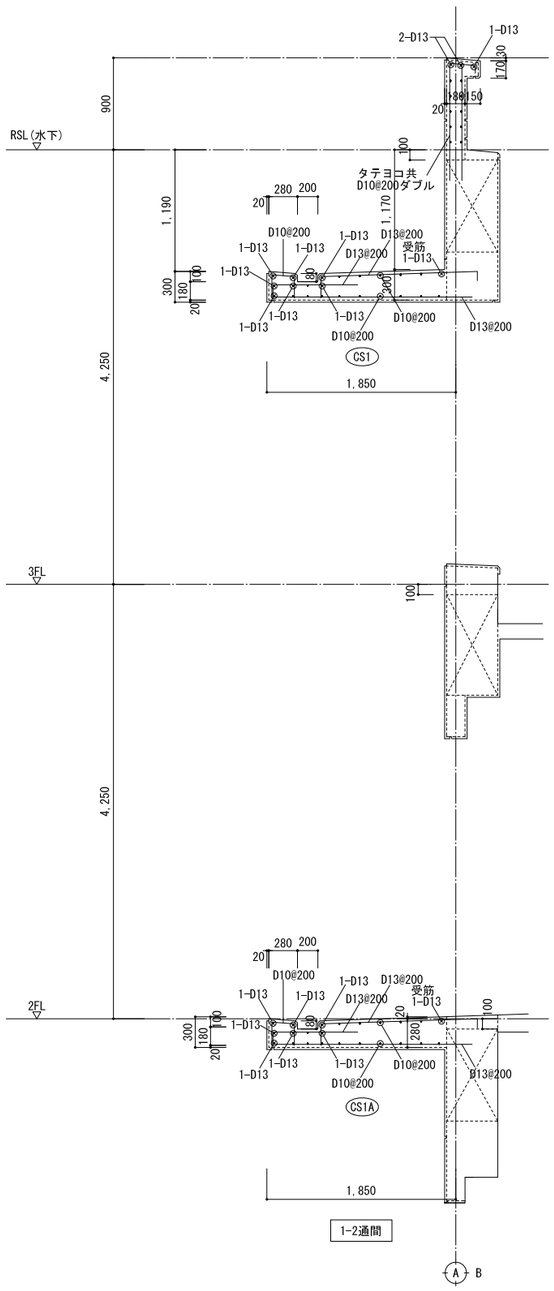


下端筋

配筋要領図　S＝1：30

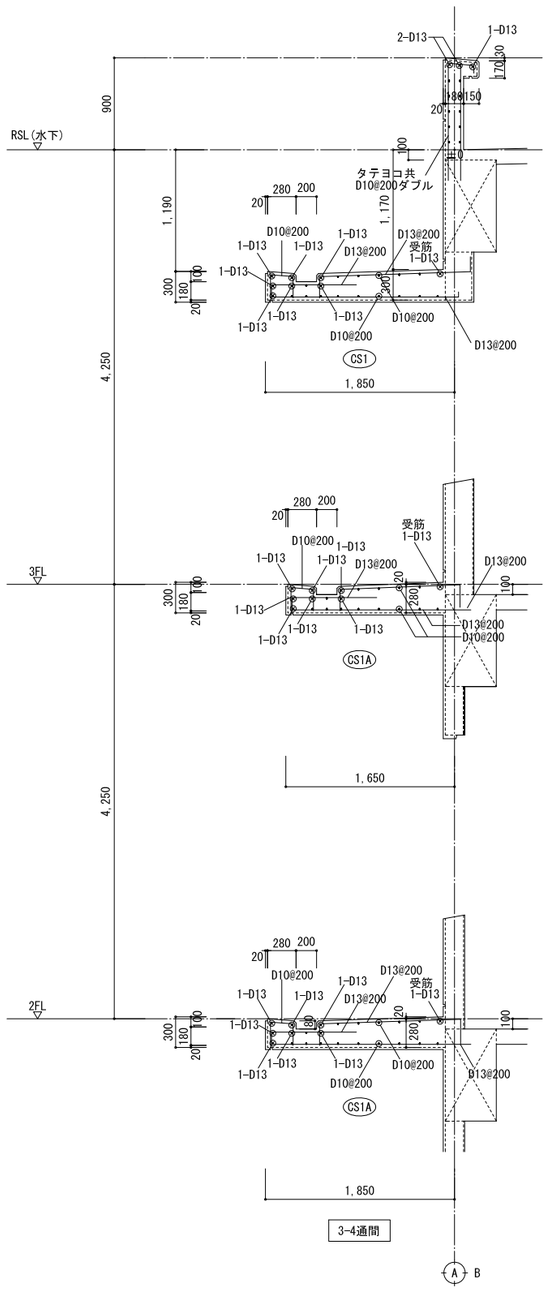
工事名			図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事			【消防本庁（署）】 ＰＣ特記仕様書・平面割付図・詳細図		2023/03
	管理技術者名		設計者名	縮尺	図面番号
NEXJEC　株式会社ニュージェック	小田　文武		安川　雅巳	A1:1/10,1/30 A3:1/20,1/60	S－131

CS1・CS1A（1～2通）配筋図　1/30



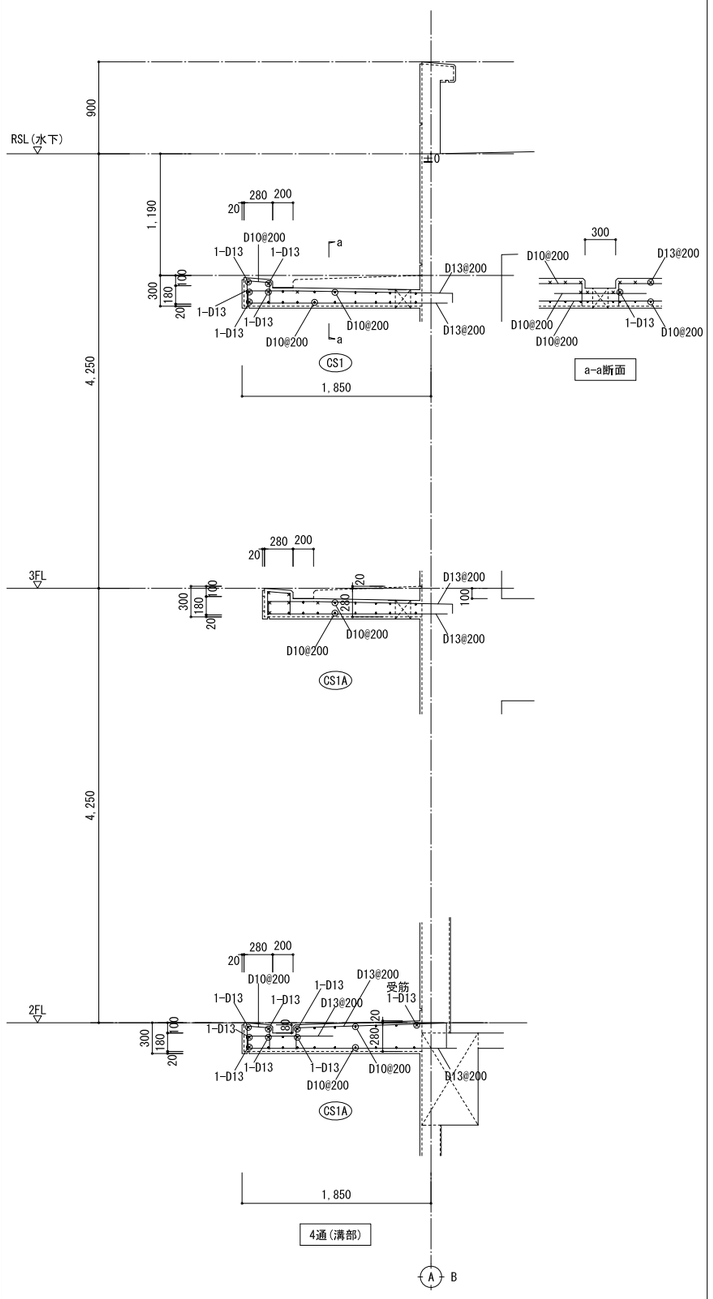
CS1・CS1A（1～2通）配筋図　1/30

CS1・CS1A（3～4通）配筋図　1/30



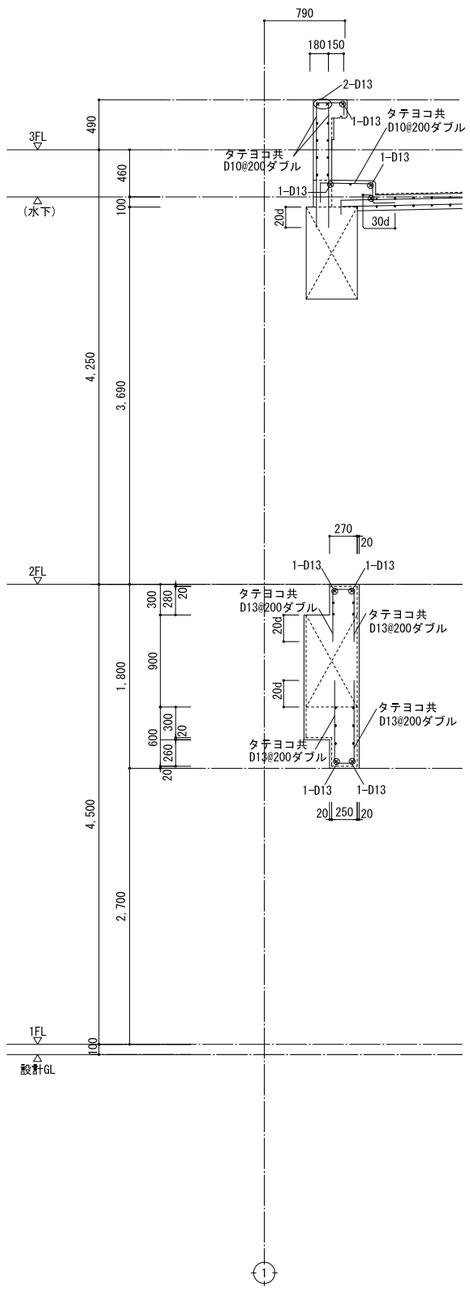
CS1・CS1A（3～4通）配筋図　1/30

CS1・CS1A（4通溝部）配筋図　1/30



CS1・CS1A（4通）配筋図　1/30

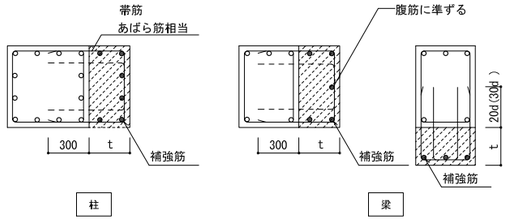
カーテンウォール部（1通B～C間）配筋図　1/30



カーテンウォール部（1通）配筋図　1/30

工事名	図面の名称	作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事	【消防本庁(署)】 雑配筋図 (1)	2023/03
管理技術者名	設計者名	縮尺 / 図面番号
NEWJEC 株式会社ニュージェック　小田　文武	安川　雅巳	A1:1/30 A3:1/60 / S－132

柱,梁打増し配筋要領図(脱落防止立ち上がりコンクリートも含む)



・▨は打増し部分を示す。－－－－－と配筋してもよい。

・補強筋 定着20dは、主要な耐力壁等が取付く場合で設計図による。

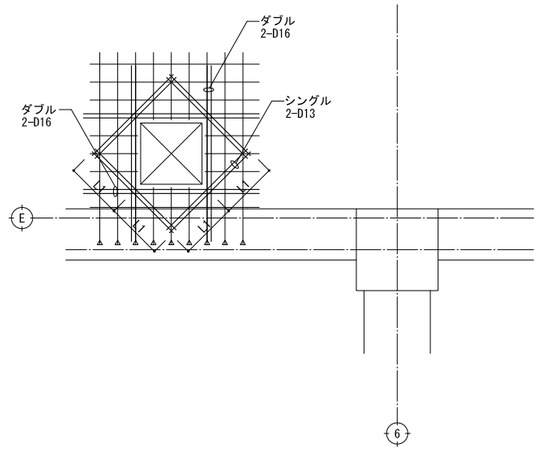
t≦50　補強なし　　50＜t≦100　D13@300

100＜t≦200　D16@300　　200＜t≦300　D16@200

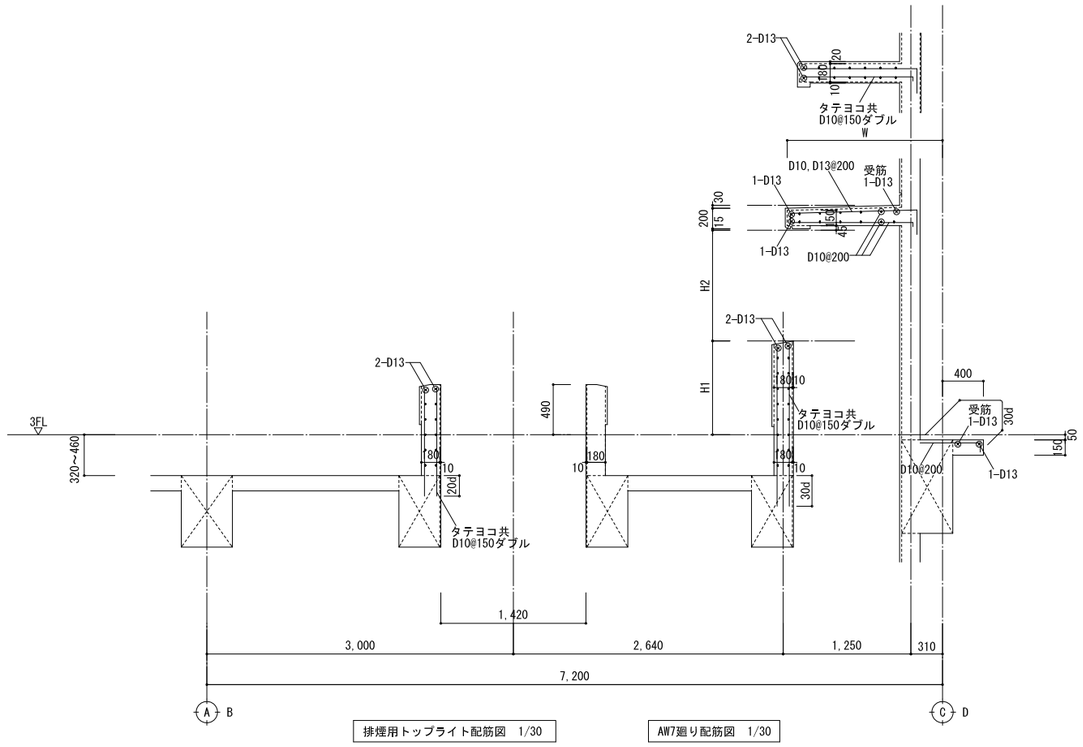
t＞300　D19@200

原則として、構造図に記載された箇所以外に打増ししてはならない。

避難ハッチ開口部配筋図　1/30



排煙用トップライト・ハイサイドライトAW7廻り配筋図　1/30

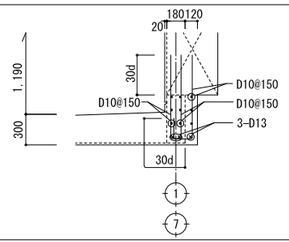


排煙用トップライト配筋図　1/30

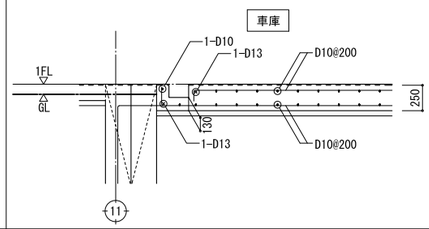
AW7廻り配筋図　1/30

※W、H1、H2寸法は意匠図による。

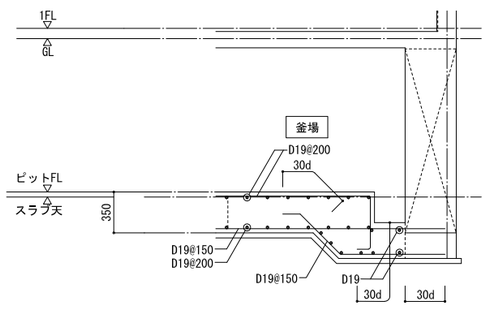
梁下壁増打配筋要領図



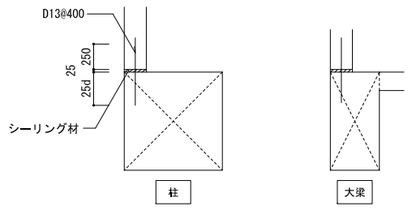
車庫配筋図



釜場配筋図　1/30

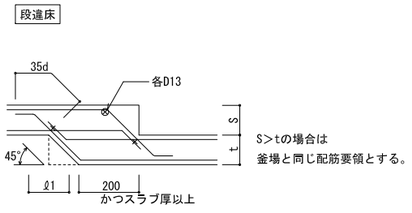


壁スリット配筋要領図



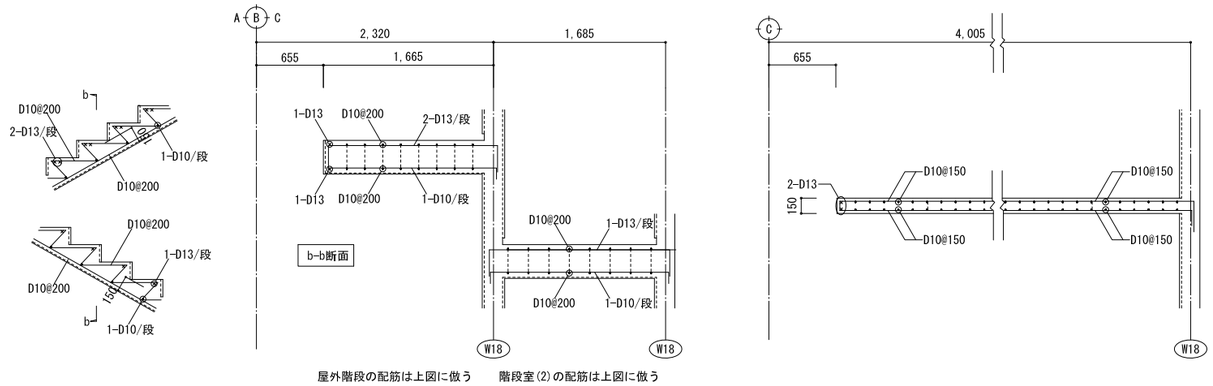
※鉛直スリット幅は30mmとする。

段違床スラブ配筋要領図



S＞tの場合は
釜場と同じ配筋要領とする。

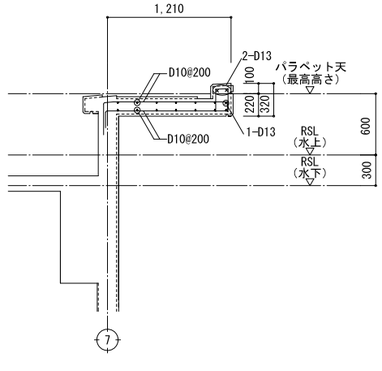
階段室配筋図　1/30



階段配筋図　1/30

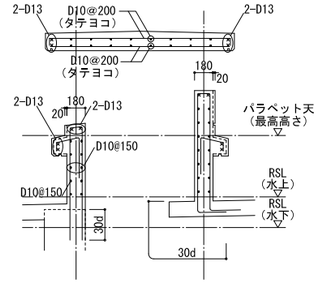
階段室(1)の配筋を示す

屋外階段の配筋は上図に倣う　　階段室(2)の配筋は上図に倣う

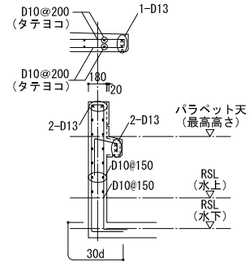


屋外階段配筋図　1/30

ハト小屋配筋図　1/30



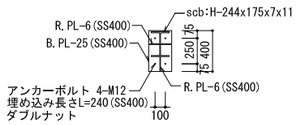
ハト小屋（1）配筋図　1/30



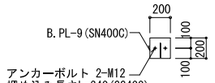
ハト小屋（2）配筋図　1/30

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 雑配筋図 (2)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/30 A3:1/60	図面番号 S - 133

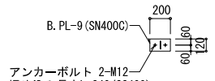
ⓐ部群細図　1/30



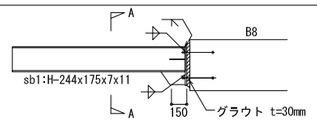
A-A sec



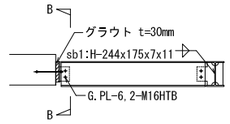
B-B sec



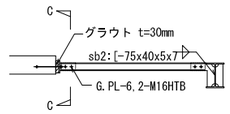
C-C sec



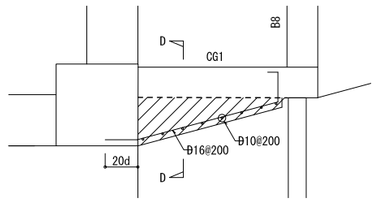
sb1:H-244x175x7x11(Y方向)　接合部群細図

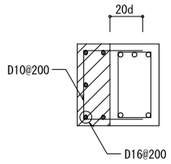


sb1:H-244x175x7x11(X方向)　接合部群細図



sb2:[-75x40x5x7 接合部群細図

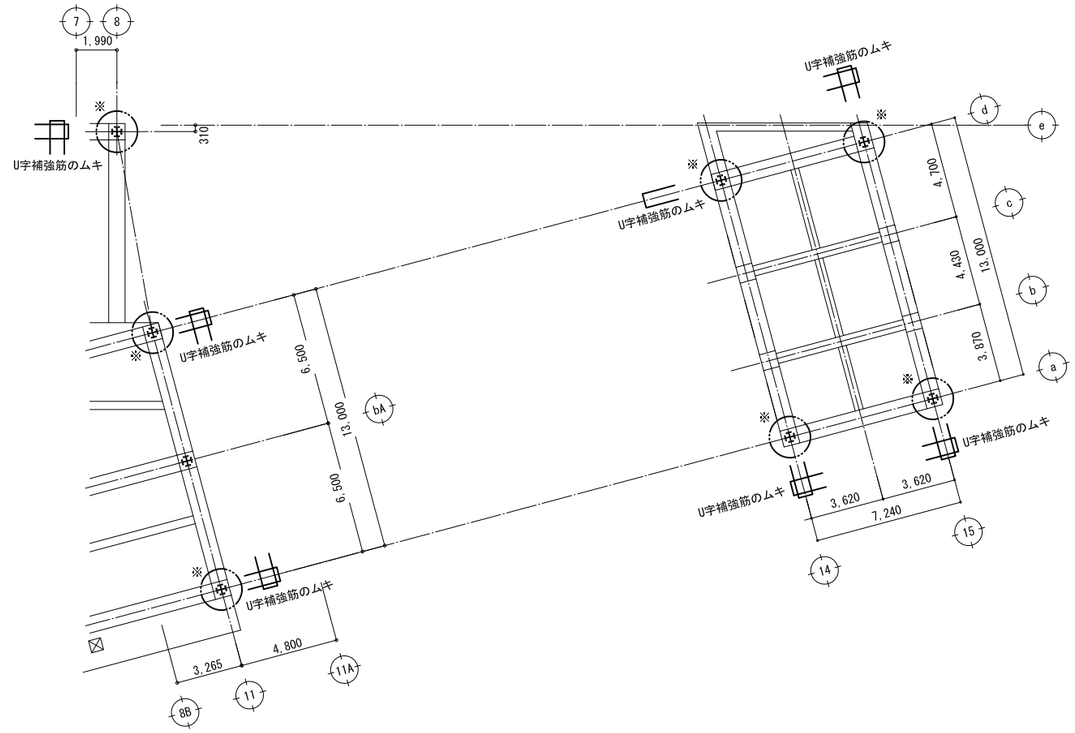




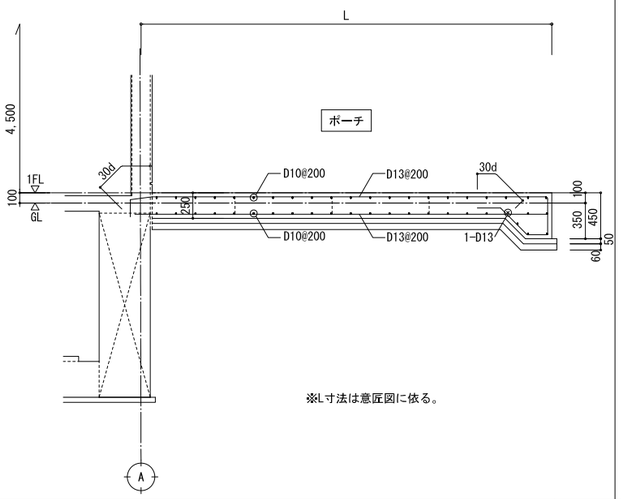
D-D sec

CG1打増配筋

U字補強筋設置箇所(2FL柱位置図)　1/150

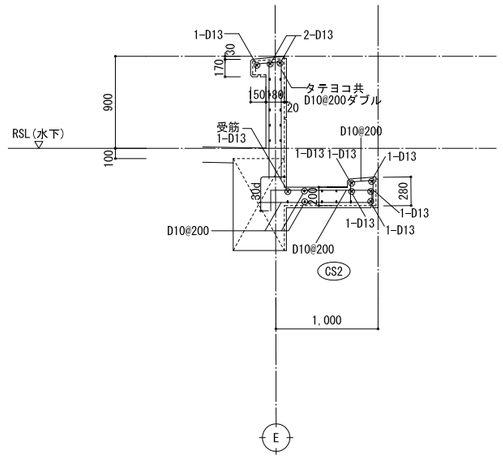


ポーチ配筋図

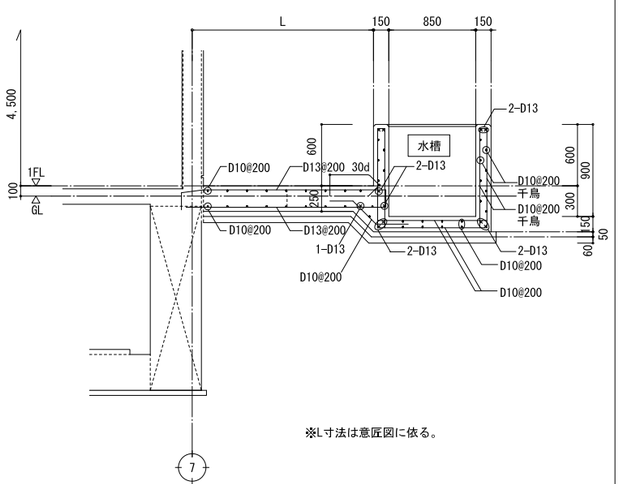


※L寸法は意匠図に依る。

CS2 配筋図　1/30

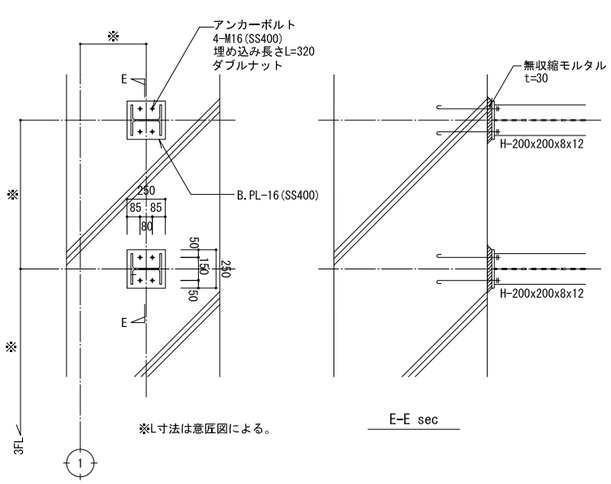


ホースリフター・水槽基礎配筋図　1/30



※L寸法は意匠図に依る。

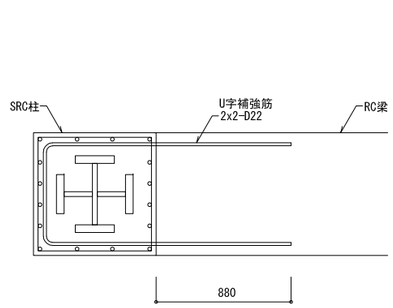
カーテンウォール最上部鉄骨詳細図　1/20



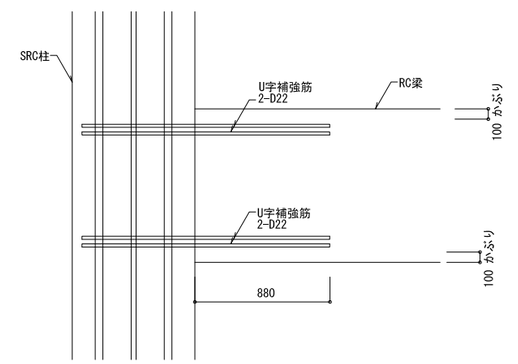
※L寸法は意匠図による。

E-E sec

U字補強筋要領図　1/100



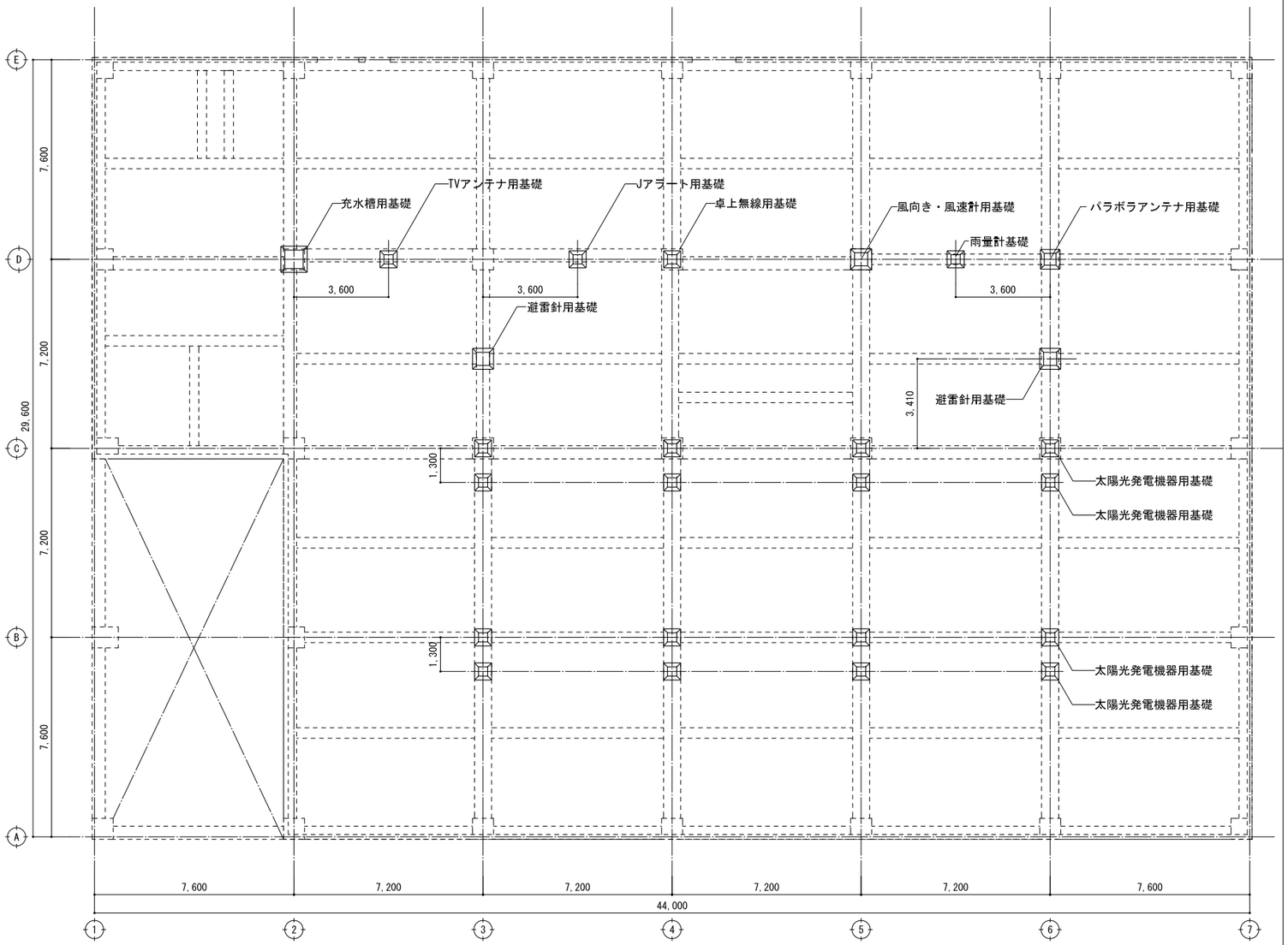
平面図



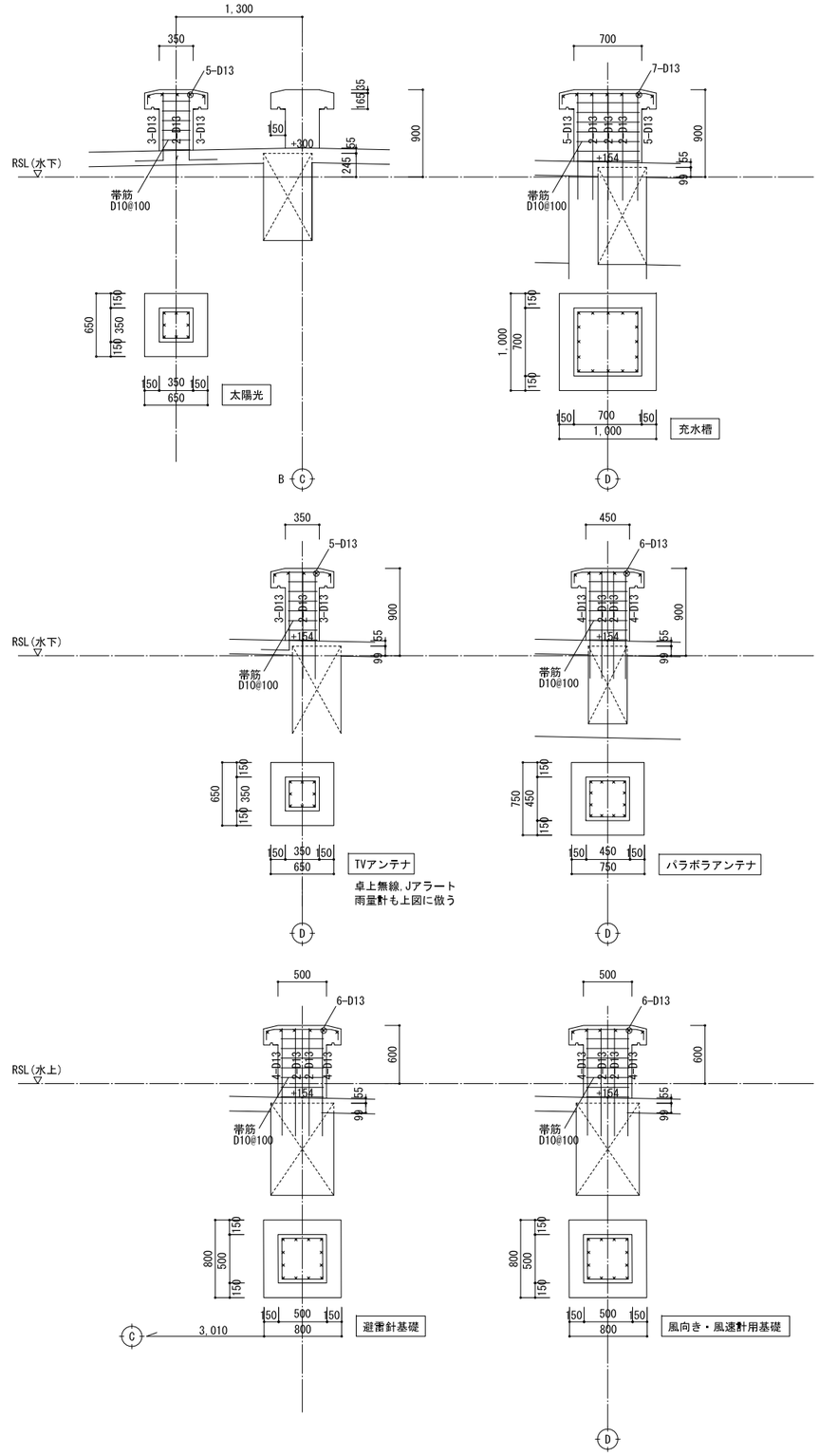
断面図

工事名		図面の名称	作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 雑配筋図 (3)	2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 / 小田　文武	設計者名 / 安川　雅巳	縮尺 / A1:1/20, 1/30, 1/100, 1/150 A3:1/40, 1/60, 1/200, 1/300	図面番号 / S - 134

屋上機械基礎配置図　1/100



屋上機械基礎配筋図　1/30



工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 屋上機械基礎配筋図		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/30,100 A3:1/60,200	図面番号 S - 135

B×D	300×1,820
主筋	22-D13
フープ	□D13@200

主筋	8-D19,16-D13
フープ	▯D13@100

使用材料	
コンクリート	Fc=21N/mm2
鉄筋	D16以下:SD295A(重ね継手)
	D19以上:SD345(圧接継手,重ね継手も可)
鋼材	STK400:支柱
	SS400:梁
ボルト	アンカーボルト:SS400
	高力ボルト:F8T(溶融亜鉛メッキ)

B×D	400×400
主筋	8-D16
フープ	□D10@100

鉄骨部材リスト	
符号	断面
支柱	φ101.6×3.2
①	H-125×125×6.5×9
②	H-250×250×9×14
③	H-125×125×6.5×9
④	[-75×40×5×7
⑤	H-125×125×6.5×9
⑥	H-200×100×5.5×8

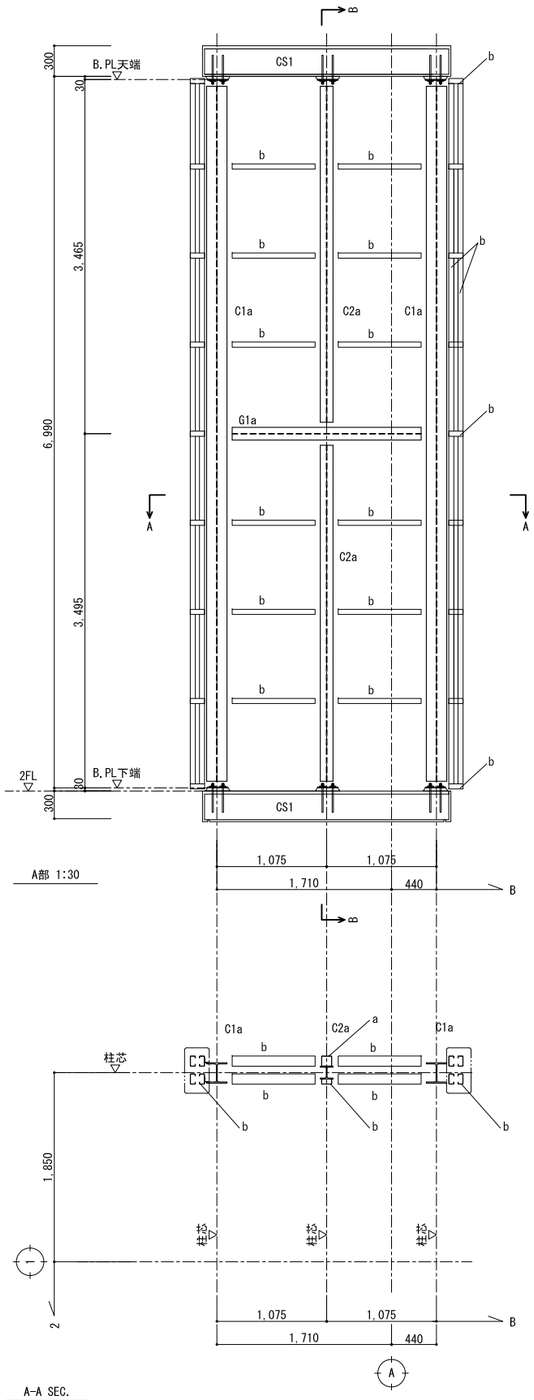
基礎配筋図 1/50

・鉄骨梁下端レベル SGL+2,966

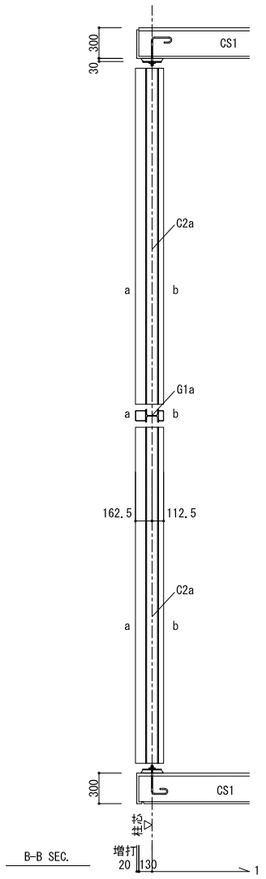
伏図 1/100

鉄骨詳細図 1/30

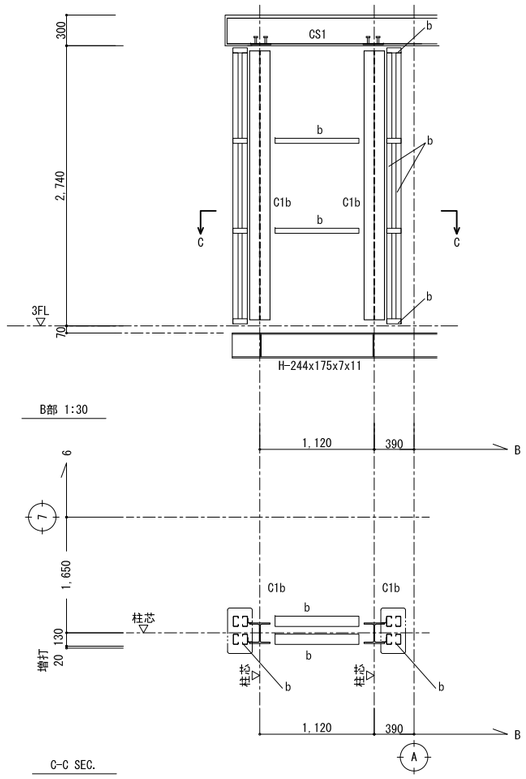
工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 玄関庇詳細図		2023/03
NEWJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
	小田 文武	安川 雅巳	A1:1/100, 50, 30 A3:1/200, 100, 60	S - 136



A部 1:30

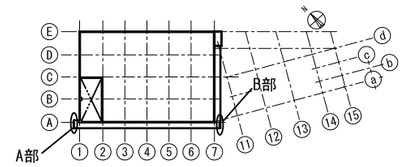


B-B SEC.



B部 1:30

C-C SEC.



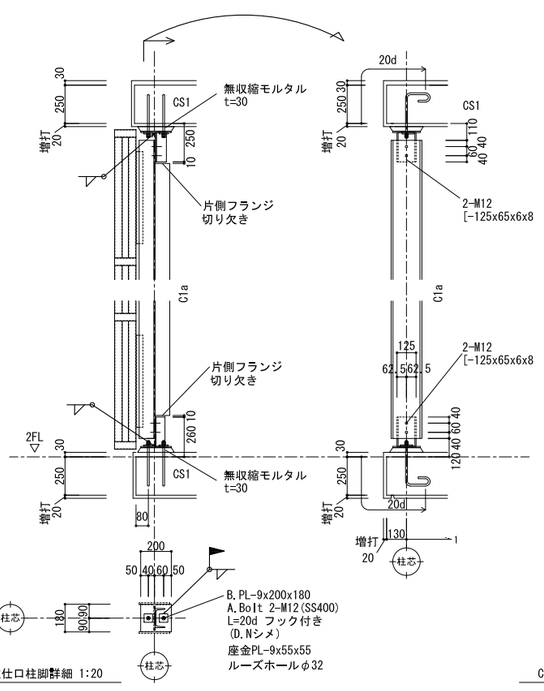
キープラン

部材リスト

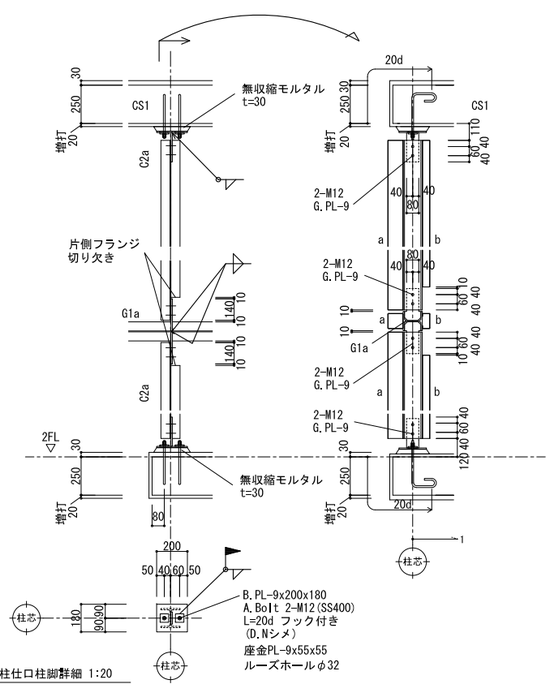
符号	部材
C1a,C1b	H-200x200x8x12
C2a	H-125x125x6.5x9
G1a	H-125x125x6.5x9
a(下地材)	□-100x100x2.3
b(下地材)	C-100x50x20x2.3
CS1	t=250

注記
特記なき限り下配とする。
鋼材は、SS400とする。
鋼材は、すべて溶融亜鉛メッキ仕様とする。
金属パネル目地及び目地の中間に　a,b(下地材)を割り付ける場合、
割り付けは、意匠図による。
ボルトは、高力ボルトF8Tとする。

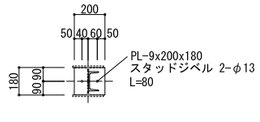
A-A SEC.

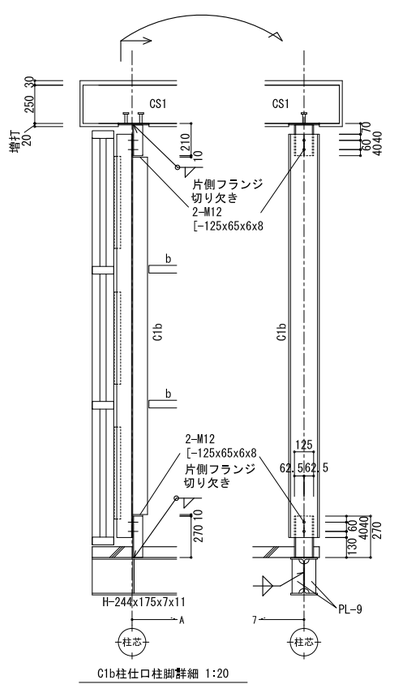


C1a柱仕口柱脚詳細 1:20

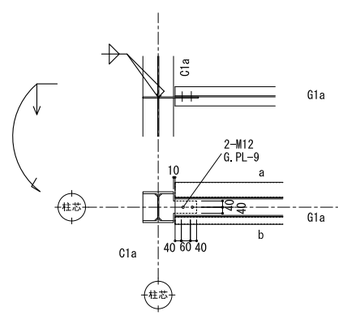


C2a柱仕口柱脚詳細 1:20

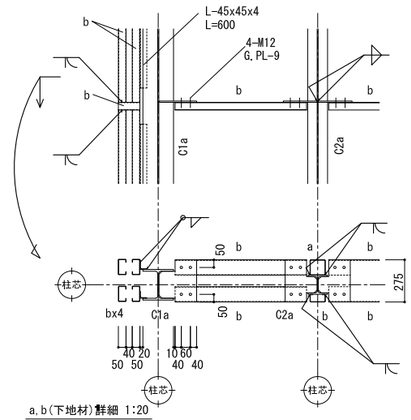




C1b柱仕口柱脚詳細 1:20

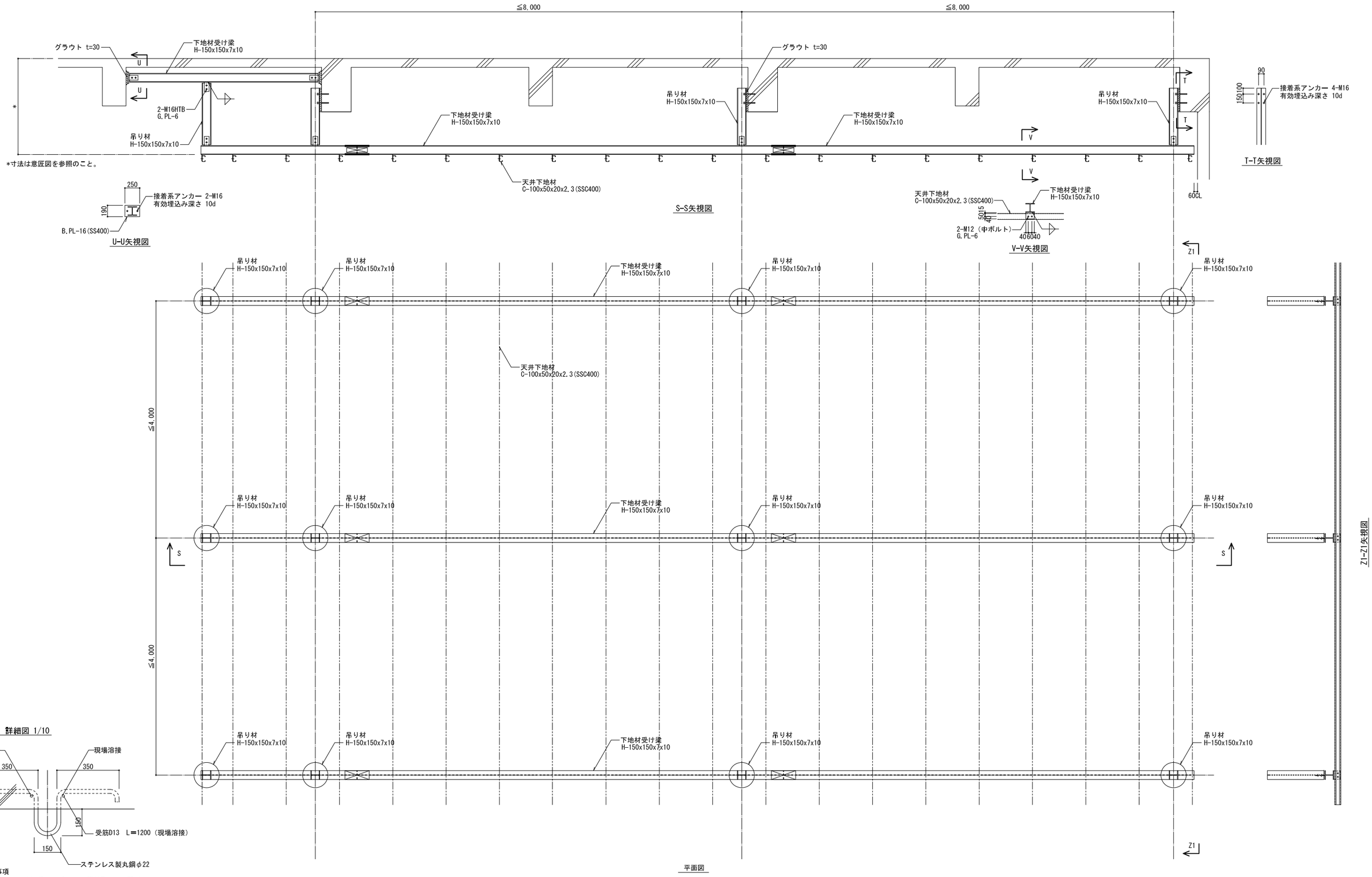


G1a仕口詳細 1:20



a,b(下地材)詳細 1:20

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 袖壁パネル詳細図		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/20,30 A3:1/40,60	図面番号 S - 137

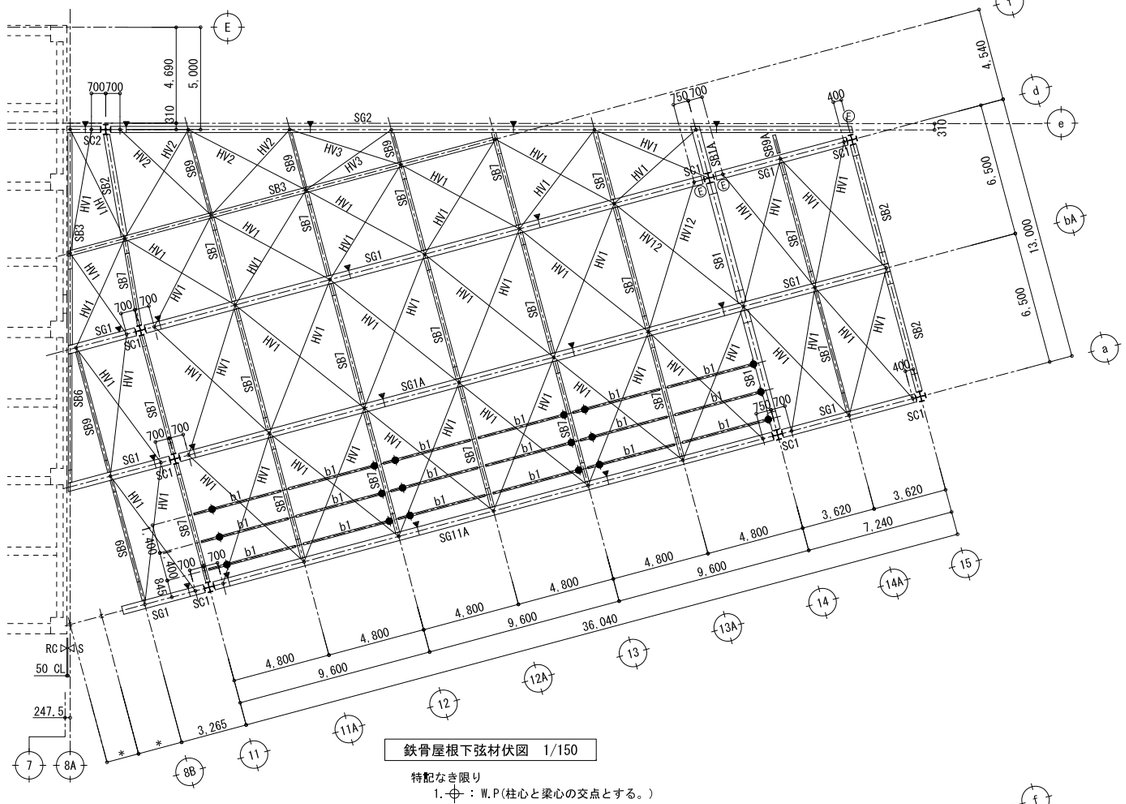


※下地材受け梁は、最大スパン8.0mとし、ピッチ4.0m以下に配置すること。

２ｔフック　詳細図 1/10

特記事項
・設置位置については、監督員と協議の上、決定する。
・フックのセット位置は、鉄筋の必要かぶりを確保の上、決定する。

工事名	図面の名称			作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事	【消防本庁(署)】 耐震天井要領図			2023/03
	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
NEWJEC 株式会社ニュージェック	小田　文武	安川　雅巳	A1:1/30 A3:1/60	S－138

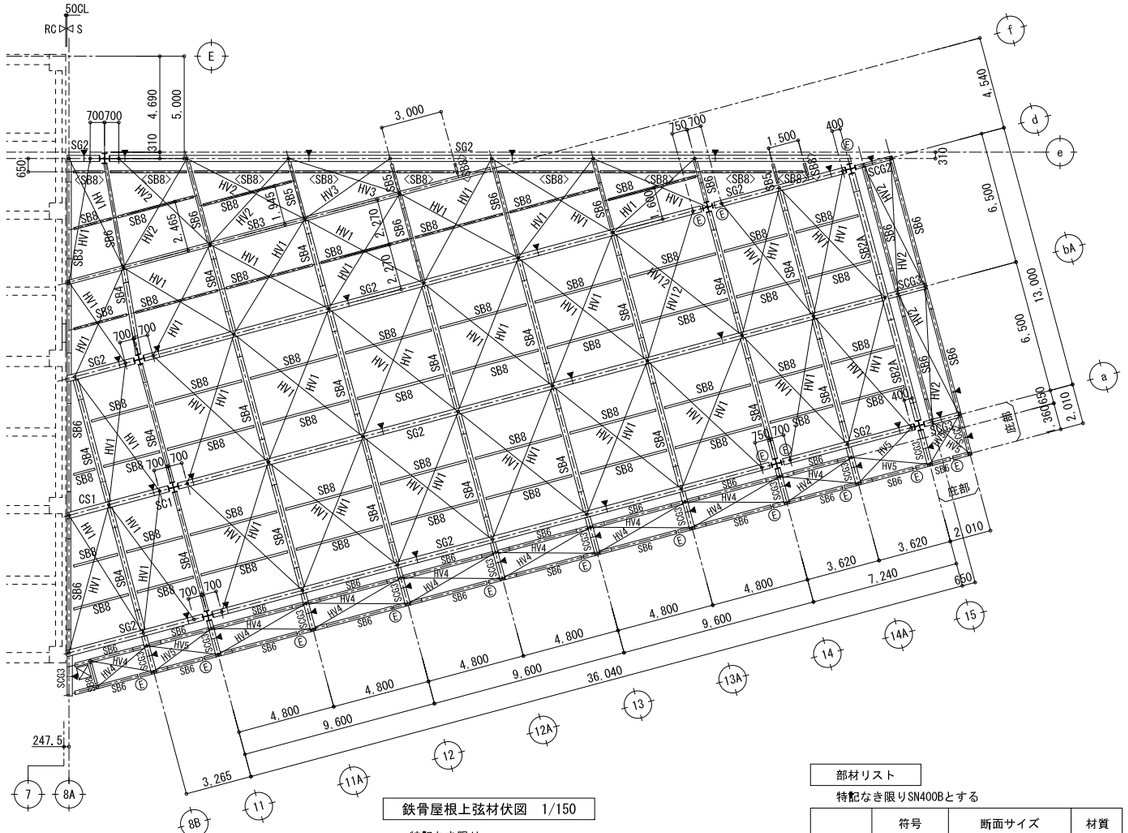


鉄骨屋根下弦材伏図　1/150

特配なき限り
1. ⊕ ：W.P(柱心と梁心の交点とする。)
2. 梁天端レベル ： 1FL+5,650
3. 水平ブレースレベル ： 梁下端レベル
4. b1 ：H-100x100x6x8
5. ● ：オーバードア用ガイドレール吊り位置を示す。

鉄骨庇伏図　1/150

特配なき限り
1. 梁天端レベル ： 1FL+4,450
2. 水平ブレースレベル ： 梁下端レベル
3. ( ) ： 梁天端レベルを示す。



鉄骨屋根上弦材伏図　1/150

特配なき限り
1. ⊕ ：W.P(柱心と梁心の交点とする。)
2. 梁天端レベル ： 1FL+7,490
3. 水平ブレースレベル ： 梁天端レベル-300
　但し、庇部の水平ブレースレベルは、梁天端レベル-250とする。
4. <SB8>は、図面番号S-155,S-156を参照のこと。

凡例
継手形式を下記に示す。
- ▬▬ ： 剛接合
- ═══ ： ピン接合
- Ⓔ ： エキスパンションジョイント

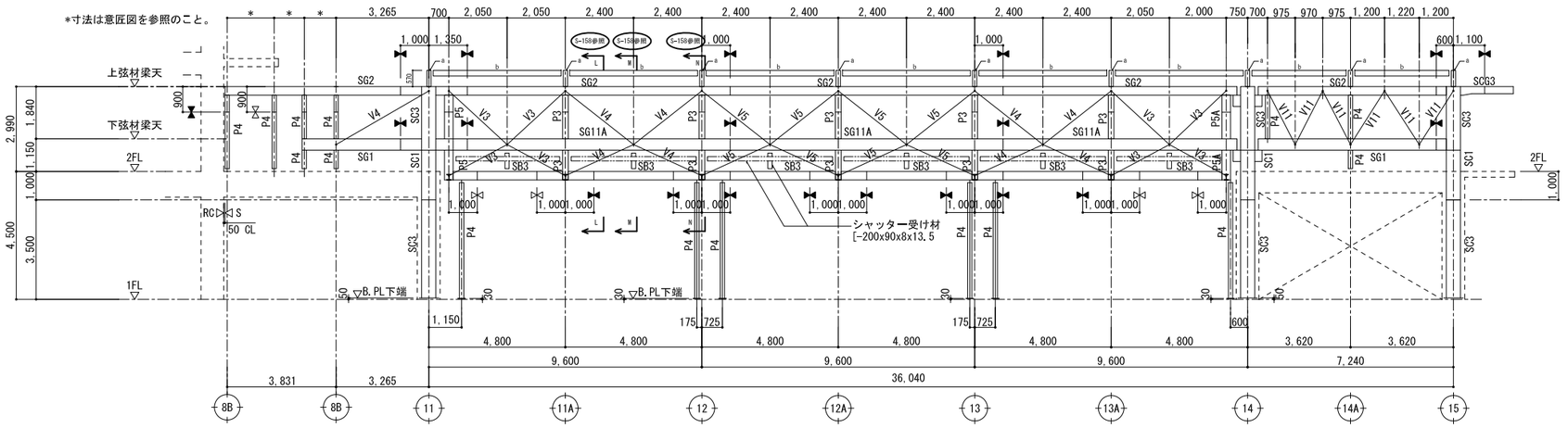
部材リスト
特配なき限りSN400Bとする

	符号	断面サイズ	材質
大梁	SG1	H-400x400x13x21	
	SG1A	H-400x400x13x21	SN490B
	SG2	H-300x300x10x15	
	SG11A	H-414x405x18x28	SN490B
片持梁	SCG1	H-200x200x8x12	
	SCG2	H-244x175x7x11	
	SCG3	H-250x250x9x14	
小梁	SB1	H-400x400x13x21	
	SB1A	H-400x400x13x21	SN490B
	SB2	H-300x300x10x15	
	SB2A	H-300x300x10x15	SN490B
	SB3	H-294x200x8x12	
	SB4	H-250x250x9x14	
	SB5	H-250x125x6x9	
	SB6	H-244x175x7x11	
	SB7	H-200x200x8x12	
	SB8	H-200x100x5.5x8	
	SB9	H-194x150x6x9	
	SB9A	H-194x150x6x9	SN490B
柱	SC1	⊕BH-500x255x32x50 +BH-500x255x32x50	HBL355B
	SC2	⊕BH-500x255x36x55 +BH-500x255x36x55	HBL355B
	SC3	⊕H-500x200x10x16 +H-500x200x10x16	
水平ﾌﾞﾚｰｽ	HV1	2L-90x90x7	SS400
	HV2	2L-75x75x6	SS400
	HV3	2L-65x65x6	SS400
	HV4	L-90x90x7	SS400
	HV5	L-75x75x6	SS400
	HV12	[-200x90x8x13.5	SS400
斜材	V1	2[-200x90x8x13.5	SS400
	V2	2[-200x80x7.5x11	SS400
	V3	2[-150x75x9x12.5	SS400
	V4	2[-150x75x6.5x10	SS400
	V5	2L-90x90x7	SS400
	V6	2L-75x75x6	SS400
	V11	[-150x75x6.5x10	SS400

工事名	図面の名称	作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事	【消防本庁(署)】 鉄骨屋根トラス図 (1)	2023/03

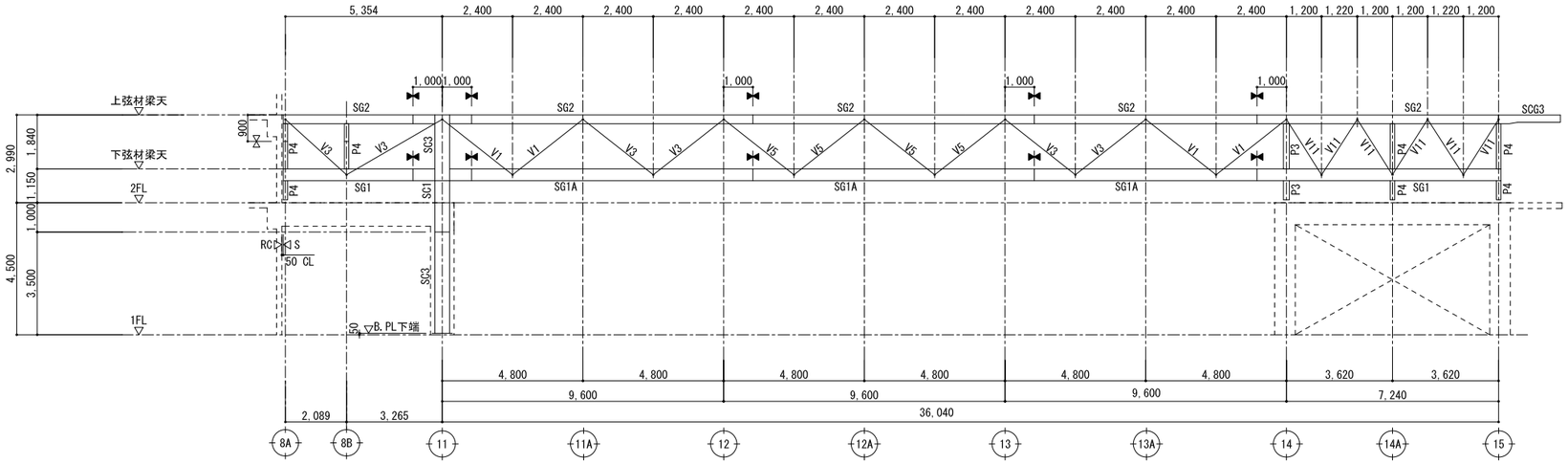
管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
NEXJEC 株式会社ニュージェック 小田　文武	安川　雅巳	A1:1/150 A3:1/300	S - 139

*寸法は意匠図を参照のこと。

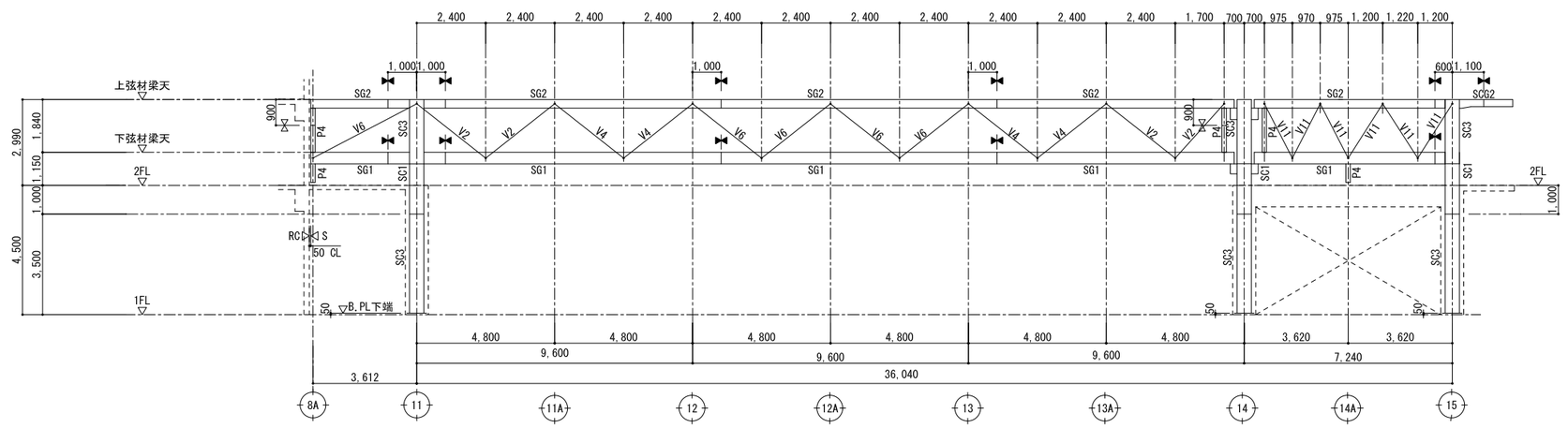


a通軸組図　1/100

特記無き限り
a：H-150x150x7x10（SN400B）
b：H-194x150x6x9（SS400）



bA通軸組図　1/100



d通軸組図　1/100

部材リスト

特記なき限りSN400Bとする

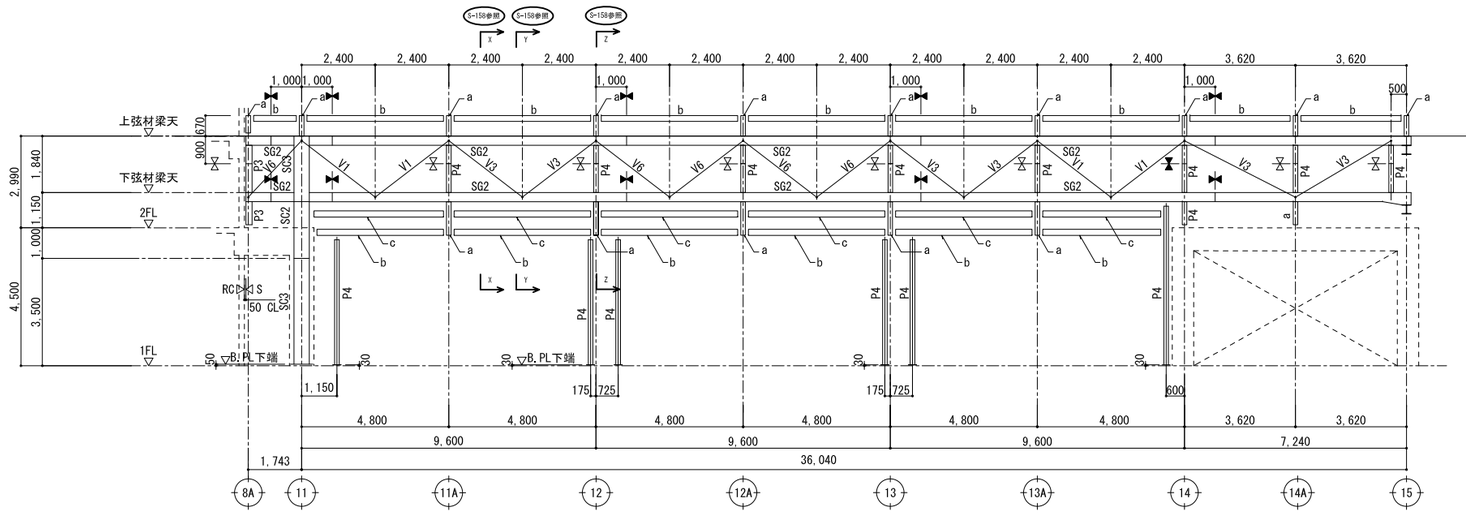
	符号	断面サイズ	材質
大梁	SG1	H-400x400x13x21	
	SG1A	H-400x400x13x21	SN490B
	SG2	H-300x300x10x15	
	SG11A	H-414x405x18x28	SN490B
片持梁	SCG1	H-200x200x8x12	
	SCG2	H-244x175x7x11	
	SCG3	H-250x250x9x14	
小梁	SB1	H-400x400x13x21	
	SB1A	H-400x400x13x21	SN490B
	SB2	H-300x300x10x15	
	SB2A	H-300x300x10x15	SN490B
	SB3	H-294x200x8x12	
	SB4	H-250x250x9x14	
	SB5	H-250x125x6x9	
	SB6	H-244x175x7x11	
	SB7	H-200x200x8x12	
	SB8	H-200x100x5.5x8	
	SB9	H-194x150x6x9	
	SB9A	H-194x150x6x9	SN490B
柱	SC1	⊕ BH-500x255x32x50 +BH-500x255x32x50	HBL355B
	SC2	⊕ BH-500x255x36x55 +BH-500x255x36x55	HBL355B
	SC3	⊕ H-500x200x10x16 +H-500x200x10x16	
東材	P1	H-350x350x12x19	
	P2	H-250x250x9x14	
	P3	H-200x200x8x12	
	P4	H-150x150x7x10	
	P5	H-300x300x10x15	
	P5A	H-300x300x10x15	
斜材	V1	2[-200x90x8x13.5	SS400
	V2	2[-200x80x7.5x11	SS400
	V3	2[-150x75x9x12.5	SS400
	V4	2[-150x75x6.5x10	SS400
	V5	2L-90x90x7	SS400
	V6	2L-75x75x6	SS400
	V11	[-150x75x6.5x10	SS400

凡例

⊕：継手位置を示す。（ピン接合）
⊕：継手位置を示す。（剛接合）

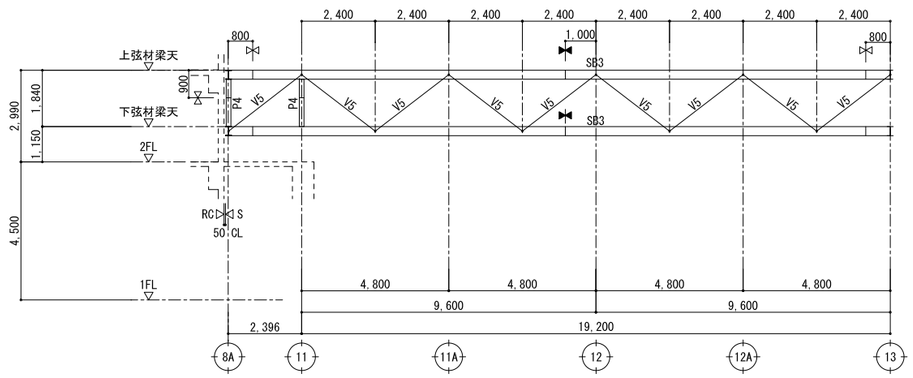
特記なき限り
1.斜材のW.Pは、梁部材の中心とする。

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁（署）】 鉄骨屋根トラス図（2）		2023/03
NEOJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
	小田　文武	安川　雅巳	A1:1/100 A3:1/200	S－140

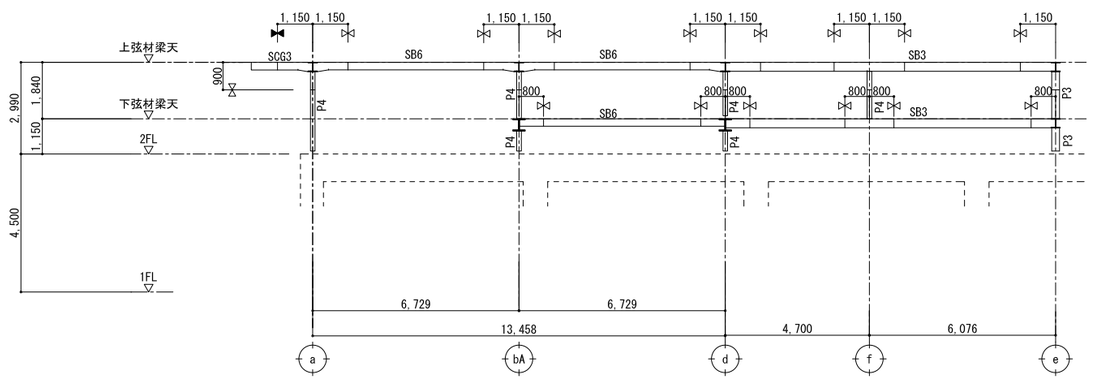


e通軸組図　1/100

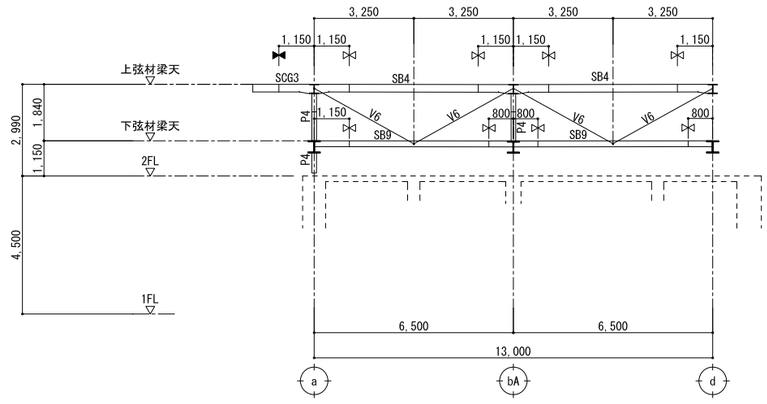
特記無き限り
a：H-150x150x7x10（SN400B）
b：H-194x150x6x9（SS400）
c：H-150x150x7x10（SS400）（ヨコ使い）



f通軸組図　1/100



8A通軸組図　1/100



8B通軸組図　1/100

部材リスト

特記なき限りSN400Bとする

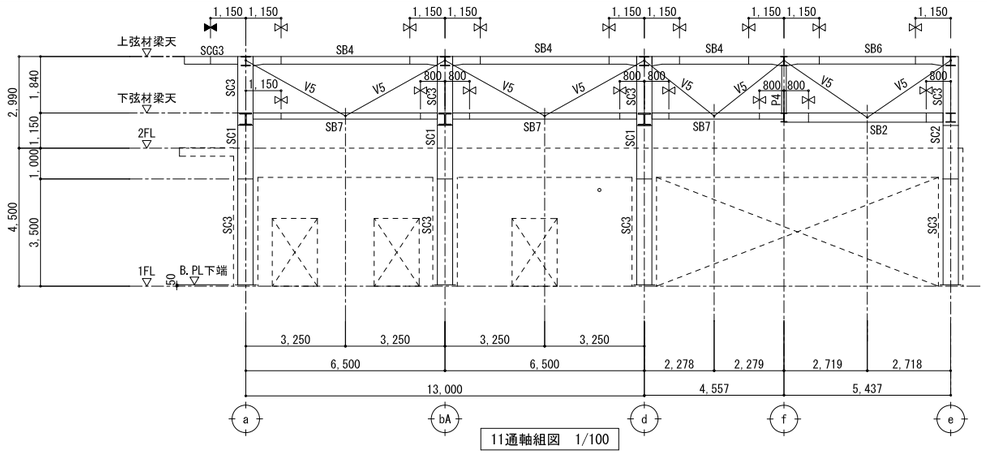
	符号	断面サイズ	材質
大梁	SG1	H-400x400x13x21	
	SG1A	H-400x400x13x21	SN490B
	SG2	H-300x300x10x15	
	SG11A	H-414x405x18x28	SN490B
片持梁	SCG1	H-200x200x8x12	
	SCG2	H-244x175x7x11	
	SCG3	H-250x250x9x14	
小梁	SB1	H-400x400x13x21	
	SB1A	H-400x400x13x21	SN490B
	SB2	H-300x300x10x15	
	SB2A	H-300x300x10x15	SN490B
	SB3	H-294x200x8x12	
	SB4	H-250x250x9x14	
	SB5	H-250x125x6x9	
	SB6	H-244x175x7x11	
	SB7	H-200x200x8x12	
	SB8	H-200x100x5.5x8	
	SB9	H-194x150x6x9	
	SB9A	H-194x150x6x9	SN490B
柱	SC1	十 BH-500x255x32x50 +BH-500x255x32x50	HBL355B
	SC2	十 BH-500x255x36x55 +BH-500x255x36x55	HBL355B
	SC3	十 H-500x200x10x16 +H-500x200x10x16	
東材	P1	H-350x350x12x19	
	P2	H-250x250x9x14	
	P3	H-200x200x8x12	
	P4	H-150x150x7x10	
	P5	H-300x300x10x15	
	P5A	H-300x300x10x15	
斜材	V1	2[-200x90x8x13.5	SS400
	V2	2[-200x80x7.5x11	SS400
	V3	2[-150x75x9x12.5	SS400
	V4	2[-150x75x6.5x10	SS400
	V5	2L-90x90x7	SS400
	V6	2L-75x75x6	SS400
	V11	[-150x75x6.5x10	SS400

凡例

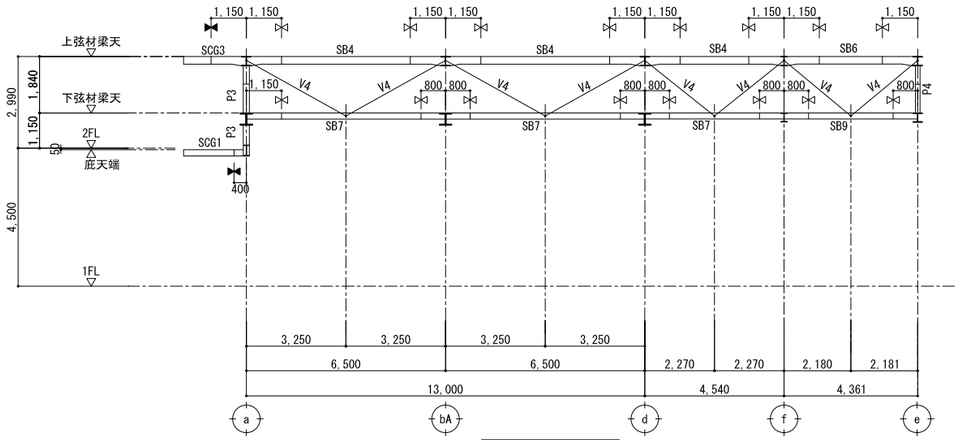
：継手位置を示す。（ピン接合）
：継手位置を示す。（剛接合）

特記なき限り
1. 斜材のW.Pは、梁部材の中心とする。

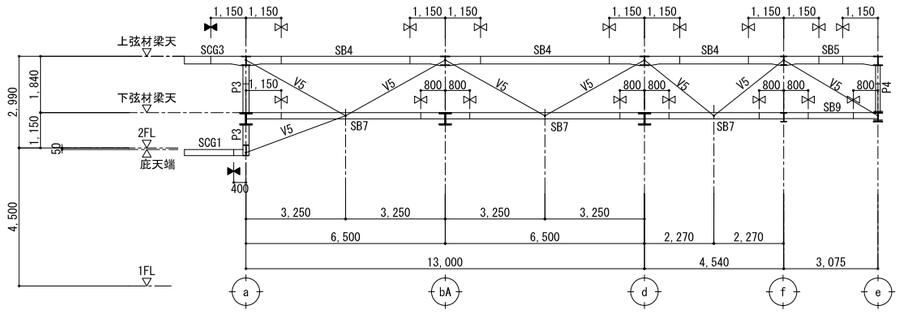
工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁（署）】 鉄骨屋根トラス図（3）		2023/03
	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
NEXJEC 株式会社ニュージェック	小田　文武	安川　雅巳	A1:1/100 A3:1/200	S－141



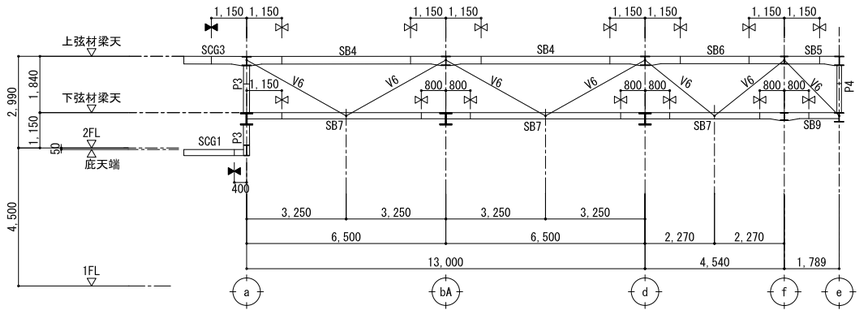
11通軸組図　1/100



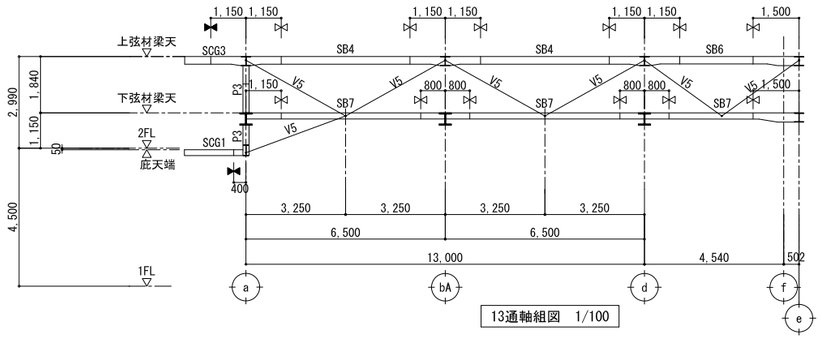
11A通軸組図　1/100



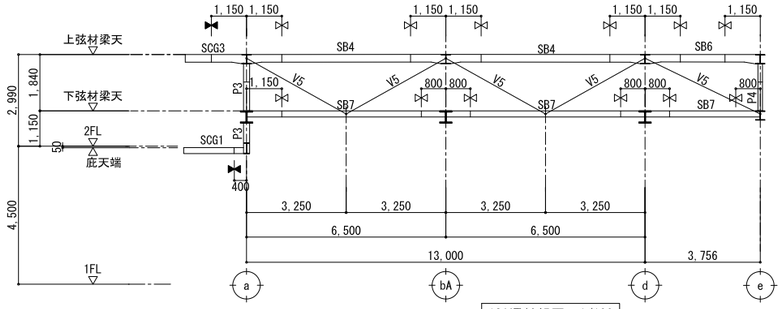
12通軸組図　1/100



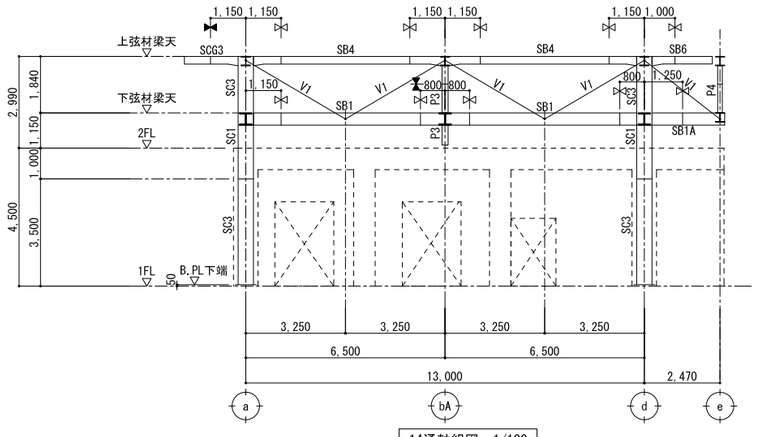
12A通軸組図　1/100



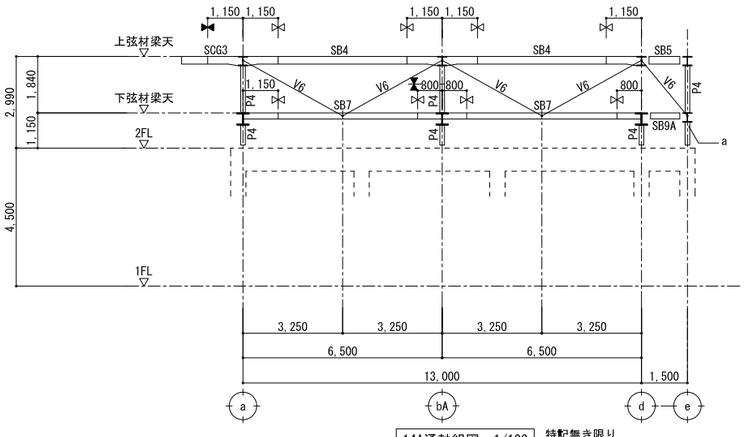
13通軸組図　1/100



13A通軸組図　1/100

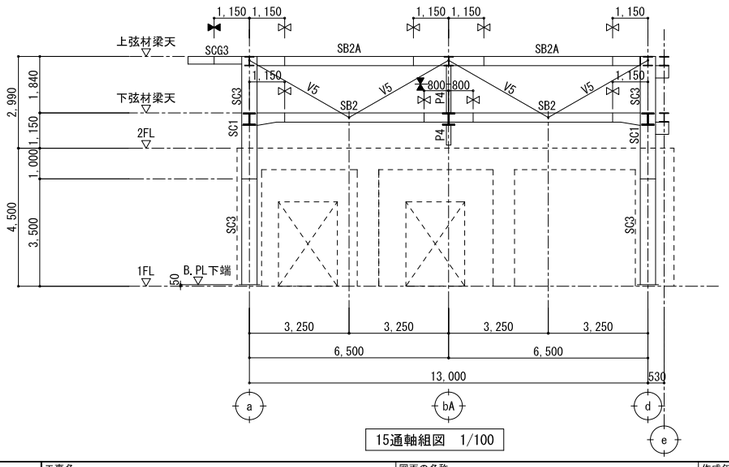


14通軸組図　1/100



14A通軸組図　1/100

特記無き限り
a：H-150x150x7x10



15通軸組図　1/100

部材リスト

特記なき限りSN400Bとする

	符号	断面サイズ	材質
大梁	SG1	H-400x400x13x21	
	SG1A	H-400x400x13x21	SN490B
	SG2	H-300x300x10x15	
	SG11A	H-414x405x18x28	SN490B
片持梁	SCG1	H-200x200x8x12	
	SCG2	H-244x175x7x11	
	SCG3	H-250x250x9x14	
小梁	SB1	H-400x400x13x21	
	SB1A	H-400x400x13x21	SN490B
	SB2	H-300x300x10x15	
	SB2A	H-300x300x10x15	SN490B
	SB3	H-294x200x8x12	
	SB4	H-250x250x9x14	
	SB5	H-250x125x6x9	
	SB6	H-244x175x7x11	
	SB7	H-200x200x8x12	
	SB8	H-200x100x5.5x8	
	SB9	H-194x150x6x9	
	SB9A	H-194x150x6x9	SN490B
柱	SC1	十 BH-500x255x32x50 +BH-500x255x32x50	HBL355B
	SC2	十 BH-500x255x36x55 +BH-500x255x36x55	HBL355B
	SC3	十 H-500x200x10x16 +H-500x200x10x16	
東材	P1	H-350x350x12x19	
	P2	H-250x250x9x14	
	P3	H-200x200x8x12	
	P4	H-150x150x7x10	
	P5	H-300x300x10x15	
	P5A	H-300x300x10x15	
斜材	V1	2[-200x90x8x13.5	SS400
	V2	2[-200x80x7.5x11	SS400
	V3	2[-150x75x9x12.5	SS400
	V4	2[-150x75x6.5x10	SS400
	V5	2L-90x90x7	SS400
	V6	2L-75x75x6	SS400
	V11	[-150x75x6.5x10	SS400

凡例

十：継手位置を示す。（ピン接合）

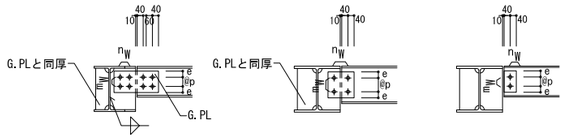
▶◀：継手位置を示す。（剛接合）

特記なき限り

1.斜材のW.Pは、梁部材の中心とする。

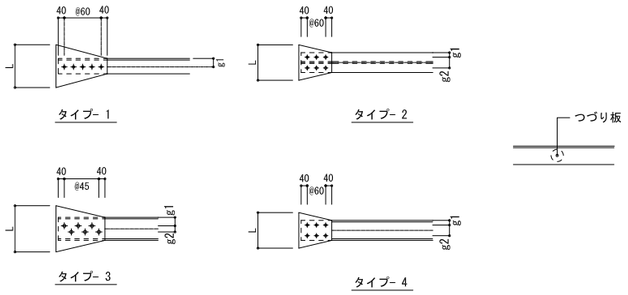
工事名	相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事	図面の名称	【消防本庁（署）】 鉄骨屋根トラス図（4）		作成年月日 2023/03
NEWJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名	安川　雅巳	縮尺	A1:1/100 A3:1/200
				図面番号	S－142

ピン接合継手リスト



符号	断面	タイプ	G.PL	W.PL	使用ボルト本数 $m_W \times n_W$	p	e	材質
SB1	H-400x400x13x21	1	G.PL-12	2×W.PL-9	M22-4x3	60	40	
SB1A	H-400x400x13x21	1	G.PL-12	2×W.PL-9	M22-4x3	60	40	SN490B
SB2	H-300x300x10x15	1	G.PL-12	2×W.PL-9	M22-3x2	60	40	
SB2A	H-300x300x10x15	1	G.PL-12	2×W.PL-9	M22-3x2	60	40	SN490B
SB3	H-294x200x8x12	1	G.PL-9	2×W.PL-9	M22-3x2	60	40	
SB4	H-250x250x9x14	1	G.PL-9	2×W.PL-9	M22-2x2	90	40	
SB5	H-250x125x6x9	2	G.PL-6	2×W.PL-6	M20-2x1	60	40	
SB6	H-244x175x7x11	2	G.PL-9	2×W.PL-9	M22-3x1	55	40	
SB7	H-200x200x8x12	1	G.PL-9	2×W.PL-6	M22-2x2	60	40	
SB8	H-200x100x5.5x8	3	G.PL-6	———	M16-1x2	60	40	
SB9	H-194x150x6x9	2	G.PL-6	2×W.PL-6	M22-2x1	60	40	
SB9A	H-194x150x6x9	2	G.PL-6	2×W.PL-6	M22-2x1	60	40	SN490B
P4	H-150x150x7x10	1	———	2×W.PL-6	M22-1x2	60	40	
P3	H-200x200x8x12	1	———	2×W.PL-6	M22-2x2	60	40	
P5	H-300x300x10x15	1	———	2×W.PL-9	M22-2x2	60	40	

特記なき限り
1. 鋼材の材質は、SN400B とする。
2. ボルトは、F8T とする。(溶融亜鉛メッキ仕様)
3. PLは、母材と同材質とする。
4. スチフナーPLは、G.PL及びウェブ厚以上とする。



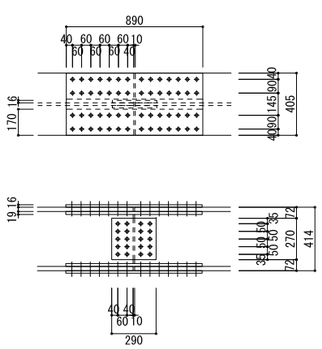
符号	断 面	タイプ	G.PL	使用ボルト本数 n x ケ所数	L	g1	g2	つづり板	使用ボルト	備考
HV1	2L-90x90x7	2	G.PL-9	8-M22	310	40	100	———	———	
HV2	2L-75x75x6	2	G.PL-6	6-M20	260	35	80	———	———	
HV3	2L-65x65x6	2	G.PL-6	6-M16	240	30	70	———	———	
HV4	L-90x90x7	1	G.PL-9	4-M20	220	50	-	———	———	
HV5	L-75x75x6	1	G.PL-6	3-M20	180	40	-	———	———	
HV12	[-200x90x8x13.5	3	G.PL-9	10-M22	360	65	70	PL-9@1300	1-M16	
V1	2[-200x90x8x13.5	4	G.PL-19	12-M22	390	65	70	PL-19@1300	1-M16	
V2	2[-200x80x7.5x11	4	G.PL-16	10-M22	360	65	70	PL-16@1100	1-M16	
V3	2[-150x75x9x12.5	3	G.PL-12	8-M22	350	55	40	PL-12@1000	1-M16	
V4	2[-150x75x6.5x10	3	G.PL-9	6-M22	310	55	40	PL-9@1100	1-M16	
V5	2L-90x90x7	1	G.PL-9	4-M22	220	50	-	PL-9@800	1-M16	
V6	2L-75x75x6	1	G.PL-6	3-M20	180	40	-	PL-6@700	1-M16	
V11	[-150x75x6.5x10	3	G.PL-9	6-M20	310	55	40	PL-9@1100	1-M16	

特記なき限り
1. 鋼材の材質は、SS400 とする。
2. ボルトは、F8T とする。(溶融亜鉛メッキ仕様)
3. G.PL及びスチフナPLは、母材と同材質とする。
4. スチフナPLは、G.PLと同厚とする。

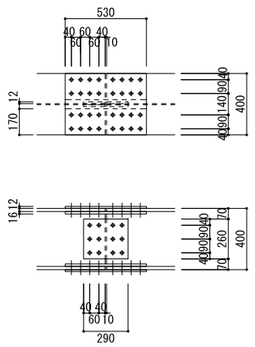
剛接合継手リスト

特記なき限り　1. PLは、母材と同材質とする。

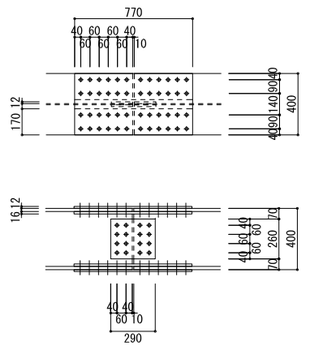
H-414x405x18x28 | SN490B | M20(F8T)



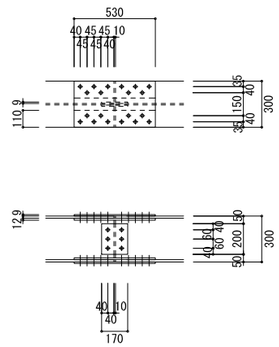
H-400x400x13x21 | SN400B | M20(F8T)



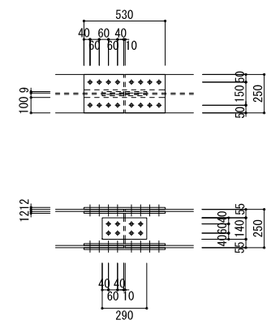
H-400x400x13x21 | SN490B | M20(F8T)



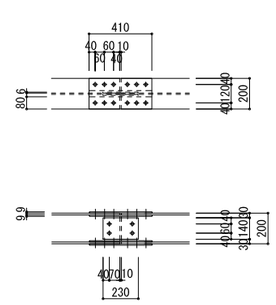
H-300x300x10x15 | SN400B | M20(F8T)



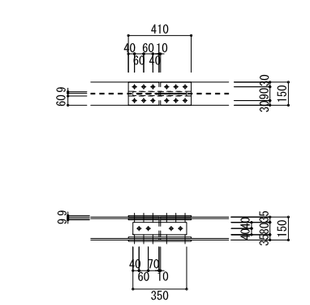
H-250x250x9x14 | SN400B | M20(F8T)



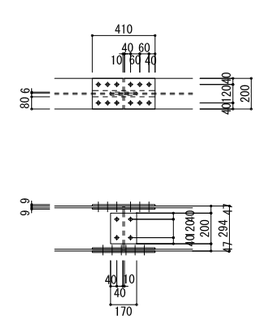
H-200x200x8x12 | SN400B | M20(F8T)



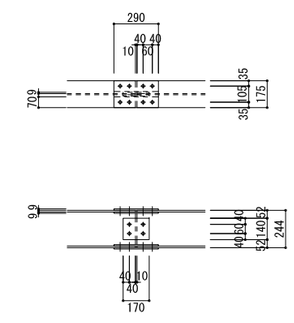
H-150x150x7x10 | SN400B | M16(F8T)



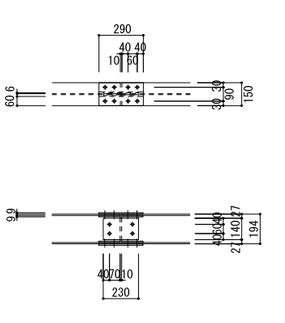
H-294x200x8x12 | SN400B | M20(F8T)



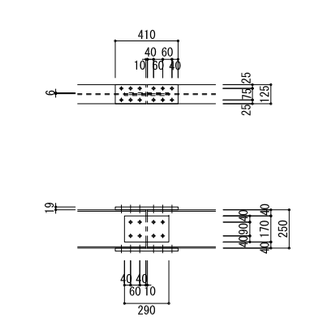
H-244x175x7x11 | SN400B | M20(F8T)



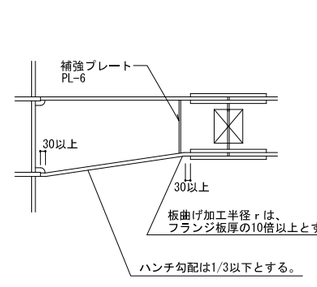
H-194x150x6x9 | SN400B | M16(F8T)



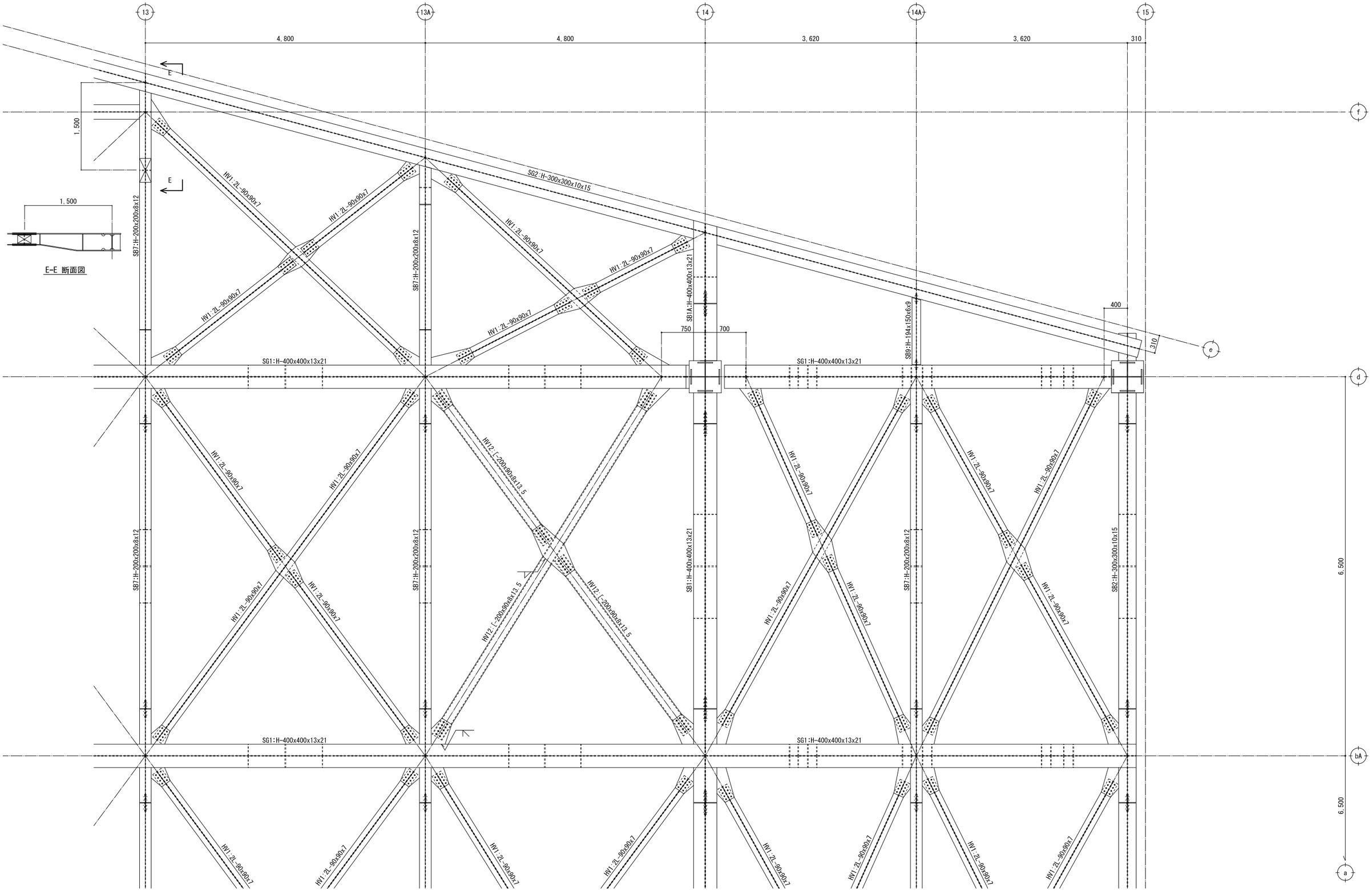
H-250x125x6x9 | SN400B | M16(F8T)



フランジハンチ標準図

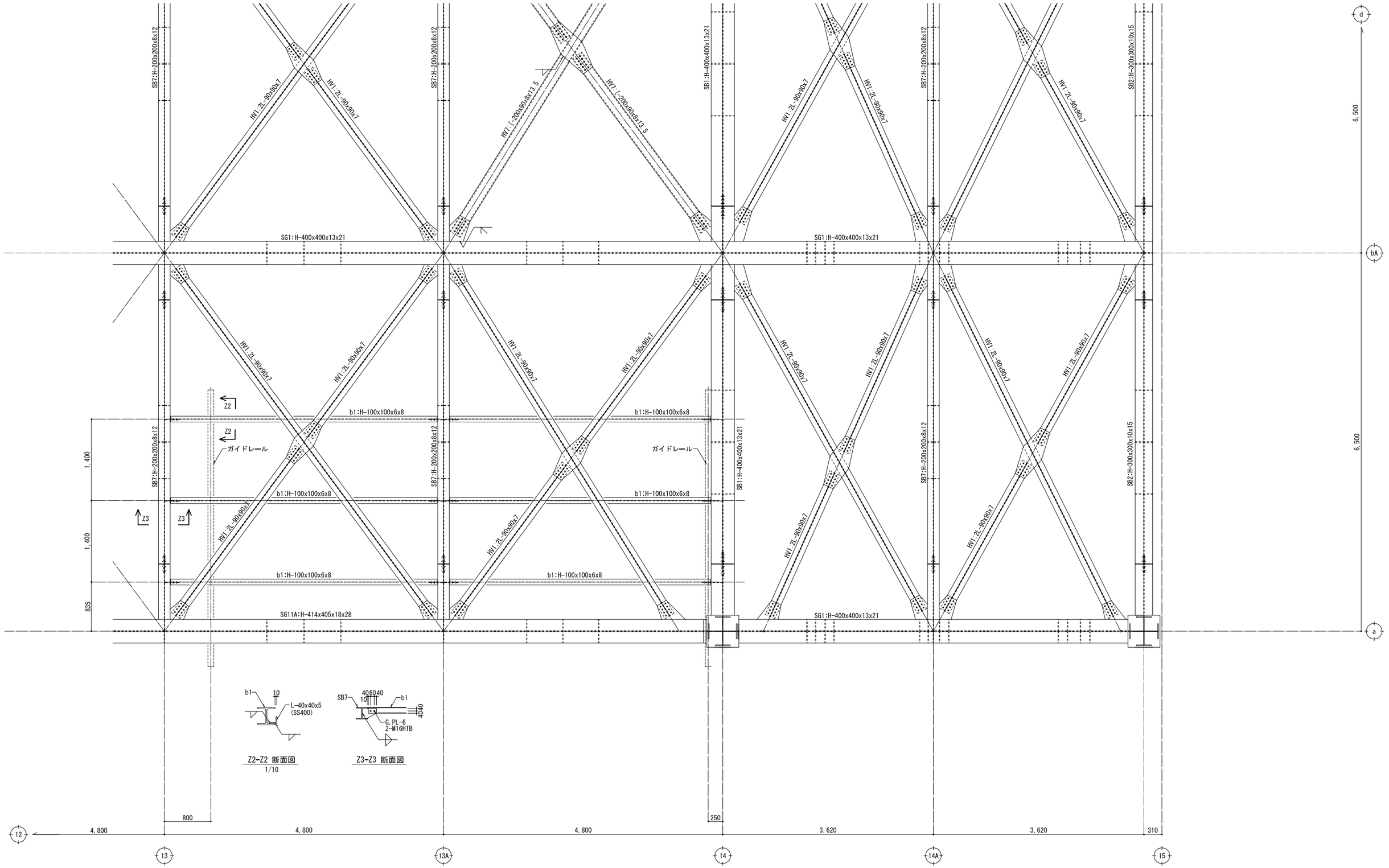


工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 鉄骨部材リスト兼継手リスト		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/ 20 A3:1/ 40	図面番号 S - 143



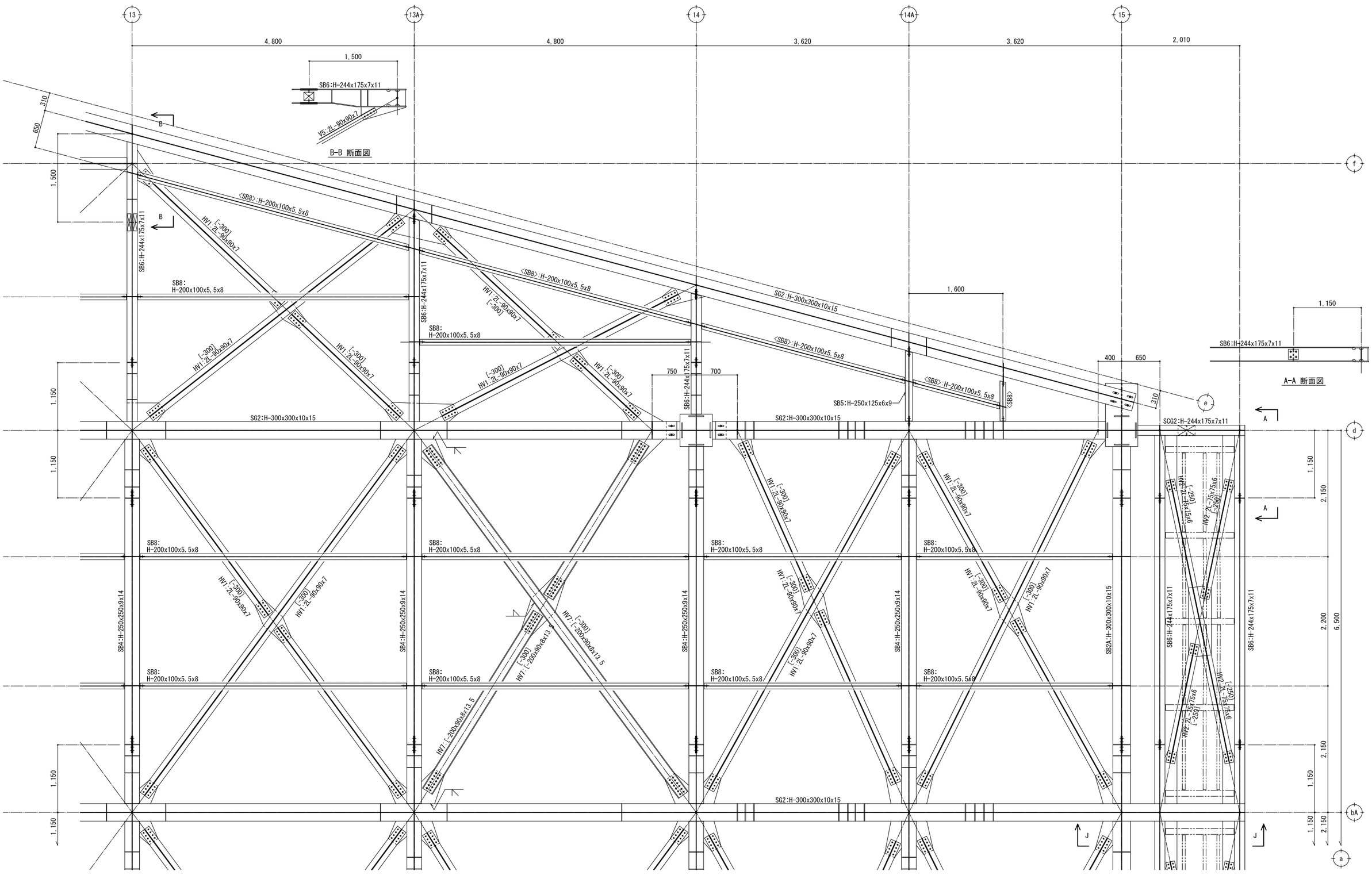
下弦材レベル梁伏図　1/30

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 鉄骨架構群細図(1)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/ 30 A3:1/ 60	図面番号 S－144



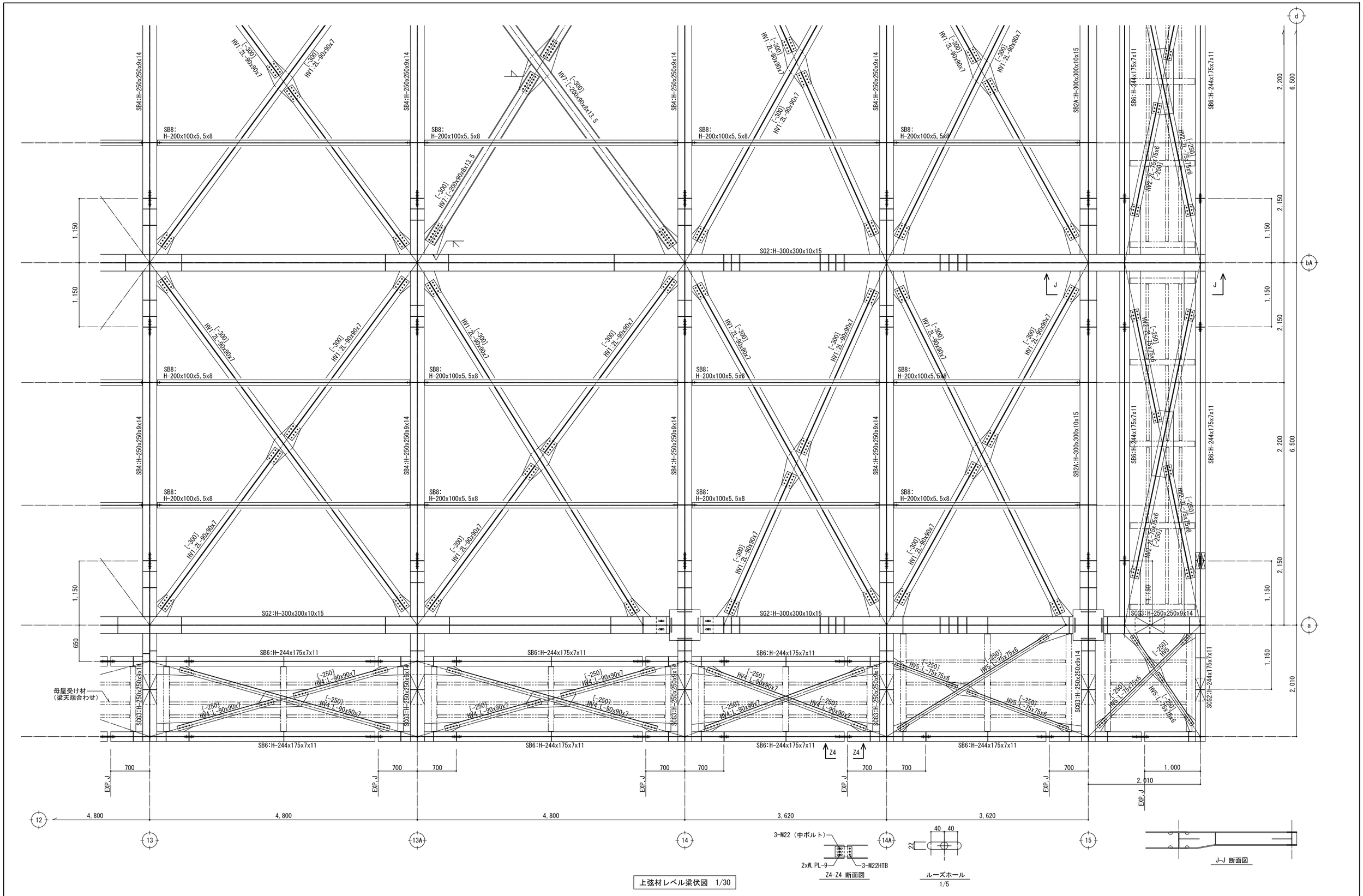
下弦材レベル梁伏図　1/30

工事名			図面の名称			作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事			【消防本庁(署)】 鉄骨架構群細図(2)			2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名		設計者名		縮尺	図面番号
	小田　文武		安川　雅巳		A1:1/ 30 A3:1/ 60	S－145



上弦材レベル梁伏図　1/30

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 鉄骨架構群細図(3)		2023/03
NEOJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/30 A3:1/60	図面番号 S－146

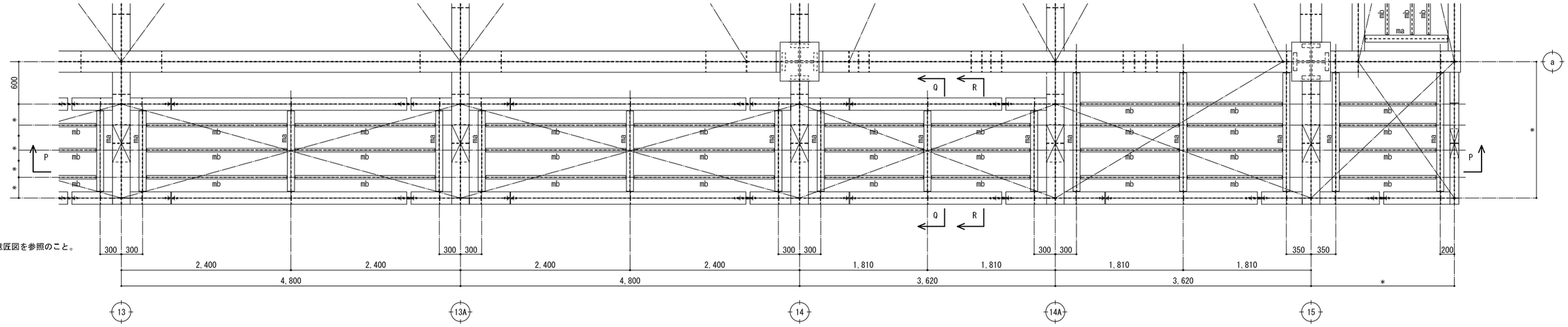


上弦材レベル梁伏図 1/30

工事名	図面の名称	作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事	【消防本庁(署)】 鉄骨架構群細図(4)	2023/03

管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
小田 文武	安川 雅巳	A1:1/ 30 A3:1/ 60	S -147

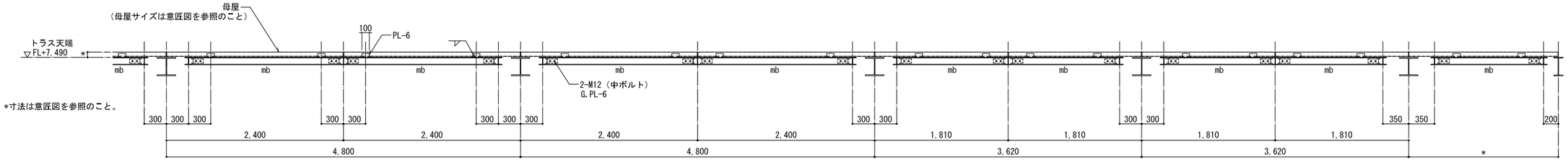
NEWJEC 株式会社ニュージェック



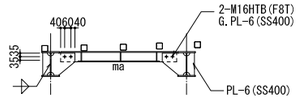
*寸法は意匠図を参照のこと。

上弦材レベル庇部梁伏図　1/30

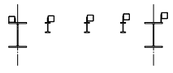
特記無き限り
1. 母屋受け材は下記とする。
ma ： H-100x100x6x8(SS400)
mb ： H-100x50x5x7(SS400)



P-P 断面図

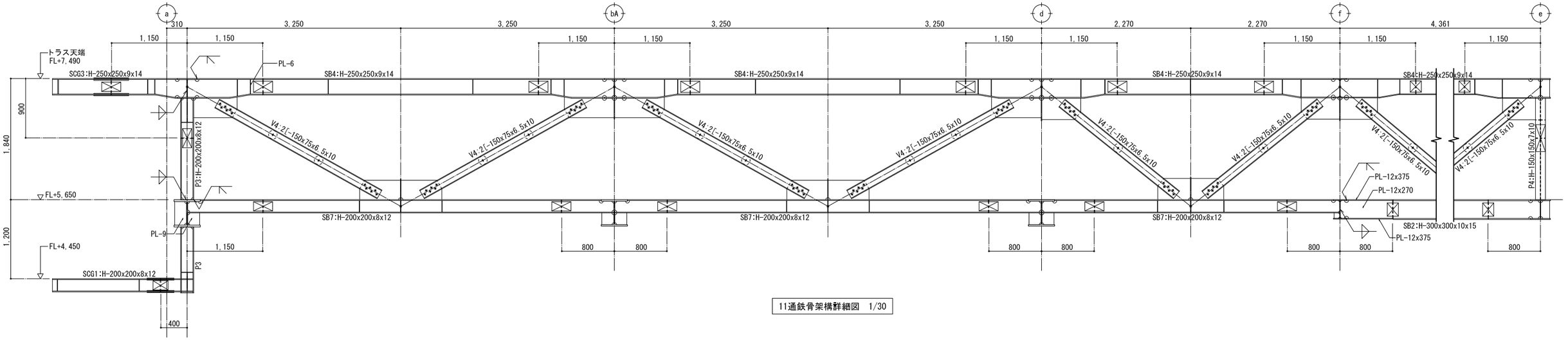


Q-Q 断面図

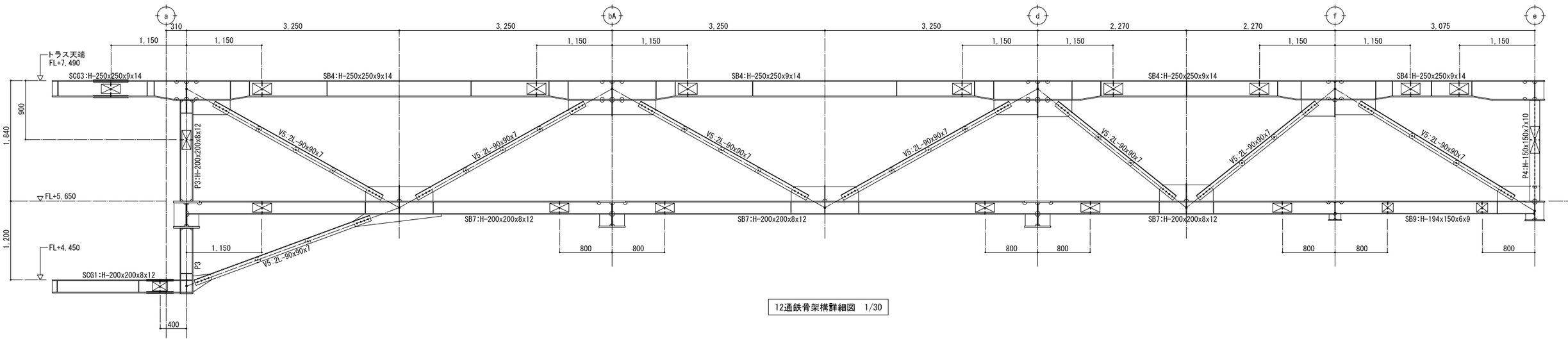


R-R 断面図

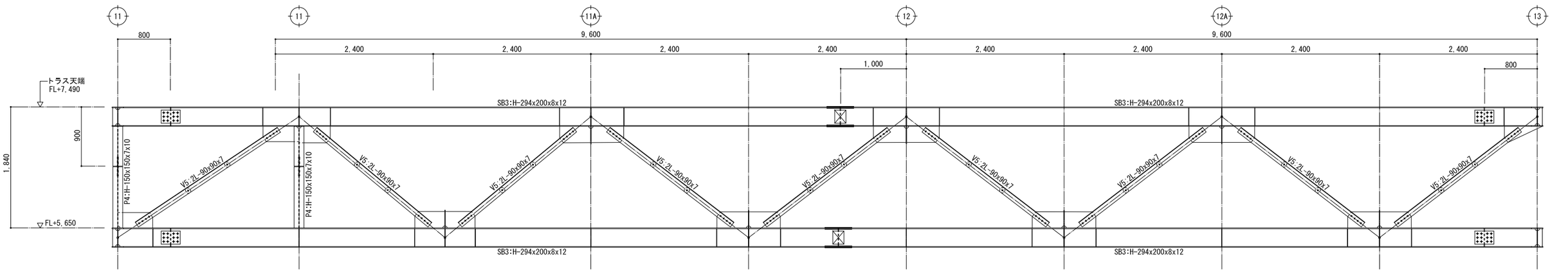
工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 鉄骨架構群細図(5)		2023/03
NEWJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/ 30 A3:1/ 60	図面番号 S－148



11通鉄骨架構群細図　1/30

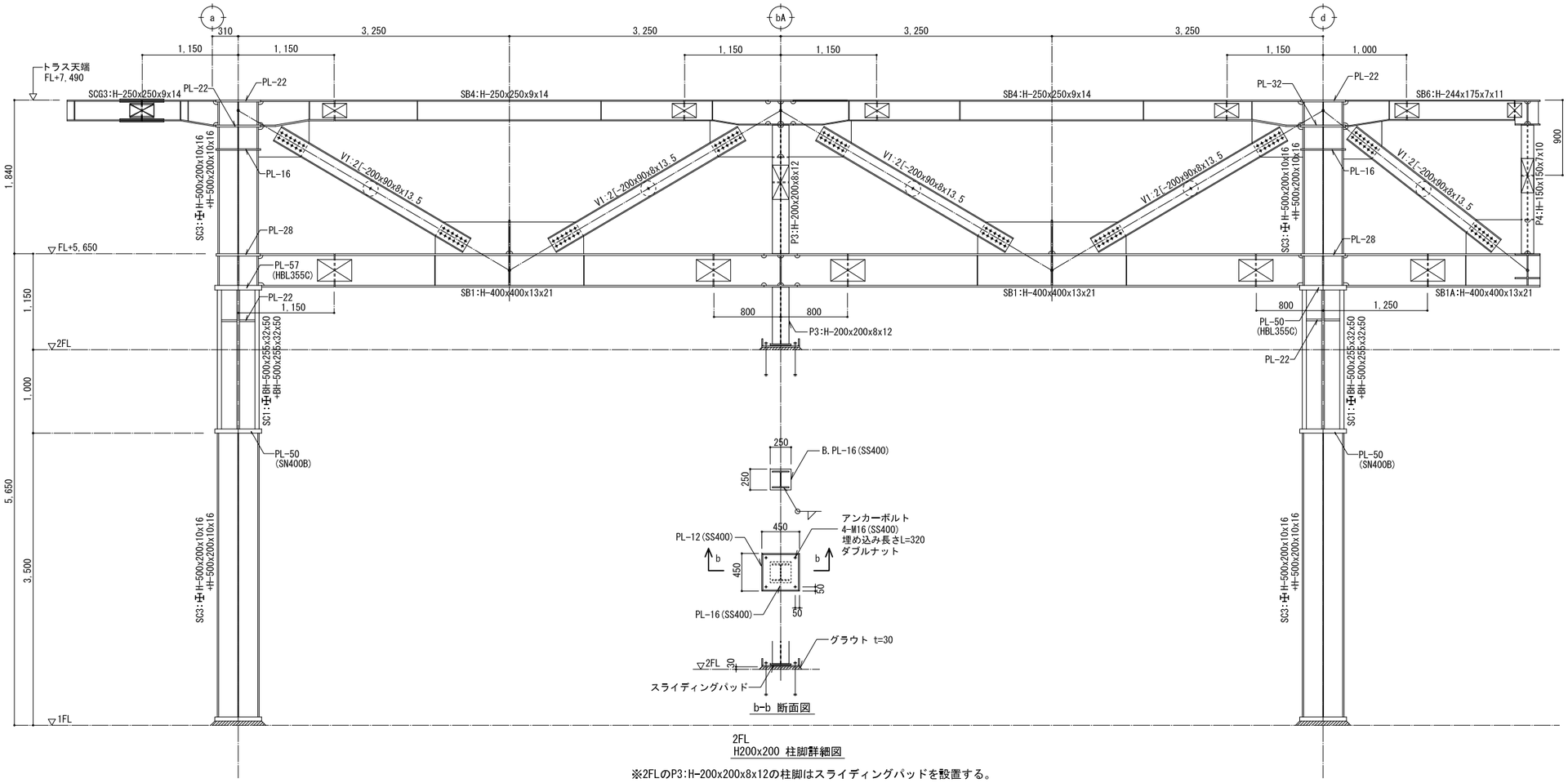


12通鉄骨架構群細図　1/30



f通鉄骨架構群細図　1/30

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 鉄骨架構群細図(6)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/30 A3:1/60	図面番号 S－149

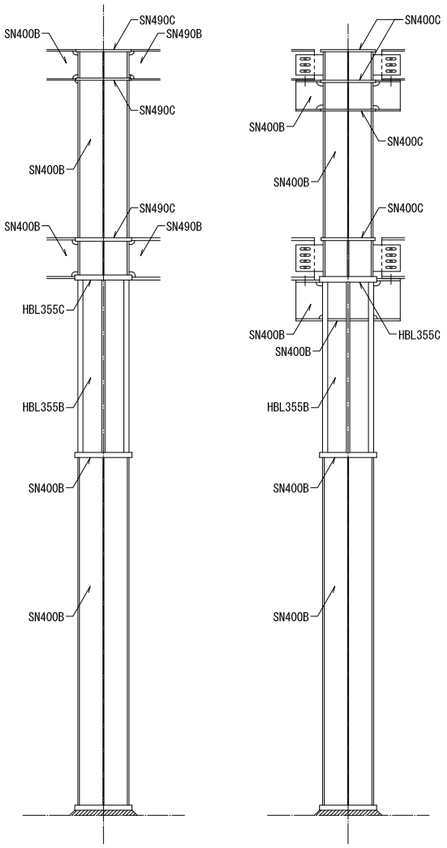


※2FLのP3:H-200x200x8x12の柱脚はスライディングパッドを設置する。

14通鉄骨架構詳細図　1/30

ダイアフラムの材質

接続する梁の強度が異なる場合は、大きいほうに同じとする。



工事名			図面の名称			作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事			【消防本庁(署)】 鉄骨架構群細図(7)			2023/03
NEWJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名		設計者名		縮尺	図面番号
	小田　文武		安川　雅巳		A1:1/ 30 A3:1/ 60	S－150

*寸法は意匠図を参照のこと。

※：e通SC2のダイヤフラムは、PL-55(HBL355C)とする。

a通軸組図

Z6-Z6 断面図

Z5-Z5 断面図

[200x90 継手詳細図

a通鉄骨架構詳細図 1/30

a-a 断面図

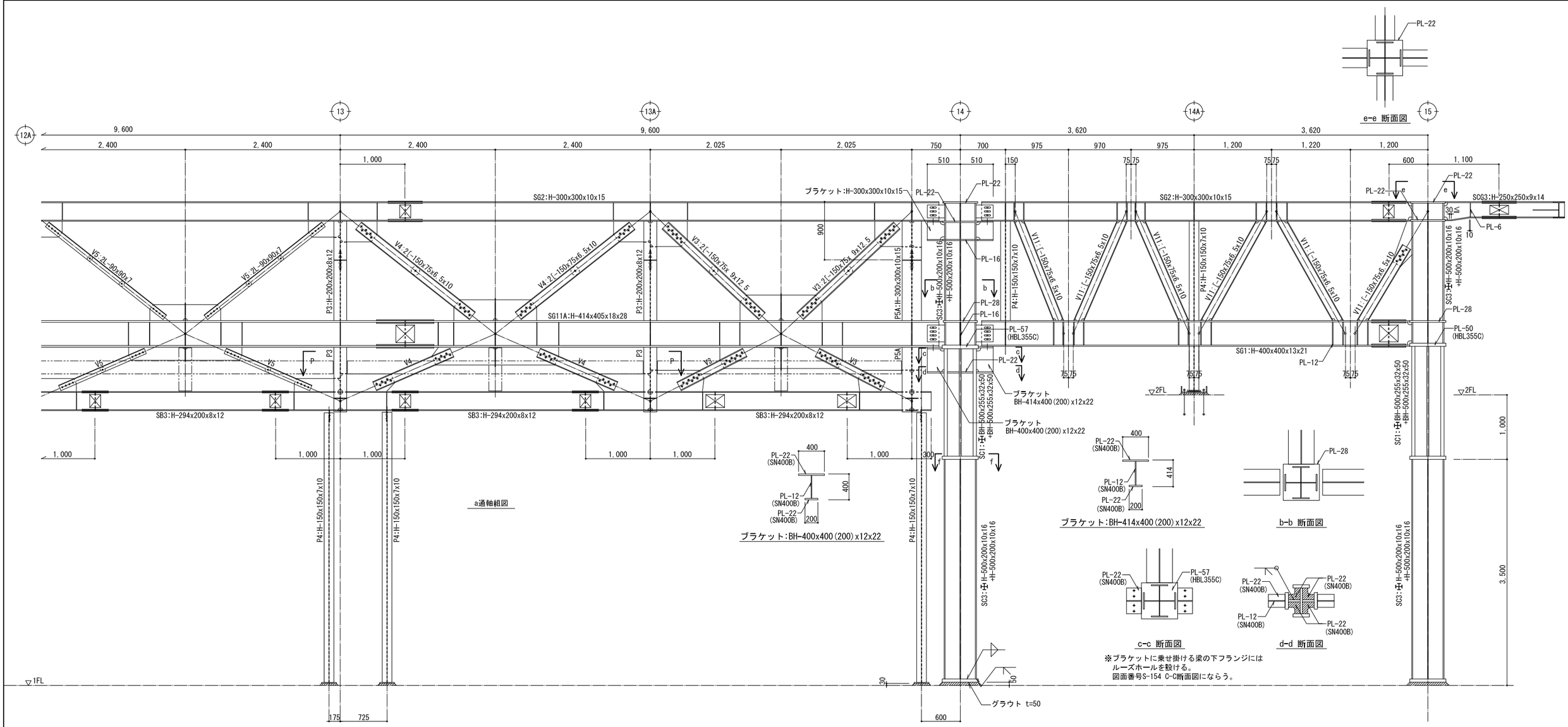
2FL
H150x150 柱脚詳細図

※2FLのP4:H-150x150x7x10の柱脚はスライディングパッドを設置する。

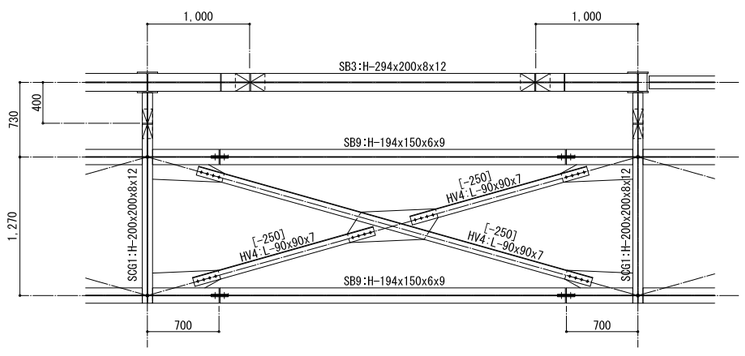
1FL
H150x150 柱脚詳細図

H150x150 柱頭詳細図

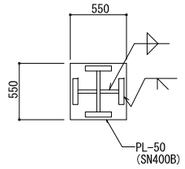
工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 鉄骨架構詳細図(8)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
	小田 文武	安川 雅巳	A1:1/ 30 A3:1/ 60	S－151



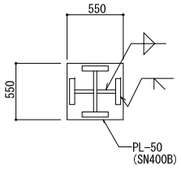
a通鉄骨架構群細図 1/30



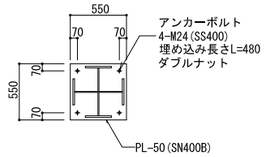
P-P 断面図



f-f 断面図
SC1 接合部群細図

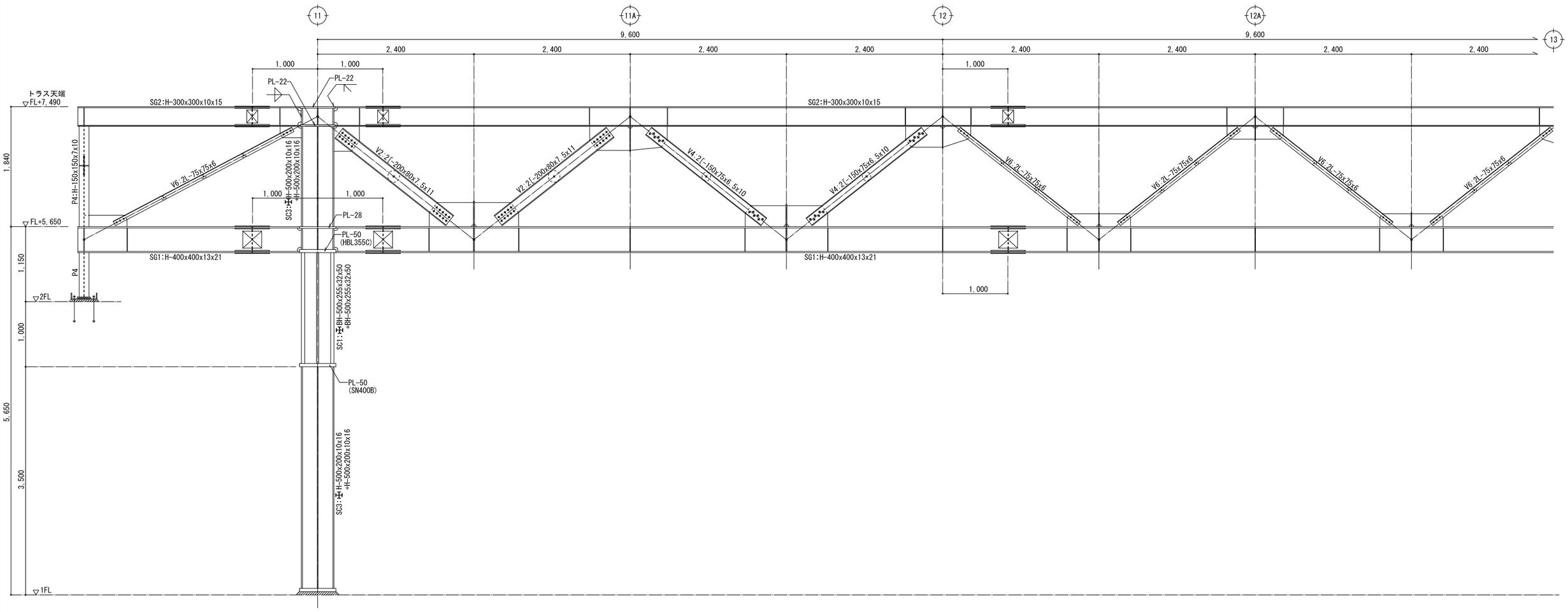


SC2 接合部群細図



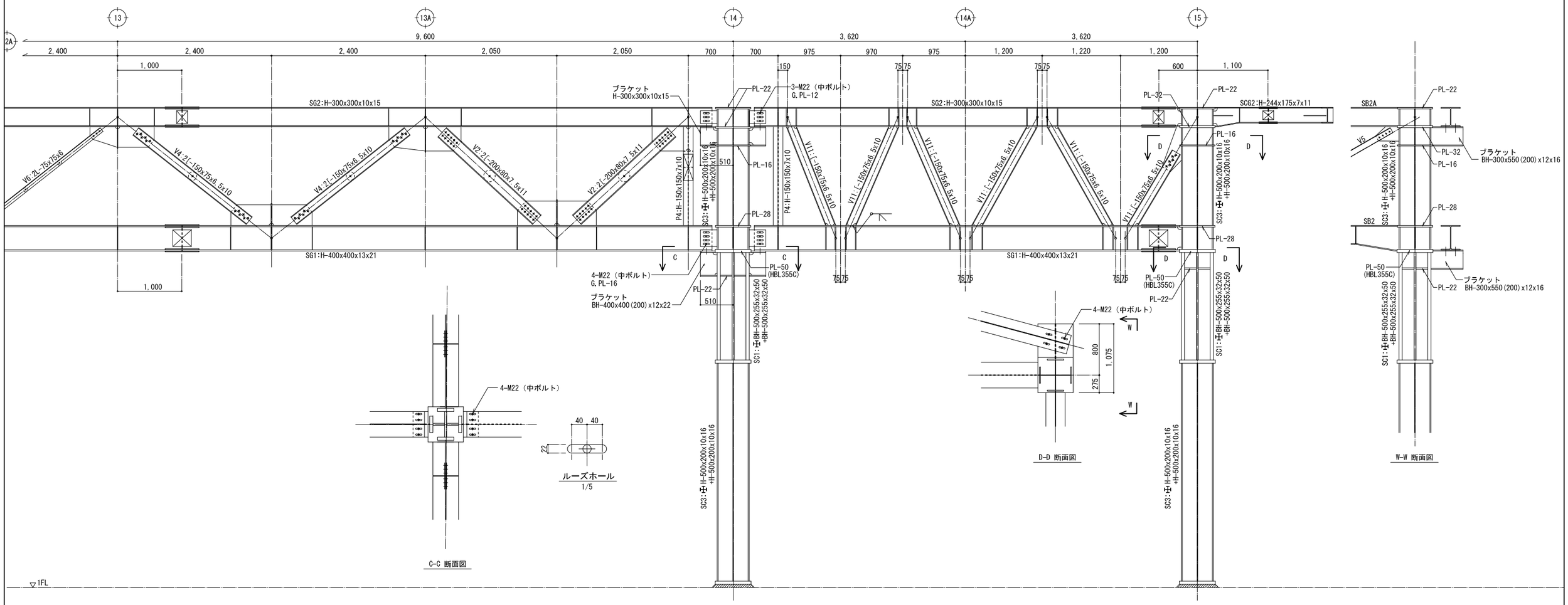
SC3 柱脚群細図

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 鉄骨架構群細図(9)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田 文武	設計者名 安川 雅巳	縮尺 A1:1/30 A3:1/60	図面番号 S－152



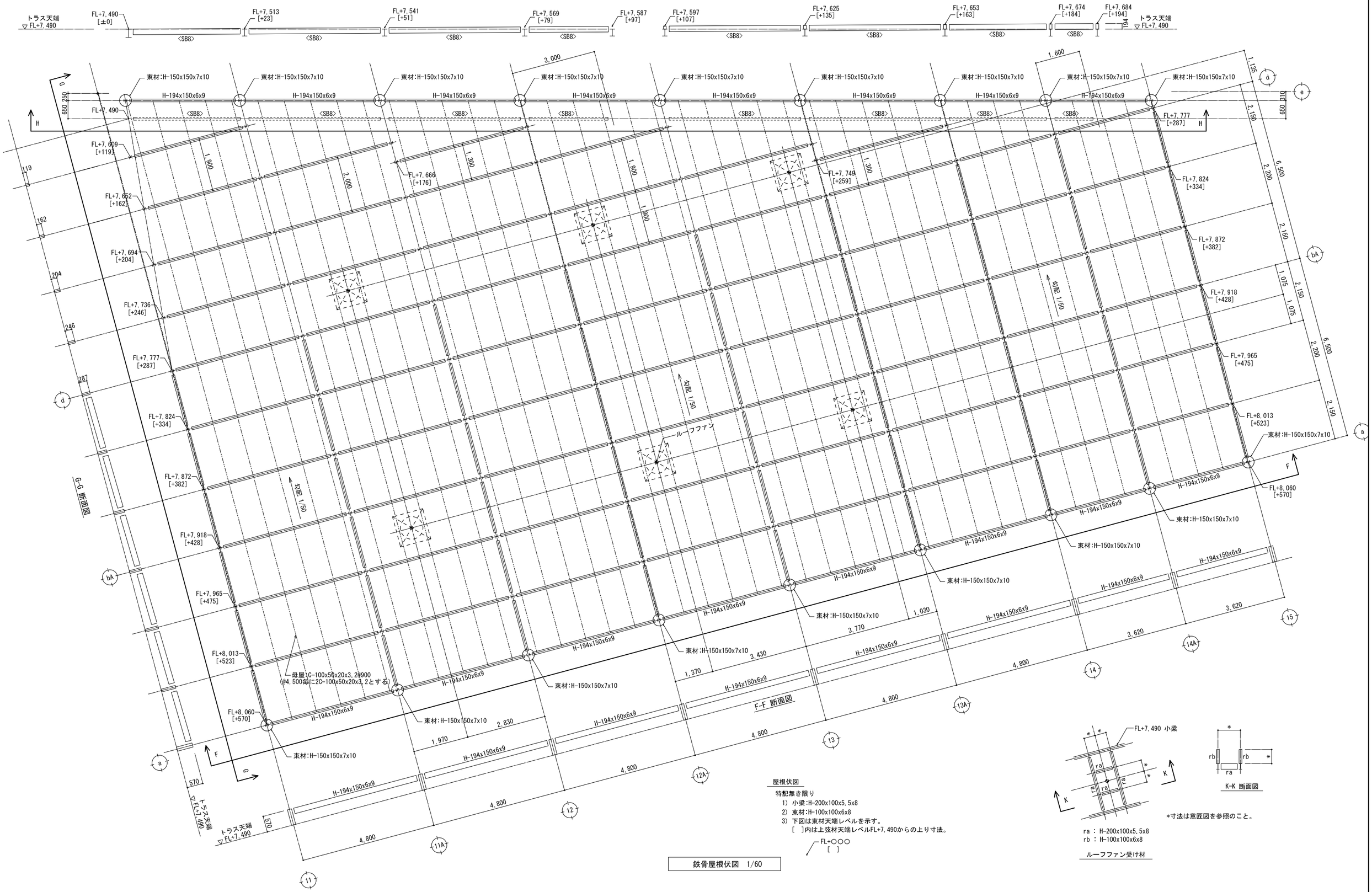
d通鉄骨架構群細図　1/30

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 鉄骨架構群細図(10)		2023/03
NEWJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/ 30 A3:1/ 60	図面番号 S－153



d通鉄骨架構群細図　1/30

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 鉄骨架構群細図(11)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/ 30 A3:1/ 60	図面番号 S－154



屋根伏図

特配無き限り

1) 小梁:H-200x100x5.5x8
2) 東材:H-100x100x6x8
3) 下図は東材天端レベルを示す。
   [ ]内は上弦材天端レベルFL+7,490からの上り寸法。

FL+○○○
[ ]

鉄骨屋根伏図 1/60

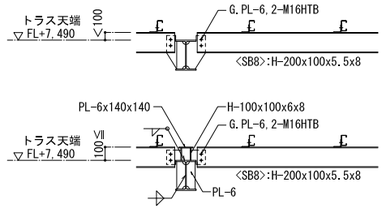
*寸法は意匠図を参照のこと。

ra : H-200x100x5.5x8
rb : H-100x100x6x8

ルーフファン受け材

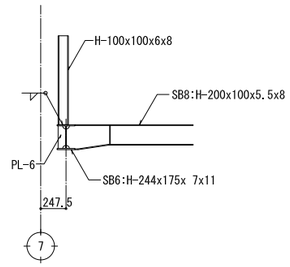
工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 鉄骨屋根伏図		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田 文武	設計者名 安川 雅巳	縮尺 A1:1/ 60 A3:1/120	図面番号 S -155

<SB8>:H-200x100x5.5x8 取合い詳細図　1/30

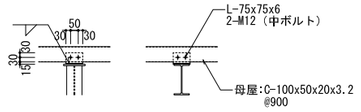


※母屋受けの小梁:H-200x100x5.5x8の収まりも同様とする。

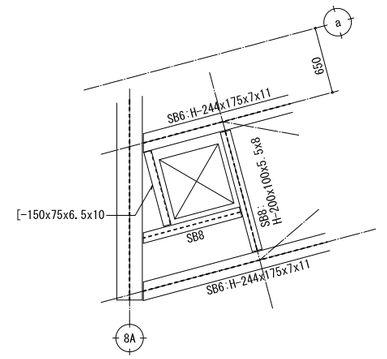
7通 パラペット部詳細図　1/30



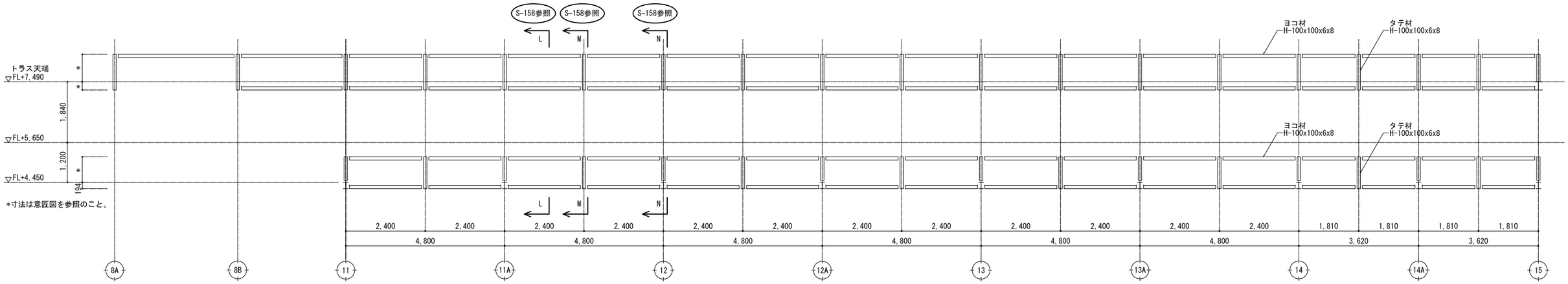
母屋 取合い詳細図　1/20



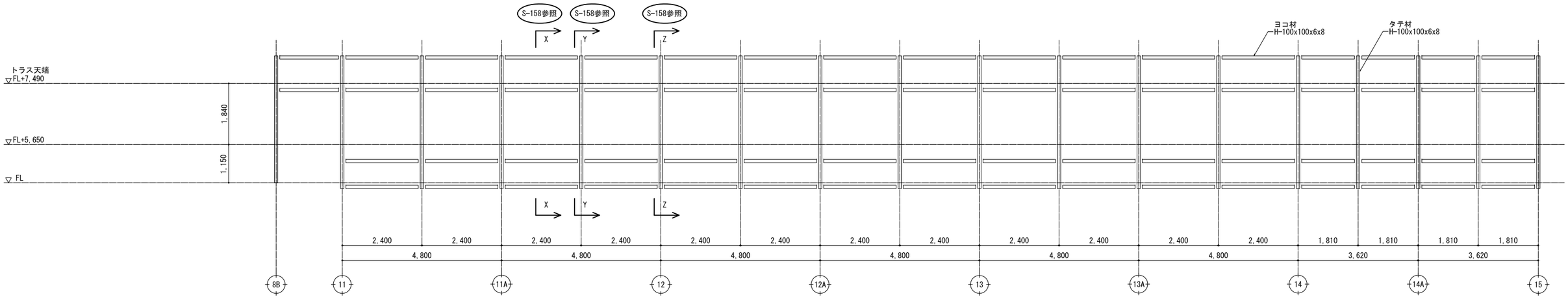
ハッチ部詳細図　1/30



工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 鉄骨屋根取合い詳細図		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/20,1/ 30 A3:1/40,1/ 60	図面番号 S－156



a通 ALC板取合い要領図　1/60

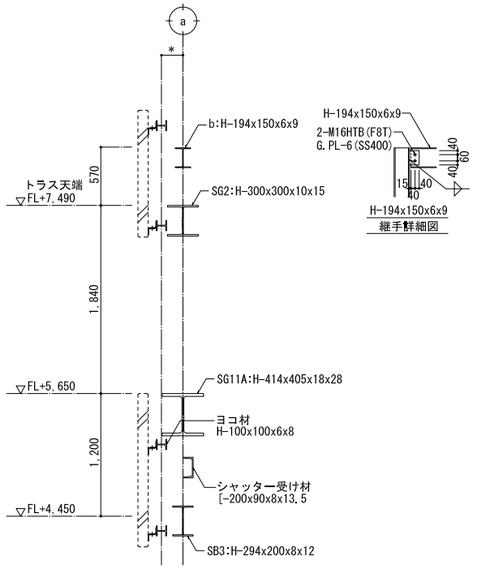


e通 ALC板取合い要領図　1/60

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 ALC板取合い要領図（1）		2023/03
NEOJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/ 60 A3:1/120	図面番号 S－157

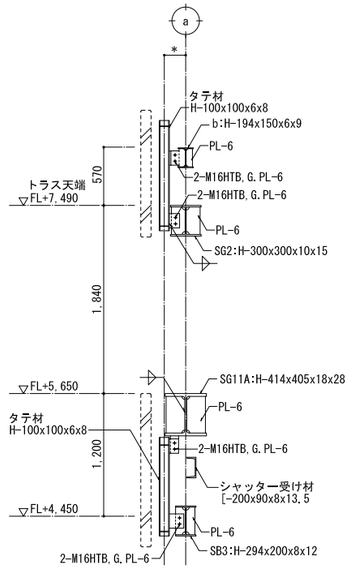
L-L 断面図 1/30

S-157参照 S-140参照



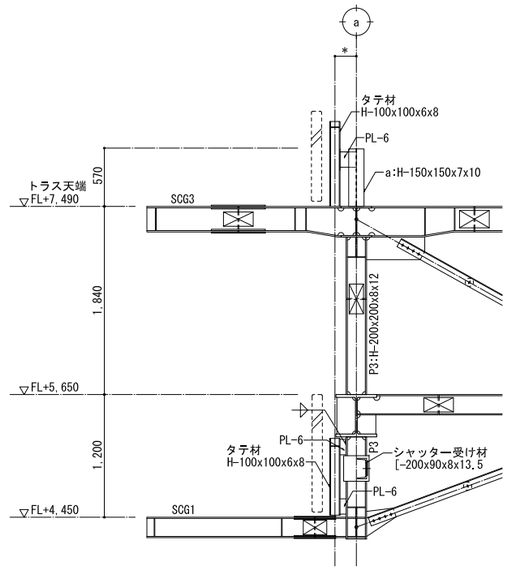
M-M 断面図 1/30

S-157参照 S-140参照



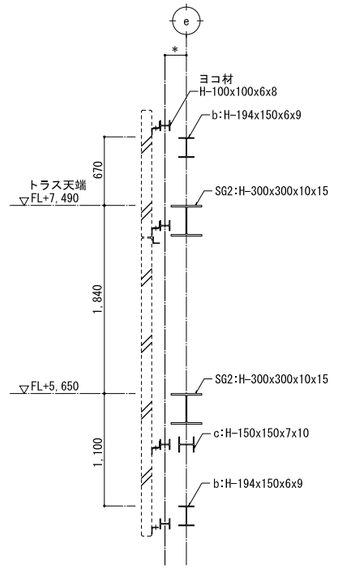
N-N 断面図 1/30

S-157参照 S-140参照



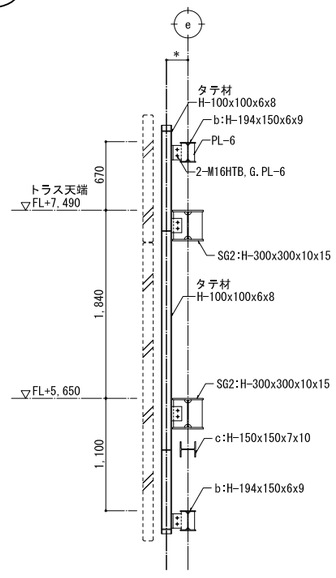
X-X 断面図 1/30

S-157参照 S-141参照



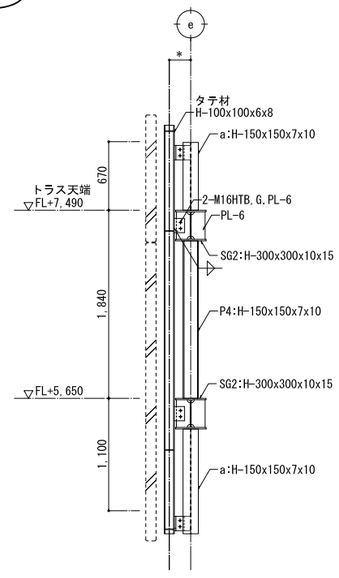
Y-Y 断面図 1/30

S-157参照 S-141参照



Z-Z 断面図 1/30

S-157参照 S-141参照



工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【消防本庁(署)】 ALC板取合い要領図（2）		2023/03
NEWJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
	小田　文武	安川　雅巳	A1:1/30 A3:1/60	S－158

構 造 特 記 仕 様 書 (1)

§1 一般事項

選択項目は ⦿ 印を適用し、⦿ 印が無い場合は ※ 印を適用する。
○ 印が複数有る場合は、共に適用する。

1-1 使用材料は原則としてJIS規格品、JAS規格品、又は大臣認定品とする。

1-2 設計図書の優先順位は下記による。

1) 本特記仕様書
2) 設計図
3) 構造関係共通事項
4) 仕様書 （⦿ 公共建築協会 ※ 日本建築家協会 ）
5) 日本建築学会標準仕様書 , JASS5 , JASS6（最新版とする）

1-3 各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承諾を得る。

1-4 構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。
第三者機関による検査・試験費用は工事費に（ ※ 含む • 含まない ）

1-5 設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承諾を得る。

1-6 梁貫通位置、径、及び箇所数は（ • 意匠図 ⦿ 構造図 ⊗ 設備図 ）による。
なお、スリーブ径は内径を示す。

1-7 その他

§2 構造計算ルート

2-1

方 向	構造計算ルート
X	• ルート1 • ルート2 ⦿ ルート3 •
Y	• ルート1 • ルート2 ⦿ ルート3 •

2-2 鉄筋の継手（定着については設計図若しくは標準図による）
構造計算ルート別による主筋又は、耐力壁の鉄筋の継手の重ね長さ
※ 建築基準法施行令第73条第2項による仕様規定
• 日本建築学会 JASS5(2018),鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説
• 日本建築学会 RC規準2018
XY両方向共ルート3及び限界耐力計算の場合は、令第73条第2項の仕様規定によらずJASS5(2018),鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びRC規準2018とすることができる。

§3 仮設工事,土工事

3-1 山留め、根切り

3-2 埋戻し土、盛土、残土処分
埋戻し土 ※ 根切り土の中の良土 ⦿ 搬入良土(埋戻し土は30cm毎に転圧締固めを行うこと)
盛土 ※ 根切り土の中の良土 ⦿ 搬入良土(盛土は30cm毎に転圧締固めを行うこと)
残土処分 • 場内地均し ※ 場外搬出処分（ ※ 自由 • 指定場所 ）

§4 地業工事

4-1 基礎及びスラブ下地業（単位mm）

場所		注1) 捨てコンクリート厚さ	A:砕石 B:割栗石	厚さ
基礎	独立,布	⊗ 50 • 60 • 100	⊗ A • B	⊗ 60 • 100 • 150 •
	ベタ	※ 50 • 60 • 100	※ A • B	※ 60 • 100 • 150 •
基礎梁		⊗ 50 • 60 • 100	⊗ A • B	⊗ 60 • 100 • 150 •
土間スラブ		⊗ 50 • 60 • 100	⊗ A • B	⊗ 60 • 100 • 150 •
土間コンクリート	屋内	※ 50 • 60 • 100	※ A • B	※ 60 • 100 • 150 •
	屋外	⦿ 50 • 60 • 100	⊗ A • B	⦿ 60 ※ 100 • 150 •

注1).アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。
注2).端部aは100以上とする。



4-2 設計地耐力 ※ S-303に示す
地耐力載荷試験 • 行う （ 箇所,長期設計耐力の3倍を確認する） ※ 行わない

4-3 地盤改良
• 無筋コンクリート地業 • 締固め工法 • ソイルセメント杭
⦿ セメント系固化材撹拌 • 圧密排水工法 • ※ 地盤改良特記仕様書による
[• 載荷試験 ⦿ 一軸圧縮試験] ⦿ 行う ※ 行わない
[⦿ 六価クロム溶出試験] ⦿ 行う ※ 行わない

4-4 既製コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭
1)杭種
• PHC杭 • A種 • B種 • C種
• ST杭 • A種 • B種 • C種
• SC杭 t mm • • •
• PRC杭 • Ⅰ種 • Ⅱ種 • Ⅲ種 • Ⅳ種
• 節杭 • A種 • B種 • C種
• 鋼管杭
2)工法
• 打撃工法 • 油圧ハンマー • ディーゼルハンマー
• 埋込み工法 • プレボーリングセメントミルク注入工法
• プレボーリング拡大根固め工法(認定工法)
杭周固定液 ※ あり • なし
• 中掘拡大根固め工法(認定工法)
• 回転埋設根固め工法(認定工法)
• 回転杭工法
先行掘削 ※ あり • なし

3) 杭径,設計耐力,本数表

杭径(拡底部)mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考
( )					
( )					
( )					
( )					

4) 杭の構成は設計図による。

5) 杭頭補強
• かご筋 • スタッド溶接 • 杭外周溶接

4-5 場所打鉄筋コンクリート杭,場所打鋼管コンクリート杭

1) 工法
• アースドリル工法 • 拡底アースドリル工法
• リバース工法 • オールケーシング工法 (• ベノト工法 •)
• BH工法 •

2) 杭径,設計耐力,本数表(拡底部は施工径を示す)

杭径(拡底部)mm	管厚 mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考
( )						
( )						
( )						
( )						
( )						

3) 杭先端深さ • GL− m • 杭リストによる • 杭伏図による

4) 孔壁測定 （ 2方向 ）
※ 行う （• 全数 • % ） • 行わない

5) 使用材料 コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合JASS5水中コンクリートによる。
コンクリート Fc (• 普通ポルトランドセメント • 高炉セメントB種)
鉄筋 • D 以下 SD295 • D 以上 SD345
• D 以上 SD390
鋼管(リブ付) • SKK400 • SKK490

4-6 杭打地業共通事項

1) [• 試験杭 • 試験掘] • 行う（ 本） • 行わない
2) 載荷試験 • 行う （ 箇所,長期設計耐力の3倍を確認する） ※ 行わない
3) SL塗布 • 行う ※ 行わない

§5 鉄筋工事

5-1 材種

種類	径	継手
⦿ SD295	D16 以下	※ 重ね継手 • スパイラル • 工場溶接
⦿ SD345	D19 以上	• 重ね継手 ※ ガス圧接 • 溶接継手
• SD390	D 以上	※ ガス圧接 • 溶接継手 • 機械継手(級)
• SD490	D 以上	• ガス圧接 ※ 溶接継手 • 機械継手(級)
• 溶接金網		• 重ね継手
• 高強度せん断補強筋	• 1275級 P	• フック加工 • スパイラル • 工場溶接
	• 785級 K	
	• 685級 U	

5-2 ガス圧接部の検査(第三者機関による)外観検査全数(引張り試験の場合、施工者自主検査でもよい)

⦿ 抜取り検査
• 引張り試験 (JISZ3120)
1検査ロットにつき ※ 3 本 • 原則 柱・梁の径毎に3本
⦿ 超音波探傷試験 (JISZ3062) • 熱間押抜き試験
1検査ロットにつき • 30箇所 •
◦ 不合格となった圧接部は切り取って再圧接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。
1検査ロットは1組の作業班が1日に施工した圧接箇所の数量で200箇所以内

5-3 溶接、機械式継手の検査は各々の認定方法による他,日本継手協会仕様書(2017年)及び下記を参照する。
JIS Z 3063 (鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波探傷試験方法及び判定基準)
JIS Z 3064 (鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定試験方法及び判定基準)

5-4 梁貫通補強
補強筋は原則として工場製品(評定品)を使用する。

5-5 その他
基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として ⦿ ①一般 • ②地反力を受ける
• ③上載荷重が大きい場合 とする。
梁の余長 ℓ1 の採用 ~~大梁・小梁 ※ D'(梁有効成) • 端部上下筋15d 中央上下筋20d~~
~~基礎梁 ※ min(D', L2) • 端部上下筋15d 中央上下筋20d~~
構造関係共通図による。
鉄筋の組立は適切な位置にスペーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。
コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。
コンクリート打設前に工事監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

§6 コンクリート工事

6-1 レディーミクストコンクリート(JIS A5308-2019)
1) セメント ※ 普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ JISR5210 • 高炉ｾﾒﾝﾄB種
• 低熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ JISR5210 •
2) 粗骨材 • 砂利 ※ 砕石 • 高炉ｽﾗｸﾞ骨材 • 人工軽量骨材 • 再生骨材
最大径(mm) ※ 20 • 25 • 40
3) 設計基準強度 (N/mm2) (使用区分は設計図の軸組図に示す)
⦿ 普通コンクリート
• Fc18 • Fc21 • Fc24 • Fc27 ⦿ Fc30 • Fc • Fc
• 軽量コンクリート （※ 1種 • 2種 気乾単位容積質量 ※ 18.5 • ）
• LFc18 • LFc21 • LFc24 • LFc27 • LFc30 • LFc
4) 土間コンクリート ⦿ Fc18（屋外）(ただし柱,壁等と同時に打込む場合は躯体の強度とする)
5) 捨てコンクリート ⦿ Fc18
6) 防水押さえコンクリート ⦿ Fc18 • LFc （気乾単位容積質量 ※ 18.5 • ）
7) かさ上げコンクリート ⦿ Fc18 • LFc （気乾単位容積質量 ※ 18.5 • ）

6-2 混和材 ※ AE減水剤 • 高性能AE減水剤 • 躯体防水材 • 膨張材
注1).混和剤は所定の品質を確保するためにプラントの特性に応じたもの使用する。

6-3

箇所	基礎・基礎梁	一般			備考
スランプ cm	15	18			
水セメント比 %					65以下
単位水量 kg/m3					185以下
単位セメント量 kg/m3					270以上

注2).スランプは特記なき限り施工者が決め監理者に報告する。

6-4 試験 (躯体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う)
1) 骨材 [⦿ 塩分含有量 ⦿ アルカリシリカ反応性] ※ 行う • 行わない
2) フレッシュコンクリート [⦿ スランプ ⦿ 空気量] ※ 行う • 行わない
3) 躯体のせき板取り外し時期決定圧縮試験 ※ 行う • 行わない
4) コンクリートコア抜き取り圧縮試験 • 行う ※ 行わない
5) マスコンクリートのひび割れ照査(温度応力解析) • 行う ※ 行わない
6) 単位水量測定 ⦿ 行う • 行わない

6-5 調合 (補正値は工事費に含む)
計画供用期間の級( )は耐久設計基準強度 Fd
• 短期(18) ⦿ 標準(24) • 長期(30) • 超長期(36)
調合管理強度 Fm=Max(Fc,Fd)+S S=3〜6
材齢28日の調合強度Fは下記の両式を満足するものとする。
F≧Fm+1.73σ F≧0.85Fm+3σ

6-6 せき板及び支柱の存置期間(普通ポルトランドセメントの場合)

		基礎、梁側、柱、壁	スラブ下	梁 下
コンクリートの材齢による場合	15 ℃以上	3 日	17 日	28 日
	5 ℃以上	5 日	25 日	
	0 ℃以上	8 日	28 日	
圧縮試験による場合		5N/mm2	注) 0.85Fcまたは12N/mm2	注) 設計基準強度

注) かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全が確認されるまで。

6-7 住宅性能表示
劣化等級 • 等級 2 • 等級 3
劣化等級2又は3を指定する場合は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)2-7かぶり厚さが変わる為,かぶりを訂正又は,設計図に明示する

6-8 Fc36を超える場合は高強度コンクリートとし、仕様は別記特記仕様書（JASS5等）による。

§7 鉄骨工事

7-1 材種及び使用箇所

規格名称	鋼材名	柱	通しダイア	内ダイア	大梁	ﾌﾞﾚｰｽ	小梁他
一般構造用圧延鋼材	⦿ SS400 •						○
溶接構造用圧延鋼材	• SM400A • SM490A						
建築構造用圧延鋼材	• SN400A •						
	⦿ SN400B • SN490B				○		
	• SN400C ⦿ SN490C		○				
一般構造用角形鋼管	⦿ STKR400 • STKR490						○
冷間成形角形鋼管	⦿ BCR295 •	○					
	• BCP235 • BCP325						
熱間成形角形鋼管	• SHC400B • SHC400C						
	• SHC490B • SHC490C						
一般構造用炭素鋼管	• STK400 • STK490						
	• STKN400 • STKN490						
一般構造用軽量形鋼	⦿ SSC400 •						○
建築構造用圧延棒鋼	• SNR400						

7-2 高力ボルト

高力ボルトの種類		使用箇所
トルシア形高力ボルト	※ S10T	全般
JIS形高力ボルト	• F10T	トルシア形が使用できない部分
溶融亜鉛メッキ高力ボルト	⦿ F8T	母材が亜鉛メッキされている部分
超高力ボルト	• S14T	屋内環境

7-3 普通ボルト,アンカーボルト
1) 材質 ⦿ SS400 • SS490(M 以上)
• ABR400 • ABR490 • ABM400 • ABM490(ABMはM24以上)
2) 大臣認定柱脚(メーカー仕様による) • 使用する • 使用しない

7-4 頭付きスタッド

径	長さ (mm)	使用箇所
16 φ	⦿ 80 • 100 • 120 • 150 •	埋込金物
19 φ	• 80 • 100 • 120 • 150 •	
22 φ	• 100 • 120 • 150 • •	

7-5 溶接材料
1) アーク溶接に使用する溶接棒,ワイヤ及びフラックスは母材の種類,寸法,及び溶接条件に相応したものを選定する。
2) ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。

7-6 スカラップ形状 ※ ノンスカラップ工法 ⦿ スカラップ工法

7-7 継手

	柱		梁	
フランジ	• 高力ボルト	• 現場溶接	※ 高力ボルト	• 現場溶接
ウェブ	• 高力ボルト	• 現場溶接	※ 高力ボルト	• 現場溶接

7-8 溶接手法及び管理
1) 使用する溶接ワイヤー、入熱量及びパス間温度等の仕様については鉄建協又は全構協の仕様で、専任の溶接施工管理技術者により管理を行うこと。
2) 完全溶け込み溶接はAW検定の有資格者が行うとする指定を ※行う • 行わない
3) 本工事で代替タブを使用する場合は、代替タブ溶接技能者技量検定付加試験を ※行う • 行わない
但し、-代替タブのAW検定有資格者は技量検定付加試験を免除する。

7-9 デッキプレート （単位mm）
1) 床用 高さ • 板厚 •
2) 合成スラブ用 高さ • 板厚 •
3) 型枠用 高さ • 板厚 • 形版 タイプ
4) 防錆処理 • プライマー • 亜鉛メッキ • Z12 • Z27

7-10 塗装(工場塗 ※ 2回 • 1回、現場タッチアップ程度とする)
1) 素地調整 ※ ケレン ⦿ ブラスト
2) 下塗り用塗料

適用 屋外	適用 室内	塗料		種別		標準膜厚
	※	鉛、クロムフリー錆止め	JISK5674	※1種	※2種	30μm
	•	水系さび止めペイント	JASS18 M-111			30μm
•		変性エポキシ樹脂プライマー	JASS18 M-109	• 1種	• 2種	40μm
•		有機ジンクリッチプライマー	JISK5552		• 2種	15μm
•		構造物用さび止めペイント	JISK5551	A種		30μm

3) 溶融亜鉛メッキ ⦿ 行う • 行わない
4) 常温亜鉛メッキ ⦿ 行う • 行わない ※原則、溶融亜鉛メッキ
5) 高耐食メッキ鋼板（t3.2mm以下） • 用いる ⦿ 用いない

7-11 溶接部の検査(受入検査) ※ 行う • 行わない
1) 受入検査を行う第三者検査機関は、建築主、設計者、工事監理者又は工事施工者(元請)との直接契約による。
2) 第三者検査機関は(社)日本溶接協会によるCIW検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を取得した事業者とし、当該工事の鉄骨製作工場の社内検査を行っていない事業者とする。
3) 受入検査は目視による外観検査と超音波探傷検査とし、社内検査完了後に行う。
4) 外観検査の合否判定は国土交通省告示1464号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会「JASS6 鉄骨工事 2018 付則6. 鉄骨精度検査基準」の限界許容差による。
5) 超音波探傷検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説」2018により、合否判定は7.2.1疲労を考慮しない溶接部のうち、引張応力が作用する溶接部の項を適用する。
6) 溶接箇所数の数え方は「JASS6 鉄骨工事 2018」表10.1溶接箇所数の数え方による。
7) 受入検査の抜取り方法及び抜取り率は以下による。
a) 工場溶接の場合
ⅰ.検査ロットは各節、各工区毎に溶接箇所300箇所以内で構成する。
ⅱ.抜取り数は各ロット毎に30箇所をランダムにサンプリングする。
ⅲ.大きさ30個のサンプル中の不適合個数が1個以下のときはロットを合格とし、4個以上のときはロットを不合格とする。ただし、サンプル中の不適合数が1個を超え4個未満のときは、同じロットからさらに30個のサンプルを抜取検査する。総計60個のサンプルについての不適合個数の合計が4個以下のときはロットを合格とし、5個以上のときはロットを不合格とする。
b)現場溶接の場合
ⅰ.全数検査とする。
8) 検査により不合格と判定された溶接部はすべて補修を行い、再検査して合格とならねばならない。
9) ずれ・食い違いの補修方法は、独立行政法人 建築研究所監修「突き合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。

7-12 鉄骨製作工場 下記○印のグレード認定工場の内、納期・製作能力・鉄骨数量を勘案して工場選択のこと

国土交通省大臣認定(グレード)					
S	H	(M)	R	J	

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【車庫棟】 構造特記仕様書 (1)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
	小田 文武	安川 雅巳	A1:− A3:−	S-301

構 造 特 記 仕 様 書 (2)

§8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PCa板工事

選択項目は ⦿ 印を適用し、⦿ 印が無い場合は ※ 印を適用する。○ 印が複数有る場合は、共に適用する。

8-1　コンクリートブロック

1) 種類　• A種　• B種　• C種

2) 厚さ mm　• 100　• 120　• 150　• 190

8-2　ALCパネル

1) 使用箇所　• 床　• 屋根　⦿ 外壁　• 内壁

2) 厚さ mm　• 75 (80) ⦿ 100　• 120(125)• 150　• 175

3) 外壁取り付け構法

方　向	構　　法	使 用 箇 所	備　　考
縦	⦿ ロッキング構法	外壁	
横	• アンカー構法		

8-3　押出成形セメント板

外壁取付構法及び厚さ mm　•　•

方　向	構　　法	使 用 箇 所	備　　考
縦	• ロッキング構法		
横	• スライド構法		

8-4　PCa板

1) 床及び屋根　• 床　• 屋根

• PCa板単独 厚さ mm　•　•

• 合成板

PCa板厚さ　mm	現場打厚さ　mm	合計厚さ　mm	備　　考

2) 外壁 厚さ　mm　•　•

§9　施工方法等計画書

9-1　構造体コンクリート強度の検査

1) 構造体コンクリートの圧縮強度の検査は、工事現場で試料を採取して作製した円柱供試体の圧縮強度試験によって行う。

2) 1回の試験は、コンクリートの打込み日ごと、打込み工区ごとに行う。ただし、1日の計画打込み量が150m3を超える場合には、150m3以下にほぼ均等に分割した単位ごとに1回行う。

3) 1回の試験には、適当な間隔をおいた3台の運搬車から、1個ずつ採取した合計3個の供試体を使用する。

4) 試験結果の判定は、1回ごとに行う。

5) 試験結果が、表9-1-1を満足すれば、合格とする。

6) 5)において、標準養生供試体の代わりに、あらかじめ準備した現場水中養生供試体によることができる。その場合の判定基準は、材齢28日までの平均気温が20℃以上の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値が調合管理強度以上であり、平均気温が20℃未満の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値から3N/mm2を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

7) 5)において、コア供試体の代わりに、あらかじめ準備した現場封かん養生供試体によることができる。その場合の判定基準は、材齢28日を超え91日以内にn日において、3個の供試体の圧縮強度の平均値から3N/mm2を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

8) 試験結果が、表9-1-1または 6)あるいは 7)を満足しない場合の措置は、工事監理者の指示による。

表9-1-1 構造体コンクリートの圧縮強度の判定基準

供試体の標準方法	試験材齢(※1)	判定基準
標準養生(※2)	28日	X ≧ Fm
コ　ア	91日	X ≧ Fq

ただし、 X：1回の試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値(N/mm2)

Fm：コンクリートの調合管理強度(N/mm2)

Fq：コンクリートの品質基準強度(N/mm2)

注）(※1) 所定の年齢より早い材齢において試験を行った結果が合否判定基準を満たした場合は、合格とする。

(※2) 工事監理者の承認を得て、供試体成型後、翌日までは20±10℃に日光および風が直接当たらない箇所で、乾燥しないように養生して保管することができる。

9-2　材料及び調合の条件

コンクリートの耐久性を確保するための材料及び調合の条件は、 特記された事項以外は下記による。

1) AE剤、AE減水剤または高性能AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は、特記による。特記のない場合は4.5%とする。

2) 水セメント比は、調合強度が得られる値とする。

3) 水セメント比の最大値は、表9-2-1による。表9-2-1に示す以外のセメントを用いる場合の水セメント比の最大値は、特記による。

4) コンクリートに含まれる塩化物量は、塩化物イオン量で0.30kg/m3以下とする。

5) コンクリートは、アルカリシリカ反応を生じるおそれのないものとする。

表9-2-1　水セメント比の最大値

	セメントの種類	水セメント比の最大値（%）	
		短期・標準・長期	超長期
ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 中庸熱ポルトランドセメント	65	55
	低熱ポルトランドセメント	60	
混合セメント	高炉セメントA種 フライアッシュセメントA種 シリカセメントA種	65	ー
	高炉セメントB種 フライアッシュセメントB種 シリカセメントB種	60	

9-3　養　生

9-3-1　養生温度

1) 外気温の低い時期においては、コンクリートを寒気から保護し、打込み後５日間以上温度を２℃以上に保つ。ただし、早強ポルトランドセメントを用いる場合は、この期間を3日間以上としてよい。

2) コンクリートの打込み後、初期凍害を受けるおそれがある場合は，初期養生を行う。

3) コンクリートの打込み後、セメントの水和熱により部材断面の中心部温度が外気温より25℃以上高くなるおそれがある場合は、温度応力の悪影響が生じないような養生を行う。

9-3-2　湿潤養生

打込み後のコンクリートは、透水性の小さいせき板による被覆、養生マットまたは水密シートによる被覆、散水、噴霧、膜養生剤の塗布などにより湿潤養生を行う。その期間は、計画供用期間の級に応じて表9-3-1によるものとする。

表9-3-1　湿潤養生の期間

計画供用期間の級 ／ セメントの種類	短　期 および 標　準	長　期 および 超長期
早強ポルトランドセメント	3日以上	5日以上
普通ポルトランドセメント	5日以上	7日以上
中庸熱および低熱ポルトランドセメント 高炉セメントB種、フライアッシュセメントB種	7日以上	10日以上

9-3-3　振動及び外力からの保護

1) 凝結硬化中のコンクリートが、有害な振動や外力による悪影響を受けないように、周辺における作業の管理を行う。

2) コンクリートの打込み後、少なくとも1日間はその上で作業をしてはならない。やむを得ず歩行したり作業を行ったりする必要がある場合は、工事監理者の承認を受ける。

9-3-4　型枠の存置期間及び取外し

1) 型枠の取外しは、型枠の最小存置期間の経過後に行う。

2) 型枠の存置期間は、次による。

ア）最小存置期間は、表9-3-2及び表9-3-3により、コンクリートの材齢又はコンクリートの圧縮強度により定める。寒冷のため強度の発現が遅れるおそれのある場合は、コンクリートの圧縮強度により存置期間を定める。ただし、セメントの種類が普通エコセメントの場合の最小存知機間は、特記による。

イ）コンクリートの圧縮強度を圧縮強度試験により確認する場合は、コンクリートの試験結果及び関係法令等に基づく安全を確認するための資料により、工事監理者の承認を受ける。

表9-3-2 せき板の最小存置期間

施工箇所 ／ セメントの種類 ／ 存置期間中の平均気温		基礎・梁側・柱・壁			
		早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント,高炉セメントA種，シリカセメントA種,フライアッシュセメントA種	高炉セメントB種,シリカセメントB種,フライアッシュセメントB種	中庸熱ポルトランドセメント,低熱ポルトランドセメント
コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	2	3	5	6
	5℃以上	3	5	7	8
	0℃以上	5	8	10	12
コンクリートの圧縮強度による場合	ー	圧縮強度が5N/mm2以上になるまで。			

注）圧縮強度を圧縮強度試験により確認する場合は、工事現場における水中養生供試体又は封かん養生供試体の圧縮強度とする。

表9-3-3 支柱の最小存置期間

施工箇所 ／ セメントの種類 ／ 存置期間中の平均気温		スラブ下			梁下
		早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント，高炉セメントA種，シリカセメントA種，フライアッシュセメントA種	中庸熱ポルトランドセメント，低熱ポルトランドセメント，高炉セメントB種，シリカセメントB種，フライアッシュセメントB種	左記の全てのセメント
コンクリートの材齢による場合（日）	15℃以上	8	17	28	28
	5℃以上	12	25		
	0℃以上	15	28		
コンクリートの圧縮強度による場合	ー	圧縮強度が設計基準強度(Fc)の85%以上又は12N/mm2以上であり、かつ、施工中の荷重及び構造計算外力について、により安全であることが確認されるまで。			圧縮強度が設計基準強度(Fc)以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで。

注）圧縮強度を圧縮強度試験により確認する場合は、工事現場における水中養生供試体又は封かん養生供試体の圧縮強度とする。

3) 片持梁、ひさし、長大スパンの梁、大型スラブ等の型枠を支持する支柱、施工荷重が大きく、コンクリートに支障が生じるおそれがある場合の支柱等は、必要に応じて、存置期間を延長する。

4) スラブ下及び梁下のせき板は、支柱を取外し後に取外す。ただし、これにより難い場合は、工事監理者と協議する。なお、支柱の盛替えは行わない。

5) 支保工除去後、その部材に加わる荷重が構造計算書におけるその部材の設計荷重を上回る場合には、上述の存置機関にかかわらず、計算によって十分に安全であることを確かめた後に取り外す。

§10　施行令第129条の2の3の事項　　※設計が該当する項目は、□ に ✓ を記入。

建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

☑ 建築設備（昇降機を除く。）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとすること。

□ 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するもの（以下「屋上水槽等」という。）は、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。

□ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。

□ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。

☑ 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備（給湯設備[注)]を除く。）は、

　☑ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。

　☑ 建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。

　☑ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。

　☑ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。

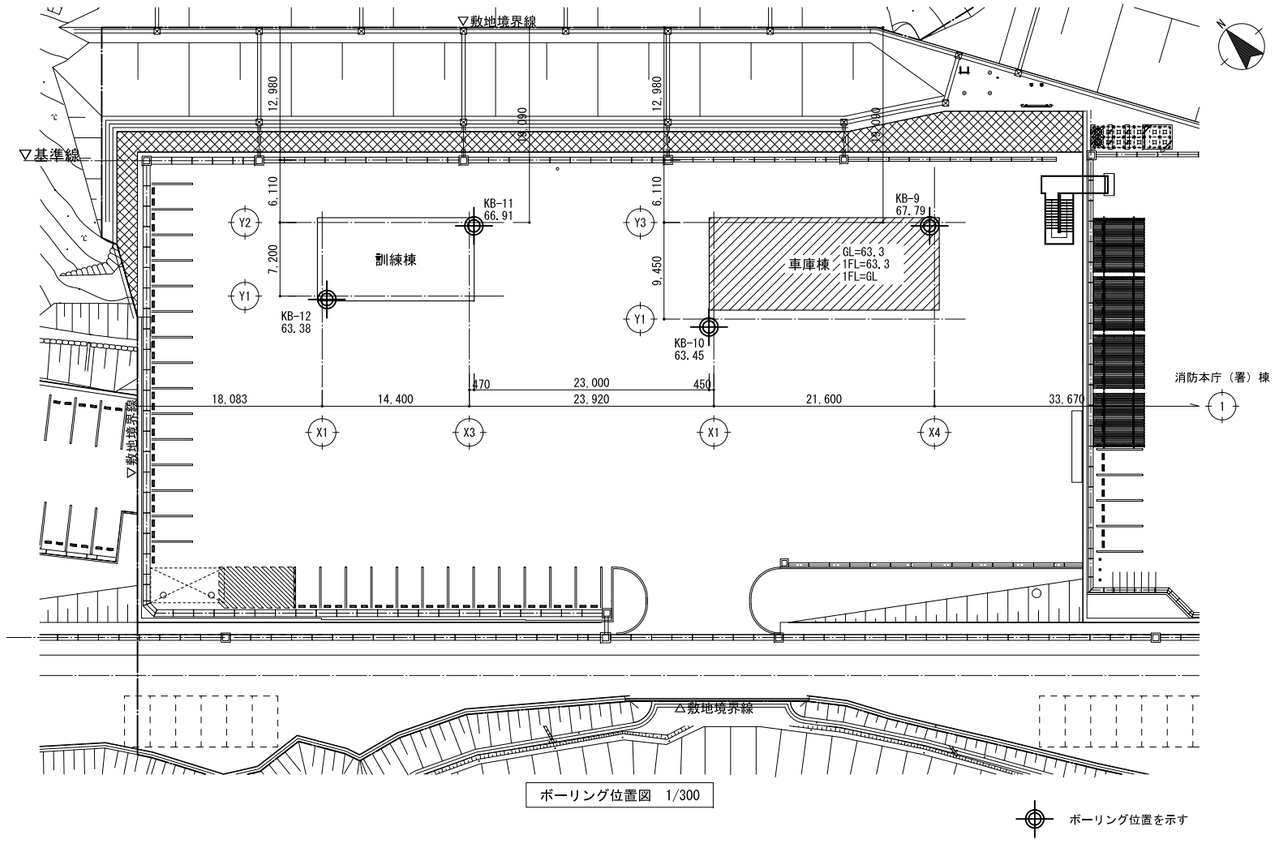
□ 法第20条第1項第一号から第三号までの建築物に設ける屋上水槽等にあっては、平成12年建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとすること。

□ 給湯設備[注)]は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。

注）「給湯設備」：建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの。

工事名	図面の名称	作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事	【車庫棟】 構造特記仕様書 (2)	2023/03

NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
	小田　文武	安川　雅巳	A1:－ A3:－	S-302

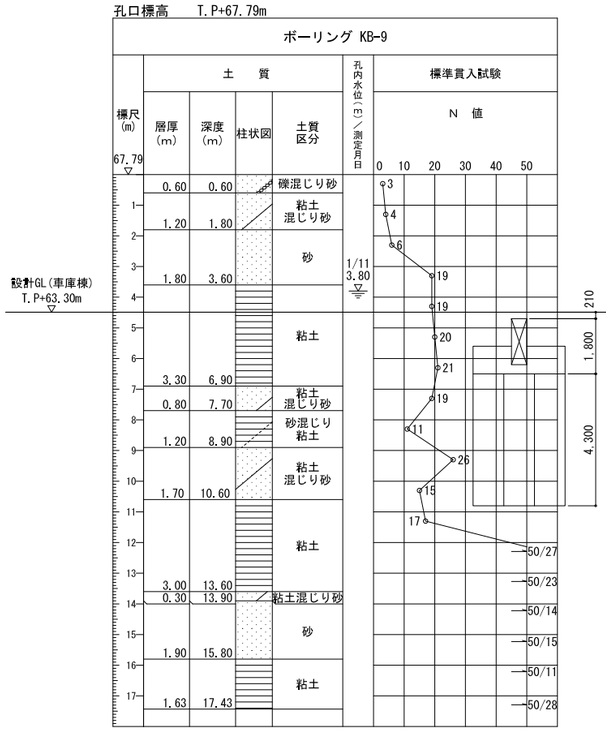


ボーリング位置図　1/300

ボーリング位置を示す

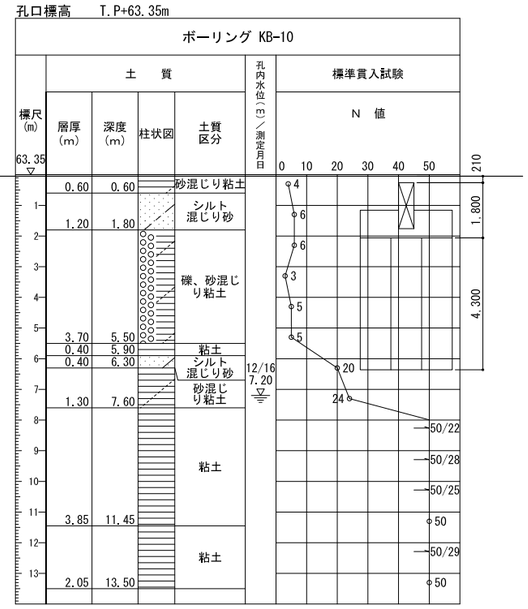
調査場所
調査期間　令和4年1月8日～令和4年1月11日
施工業者　株式会社 ニュージェック

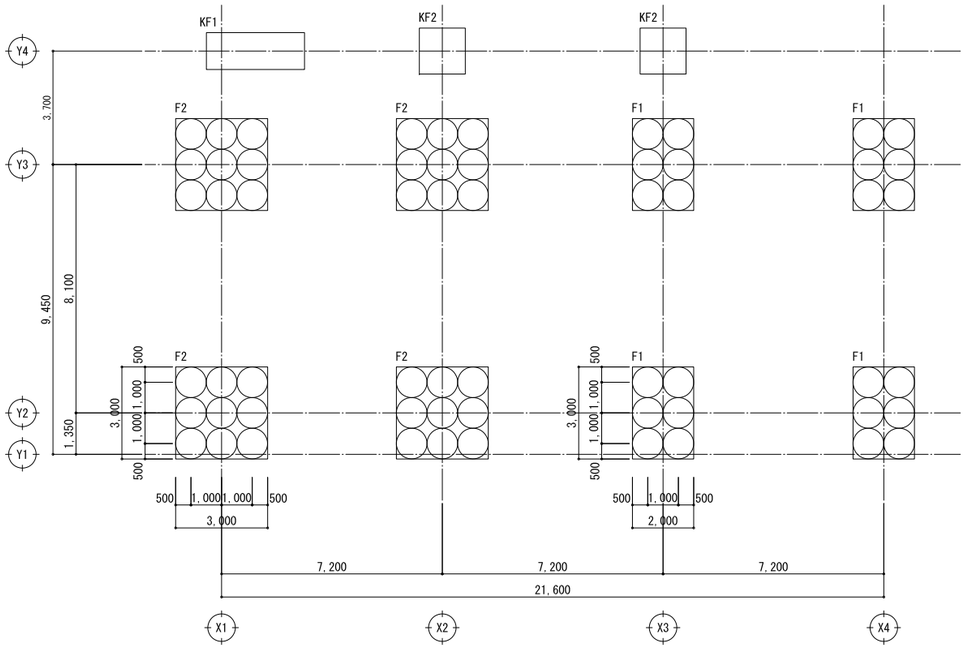
孔口標高　T.P+67.79m



調査場所
調査期間　令和3年12月15日～令和3年12月16日
施工業者　株式会社 ニュージェック

孔口標高　T.P+63.35m

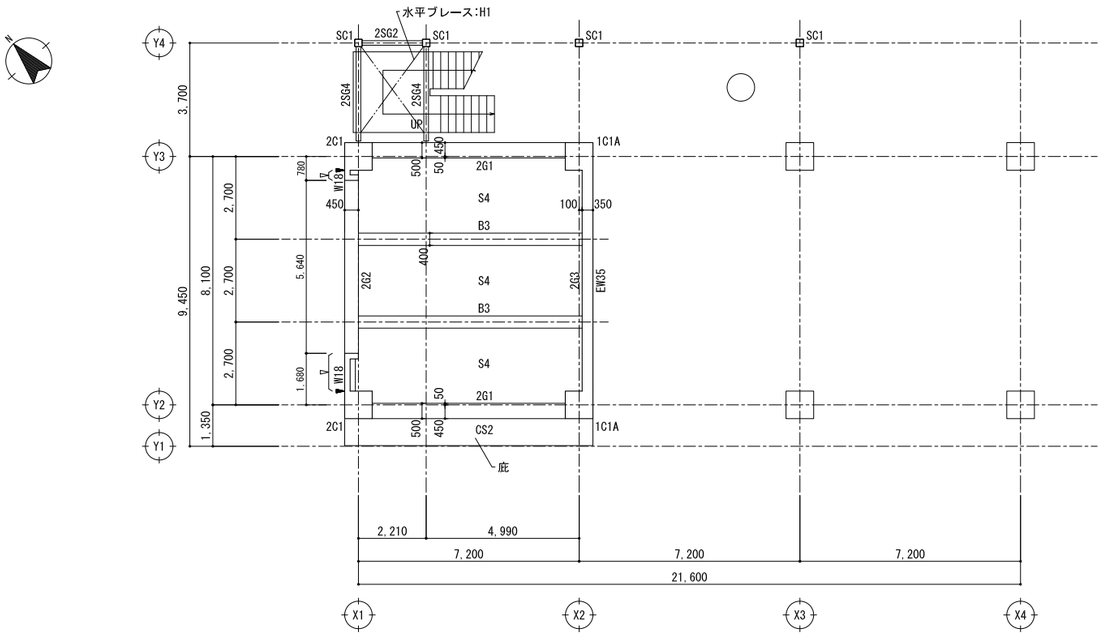




地盤改良配置図　1/100

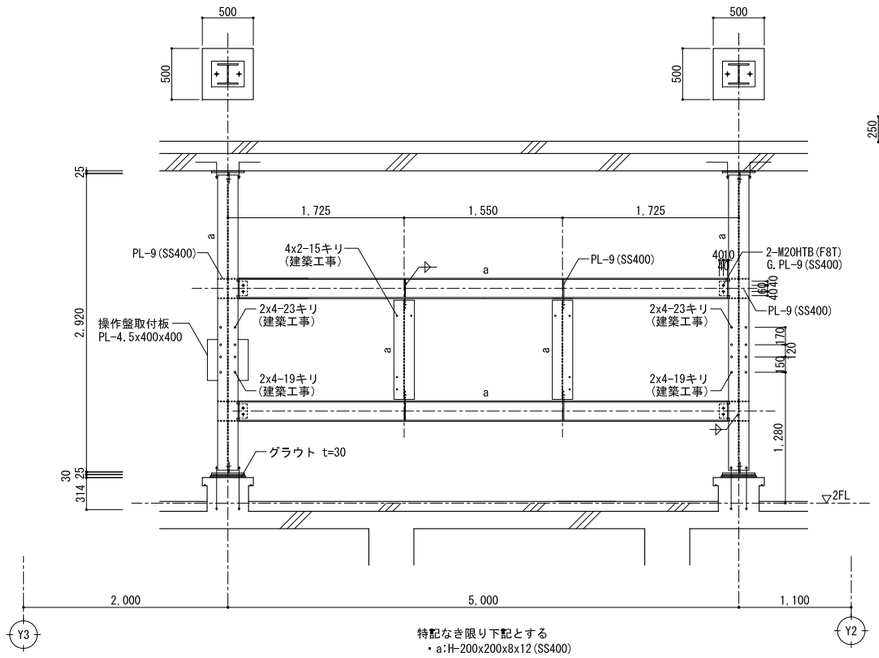
基礎底レベルはF1,F2は設計GL-2,010、KF1,KF2は設計GL-900とする
設計地耐力（長期）は、F1,F2：300kN/m²（深層混合処理工法）、KF1,KF2：50kN/m²とする

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【車庫棟】 ボーリング位置図、地盤改良配置図		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/100,1/300 A3:1/200,1/600	図面番号 S-303



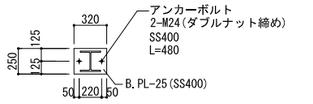
1.5階床梁伏図　1/100

特記なき限り下記とする
・床版、大梁、小梁天端：1.5FL-80
・鉄骨梁天端　　：1.5FL-415

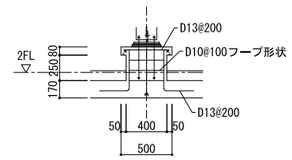


特記なき限り下記とする
・a:H-200x200x8x12(SS400)

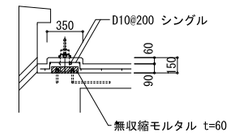
A-A矢視図　1/30



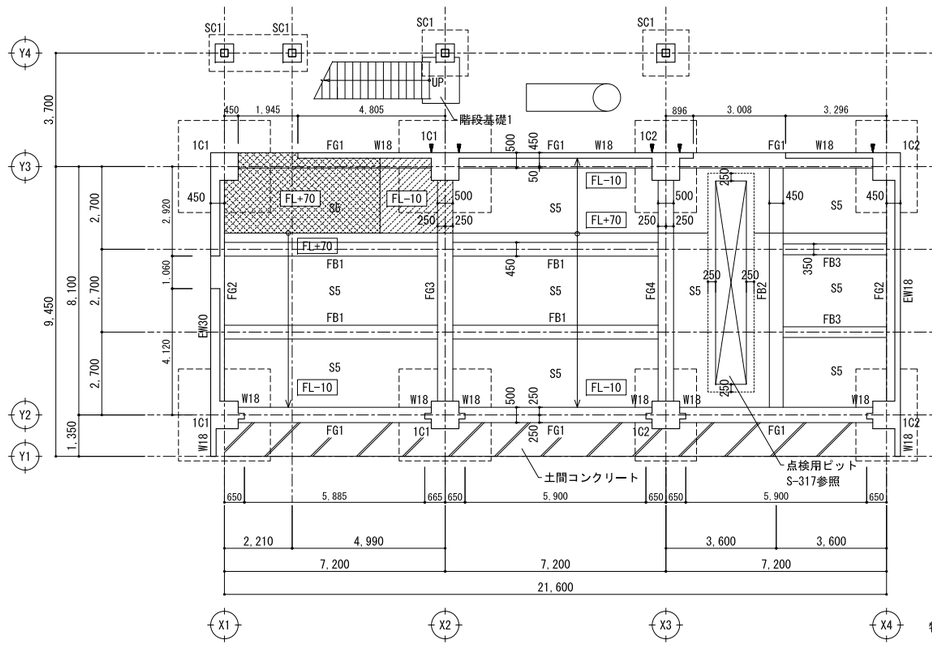
H-200柱頭柱脚図　1/30



基礎配筋要領図　1/30

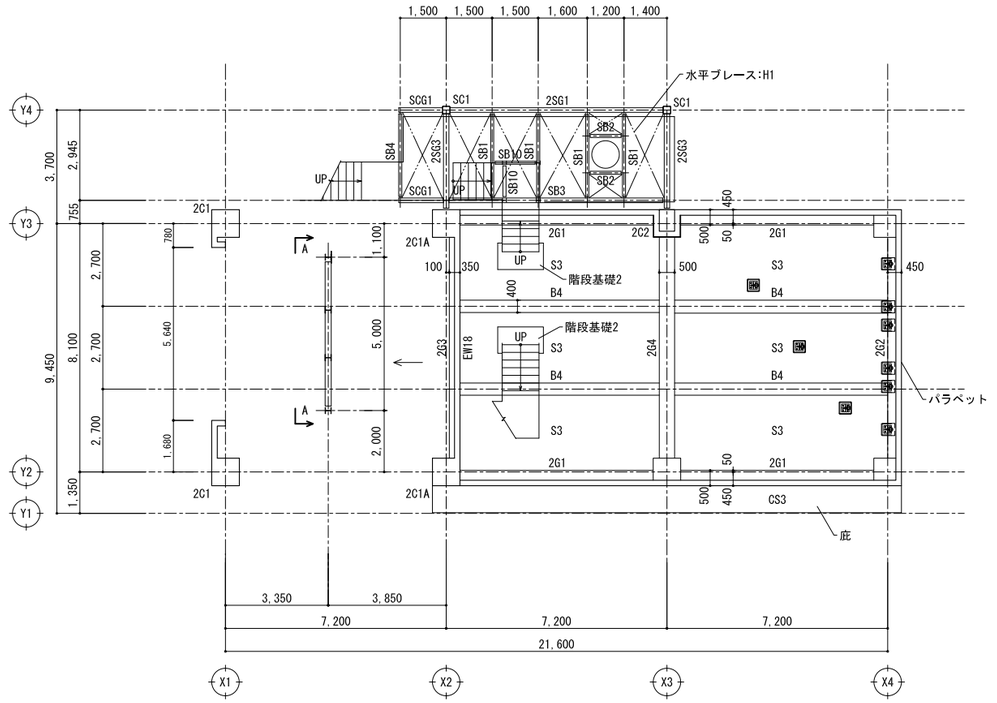


床アンカー部配筋要領図　1/30



1階床梁伏図　1/100

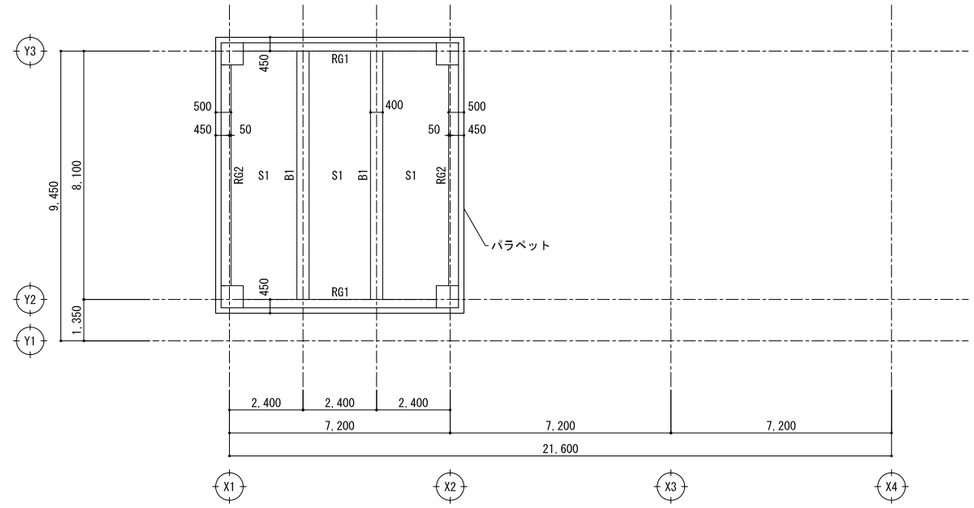
特記なき限り下記とする
・1FL=設計GL
・床版天端　　：1FL+70～-10
・土間天端　　：1FL-10
数字 は1FLからの床版レベルを示す
・地中梁、地中小梁天端：1FL-210
・◄ 構造鉛直スリットを示す



2階床梁伏図　1/100

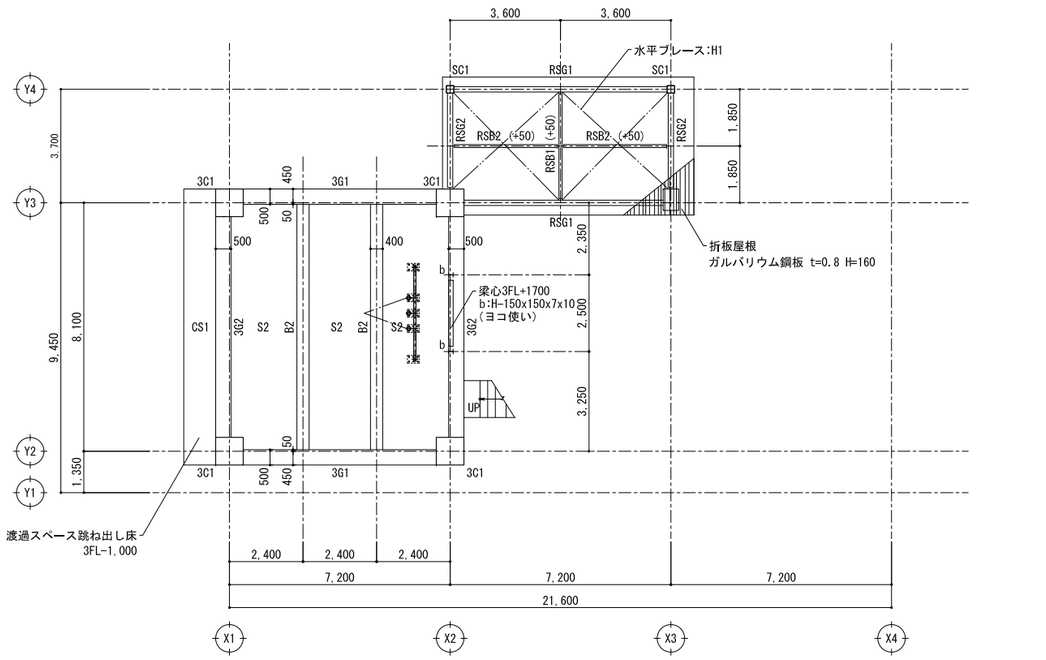
特記なき限り下記とする
・床版天端　　：2SL±0 水勾配によるレベルは軸組図参照
・大梁、小梁天端：2SL-50 水勾配によるレベルは軸組図参照
・鉄骨梁天端　　：2SL(水下)-250

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【車庫棟】 伏図（1）		2023/03
NEOJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図面番号 S-304



R階床梁伏図　1/100

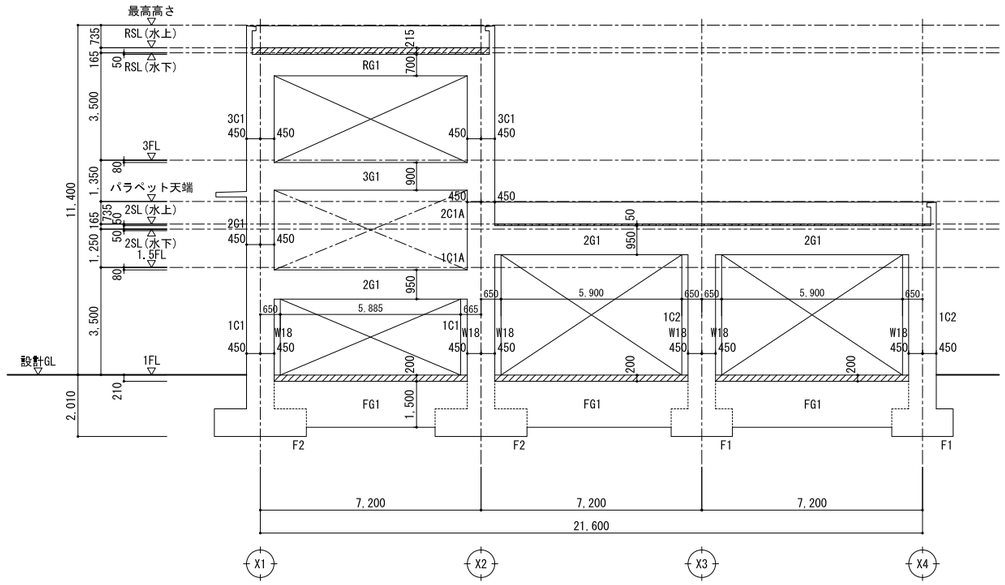
特記なき限り下記とする
・床版天端　　：RSL±0 水勾配によるレベルは軸組図参照
・大梁、小梁天端：RSL(水下)-50



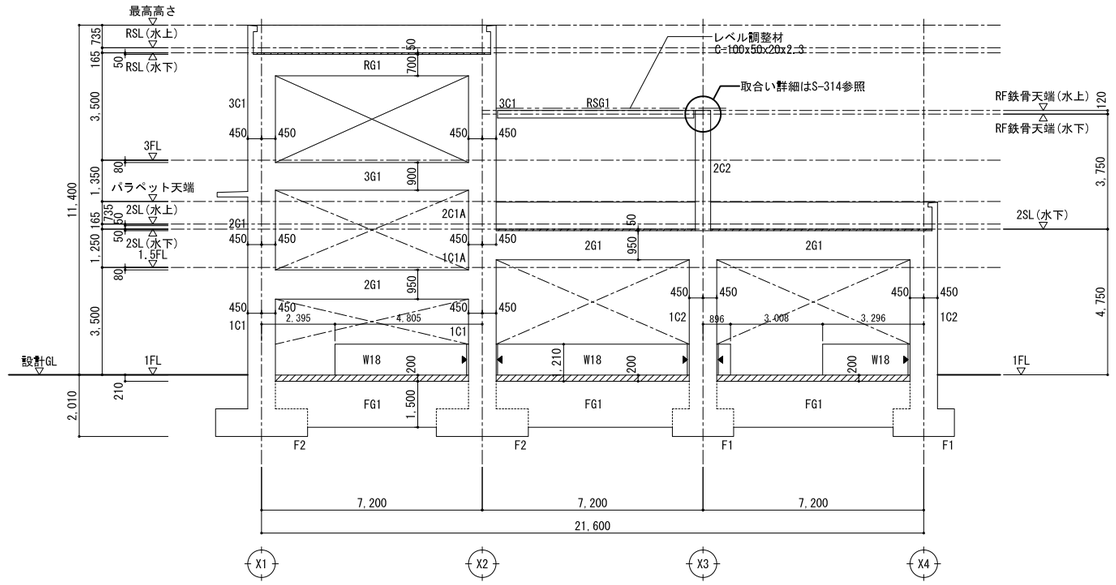
3階床梁伏図　1/100

特記なき限り下記とする
・床版、大梁、小梁天端：3FL-80
・鉄骨大梁のレベルは軸組図を参照
・鉄骨小梁の(　)内数字は鉄骨大梁天端からのレベル差を示す
・b:H-150x150x7x10(SS400)

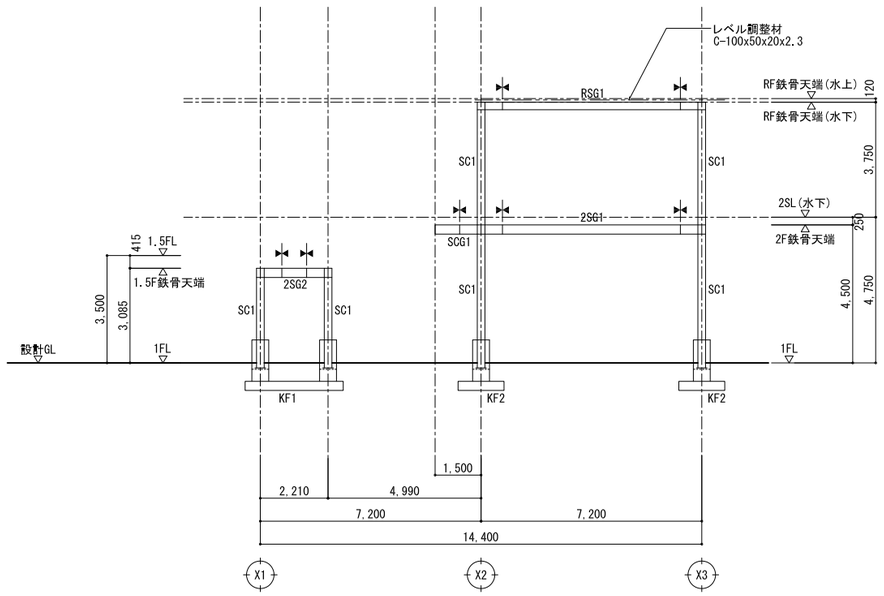
工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【車庫棟】 伏図 (2)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図面番号 S-305



Y2通軸組図　1/100



Y3通軸組図　1/100

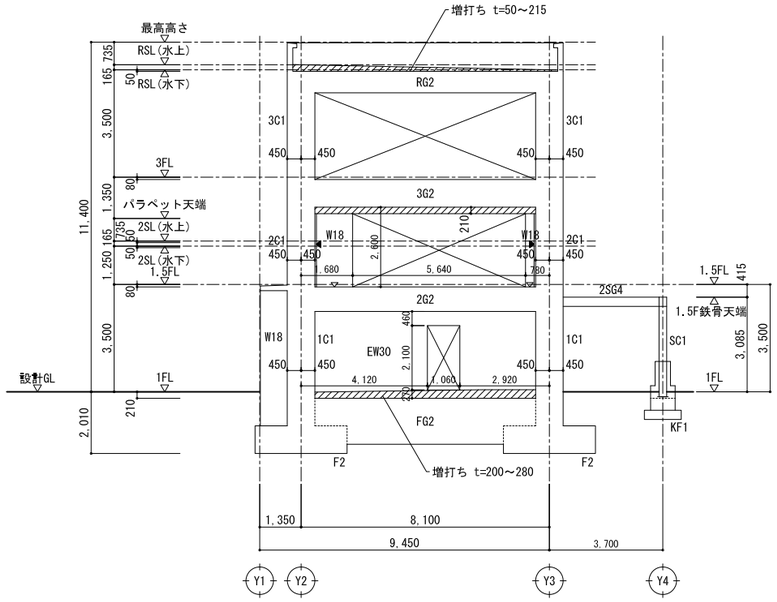


Y4通軸組図　1/100

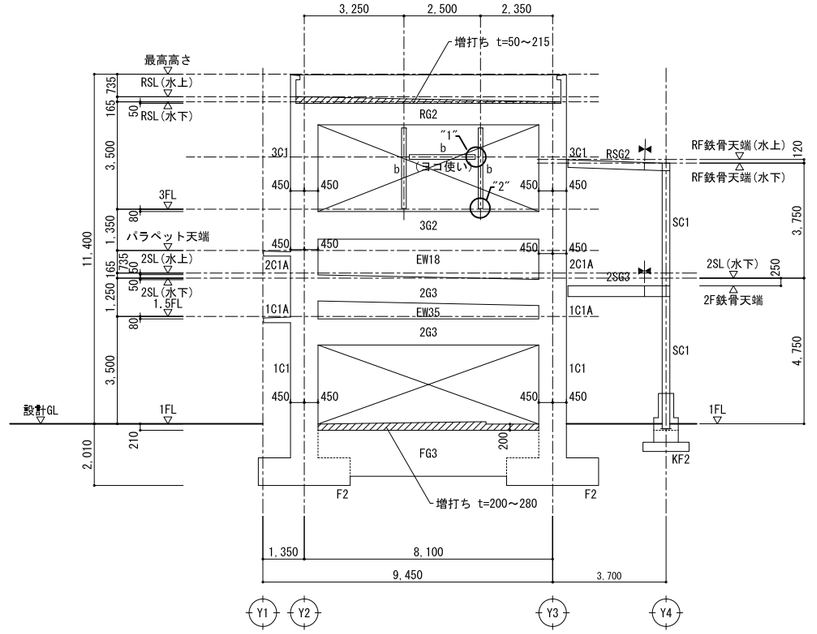
特記なき限り下記とする

- 構造鉛直スリットを示す
- 増打ちコンクリートを示す
- ALC壁を示す
- 剛接合現場継手位置を示す。
- 剛接合現場継手位置は、柱心から700mmとする。

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【車庫棟】 軸組図 (1)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図面番号 S-306

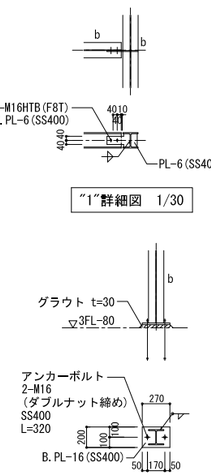


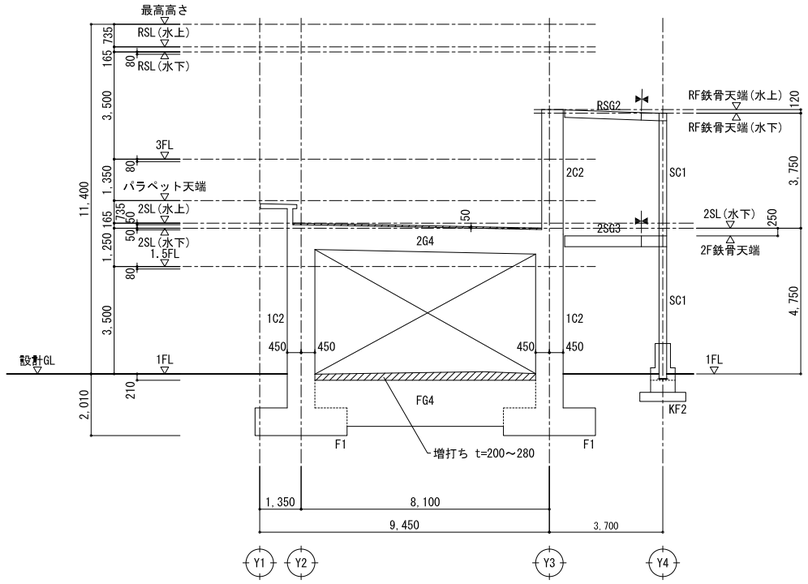
X1通軸組図　1/100



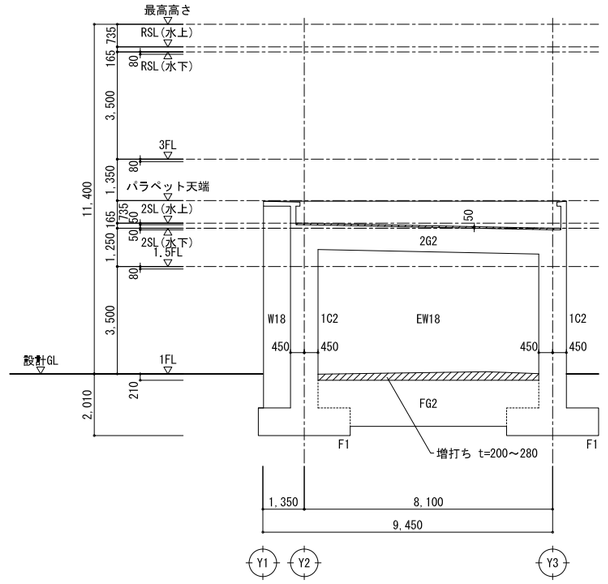
X2通軸組図　1/100

特記なき限り下記とする
・b:H-150x150x7x10(SS400)





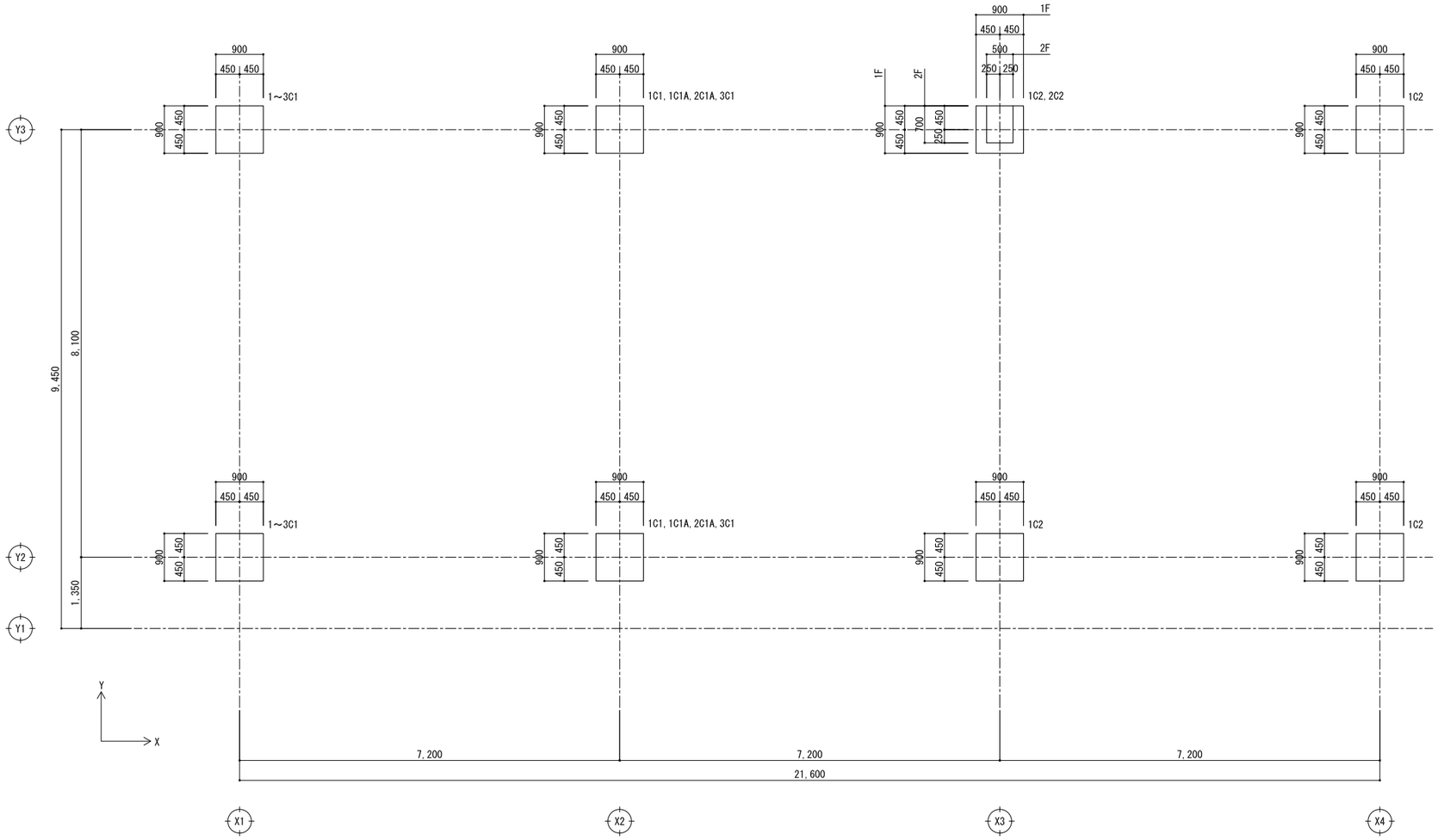
X3通軸組図　1/100



X4通軸組図　1/100

特記なき限り下記とする
・▨　増打ちコンクリートを示す
・⋈　剛接合現場継手位置を示す。
・剛接合現場継手位置は、柱心から700mmとする。

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【車庫棟】 軸組図 (2)		2023/03
NEWJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図面番号 S-307



柱芯寄図　1/50

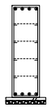
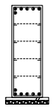
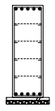
※最上階の柱頭部には定着板を採用する。
※柱接合部のフープは□-D13@90とする。
　ただし最頂部の柱梁接合部は□-D13@75とする。

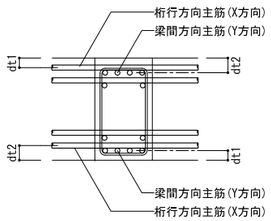
柱断面リスト　1/50

階	符　号	C1	C2	C1A
	断面名	全断面	全断面	全断面
3F	断　面			
	B×D	900 x 900		
	主　筋	28 - D25		
	フープ	□-D13@100		
	備　考			
2F	断　面			
	B×D	900 x 900	500 x 700	900 x 900
	主　筋	28 - D25	20 - D22	28 - D25
	フープ	□-D13@100	□-D10@100	田-D13@100
	備　考			
1F	断　面			
	B×D	900 x 900	900 x 900	900 x 900
	主　筋	28 - D25	28 - D25	28 - D25
	フープ	田-D13@100	□-D13@100	田-D13@100
	備　考			

工事名			図面の名称			作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事			【車庫棟】 柱芯寄図・柱断面リスト			2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名		設計者名		縮尺	図面番号
	小田　文武		安川　雅巳		A1:1/ 50 A3:1/100	S-308

大梁断面リスト　1/50

階	符　号	G1		G2		G3	G4
	断面名	端　部	中　央	端　部	中　央	全断面	全断面
RFL	断　面						
	B×D	450x700		500x700			
	上端筋	4/1-D25	4-D25	5/2-D25	5-D25		
	下端筋	4-D25		5/2-D25	5-D25		
	スターラップ	□-D13@200		□-D13@200			
	腹　筋	2-D10		2-D10			
	備　考						
3FL	断　面						
	B×D	500x900		500x900			
	上端筋	5-D25		5-D25			
	下端筋	5-D25		5-D25			
	スターラップ	□-D13@200		□-D13@200			
	腹　筋	4-D10		4-D10			
	備　考						
2FL	断　面						
	B×D	500x950		450x800		350x850	500x800
	上端筋	5-D25		3-D25		3-D25	5/2-D25
	下端筋	5-D25		3-D25		3-D25	5/2-D25
	スターラップ	□-D13@200		□-D13@200		□-D13@200	□-D13@200
	腹　筋	4-D10		2-D10		2-D10	2-D10
	備　考						
1FL	断　面						
	B×D	500x1,500		450x1,500		500x1,500	500x1,500
	上端筋	5/2-D25		4-D25		5/1-D25	5-D25
	下端筋	5/2-D25		4-D25		5/1-D25	5-D25
	スターラップ	□-D13@200		□-D13@200		□-D13@200	□-D13@200
	腹　筋	8-D10		8-D10		8-D10	8-D10
	備　考						



dt1=設計かぶり厚+スターラップ径+主筋径x1/2
dt2=dt1+主筋径

標準梁主筋位置

小梁断面リスト　1/50

符号	B1		B2		B3		B4				
断面名	端部	中央	端部	中央	端部	中央	X2,X4端,中央	X3端			
断面											
B x D	400x650		400x800		400x700		400x750				
上端筋	4-D22		4-D22		4-D22		4-D22	4/1-D22			
下端筋	4-D22	4/2-D22	4-D22	4/2-D22	4-D22	4/2-D22	4-D22	4-D22			
スターラップ	□-D13@200		□-D13@200		□-D13@200		□-D13@200				
腹筋	2-D10		2-D10		2-D10		2-D10				
備考											

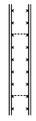
符号	FB1		FB2		FB3					
断面名	X2,X4端,中央	X3端	端部	中央	全断面					
断面										
B x D	450x800		450x800		350x600					
上端筋	5-D22	5/2-D22	5-D22		3-D22					
下端筋	5-D22		5-D22	5/3-D22	3-D22					
スターラップ	□-D13@200		□-D13@200		□-D13@200					
腹筋	2-D10		2-D10		2-D10					
備考										

床版リスト　1/50

符号	版厚	位置	短辺方向 (主筋方向)	長辺方向 (配力筋方向)	備考
S1	150	上端筋	D13@200	D10@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	
S2	150	上端筋	D13@200	D10@200	
		下端筋	D13@200	D10@200	
S3	150	上端筋	D13@200	D10@200	
		下端筋	D13@200	D10@200	
S4	150	上端筋	D13@200	D10@200	
		下端筋	D13@200	D10@200	
S5	200	上端筋	D13@200	D13@200	
		下端筋	D13@200	D13@200	
CS1	180～150	上端筋	D13@200	D10@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	
CS2	180～150	上端筋	D13@200	D10@200	
		下端筋	D13@200	D10@200	
CS3	130～160	上端筋	D13@200	D10@200	
		下端筋	D13@200	D10@200	
土間 コンクリート	200	上端筋	D10@200	D10@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	

壁リスト　1/50

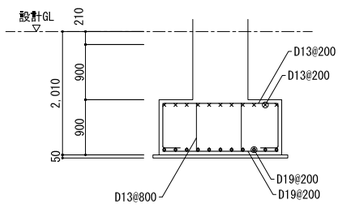
巾止め筋はD10@1000以内とする

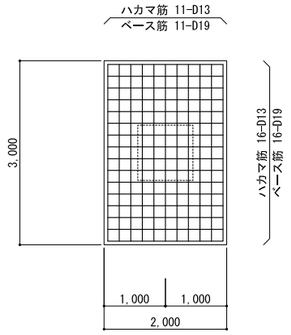
符号		EW18,W18	EW30	EW35
壁厚		180	300	350
断面				
縦筋		D13@200ダブル	D16@150ダブル	D13@200ダブル
横筋		D13@200ダブル	D16@150ダブル	D13@200ダブル
開口補強	タテ	2-D16	4-D19	ー
	ヨコ	2-D16	4-D19	ー
	ナナメ	1-D16	2-D16	ー

工事名			図面の名称			作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事			【車庫棟】 大梁断面リスト・小梁断面リスト・床版リスト・壁リスト			2023/03
NEWJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名		設計者名		縮尺	図面番号
	小田　文武		安川　雅巳		A1:1/ 50 A3:1/100	S-309

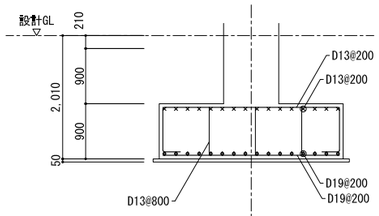
基礎リスト　1/50

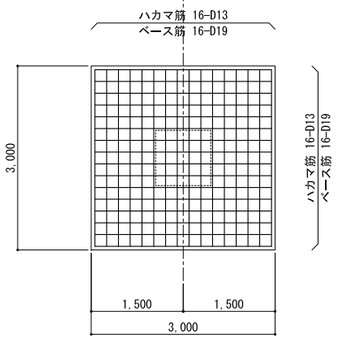
F1



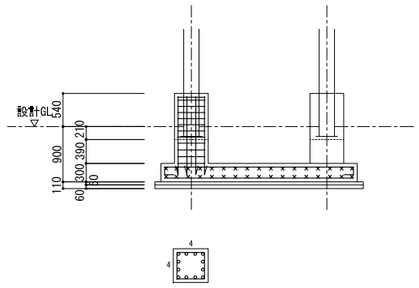


F2



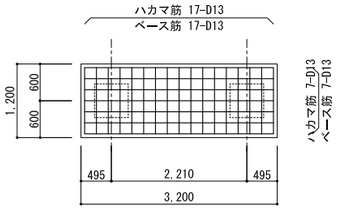


KF1

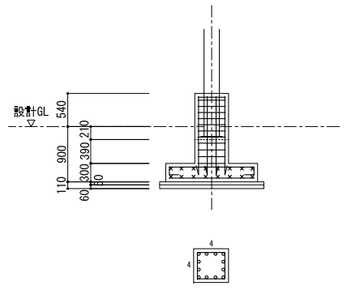


B×D ： 550x550
主筋 ： 12-D22
フープ ： □-D13@100

柱型断面図

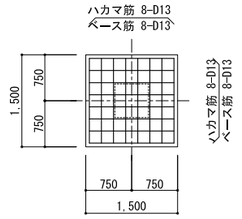


KF2

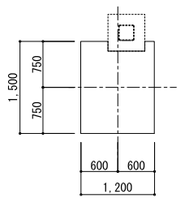


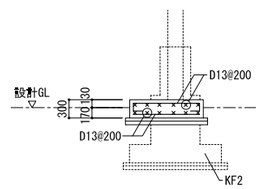
B×D ： 550x550
主筋 ： 12-D22
フープ ： □-D13@100

柱型断面図

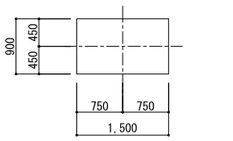


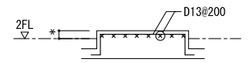
階段基礎1





階段基礎2





*寸法は意匠図を参照のこと。

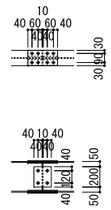
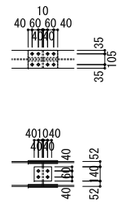
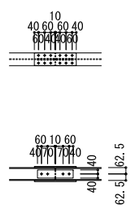
工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【車庫棟】 基礎リスト		2023/03
NEWJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/ 50 A3:1/100	図面番号 S-310

鉄骨部材リスト

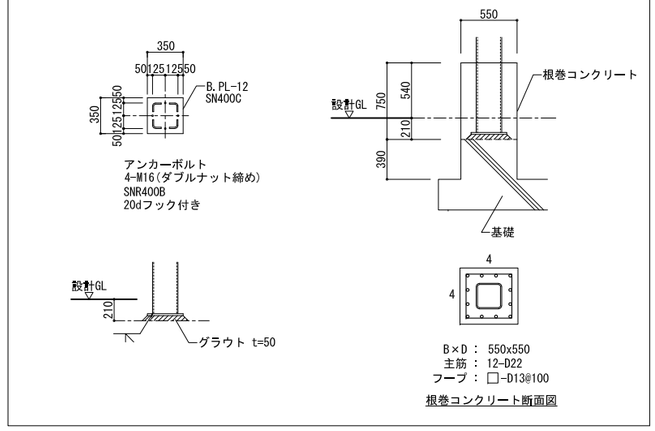
符号	部材	材質	備考
RSG1	H-244×175× 7×11	SN400B	
RSG2	H-244×175× 7×11	SN400B	
2SG1	H-300×150×6.5×9	SN400B	
2SG2	H-300×150×6.5×9	SN400B	
2SG3	H-300×150×6.5×9	SN400B	
2SG4	H-300×150×6.5×9	SN400B	
RSB1	H-200×100×5.5×8	SS400	
RSB2	H-200×100×5.5×8	SS400	
SB1	H-200×100×5.5×8	SS400	
SB2	H-200×100×5.5×8	SS400	
SB3	H-300×150×6.5×9	SN400B	
SB4	H-200×100×5.5×8	SS400	
SB10	H-100×100×6×8	SS400	
SB11	H-125×125×6.5×9	SS400	
SCG1	H-300×150×6.5×9	SS400	
SC1	□-250×250×9	BCR295	
SP1	□-125×125×6	STKR400	
H1	ターンバックル 筋交いM16	SNR400B	

大梁継手リスト 1/30

特記なき限り
1. ボルトは、F8T とする。(溶融亜鉛メッキ仕様)
2. PLは、母材と同材質とする。

2SG1,2SG2,2SG3,2SG4,SB3:H-300x150x6.5x9			RSG1,RSG2:H-244x175x7x11			SB11:H-125×125×6.5×9		
								
フランジ	16-M20	2PL-9x150x290 4PL-9x 60x290	フランジ	16-M20	2PL-9x175x290 4PL-9x 70x290	フランジ	24-M16	2PL-12x125x410
ウェブ	4-M20	2PL-6x200x170	ウェブ	4-M20	2PL-9x140x170	ウェブ	4-M16	2PL-6x80x350

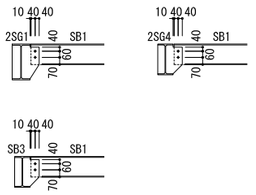
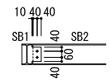
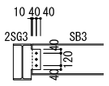
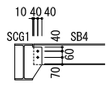
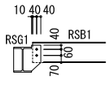
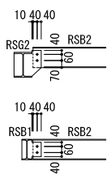
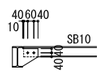
SC1 柱脚詳細図 1/30



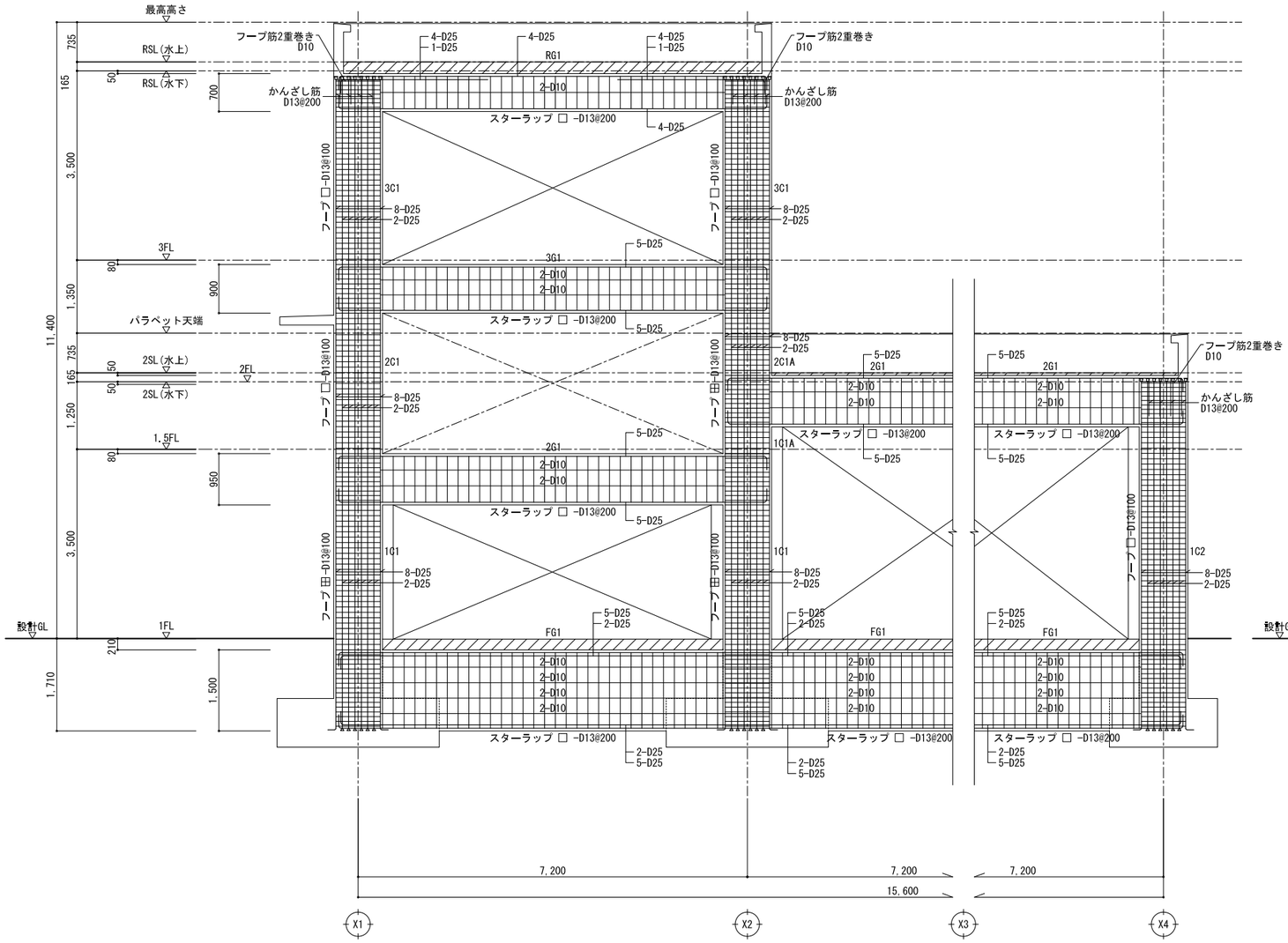
根巻コンクリート断面図

小梁継手リスト 1/30

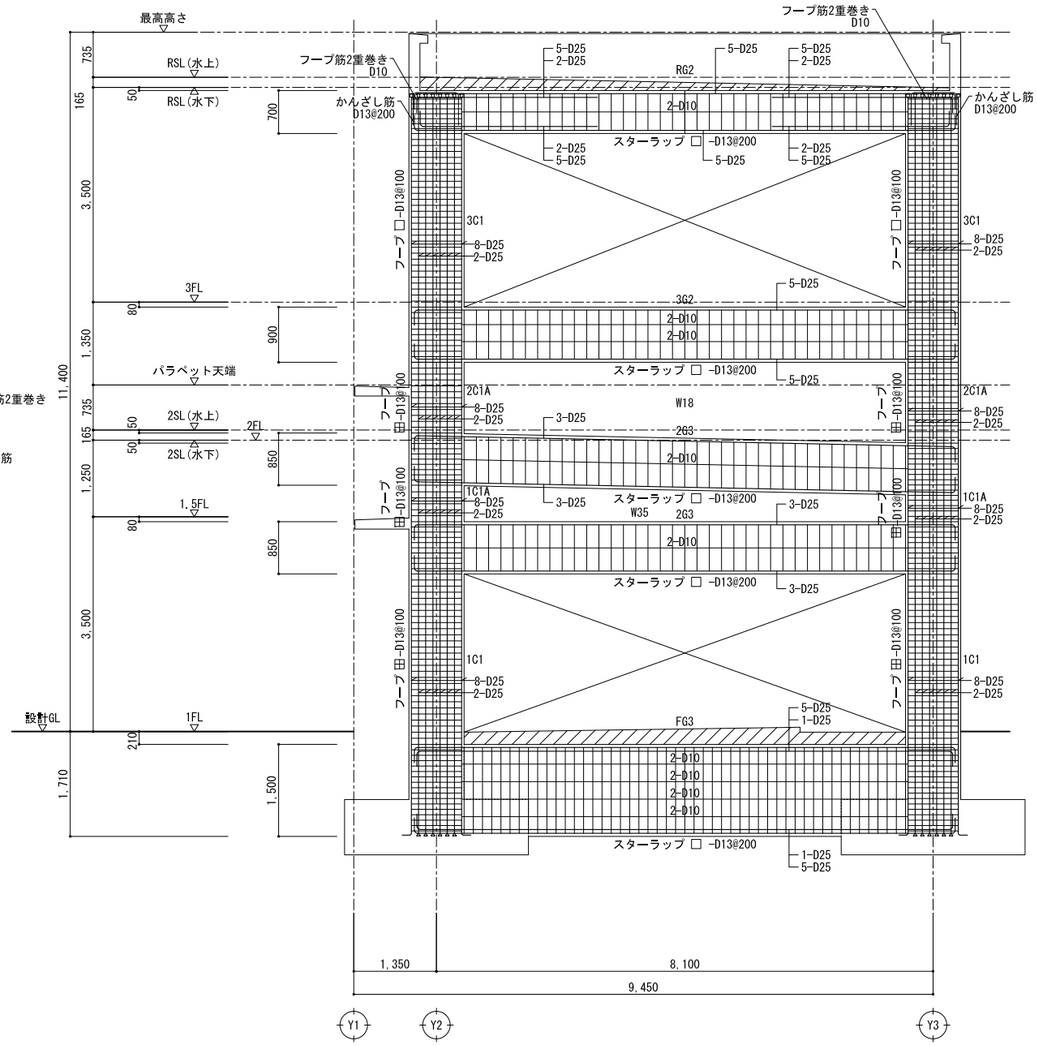
特記なき限り
1. ボルトは、F8T とする。(溶融亜鉛メッキ仕様)
2. PLは、母材と同材質とする。
3. スチフナーPLは、G.PLと同厚以上とする。

	SB1(H-200x100x5.5x8)	SB2(H-200x100x5.5x8)	SB3(H-300x150x6.5x9)	SB4(H-200x100x5.5x8)
詳細図				
GPL	GPL-6	GPL-9	GPL-9	GPL-6
HTB	2-M16	2-M16	2-M16	2-M16
	RSB1(H-200x100x5.5x8)	RSB2(H-200x100x5.5x8)		SB10(H-100x100x6x8)
詳細図				
GPL	GPL-6	GPL-6		GPL-6
HTB	2-M16	2-M16		2-M16

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【車庫棟】 鉄骨部材リスト・大梁継手リスト・柱脚詳細図		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田 文武	設計者名 安川 雅巳	縮尺 A1:1/30 A3:1/60	図面番号 S-311



Y2通架構配筋図　1/50



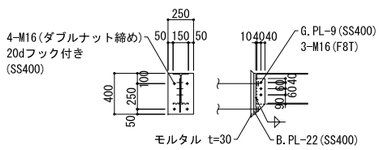
X2通架構配筋図　1/50

特記なき限り下記とする。

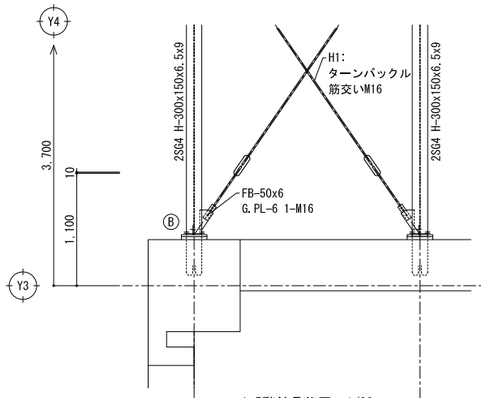
- 構造鉛直スリットを示す。
- 構造水平スリットを示す。
- 増打ちコンクリートを示す。
- 柱梁接合部のフープは□-D13@90とする。ただし最頂部の柱梁接合部は□-D13@75とする。

—·— ALC壁を示す。

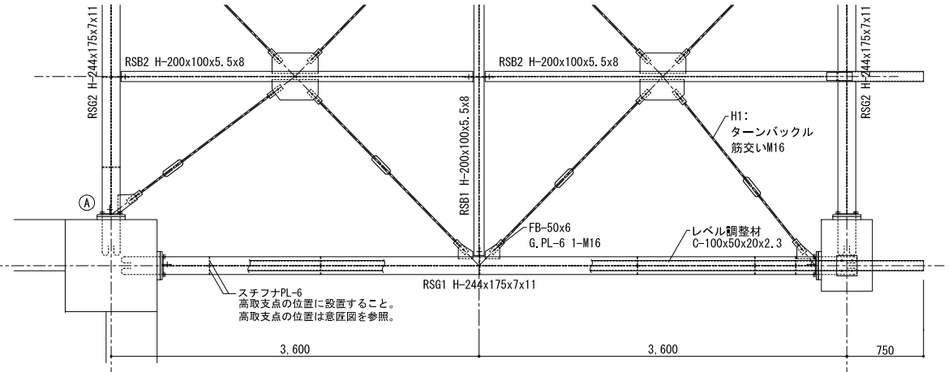
工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【車庫棟】 架構配筋図		2023/03
NEOJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
	小田　文武	安川　雅巳	A1:1/ 50 A3:1/100	S-312



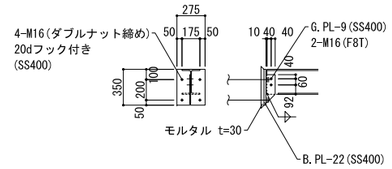
Ⓑ部群細図 1/30



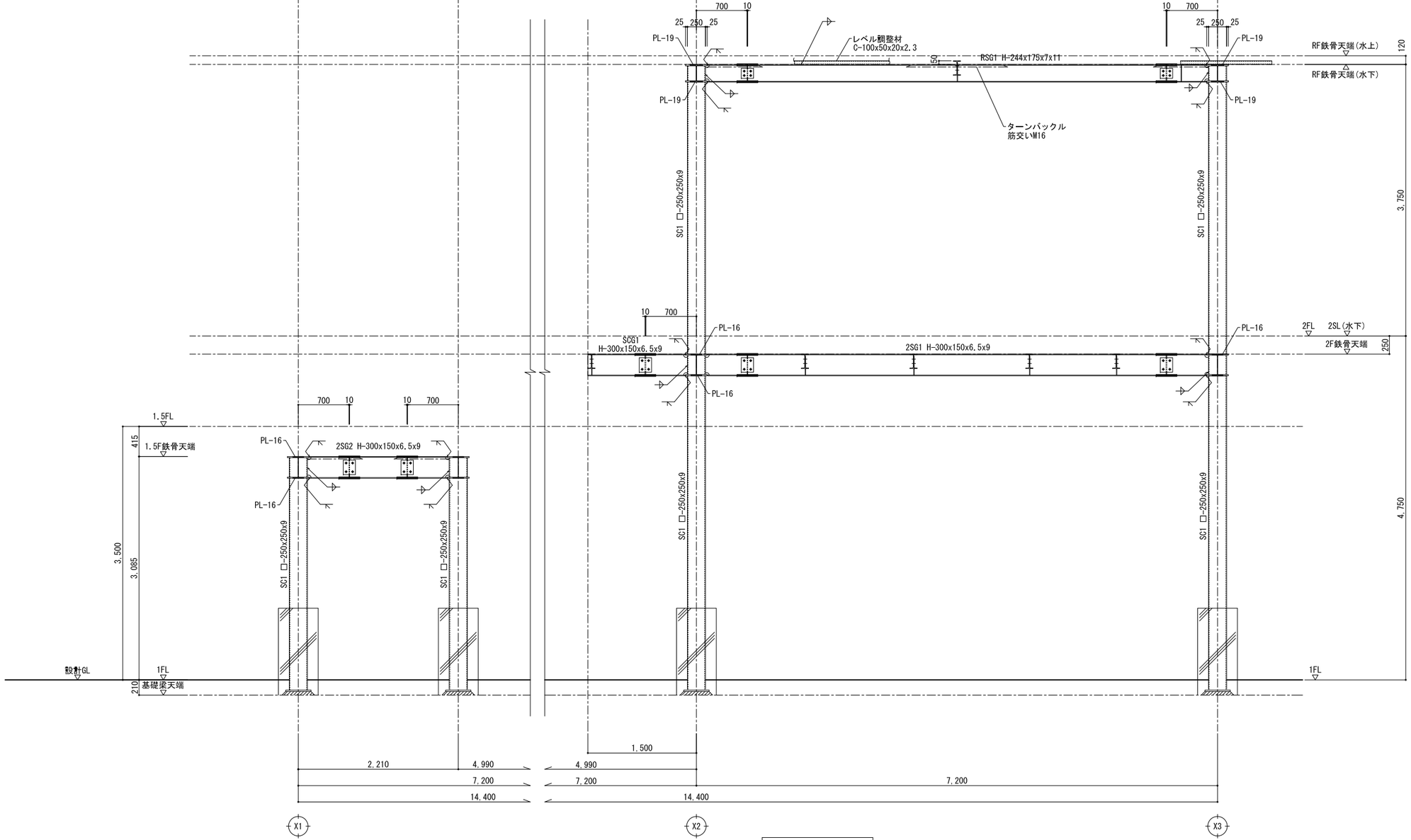
1.5階鉄骨伏図 1/30



屋根SL(水下)鉄骨伏図 1/30

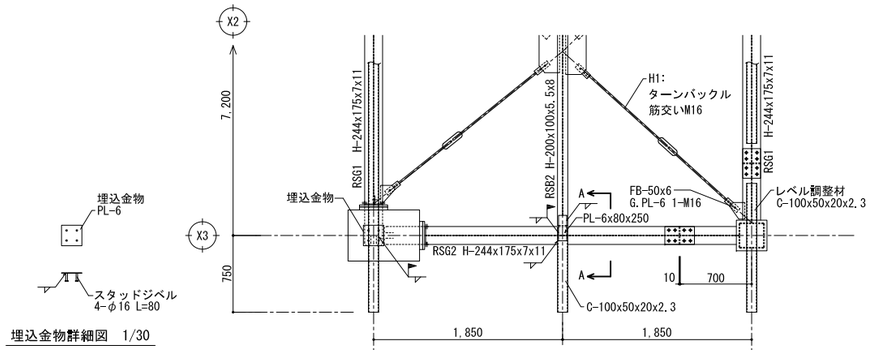


Ⓐ部群細図 1/30

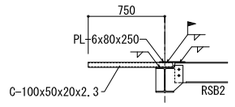


Y4通鉄骨詳細図 1/30

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【車庫棟】 鉄骨詳細図 (1)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田 文武	設計者名 安川 雅巳	縮尺 A1:1/30 A3:1/60	図面番号 S-313

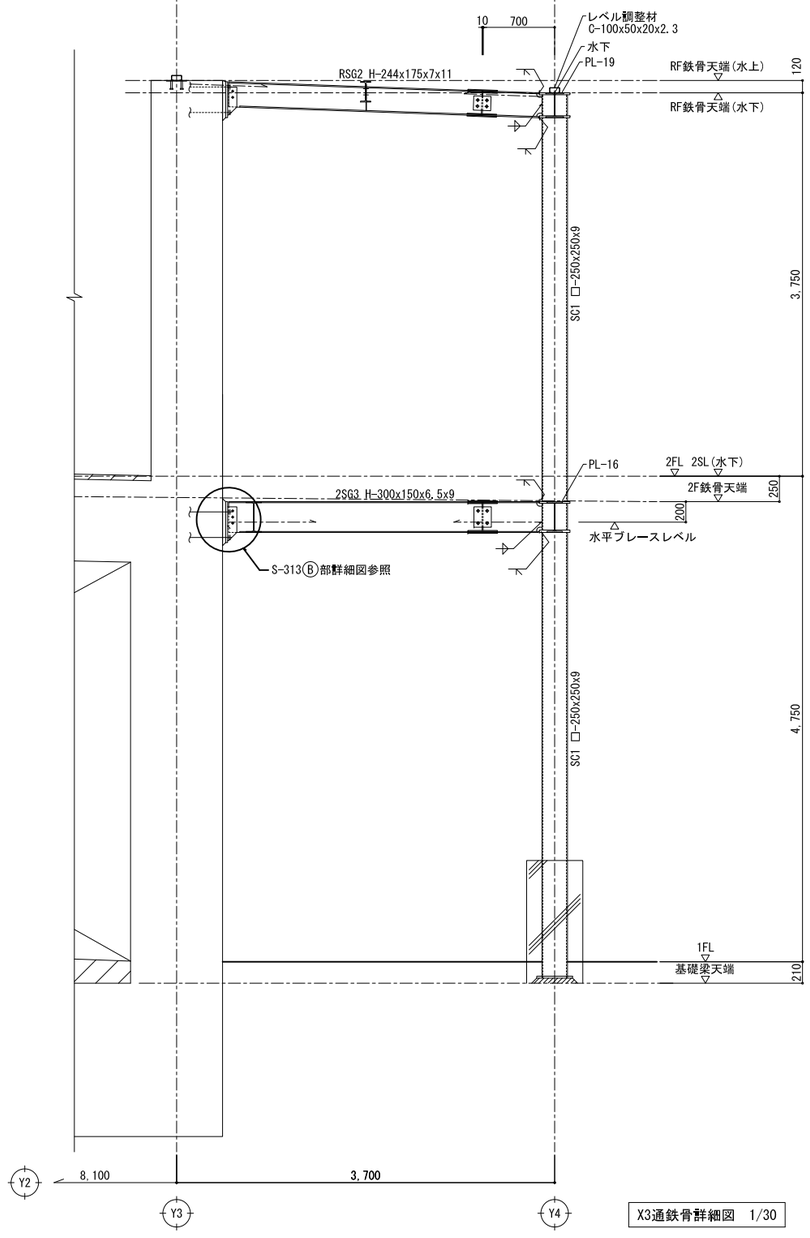


埋込金物群詳細図　1/30

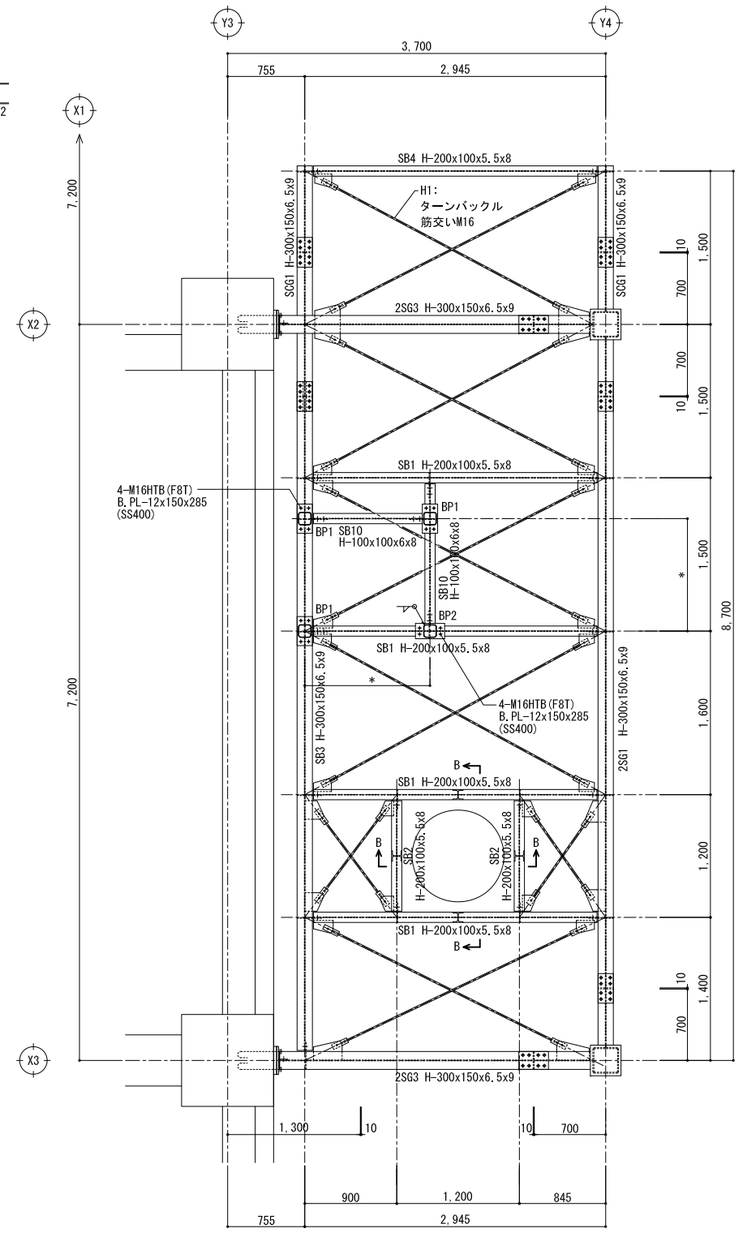


A-A 矢視図　1/30

屋根SL(水下)鉄骨伏図　1/30



X3通鉄骨詳細図　1/30



2SL(水下)鉄骨伏図　1/30

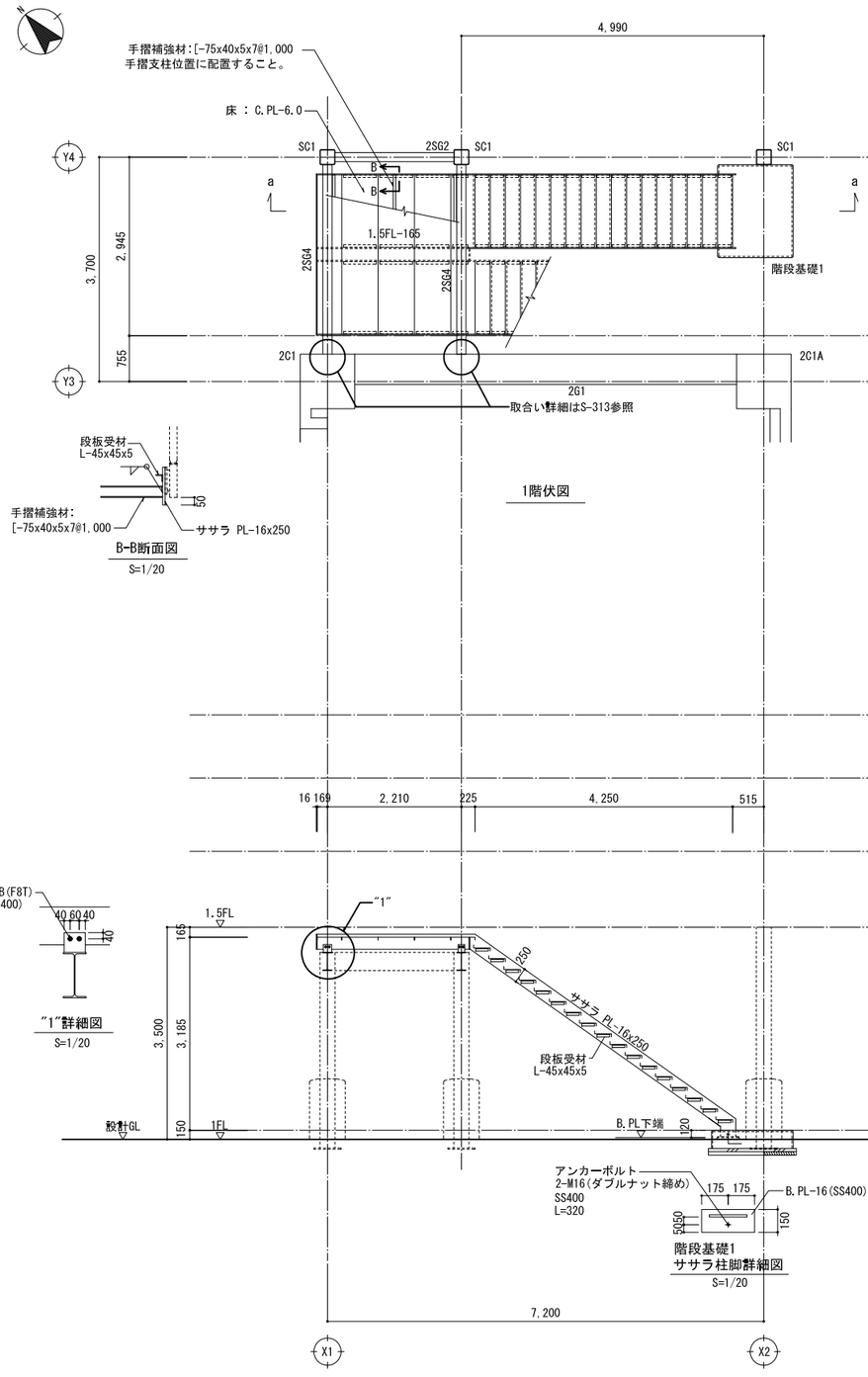
*寸法は意匠図を参照のこと。

B-B 矢視図　1/30

a-a 断面図　1/30

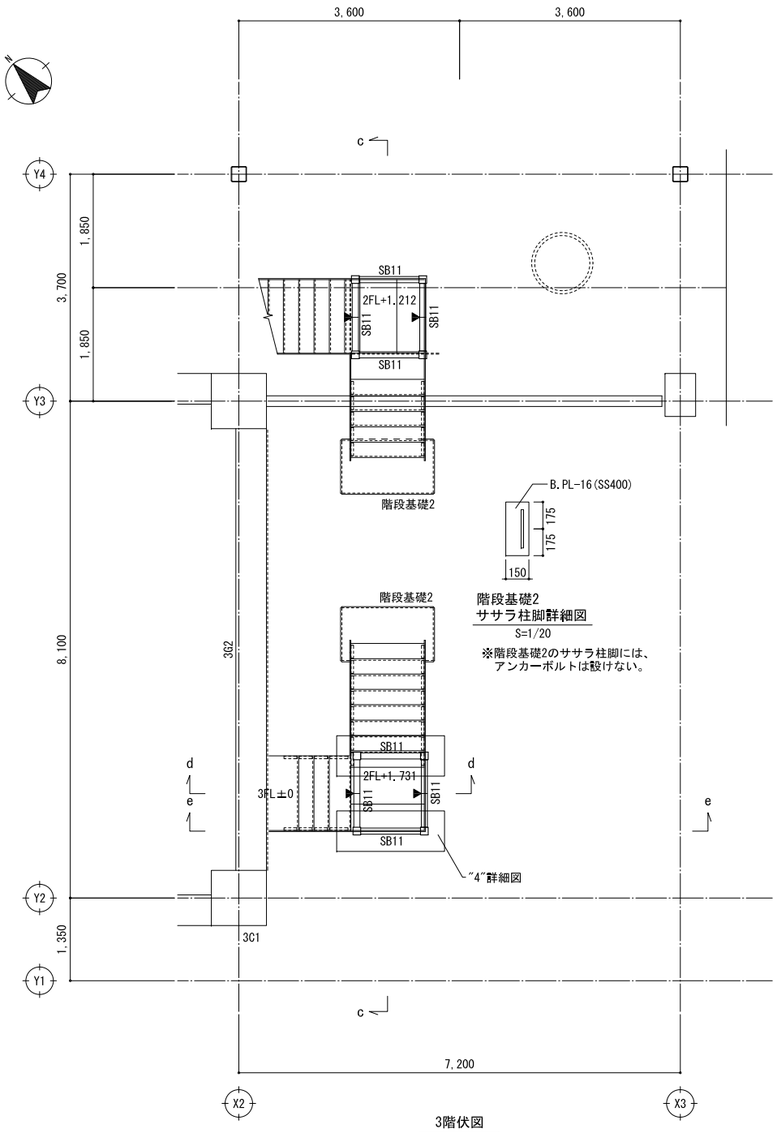
b-b 断面図　1/30

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【車庫棟】 鉄骨詳細図 (2)		2023/03
NEWJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
	小田　文武	安川　雅巳	A1:1/30 A3:1/60	S-314



鉄骨階段詳細図(1)　1/50

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【車庫棟】 鉄骨階段詳細図(1)		2023/03
NEWJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/ 50 A3:1/100	図面番号 S-315

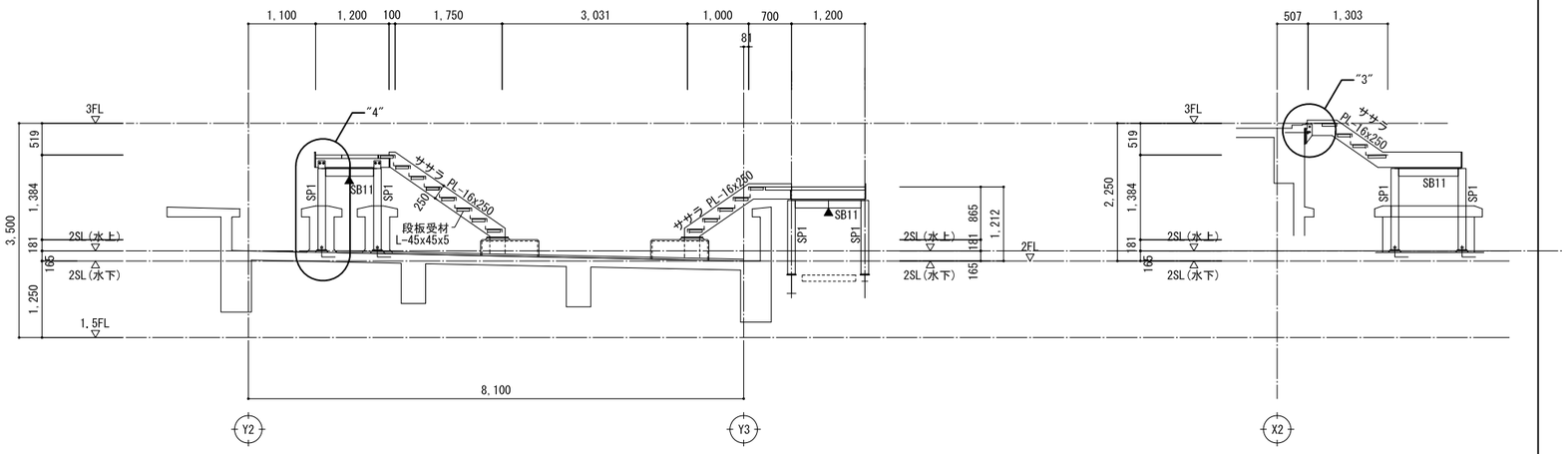


階段基礎2
ササラ柱脚詳細図
S=1/20

※階段基礎2のササラ柱脚には、
アンカーボルトは設けない。

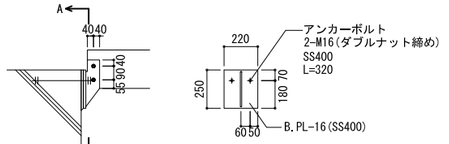
3階伏図

特記なき限り
1. ▶┤├ : 剛継手を示す。



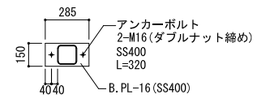
c-c断面図

d-d断面図

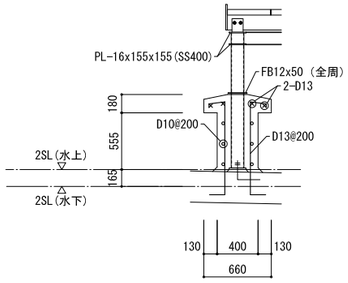


"3"詳細図
S=1/20

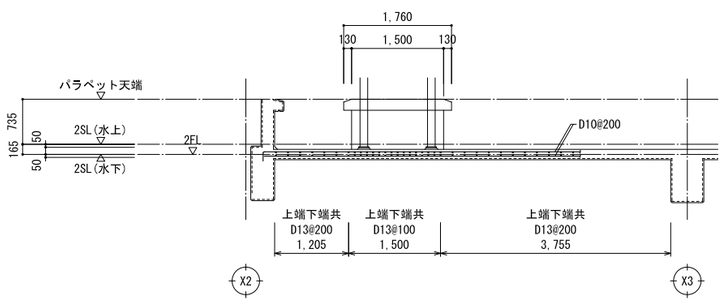
A-A断面図
S=1/20



SP1柱脚詳細図
S=1/20



"4"詳細図
S=1/30



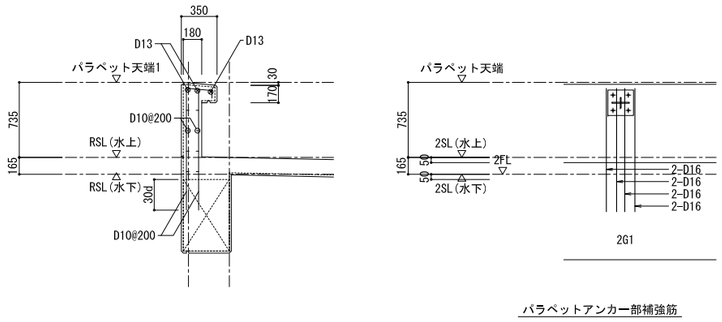
e-e断面図

階段基礎下スラブの主筋方向は上下共D13@100とする。

鉄骨階段詳細図(2)　1/50

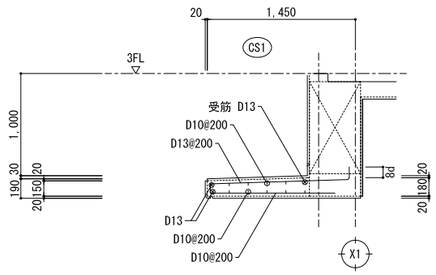
工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【車庫棟】 鉄骨階段詳細図(2)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/ 50 A3:1/100	図面番号 S-316

パラペット配筋図　1/30

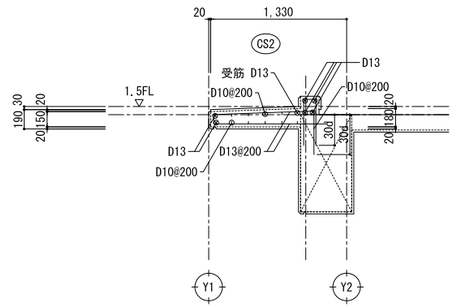


パラペットアンカー部補強筋

渡過スペース跳ね出し床配筋図　1/30



1.5FL 底配筋図　1/30



2FL 底配筋図　1/30

点検用ピット配筋図　1/30

腰壁配筋図　1/30

柱，梁打増し配筋要領図　－

- ▨ は打増し部分を示す。-------- と配筋してもよい。
- 補強筋 定着20d（L_2）は、主要な耐力壁等が取付く場合で設計図による。

t≦50　補強なし　　50＜t≦100　D13@300
100＜t≦200　D16@300　　200＜t≦300　D16@200
t＞300　設計図による
原則として、構造図に記載された箇所以外に打増ししてはならない。

壁スリット配筋要領図　－

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【車庫棟】 雑配筋図		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/30	図面番号 S-317

構 造 特 記 仕 様 書 (1)

§1 一般事項

選択項目は ⦿ 印を適用し、⦿ 印が無い場合は ※ 印を適用する。
○ 印が複数有る場合は、共に適用する。

1-1 使用材料は原則としてJIS規格品、JAS規格品、又は大臣認定品とする。

1-2 設計図書の優先順位は下記による。

1) 本特記仕様書
2) 設計図
3) 構造関係共通事項
4) 仕様書 （⦿ 公共建築協会 ※ 日本建築家協会 ）
5) 日本建築学会標準仕様書 , JASS5 , JASS6（最新版とする）

1-3 各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承諾を得る。

1-4 構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。
第三者機関による検査・試験費用は工事費に（ ※ 含む • 含まない ）

1-5 設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承諾を得る。

1-6 梁貫通位置、径、及び箇所数は（ • 意匠図 ⦿ 構造図 ⊗ 設備図 ）による。
なお、スリーブ径は内径を示す。

1-7 その他

§2 構造計算ルート

2-1

方 向	構造計算ルート
X	• ルート1 • ルート2 ⦿ ルート3 •
Y	• ルート1 • ルート2 ⦿ ルート3 •

2-2 鉄筋の継手（定着については設計図若しくは標準図による）
構造計算ルート別による主筋又は、耐力壁の鉄筋の継手の重ね長さ
※ 建築基準法施行令第73条第2項による仕様規定
• 日本建築学会 JASS5(2018),鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説
• 日本建築学会 RC規準2018
XY両方向共ルート3及び限界耐力計算の場合は、令第73条第2項の仕様規定によらずJASS5(2018),鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びRC規準2018とすることができる。

§3 仮設工事,土工事

3-1 山留め、根切り

3-2 埋戻し土、盛土、残土処分
埋戻し土 ※ 根切り土の中の良土 ⦿ 搬入良土(埋戻し土は30cm毎に転圧締固めを行うこと)
盛土 ※ 根切り土の中の良土 ⦿ 搬入良土(盛土は30cm毎に転圧締固めを行うこと)
残土処分 • 場内地均し ※ 場外搬出処分（ ※ 自由 • 指定場所 ）

§4 地業工事

4-1 基礎及びスラブ下地業（単位mm）

場所		注1) 捨てコンクリート厚さ	A:砕石 B:割栗石	厚さ
基礎	独立,布	⊗ 50 • 60 • 100	⊗ A • B	⊗ 60 • 100 • 150 •
	ベタ	※ 50 • 60 • 100	※ A • B	※ 60 • 100 • 150 •
基礎梁		⊗ 50 • 60 • 100	⊗ A • B	⊗ 60 • 100 • 150 •
土間スラブ		⊗ 50 • 60 • 100	⊗ A • B	⊗ 60 • 100 • 150 •
土間コンクリート	屋内	※ 50 • 60 • 100	※ A • B	※ 60 • 100 • 150 •
	屋外	⦿ 50 • 60 • 100	⊗ A • B	⦿ 60 ※ 100 • 150 •

注1).アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。
注2).端部aは100以上とする。



4-2 設計地耐力 ※ S-403に示す
地耐力載荷試験 • 行う （ 箇所,長期設計耐力の3倍を確認する） ※ 行わない

4-3 地盤改良
• 無筋コンクリート地業 • 締固め工法 • ソイルセメント杭
⦿ セメント系固化材撹拌 • 圧密排水工法 • ※ 地盤改良特記仕様書による
［ • 載荷試験 ⦿ 一軸圧縮試験 ］ ⦿ 行う ※ 行わない
［⦿ 六価クロム溶出試験 ］ ⦿ 行う ※ 行わない

4-4 既製コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭
1)杭種
• PHC杭 • A種 • B種 • C種
• ST杭 • A種 • B種 • C種
• SC杭 t mm • • •
• PRC杭 • Ⅰ種 • Ⅱ種 • Ⅲ種 • Ⅳ種
• 節杭 • A種 • B種 • C種
• 鋼管杭
2)工法
• 打撃工法 • 油圧ハンマー • ディーゼルハンマー
• 埋込み工法 • プレボーリングセメントミルク注入工法
• プレボーリング拡大根固め工法(認定工法)
杭周固定液 ※ あり • なし
• 中掘拡大根固め工法(認定工法)
• 回転埋設根固め工法(認定工法)
• 回転杭工法
先行掘削 ※ あり • なし

3) 杭径,設計耐力,本数表

杭径(拡底部)mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考
( )					
( )					
( )					
( )					

4) 杭の構成は設計図による。

5) 杭頭補強
• かご筋 • スタッド溶接 • 杭外周溶接

4-5 場所打鉄筋コンクリート杭,場所打鋼管コンクリート杭

1) 工法
• アースドリル工法 • 拡底アースドリル工法
• リバース工法 • オールケーシング工法 (• ベノト工法 •)
• BH工法 •

2) 杭径,設計耐力,本数表(拡底部は施工径を示す)

杭径(拡底部)mm	管厚 mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考
( )						
( )						
( )						
( )						
( )						

3) 杭先端深さ • GL− m • 杭リストによる • 杭伏図による

4) 孔壁測定 （ 2方向 ）
※ 行う （ • 全数 • % ） • 行わない

5) 使用材料 コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合JASS5水中コンクリートによる。
コンクリート Fc （ • 普通ポルトランドセメント • 高炉セメントB種 ）
鉄筋 • D 以下 SD295 • D 以上 SD345
• D 以上 SD390
鋼管(リブ付) • SKK400 • SKK490

4-6 杭打地業共通事項

1) [• 試験杭 • 試験掘] • 行う（ 本） • 行わない
2) 載荷試験 • 行う （ 箇所,長期設計耐力の3倍を確認する） ※ 行わない
3) SL塗布 • 行う ※ 行わない

§5 鉄筋工事

5-1 材種

種類	径	継手
⦿ SD295	D16 以下	※ 重ね継手 • スパイラル • 工場溶接
⦿ SD345	D19 以上	• 重ね継手 ※ ガス圧接 • 溶接継手
• SD390	D 以上	※ ガス圧接 • 溶接継手 • 機械継手(級)
• SD490	D 以上	• ガス圧接 ※ 溶接継手 • 機械継手(級)
• 溶接金網		• 重ね継手
⦿ 高強度せん断補強筋	• 1275級 P	⦿ フック加工 • スパイラル • 工場溶接
	⦿ 785級 ※S	
	• 685級 U	

5-2 ガス圧接部の検査(第三者機関による)外観検査全数(引張り試験の場合、施工者自主検査でもよい)

⦿ 抜取り検査
• 引張り試験 (JISZ3120)
1検査ロットにつき ※ 3 本 • 原則 柱・梁の径毎に3本
⦿ 超音波探傷試験 (JISZ3062) • 熱間押抜き試験
1検査ロットにつき • 30箇所 •
◦ 不合格となった圧接部は切り取って再圧接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。
1検査ロットは1組の作業班が1日に施工した圧接箇所の数量で200箇所以内

5-3 溶接、機械式継手の検査は各々の認定方法による他,日本継手協会仕様書(2017年)及び下記を参照する。
JIS Z 3063 (鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波探傷試験方法及び判定基準)
JIS Z 3064 (鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定試験方法及び判定基準)

5-4 梁貫通補強
補強筋は原則として工場製品(評定品)を使用する。

5-5 その他
基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として ⦿ ①一般 • ②地反力を受ける
• ③上載荷重が大きい場合 とする。
梁の余長 ℓ1 の採用 ~~大梁・小梁 ※ D'(梁有効成) • 端部上下筋15d 中央上下筋20d~~
~~基礎梁 ※ min(D', L2) • 端部上下筋15d 中央上下筋20d~~
構造関係共通図による。
鉄筋の組立は適切な位置にスペーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。
コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。
コンクリート打設前に工事監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

§6 コンクリート工事

6-1 レディーミクストコンクリート(JIS A5308-2019)
1) セメント ※ 普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ JISR5210 • 高炉ｾﾒﾝﾄB種
• 低熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ JISR5210 •
2) 粗骨材 • 砂利 ※ 砕石 • 高炉ｽﾗｸﾞ骨材 • 人工軽量骨材 • 再生骨材
最大径(mm) ※ 20 • 25 • 40
3) 設計基準強度 (N/mm2) (使用区分は設計図の軸組図に示す)
⦿ 普通コンクリート
• Fc18 • Fc21 • Fc24 • Fc27 ⦿ Fc30 • Fc • Fc
• 軽量コンクリート （※ 1種 • 2種 気乾単位容積質量 ※ 18.5 • ）
• LFc18 • LFc21 • LFc24 • LFc27 • LFc30 • LFc
4) 土間コンクリート ⦿ Fc18（屋外）(ただし柱,壁等と同時に打込む場合は躯体の強度とする)
5) 捨てコンクリート ⦿ Fc18
6) 防水押さえコンクリート ⦿ Fc18 • LFc （気乾単位容積質量 ※ 18.5 • ）
7) かさ上げコンクリート ⦿ Fc18 • LFc （気乾単位容積質量 ※ 18.5 • ）

6-2 混和材 ※ AE減水剤 • 高性能AE減水剤 • 躯体防水材 • 膨張材
注1).混和剤は所定の品質を確保するためにプラントの特性に応じたもの使用する。

6-3

箇所	基礎・基礎梁	一般			備考
スランプ cm	15	18			
水セメント比 %					65以下
単位水量 kg/m3					185以下
単位セメント量 kg/m3					270以上

注2).スランプは特配なき限り施工者が決め監理者に報告する。

6-4 試験 (躯体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う)
1) 骨材 [⦿ 塩分含有量 ⦿ アルカリシリカ反応性] ※ 行う • 行わない
2) フレッシュコンクリート [⦿ スランプ ⦿ 空気量] ※ 行う • 行わない
3) 躯体のせき板取り外し時期決定圧縮試験 ※ 行う • 行わない
4) コンクリートコア抜き取り圧縮試験 • 行う ※ 行わない
5) マスコンクリートのひび割れ照査(温度応力解析) • 行う ※ 行わない
6) 単位水量測定 ⦿ 行う • 行わない

6-5 調合 (補正値は工事費に含む)
計画供用期間の級( )は耐久設計基準強度 Fd
• 短期(18) ⦿ 標準(24) • 長期(30) • 超長期(36)
調合管理強度 Fm=Max(Fc,Fd)+S S=3〜6
材齢28日の調合強度Fは下記の両式を満足するものとする。
F≧Fm+1.73σ F≧0.85Fm+3σ

6-6 せき板及び支柱の在置期間(普通ポルトランドセメントの場合)

		基礎、梁側、柱、壁	スラブ下	梁下
コンクリートの材齢による場合	15 ℃以上	3 日	17 日	28 日
	5 ℃以上	5 日	25 日	
	0 ℃以上	8 日	28 日	
圧縮試験による場合		5N/mm2	注) 0.85Fcまたは12N/mm2	注) 設計基準強度

注) かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全が確認されるまで。

6-7 住宅性能表示
劣化等級 • 等級 2 • 等級 3
劣化等級2又は3を指定する場合は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)2-7かぶり厚さが変わる為,かぶりを訂正又は,設計図に明示する

6-8 Fc36を超える場合は高強度コンクリートとし、仕様は別配特記仕様書（JASS5等）による。

§7 鉄骨工事

7-1 材種及び使用箇所

規格名称	鋼材名	柱	通しダイア	内ダイア	大梁	ﾌﾞﾚｰｽ	小梁他
一般構造用圧延鋼材	⦿ SS400 •						○
溶接構造用圧延鋼材	• SM400A • SM490A						
建築構造用圧延鋼材	• SN400A •						
	• SN400B • SN490B						
	• SN400C • SN490C						
一般構造用角形鋼管	• STKR400 • STKR490						
冷間成形角形鋼管	• BCR295 •						
	• BCP235 • BCP325						
熱間成形角形鋼管	• SHC400B • SHC400C						
	• SHC490B • SHC490C						
一般構造用炭素鋼管	• STK400 • STK490						
	• STKN400 • STKN490						
一般構造用軽量形鋼	• SSC400 •						
建築構造用圧延棒鋼	• SNR400						

7-2 高力ボルト

高力ボルトの種類		使用箇所
トルシア形高力ボルト	※ S10T	全般
JIS形高力ボルト	• F10T	トルシア形が使用できない部分
溶融亜鉛メッキ高力ボルト	⦿ F8T	母材が亜鉛メッキされている部分
超高力ボルト	• S14T	屋内環境

7-3 普通ボルト,アンカーボルト
1) 材質 ⦿ SS400 • SS490(M 以上)
• ABR400 • ABR490 • ABM400 • ABM490(ABMはM24以上)
2) 大臣認定柱脚(メーカー仕様による) • 使用する • 使用しない

7-4 頭付きスタッド

径	長さ (mm)	使用箇所
16 φ	• 80 • 100 • 120 • 150 •	
19 φ	• 80 • 100 • 120 • 150 •	
22 φ	• 100 • 120 • 150 • •	

7-5 溶接材料
1) アーク溶接に使用する溶接棒,ワイヤ及びフラックスは母材の種類,寸法,及び溶接条件に相応したものを選定する。
2) ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。

7-6 スカラップ形状 ※ ノンスカラップ工法 ⦿ スカラップ工法

7-7 継手

	柱		梁	
フランジ	• 高力ボルト	• 現場溶接	※ 高力ボルト	• 現場溶接
ウェブ	• 高力ボルト	• 現場溶接	※ 高力ボルト	• 現場溶接

7-8 溶接手法及び管理
1) 使用する溶接ワイヤー、入熱量及びパス間温度等の仕様については鉄建協又は全構協の仕様で、専任の溶接施工管理技術者により管理を行うこと。
2) 完全溶け込み溶接はAW検定の有資格者が行うとする指定を ※行う • 行わない
3) 本工事で代替タブを使用する場合は、代替タブ溶接技能者技量検定付加試験を ※行う • 行わない
但し、-代替タブのAW検定有資格者は技量検定付加試験を免除する。

7-9 デッキプレート （単位mm）
1) 床用 高さ • 板厚 •
2) 合成スラブ用 高さ • 板厚 •
3) 型枠用 高さ • 板厚 • 形版 タイプ
4) 防錆処理 • プライマー • 亜鉛メッキ • Z12 • Z27

7-10 塗装(工場塗 ※ 2回 • 1回、現場タッチアップ程度とする)
1) 素地調整 ※ ケレン ⦿ ブラスト
2) 下塗り用塗料

適用 屋外	適用 室内	塗料		種別		標準膜厚
	※	鉛、クロムフリー錆止め	JISK5674	※1種	※2種	30μm
	•	水系さび止めペイント	JASS18 M-111			30μm
•		変性エポキシ樹脂プライマー	JASS18 M-109	• 1種	• 2種	40μm
•		有機ジンクリッチプライマー	JISK5552		• 2種	15μm
•		構造物用さび止めペイント	JISK5551	A種		30μm

3) 溶融亜鉛メッキ ⦿ 行う • 行わない
4) 常温亜鉛メッキ ⦿ 行う • 行わない ※原則、溶融亜鉛メッキ
5) 高耐食メッキ鋼板（t3.2mm以下） • 用いる ⦿ 用いない

7-11 溶接部の検査(受入検査) ※ 行う • 行わない
1) 受入検査を行う第三者検査機関は、建築主、設計者、工事監理者又は工事施工者(元請)との直接契約による。
2) 第三者検査機関は(社)日本溶接協会によるCIW検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を取得した事業者とし、当該工事の鉄骨製作工場の社内検査を行っていない事業者とする。
3) 受入検査は目視による外観検査と超音波探傷検査とし、社内検査完了後に行う。
4) 外観検査の合否判定は国土交通省告示1464号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会「JASS6 鉄骨工事 2018 付則6. 鉄骨精度検査基準」の限界許容差による。
5) 超音波探傷検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説」2018により、合否判定は7.2.1疲労を考慮しない溶接部のうち、引張応力が作用する溶接部の項を適用する。
6) 溶接箇所数の数え方は「JASS6 鉄骨工事 2018」表10.1溶接箇所数の数え方による。
7) 受入検査の抜取り方法及び抜取り率は以下による。
a) 工場溶接の場合
ⅰ.検査ロットは各節、各工区毎に溶接箇所300箇所以内で構成する。
ⅱ.抜取り数は各ロット毎に30箇所をランダムにサンプリングする。
ⅲ.大きさ30個のサンプル中の不適合個数が1個以下のときはロットを合格とし、4個以上のときはロットを不合格とする。ただし、サンプル中の不適合数が1個を超え4個未満のときは、同じロットからさらに30個のサンプルを抜取検査する。総計60個のサンプルについての不適合個数の合計が4個以下のときはロットを合格とし、5個以上のときはロットを不合格とする。
b)現場溶接の場合
ⅰ.全数検査とする。
8) 検査により不合格と判定された溶接部はすべて補修を行い、再検査して合格とならねばならない。
9) ずれ・食い違いの補修方法は、独立行政法人 建築研究所監修「突き合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。

7-12 鉄骨製作工場 下記○印のグレード認定工場の内、納期・製作能力・鉄骨数量を勘案して工場選択のこと

国土交通省大臣認定(グレード)					
S	H	(M)	R	J	

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【訓練棟】 構造特記仕様書 (1)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
	小田 文武	安川 雅巳	A1:− A3:−	S-401

構 造 特 記 仕 様 書 (2)

§8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PCa板工事

選択項目は ⦿ 印を適用し、⦿ 印が無い場合は ※ 印を適用する。○ 印が複数有る場合は、共に適用する。

8-1　コンクリートブロック

1) 種類　• A種　• B種　• C種

2) 厚さ mm　• 100　• 120　• 150　• 190

8-2　ALCパネル

1) 使用箇所　• 床　• 屋根　• 外壁　• 内壁

2) 厚さ mm　• 75 (80)　• 100　• 120(125)　• 150　• 175

3) 外壁取り付け構法

方　向	構　法	使 用 箇 所	備　考
縦	• ロッキング構法		
横	• アンカー構法		

8-3　押出成形セメント板

外壁取付構法及び厚さ mm　⦿ 60　•

方　向	構　法	使 用 箇 所	備　考
縦	⦿ ロッキング構法	外壁	
横	• スライド構法		

8-4　PCa板

1) 床及び屋根　• 床　• 屋根

• PCa板単独 厚さ mm　•　•

• 合成板

PCa板厚さ　mm	現場打厚さ　mm	合計厚さ　mm	備　考

2) 外壁 厚さ　mm　•　•

§9 施工方法等計画書

9-1　構造体コンクリート強度の検査

1) 構造体コンクリートの圧縮強度の検査は、工事現場で試料を採取して作製した円柱供試体の圧縮強度試験によって行う。

2) 1回の試験は、コンクリートの打込み日ごと、打込み工区ごとに行う。ただし、1日の計画打込み量が150m3を超える場合には、150m3以下にほぼ均等に分割した単位ごとに1回行う。

3) 1回の試験には、適当な間隔をおいた3台の運搬車から、1個ずつ採取した合計3個の供試体を使用する。

4) 試験結果の判定は、1回ごとに行う。

5) 試験結果が、表9-1-1を満足すれば、合格とする。

6) 5)において、標準養生供試体の代わりに、あらかじめ準備した現場水中養生供試体によることができる。その場合の判定基準は、材齢28日までの平均気温が20℃以上の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値が調合管理強度以上であり、平均気温が20℃未満の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値から3N/mm2を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

7) 5)において、コア供試体の代わりに、あらかじめ準備した現場封かん養生供試体によることができる。その場合の判定基準は、材齢28日を超え91日以内にn日において、3個の供試体の圧縮強度の平均値から3N/mm2を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

8) 試験結果が、表9-1-1または 6)あるいは 7)を満足しない場合の措置は、工事監理者の指示による。

表9-1-1 構造体コンクリートの圧縮強度の判定基準

供試体の標準方法	試験材齢(※1)	判定基準
標準養生(※2)	28日	X ≧ Fm
コ　ア	91日	X ≧ Fq

ただし、 X：1回の試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値(N/mm2)

Fm：コンクリートの調合管理強度(N/mm2)

Fq：コンクリートの品質基準強度(N/mm2)

注）(※1) 所定の年齢より早い材齢において試験を行った結果が合否判定基準を満たした場合は、合格とする。

(※2) 工事監理者の承認を得て、供試体成型後、翌日までは20±10℃に日光および風が直接当たらない箇所で、乾燥しないように養生して保管することができる。

9-2　材料及び調合の条件

コンクリートの耐久性を確保するための材料及び調合の条件は、 特記された事項以外は下記による。

1) AE剤、AE減水剤または高性能AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は、特記による。特記のない場合は4.5%とする。

2) 水セメント比は、調合強度が得られる値とする。

3) 水セメント比の最大値は、表9-2-1による。表9-2-1に示す以外のセメントを用いる場合の水セメント比の最大値は、特記による。

4) コンクリートに含まれる塩化物量は、塩化物イオン量で0.30kg/m3以下とする。

5) コンクリートは、アルカリシリカ反応を生じるおそれのないものとする。

表9-2-1　水セメント比の最大値

	セメントの種類	水セメント比の最大値（%）	
		短期・標準・長期	超長期
ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 中庸熱ポルトランドセメント	65	55
	低熱ポルトランドセメント	60	
混合セメント	高炉セメントA種 フライアッシュセメントA種 シリカセメントA種	65	—
	高炉セメントB種 フライアッシュセメントB種 シリカセメントB種	60	

9-3　養　生

9-3-1　養生温度

1) 外気温の低い時期においては、コンクリートを寒気から保護し、打込み後５日間以上温度を２℃以上に保つ。ただし、早強ポルトランドセメントを用いる場合は、この期間を3日間以上としてよい。

2) コンクリートの打込み後、初期凍害を受けるおそれがある場合は，初期養生を行う。

3) コンクリートの打込み後、セメントの水和熱により部材断面の中心部温度が外気温より25℃以上高くなるおそれがある場合は、温度応力の悪影響が生じないような養生を行う。

9-3-2　湿潤養生

打込み後のコンクリートは、透水性の小さいせき板による被覆、養生マットまたは水密シートによる被覆、散水、噴霧、膜養生剤の塗布などにより湿潤養生を行う。その期間は、計画供用期間の級に応じて表9-3-1によるものとする。

表9-3-1　湿潤養生の期間

計画供用期間の級 / セメントの種類	短　期 および 標　準	長　期 および 超長期
早強ポルトランドセメント	3日以上	5日以上
普通ポルトランドセメント	5日以上	7日以上
中庸熱および低熱ポルトランドセメント 高炉セメントB種、フライアッシュセメントB種	7日以上	10日以上

9-3-3　振動及び外力からの保護

1) 凝結硬化中のコンクリートが、有害な振動や外力による悪影響を受けないように、周辺における作業の管理を行う。

2) コンクリートの打込み後、少なくとも1日間はその上で作業をしてはならない。やむを得ず歩行したり作業を行ったりする必要がある場合は、工事監理者の承認を受ける。

9-3-4　型枠の存置期間及び取外し

1) 型枠の取外しは、型枠の最小存置期間の経過後に行う。

2) 型枠の存置期間は、次による。

ア）最小存置期間は、表9-3-2及び表9-3-3により、コンクリートの材齢又はコンクリートの圧縮強度により定める。寒冷のため強度の発現が遅れるおそれのある場合は、コンクリートの圧縮強度により存置期間を定める。ただし、セメントの種類が普通エコセメントの場合の最小存知機間は、特記による。

イ）コンクリートの圧縮強度を圧縮強度試験により確認する場合は、コンクリートの試験結果及び関係法令等に基づく安全を確認するための資料により、工事監理者の承認を受ける。

表9-3-2 せき板の最小存置期間

施工箇所 / セメントの種類 / 存置期間中の平均気温		基礎・梁側・柱・壁			
		早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント,高炉セメントA種，シリカセメントA種,フライアッシュセメントA種	高炉セメントB種,シリカセメントB種,フライアッシュセメントB種	中庸熱ポルトランドセメント,低熱ポルトランドセメント
コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	2	3	5	6
	5℃以上	3	5	7	8
	0℃以上	5	8	10	12
コンクリートの圧縮強度による場合	—	圧縮強度が5N/mm2以上になるまで。			

注）圧縮強度を圧縮強度試験により確認する場合は、工事現場における水中養生供試体又は封かん養生供試体の圧縮強度とする。

表9-3-3 支柱の最小存置期間

施工箇所 / セメントの種類 / 存置期間中の平均気温		スラブ下			梁下
		早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント，高炉セメントA種，シリカセメントA種，フライアッシュセメントA種	中庸熱ポルトランドセメント，低熱ポルトランドセメント，高炉セメントB種，シリカセメントB種，フライアッシュセメントB種	左記の全てのセメント
コンクリートの材齢による場合（日）	15℃以上	8	17	28	28
	5℃以上	12	25		
	0℃以上	15	28		
コンクリートの圧縮強度による場合	—	圧縮強度が設計基準強度(Fc)の85%以上又は12N/mm2以上であり、かつ、施工中の荷重及び構造計算外力について、により安全であることが確認されるまで。			圧縮強度が設計基準強度(Fc)以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで。

注） 圧縮強度を圧縮強度試験により確認する場合は、工事現場における水中養生供試体又は封かん養生供試体の圧縮強度とする。

3) 片持梁、ひさし、長大スパンの梁、大型スラブ等の型枠を支持する支柱、施工荷重が大きく、コンクリートに支障が生じるおそれがある場合の支柱等は、必要に応じて、存置期間を延長する。

4) スラブ下及び梁下のせき板は、支柱を取外し後に取外す。ただし、これにより難い場合は、工事監理者と協議する。なお、支柱の盛替えは行わない。

5) 支保工除去後、その部材に加わる荷重が構造計算書におけるその部材の設計荷重を上回る場合には、上述の存置機関にかかわらず、計算によって十分に安全であることを確かめた後に取り外す。

§10 施行令第129条の2の3の事項　※設計が該当する項目は、□ に ✓ を記入。

建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

☑ 建築設備（昇降機を除く。）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとすること。

□ 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するもの(以下「屋上水槽等」という。)は、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。

□ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。

□ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。

☑ 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備（給湯設備[注]を除く。）は、

☑ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。

☑ 建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。

☑ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。

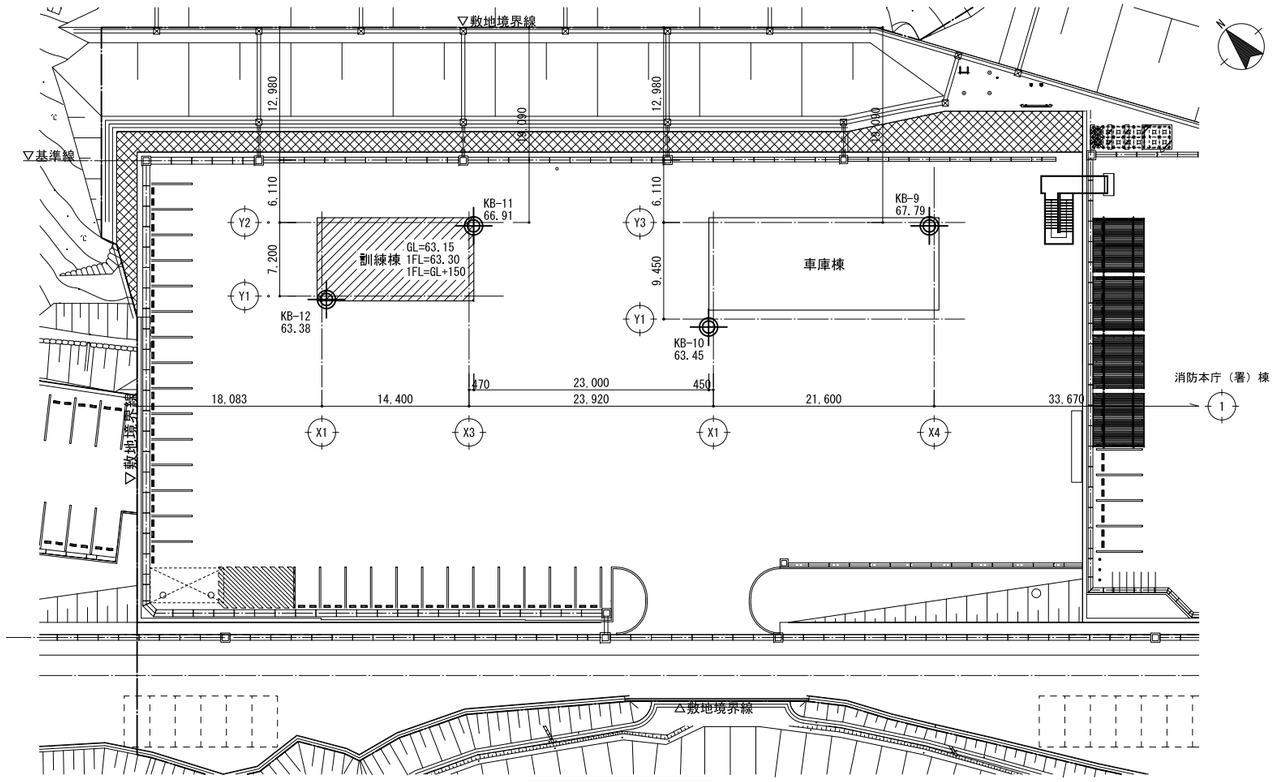
☑ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。

□ 法第20条第1項第一号から第三号までの建築物に設ける屋上水槽等にあっては、平成12年建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとすること。

☑ 給湯設備[注]は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。

注） 「給湯設備」：建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの。

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【訓練棟】 構造特記仕様書 (2)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 / 小田　文武	設計者名 / 安川　雅巳	縮尺 / A1:— A3:—	図面番号 / S-402

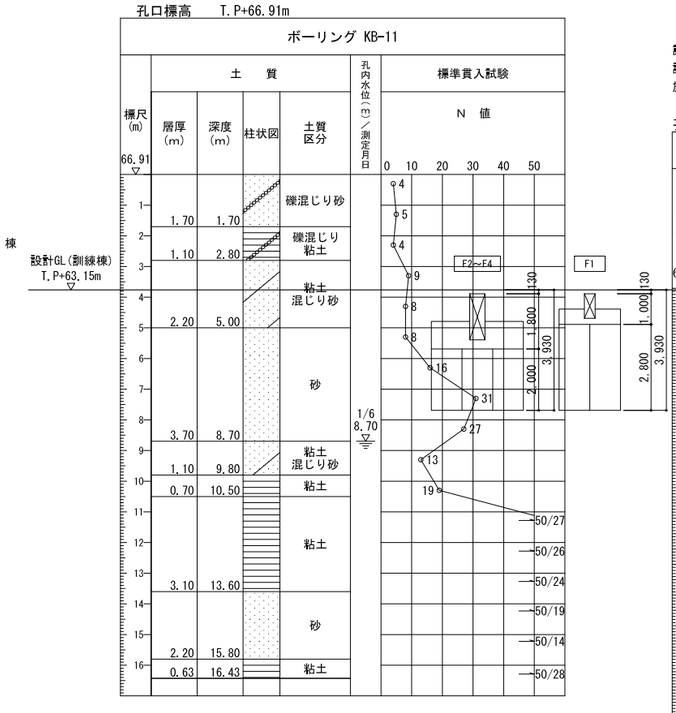


ボーリング位置図　1/300

ボーリング位置を示す

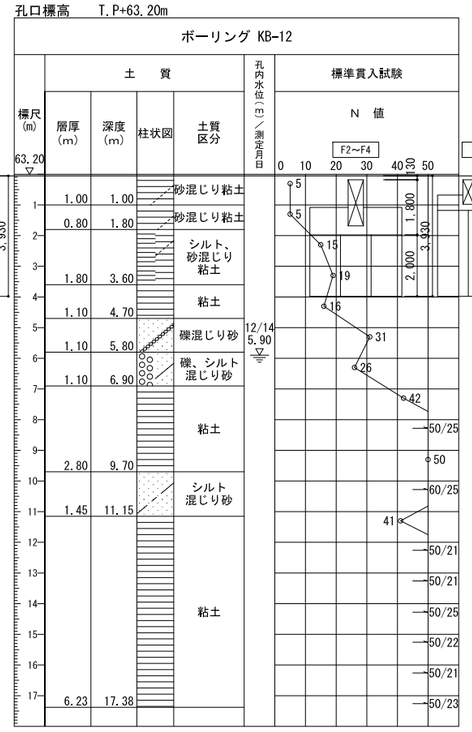
調査場所
調査期間　令和4年1月5日～令和 4年1月6日
施工業者　株式会社 ニュージェック

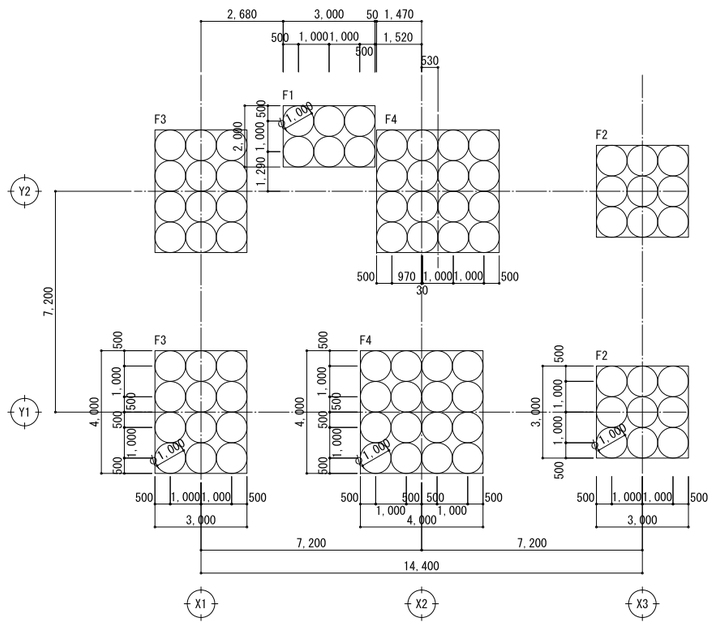
孔口標高　T.P+66.91m



調査場所
調査期間　令和3年12月11日～令和3年12月14日
施工業者　株式会社 ニュージェック

孔口標高　T.P+63.20m

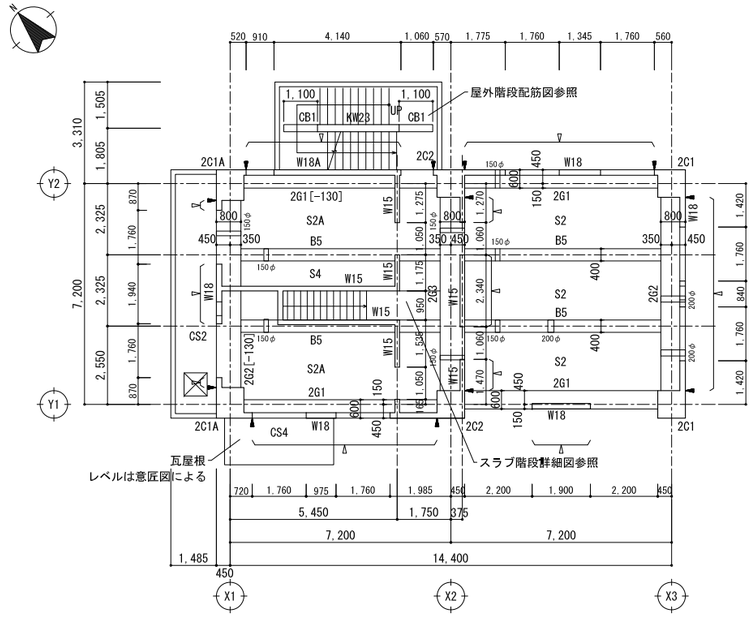




地盤改良配置図　1/100

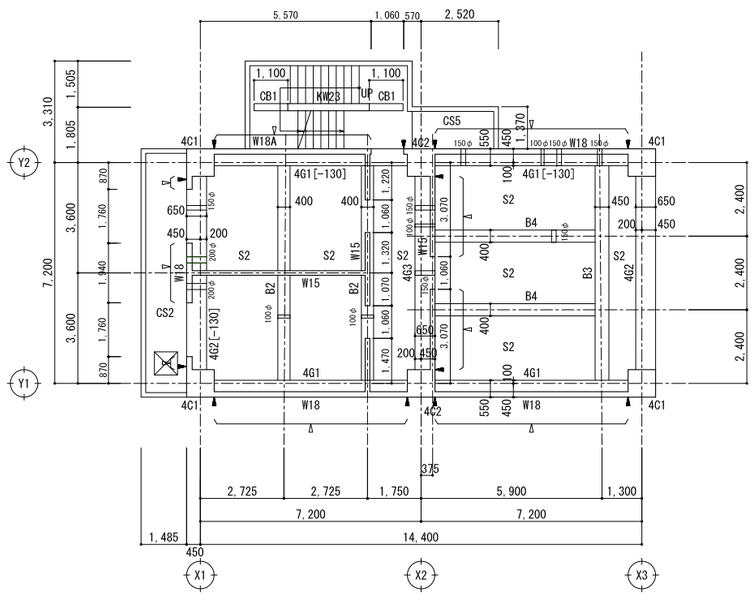
・基礎底レベルは設計GL-1,930、F1基礎底レベルは設計GL-1,130とする
・地盤改良は深層混合処理工法とする
・長期地耐力度：260kN/m²

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【訓練棟】 ボーリング位置図、地盤改良配置図		2023/03
管理技術者名		設計者名	縮尺	図面番号
NEXJEC 株式会社ニュージェック	小田　文武	安川　雅巳	A1:1/100,1/300 A3:1/200,1/600	S-403



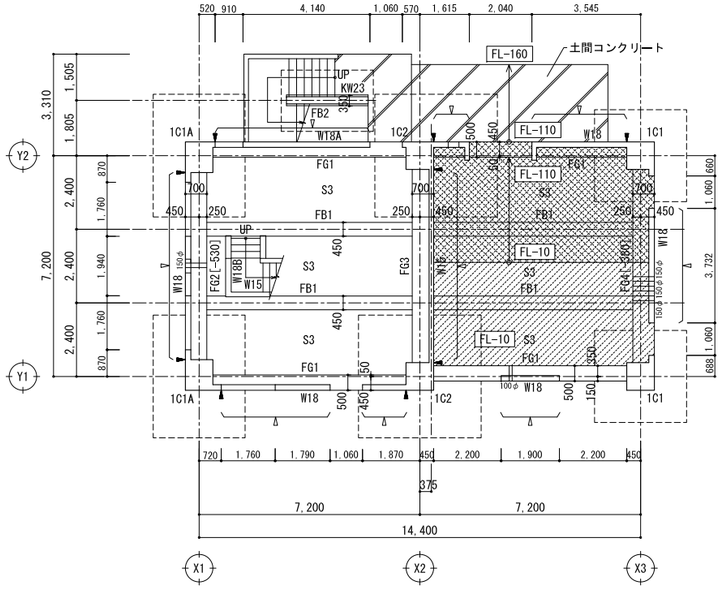
2階床梁伏図　1/100

特記なき限り下記とする
・床版、小梁天端：2FL-80
・大梁天端　　：2FL-80
[数字]は2FLからの梁天レベルを示す
・◄ 構造鉛直スリットを示す
・▽ 構造水平スリットを示す



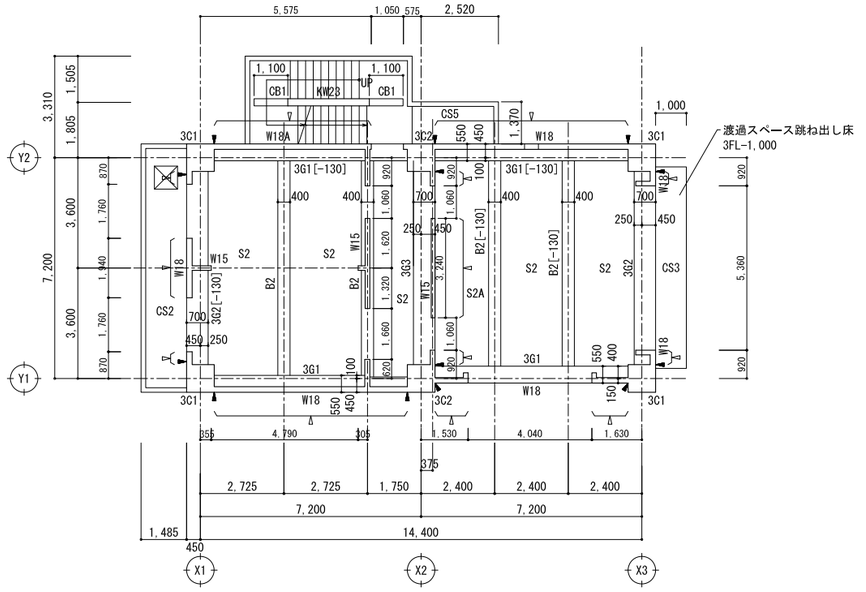
4階床梁伏図　1/100

特記なき限り下記とする
・床版、小梁天端：4FL-80
・大梁天端　　：4FL-80
[数字]は4FLからの梁天レベルを示す
・◄ 構造鉛直スリットを示す
・▽ 構造水平スリットを示す



1階床梁伏図　1/100

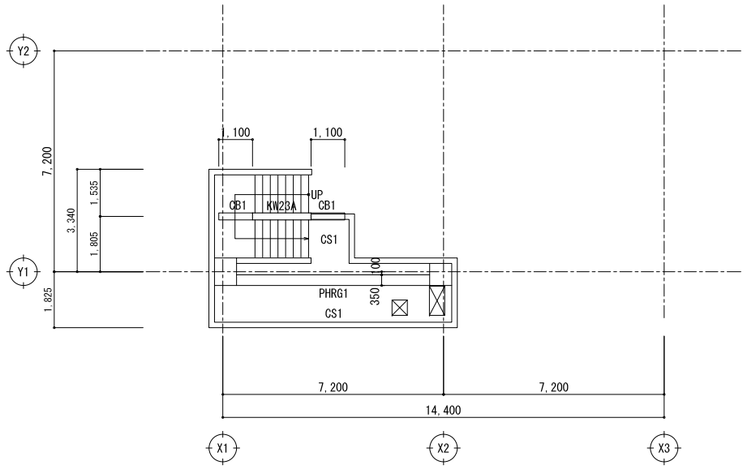
特記なき限り下記とする
・1FL=設計GL+150
・床版天端　　：1FL-80
数字 は1FLからの床版レベルを示す
・地中梁、地中小梁天端：1FL-280
[数字]は1FLからの梁天レベルを示す
・◄ 構造鉛直スリットを示す
・▽ 構造水平スリットを示す



3階床梁伏図　1/100

特記なき限り下記とする
・床版、小梁天端：3FL-80
・大梁天端　　：3FL-80
[数字]は3FLからの梁天レベルを示す
・◄ 構造鉛直スリットを示す
・▽ 構造水平スリットを示す

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【訓練棟】 伏図（1）		2023/03
NEOJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
	小田　文武	安川　雅巳	A1:1/100 A3:1/200	S-404



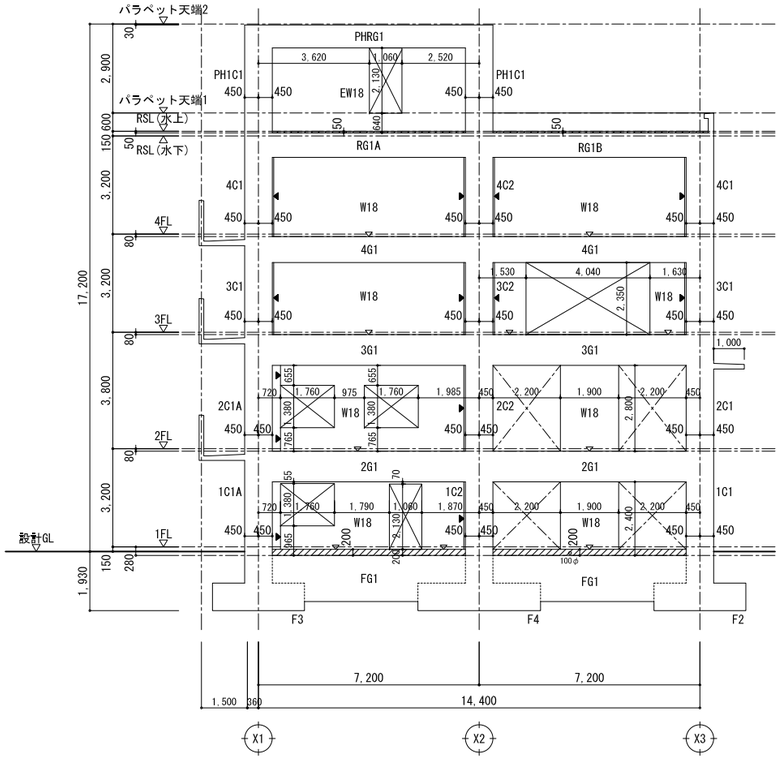
パラペット天端2梁伏図　1/100

特記なき限り下記とする
・床版天端：パラペット天端2-50
・大梁天端：パラペット天端2-30

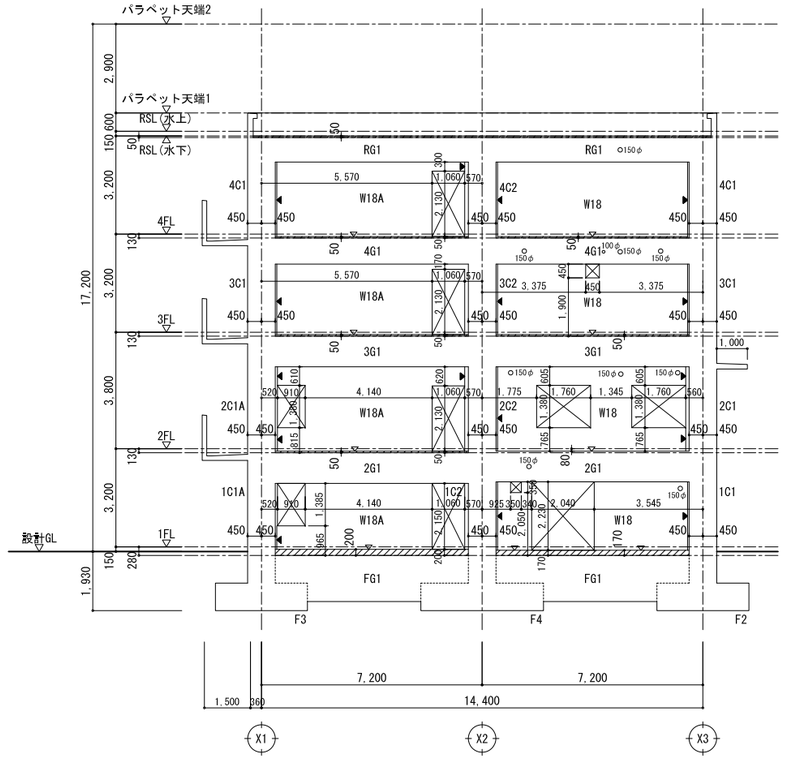
R階床梁伏図　1/100

特記なき限り下記とする
・床版天端　　：RSL±0 水勾配によるレベルは軸組図参照
・大梁、小梁天端：RSL-50 水勾配によるレベルは軸組図参照

工事名			図面の名称			作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事			【訓練棟】 伏図（2）			2023/03
NEOJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名	小田　文武	設計者名	安川　雅巳	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図面番号 S-405



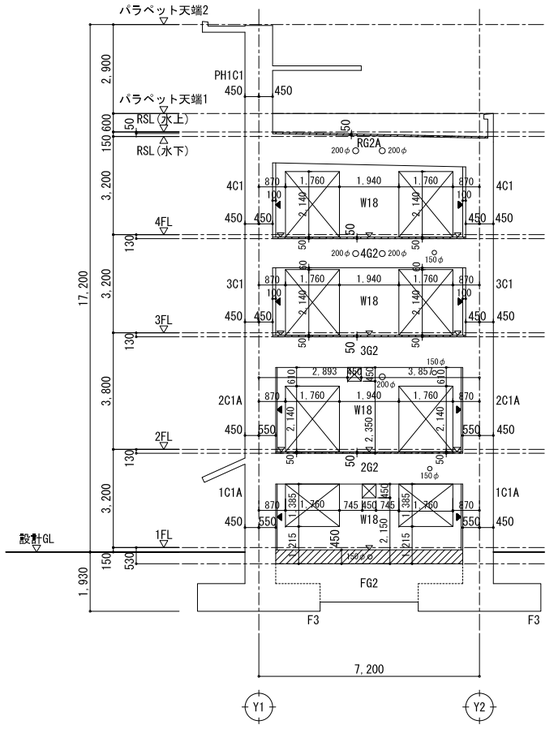
Y1通軸組図　1/100



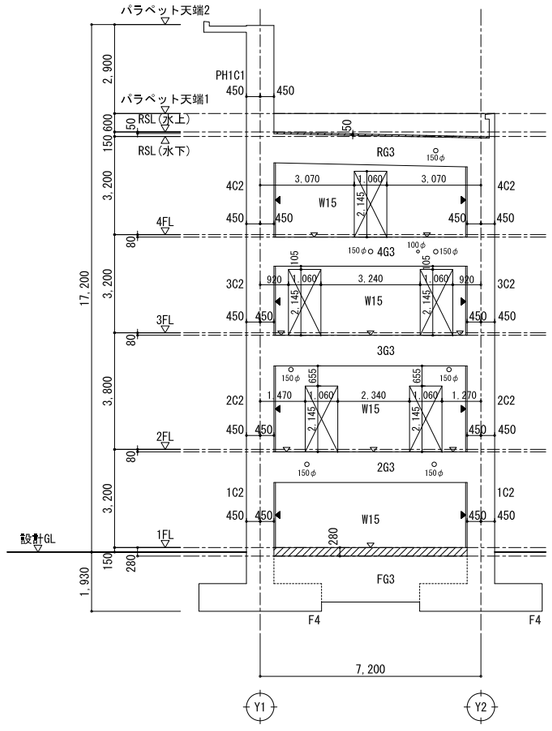
Y2通軸組図　1/100

特記なき限り下記とする

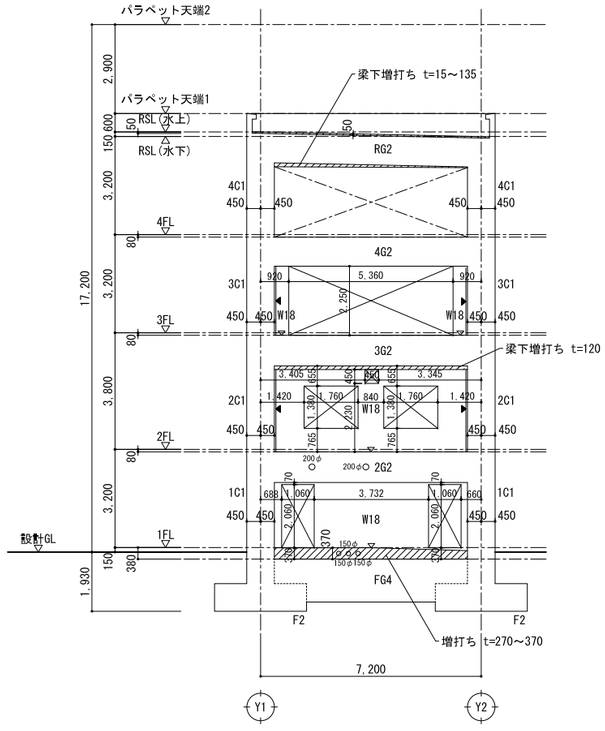
- 構造鉛直スリットを示す
- 構造水平スリットを示す
- 増打ちコンクリートを示す
- 押出成形セメント板を示す



X1通軸組図　1/100

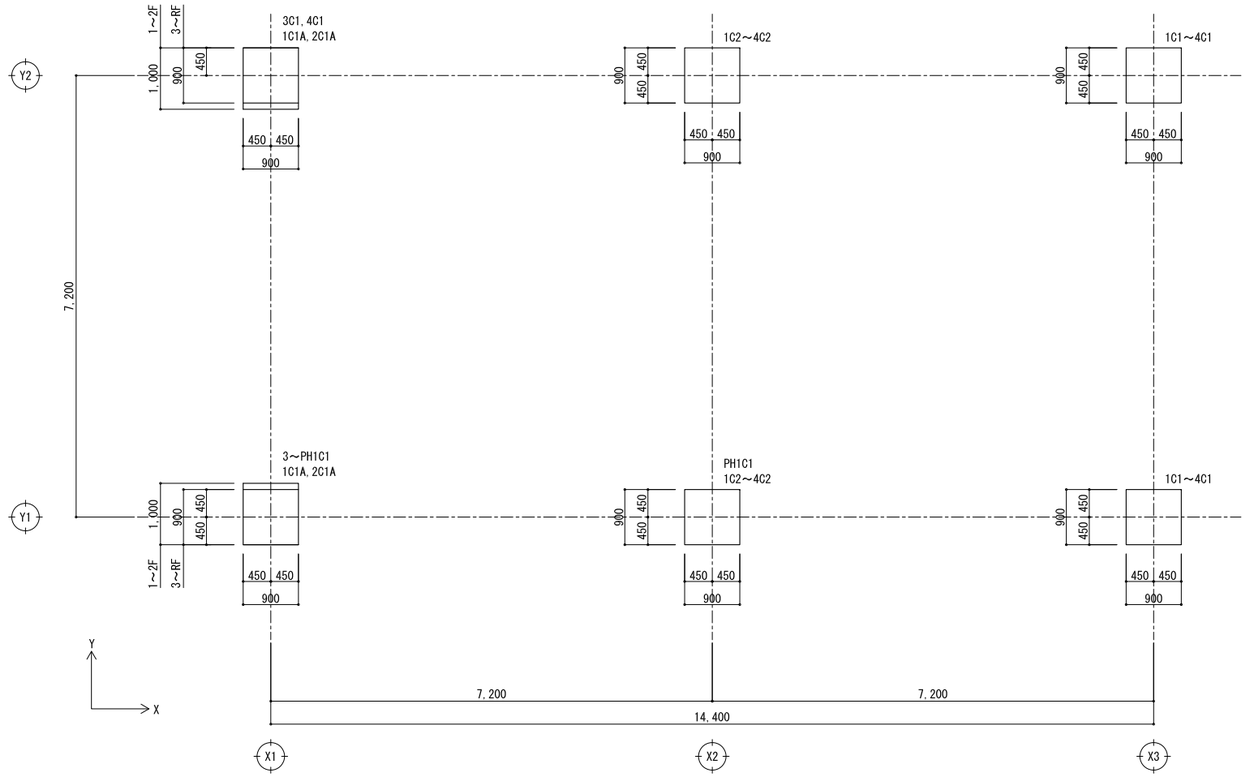


X2通軸組図　1/100



X3通軸組図　1/100

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【訓練棟】　軸組図		2023/03
NEOJEC　株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	図面番号 S-406



柱芯寄図　1/50

柱断面リスト　1/50

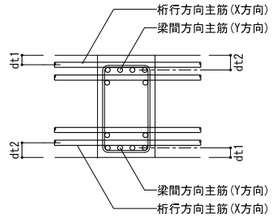
※最上階の柱頭部には定着板を採用する。
※柱接合部のフープは□-D13@90とする。ただし最頂部の柱梁接合部は□-D13@75とする。
※フープのS記号高強度せん断補強筋(KSS785同等品)を示す。

階	符　号	C1	C2	C1A
	断面名	全断面	全断面	全断面
PH1F	断　面			
	B×D	900 x 900		
	主　筋	16 - D25		
	フープ	□-D13@100		
	備　考			
4F	断　面			
	B×D	900 x 900	900 x 900	
	主　筋	16 - D25	16 - D25	
	フープ	□-D13@100	□-D13@100	
	備　考			
3F	断　面			
	B×D	900 x 900	900 x 900	
	主　筋	24 - D25	24 - D25	
	フープ	□-D13@100	田-D13@100	
	備　考			
2F	断　面			
	B×D	900 x 900	900 x 900	900 x 1,000
	主　筋	24 - D25	24 - D25	24 - D25
	フープ	田-D13@100	田-D13@100	田-D13@100
	備　考			
1F	断　面			
	B×D	900 x 900	900 x 900	900 x 1,000
	主　筋	24 - D25	24 - D25	24 - D25
	フープ	田-D13@100	冊-S13@100	田-D13@100
	備　考			

工事名			図面の名称			作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事			【訓練棟】　柱芯寄図・柱断面リスト			2023/03
NEXJEC　株式会社ニュージェック	管理技術者名	小田　文武	設計者名	安川　雅巳	縮尺	A1:1/ 50 A3:1/100
					図面番号	S-407

大梁断面リスト　1/50

階	符　号	G1			G2		G3		G4	G1A	G1B			G2A	
	断面名	左　端	中　央	右　端	端　部	中　央	端　部	中　央	全断面	全断面	左　端	中　央	右　端	端　部	中　央
PHRFL	断　面														
	B×D	350x750													
	上端筋	3-D25													
	下端筋	3-D25													
	スターラップ	□-D13@150													
	腹　筋	2-D10													
	備　考														
RFL	断　面	X1,X3端		X2端											
	B×D	450x800			600x950		600x950			450x800	450x800			600x950	
	上端筋	4-D25	4-D25	4/3-D25	5-D25		6-D25			3-D25	5/4-D25	5-D25	5-D25	6/2-D25	6-D25
	下端筋	4-D25			5-D25		6-D25			3-D25	5/1-D25			6-D25	
	スターラップ	□-D13@150			□-D13@200		□-D13@200			□-D13@200	田-D13@150			□-D13@200	
	腹　筋	2-D10			4-D10		4-D10			2-D10	2-D10			4-D10	
	備　考	カットオフ長さ 2100mm									カットオフ長さ 2200mm				
4FL	断　面	左端と同様													
	B×D	550x850			650x950		650x950								
	上端筋	6/4-D25	6-D25		5/3-D25	5-D25	5/3-D25	5-D25							
	下端筋	6/1-D25	6-D25		5-D25		5-D25								
	スターラップ	田-D13@100			□-D13@150		□-D13@150								
	腹　筋	2-D10			4-D10		4-D10								
	備　考	カットオフ長さ 2100mm			カットオフ長さ 2100mm		カットオフ長さ 2100mm								
3FL	断　面														
	B×D	550x1,000			700x1,000		700x1,000								
	上端筋	5/5-D25			7/5-D25		7/3-D25	7-D25							
	下端筋	5/2-D25			7/5-D25	7-D25	7/3-D25	7-D25							
	スターラップ	田-D13@150			田-D13@150		□-D13@150								
	腹　筋	4-D10			4-D10		4-D10								
	備　考				カットオフ長さ 2300mm										
2FL	断　面	左端と同様													
	B×D	600x1,000			800x1,000		800x1,000								
	上端筋	6/3-D25	6-D25		8/4-D25	8-D25	8/7-D25								
	下端筋	6/3-D25	6-D25		8/4-D25	8-D25	8/3-D25								
	スターラップ	田-D13@150			田-D13@150		田-D13@100								
	腹　筋	4-D10			4-D10		4-D10								
	備　考	カットオフ長さ 2000mm			カットオフ長さ 2000mm										
1FL	断　面														
	B×D	500x1,500			700x1,250		700x1,500		700x1,400						
	上端筋	5/4-D25			6/3-D25		6/4-D25		6/3-D25						
	下端筋	5/4-D25			6/3-D25		6/4-D25		6/3-D25						
	スターラップ	田-D13@200			田-D13@200		田-D13@200		田-D13@200						
	腹　筋	8-D10			6-D10		8-D10		6-D10						
	備　考														



dt1=殻針かぶり厚+スターラップ径+主筋径x1/2
dt2=dt1+主筋径

標準梁主筋位置

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【訓練棟】 大梁断面リスト		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/50	図面番号 S-408

小梁断面リスト　1/50

符号	B1		B2		B3		B4		B5		B6	
断面名	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	X1,X3端,中央	X2端	端部	中央
断面												
B x D	400x700		400x700		450x800		400x700		400x700		300x650	
上端筋	3-D22		3-D22		4-D22		3-D22		4-D22	4/2-D22	3-D22	
下端筋	4-D22	4/2-D22	4-D22	4/2-D22	4-D22	4/3-D22	3-D22	3/1-D22	4-D22		3-D22	3/1-D22
スターラップ	□ -D13@200		□ -D13@200		□ -D13@200		□ -D13@200		□ -D13@200		□ -D13@200	
腹筋	2-D10		2-D10		2-D10		2-D10		2-D10		2-D10	
備考												
符号	CB1											
断面名	元端	先端										
断面												
B x D	230x500	230x350										
上端筋	2-D19											
下端筋	2-D19											
スターラップ	□ -D10@200											
腹筋	-											
備考												

地中小梁断面リスト　1/50

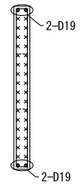
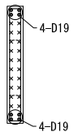
符号	FB1		FB2		
断面名	X1,X3端,中央	X2端	端部	中央	
断面					
B x D	450x800		350x800		
上端筋	4-D22	4/2-D22	3-D22		
下端筋	4-D22		3-D22		
スターラップ	□ -D13@200		□ -D13@200		
腹筋	2-D10		2-D10		
備考					

床版リスト　1/50

符号	版厚	位置	短辺方向 (主筋方向)	長辺方向 (配力筋方向)	備考
S1	150	上端筋	D13@200	D13@200	
		下端筋	D13@200	D10@200	
S2	150	上端筋	D13@200	D10@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	
S2A	150	上端筋	D13@200	D13@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	
S3	150	上端筋	D13@200 ※1	D10@200	※1 屋内階段直下の範囲は 短辺方向(主筋方向)上下共D13@100とする
		下端筋	D10@200 ※1	D10@200	
S4	200	上端筋	D13@200 ※2	D13@200	※2 階段吹抜け部のY2通り側は 短辺方向(主筋方向)上端筋をD13@100とする
		下端筋	D10@200	D10@200	
CS1	200	上端筋	D13@100	D10@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	
CS2	200～150	上端筋	D13@100	D10@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	
CS3	180～150	上端筋	D13@200	D10@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	
CS4	180	上端筋	D13@150	D10@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	
CS5	250	上端筋	D13@100	D10@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	
土間 コンクリート	150	-	D10@150シングル	D10@150シングル	

壁リスト　1/50

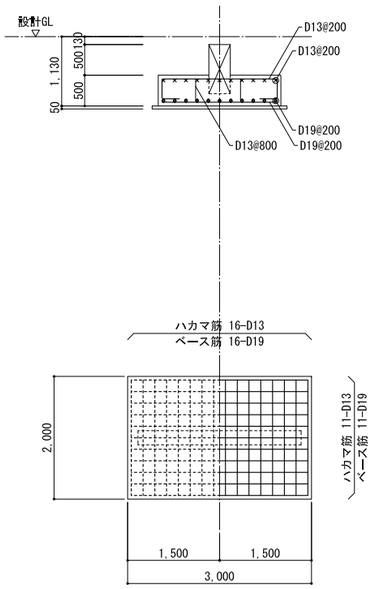
巾止め筋はD10@1000以内とする

符号		W15	EW18,W18	W18A	W18B	KW23	KW23A
壁厚		150	180	180	180	230	230
断面						 水平断面を示す	 水平断面を示す
縦筋		D13@200チドリ	D13@200ダブル	D13@150ダブル	D16@100ダブル	D13@150ダブル	D13@150ダブル
横筋		D13@200チドリ	D13@200ダブル	D13@200ダブル	D13@200ダブル	D13@200ダブル	D13@200ダブル
開口補強	タテ	2-D13	4-D13	4-D13	-	-	-
	ヨコ	2-D13	4-D13	4-D13	-	-	-
	ナナメ	1-D13	2-D13	2-D13	-	-	-

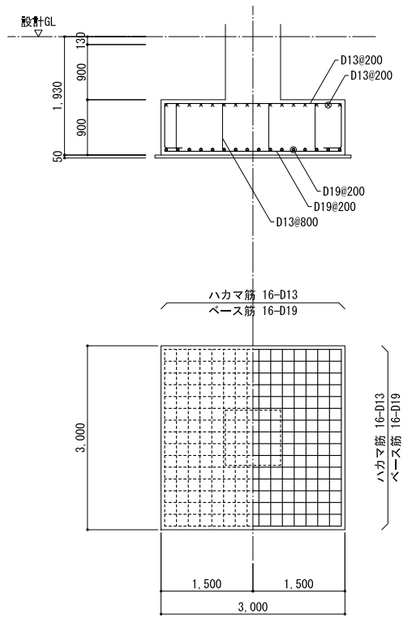
工事名	図面の名称			作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事	【訓練棟】 小梁断面リスト・床版リスト・壁リスト			2023/03
	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
NEXJEC 株式会社ニュージェック	小田　文武	安川　雅巳	A1:1/ 50 A3:1/100	S-409

基礎リスト　1/50

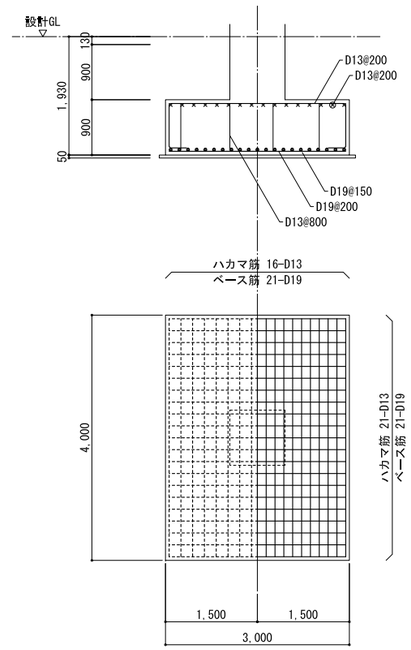
F1



F2

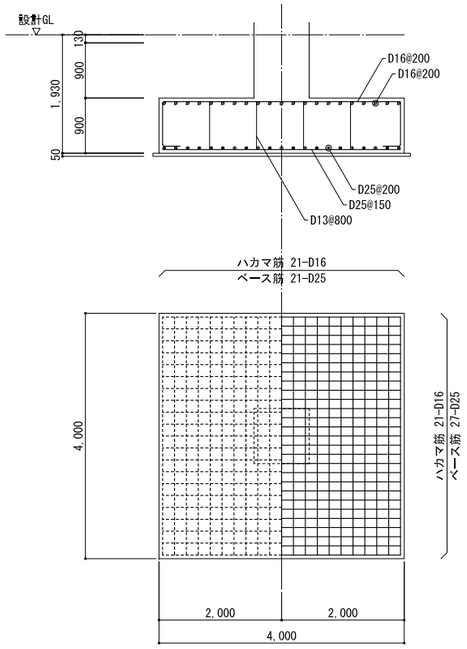


F3

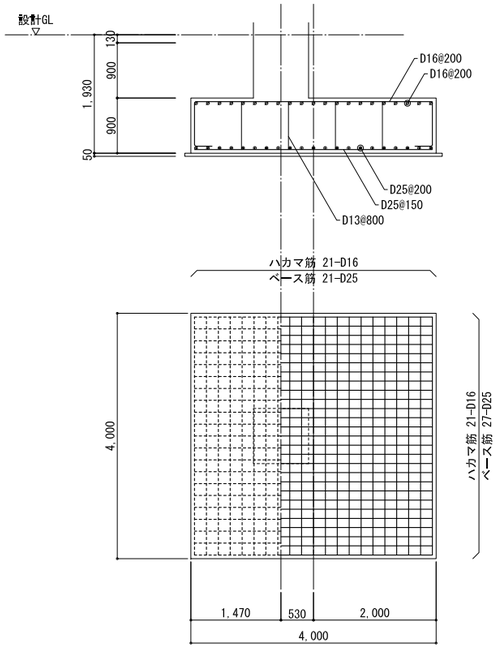


F4

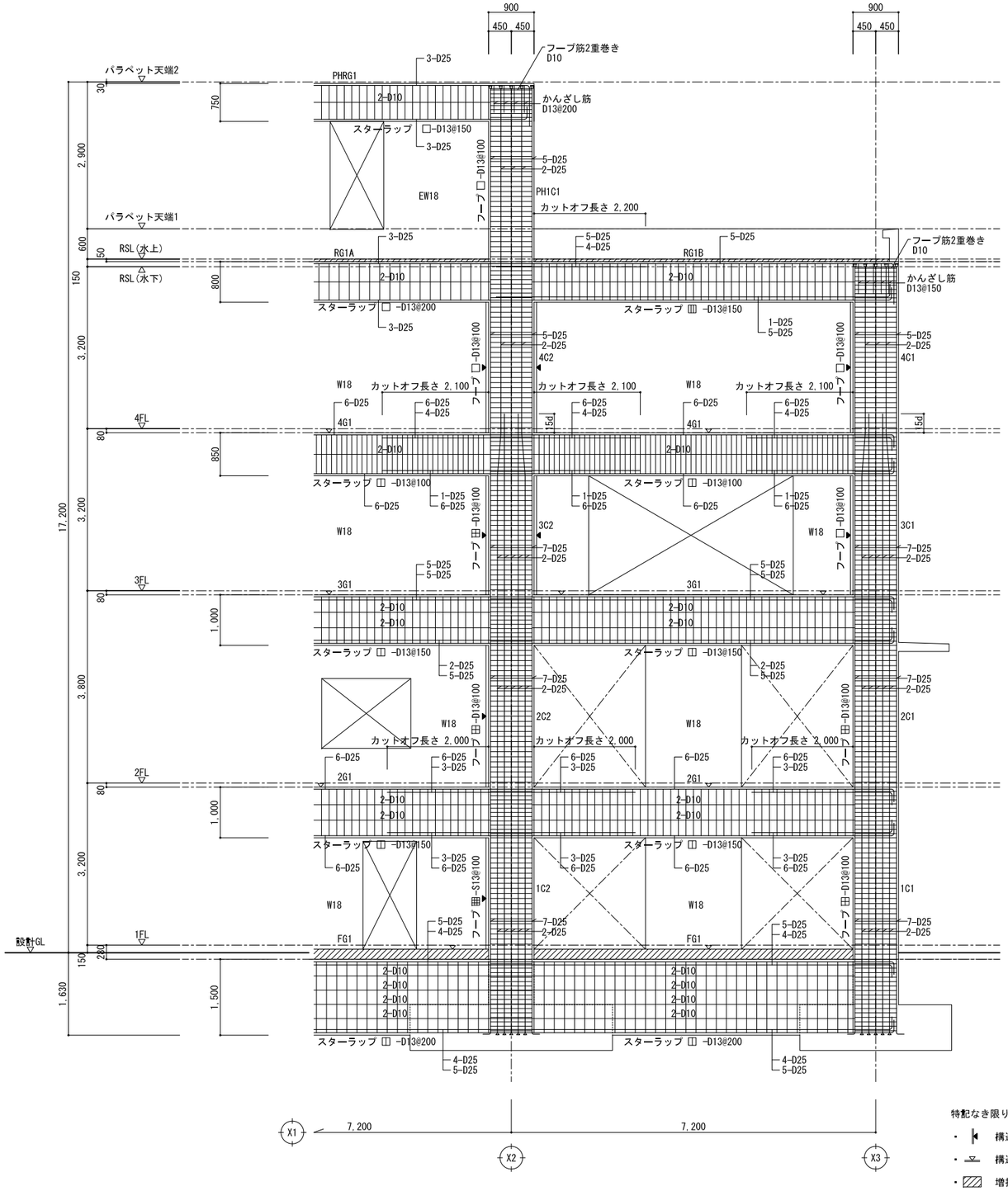
X2×Y1通 基礎



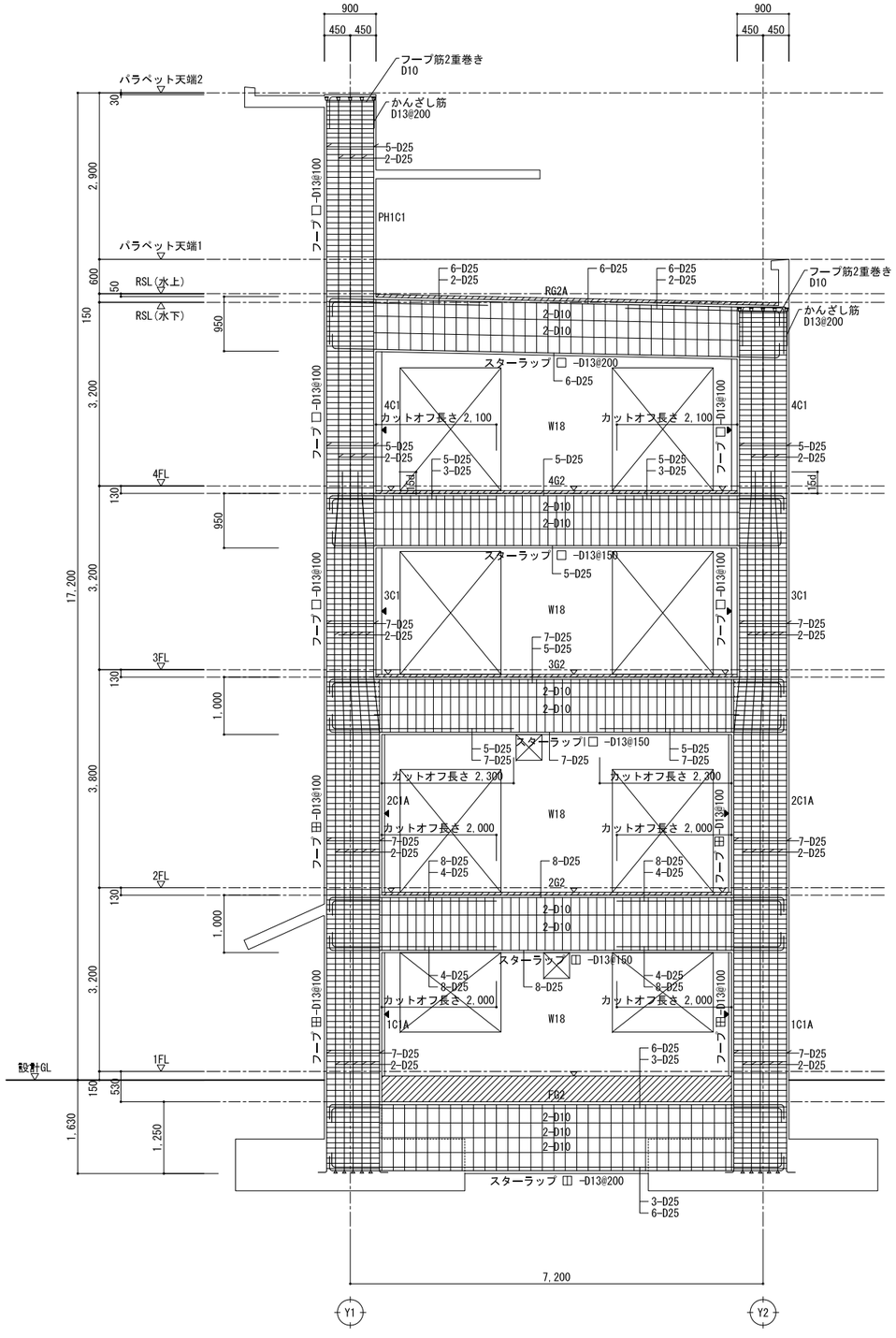
X2×Y2通 基礎



工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【訓練棟】 基礎リスト		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/ 50 A3:1/100	図面番号 S-410



Y1通架構配筋図　1/50

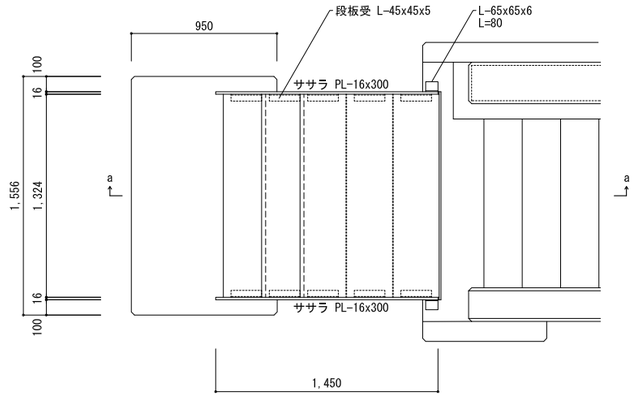


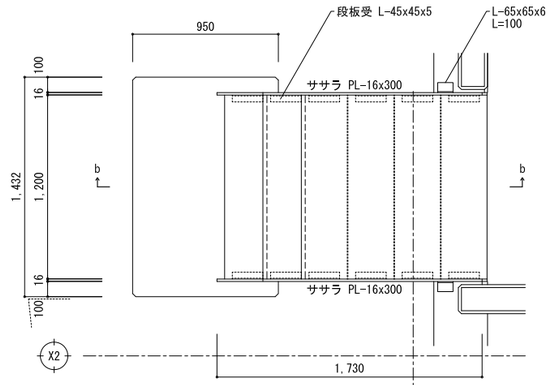
X1通架構配筋図　1/50

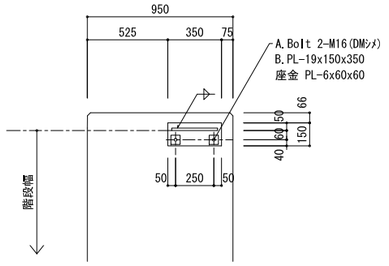
特記なき限り下記とする。

- 構造鉛直スリットを示す。
- 構造水平スリットを示す。
- 増打ちコンクリートを示す。
- フープS記号は高強度せん断補強筋(KSS785同等品)を示す。
- 柱梁接合部のフープは□-D13@90とする。ただし最頂部の柱梁接合部は□-D13@75とする。

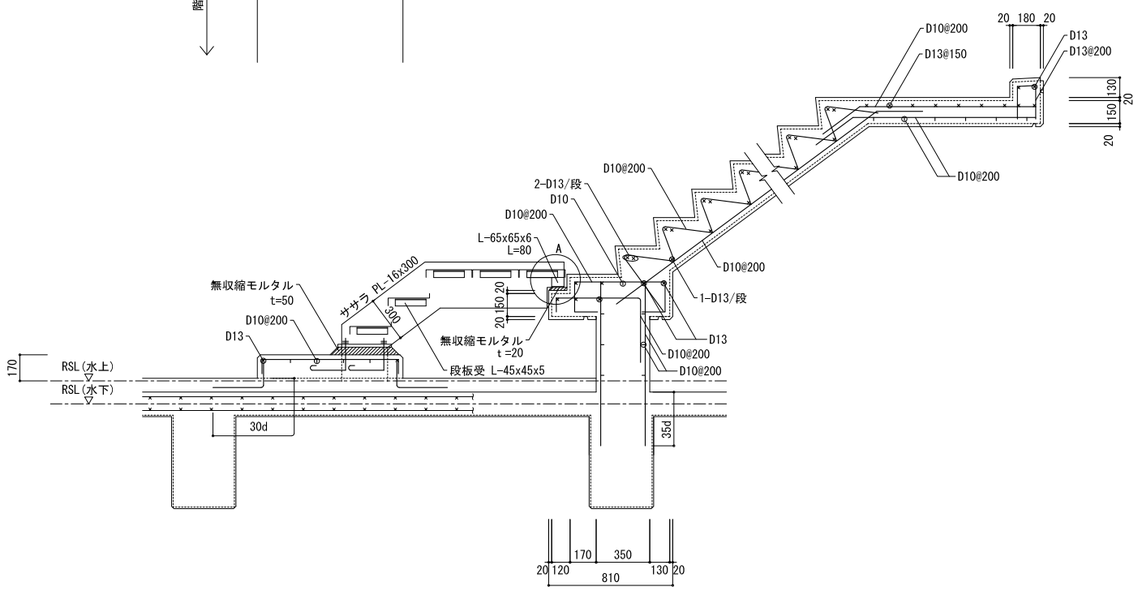
工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【訓練棟】 架構配筋図		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/ 50 A3:1/100	図面番号 S-411



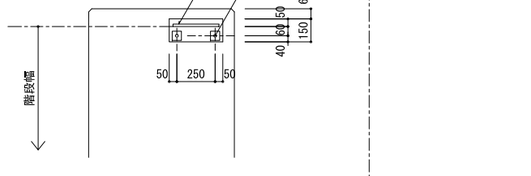


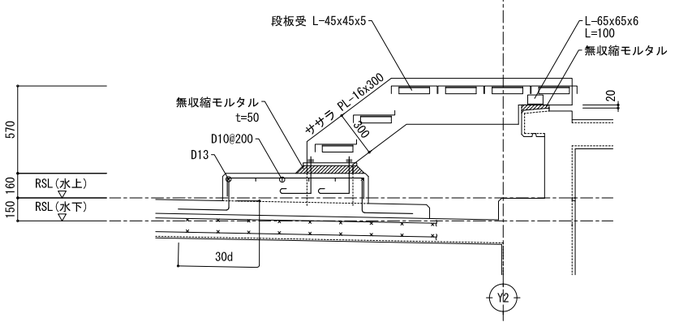


A部詳細図 1/10

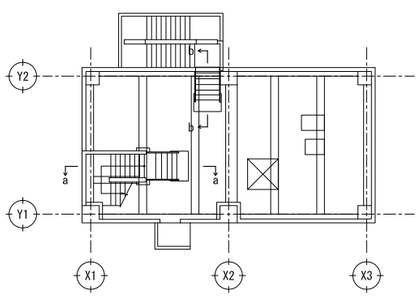


a-a断面図





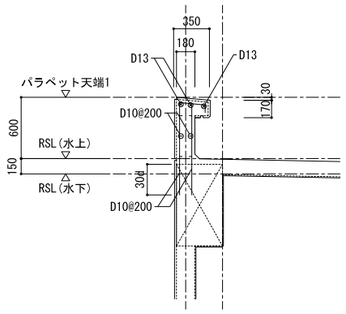
b-b断面図



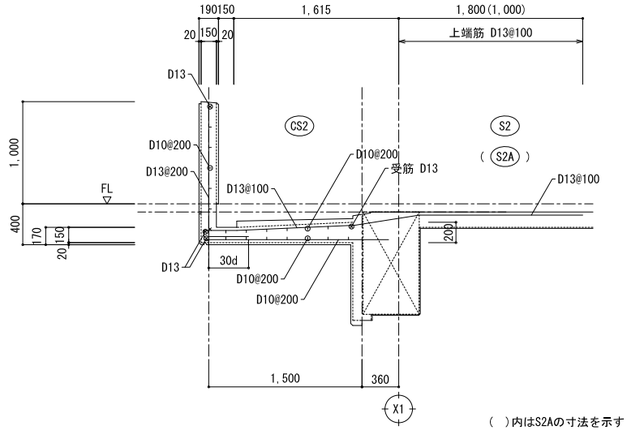
鉄骨階段詳細図 1/20

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【訓練棟】 鉄骨階段詳細図		2023/03
NEWJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
	小田 文武	安川 雅巳	A1:1/20 A3:1/40	S-412

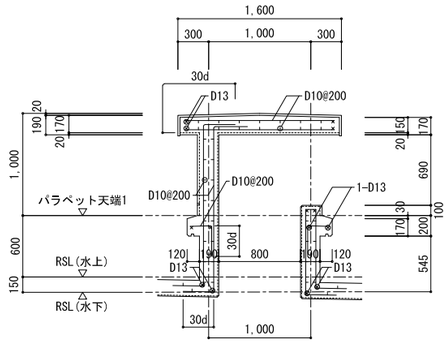
パラペット配筋図　1/30



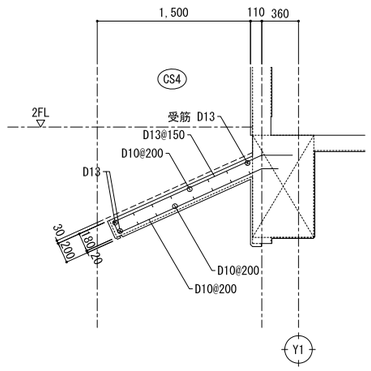
バルコニー配筋図　1/30



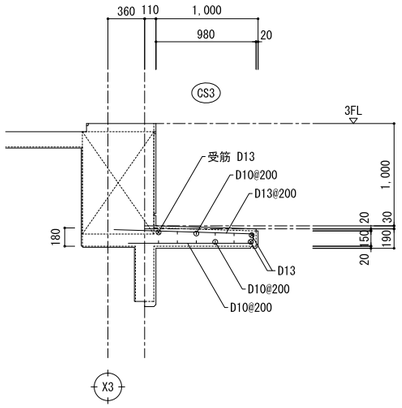
ハト小屋配筋図　1/30



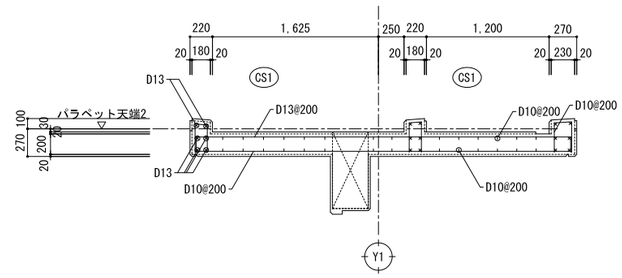
瓦屋根配筋図　1/30



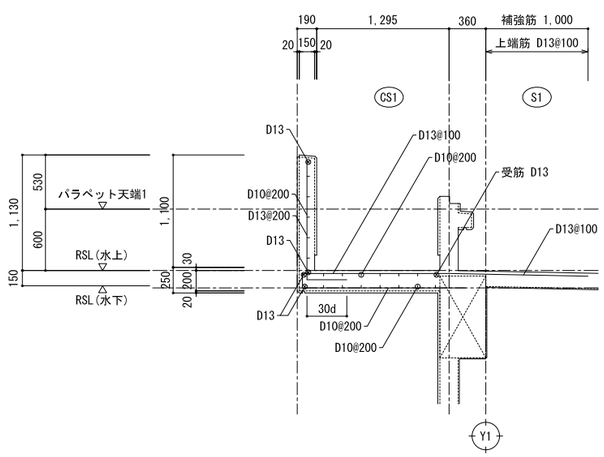
渡過スペース跳ね出し床配筋図　1/30



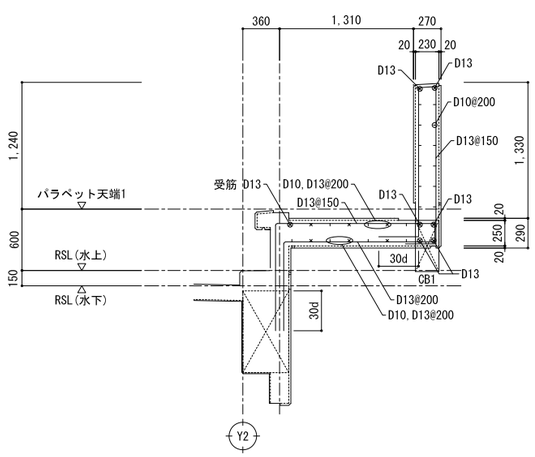
パラペット天端2床配筋図　1/30



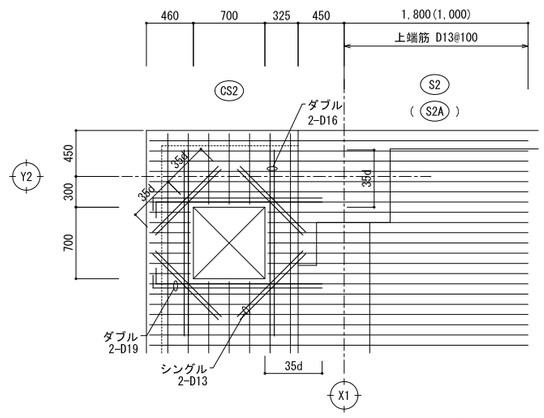
R階手摺配筋図　1/30



R階階段手摺配筋図　1/30



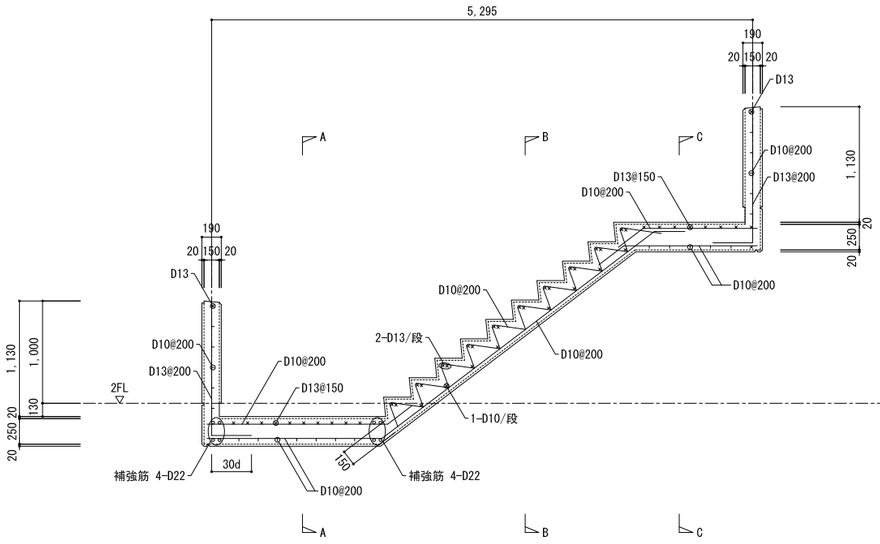
避難ハッチ開口部配筋図　1/30

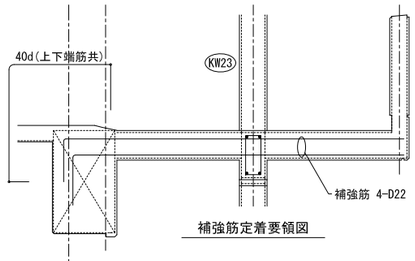


（ ）内はS2Aの寸法を示す

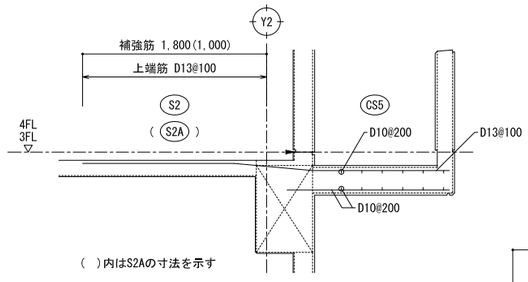
工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【訓練棟】 雑配筋図 (1)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田 文武	設計者名 安川 雅巳	縮尺 A1:1/30 A3:1/60	図面番号 S-413

屋外階段配筋図（片持ち階段）

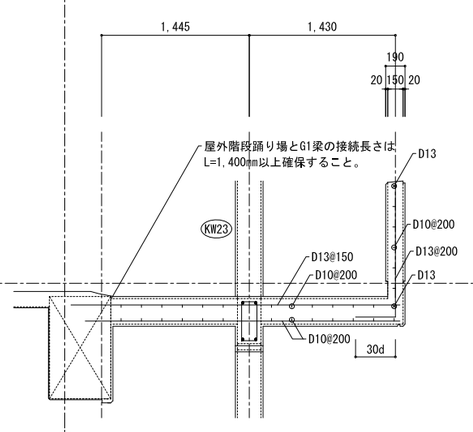




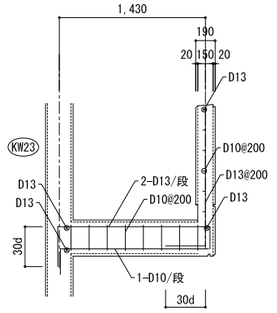
補強筋定着要領図



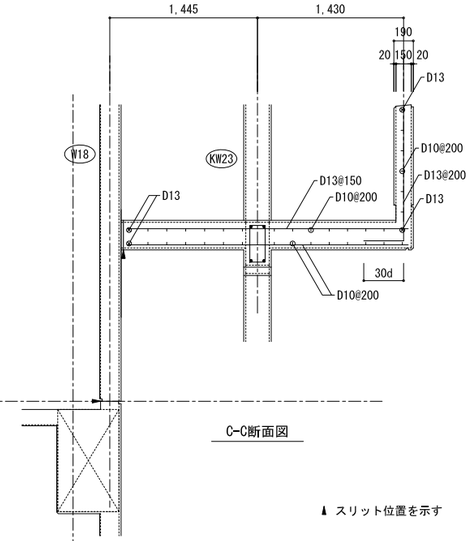
( )内はS2Aの寸法を示す



A-A断面図



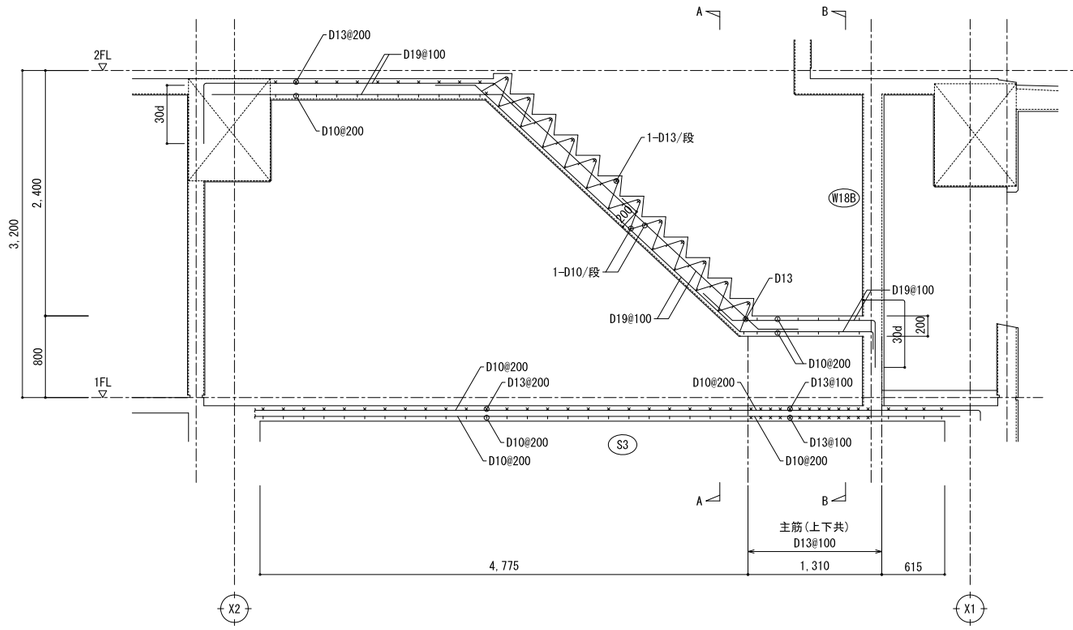
B-B断面図

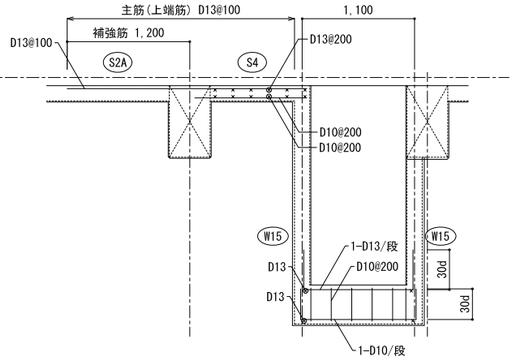


C-C断面図

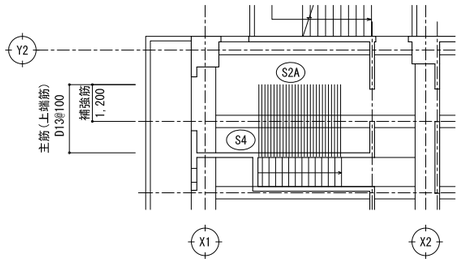
▲ スリット位置を示す

屋内階段配筋図（スラブ階段）

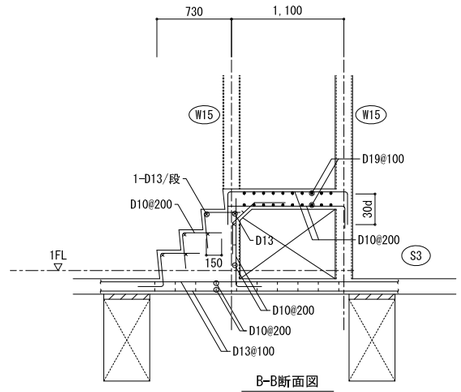




A-A断面図



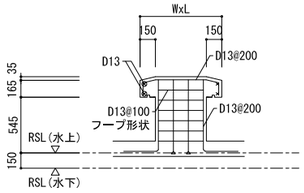
S4 補強筋範囲 1/100



B-B断面図

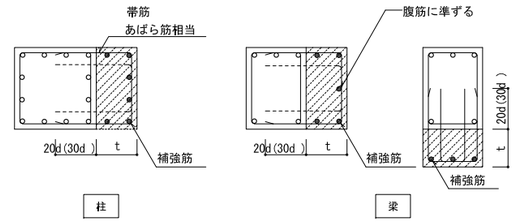
工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【訓練棟】 雑配筋図（2）		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田 文武	設計者名 安川 雅巳	縮尺 A1:1/30 A3:1/60	図面番号 S-414

設備基礎配筋図　1/30



	WxL
設備基礎A	800x1,200
設備基礎B	800x1,000

柱,梁打増し配筋要領図　－

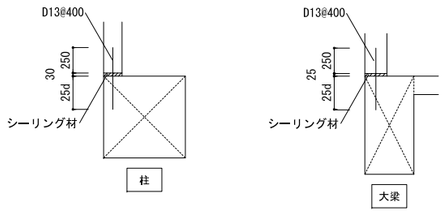


・ ▨ は打増し部分を示す。-------- と配筋してもよい。

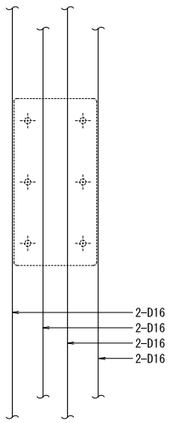
・補強筋 定着20d(lz)は、主要な耐力壁等が取付く場合で設計図による。

t≦50　補強なし　　50<t≦100　D13@300
100<t≦200　D16@300　　200<t≦300　D16@200
t>300　D19@200
原則として、構造図に記載された箇所以外に打増ししてはならない。

壁スリット配筋要領図　－

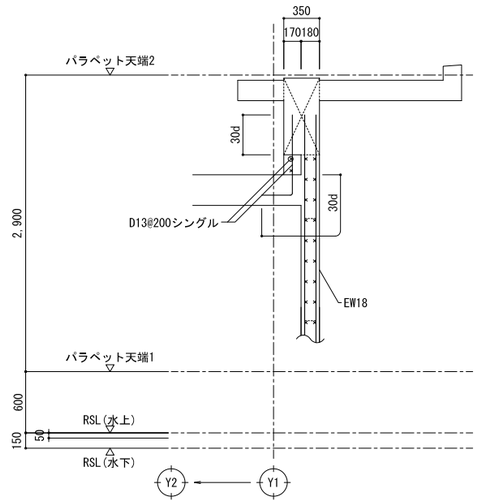


レンジャーネット接合部補強筋配筋図　1/10



頂部の定着は壁筋と同様の35dとし、下部はスリットと同様の25dとする。

EW18壁増し打ち要領図　1/30



工事名	図面の名称			作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事	【訓練棟】 雑配筋図 (3)			2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
	小田　文武	安川　雅巳	A1:1/30 A3:1/60	S-415

構 造 特 記 仕 様 書 (1)

対 象 建 物	図面番号
屋内貯蔵所	S-503, 504
地下燃料タンク	S-505
訓練棟側	
着脱式ガードレール 基礎	S-506
斜めブリッジ地上金物 基礎	S-506
傾斜地訓練施設	
床アンカー・着脱式ガードレール 基礎	S-507
管状支点・想定立ち木 基礎	S-508
防火水槽標識 基礎	S-508
屋外階段	A-504, 505
カーポート 基礎	A-506
確保専用ロープ支持金物 基礎	A-507
検索通路可倒式ポール・アンカーパイプ 基礎	A-507
掲揚ポール 基礎	A-508
懸垂幕 基礎	A-508
自家用発電装置・燃料小出槽 基礎	A-509
配管トラフ	A-510
給油口ユニットボックス・送油ポンプ 危険物看板（屋外自立型） 基礎	A-510
油水分離槽	A-510
受変電設備 基礎	A-511
受水槽 基礎	A-511
屋外掲示板 基礎	A-511
オイルトラップ	A-511
グリーストラップ	A-511
外部自立 施設名称サイン-1 基礎	A-226
外部自立 施設名称サイン-2 基礎	A-226
駐車場サイン-3（車椅子）基礎	A-227
駐車場サイン基礎	A-227

§1 一般事項

選択項目は ⦿ 印を適用し、⦿ 印が無い場合は ※ 印を適用する。
○ 印が複数有る場合は、共に適用する。

1-1 使用材料は原則としてJIS規格品、JAS規格品、又は大臣認定品とする。

1-2 設計図書の優先順位は下記による。

1) 本特記仕様書
2) 設計図
3) 構造関係共通事項
4) 仕様書 （⦿ 公共建築協会 ※ 日本建築家協会 ）
5) 日本建築学会標準仕様書 , JASS5 , JASS6（最新版とする）

1-3 各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承諾を得る。

1-4 構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。
第三者機関による検査・試験費用は工事費に（ ※ 含む • 含まない ）

1-5 設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承諾を得る。

1-6 梁貫通位置、径、及び箇所数は（ • 意匠図 ⦿ 構造図 ⊗ 設備図 ）による。
なお、スリーブ径は内径を示す。

1-7 その他

§2 構造計算ルート

2-1

方 向	構造計算ルート
X	• ルート1 • ルート2 • ルート3 •
Y	• ルート1 • ルート2 • ルート3 •

2-2 鉄筋の継手（ 定着については設計図若しくは標準図による ）
構造計算ルート別による主筋又は、耐力壁の鉄筋の継手の重ね長さ
※ 建築基準法施行令第73条第2項による仕様規定
• 日本建築学会 JASS5(2018),鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説
• 日本建築学会 RC規準2018
XY両方向共ルート3及び限界耐力計算の場合は、令第73条第2項の仕様規定によらずJASS5(2018),鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びRC規準2018とすることができる。

§3 仮設工事,土工事

3-1 山留め、根切り

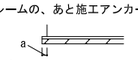
3-2 埋戻し土、盛土、残土処分
埋戻し土 ※ 根切り土の中の良土 ⦿ 搬入良土(埋戻し土は30cm毎に転圧締固めを行うこと)
盛土 ※ 根切り土の中の良土 ⦿ 搬入良土(盛土は30cm毎に転圧締固めを行うこと)
残土処分 • 場内地均し ※ 場外搬出処分（ ※ 自由 • 指定場所 ）

§4 地業工事

4-1 基礎及びスラブ下地業（単位mm）

場 所		捨てコンクリート厚さ 注1)	A:砕 石 B:割栗石	厚 さ
基 礎	独立,布	⊗ 50 • 60 • 100	⊗ A • B	⊗ 60 • 100 • 150 •
	ベ タ	※ 50 • 60 • 100	※ A • B	※ 60 • 100 • 150 •
基 礎 梁		⊗ 50 • 60 • 100	⊗ A • B	⊗ 60 • 100 • 150 •
土間スラブ		⊗ 50 • 60 • 100	⊗ A • B	⊗ 60 • 100 • 150 •
土間コンクリート	屋 内	※ 50 • 60 • 100	※ A • B	※ 60 • 100 • 150 •
	屋 外	⦿ 50 • 60 • 100	⊗ A • B	⦿ 60 ※ 100 • 150 •

注1),アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。
注2),端部aは100以上とする。



4-2 設計地耐力 ※ 各部基礎図に示す。
地耐力載荷試験 ⦿ 行う （ 3 箇所,長期設計耐力の3倍を確認する） ※ 行わない
(位置はA-226,A-227,A-504に示す。)

4-3 地盤改良 （位置はS-503,S-505に示す。）
• 無筋コンクリート地業 • 締固め工法 • ソイルセメント杭
⦿ セメント系固化材撹拌 • 圧密排水工法 • ※ 地盤改良特記仕様書による
[• 載荷試験 ⦿ 一軸圧縮試験] ⦿ 行う ※ 行わない
[⦿ 六価クロム溶出試験] ⦿ 行う ※ 行わない

4-4 既製コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭
1)杭種
• PHC杭 • A種 • B種 • C種
• ST杭 • A種 • B種 • C種
• SC杭 t mm • • • •
• PRC杭 • Ⅰ種 • Ⅱ種 • Ⅲ種 • Ⅳ種
• 節杭 • A種 • B種 • C種
• 鋼管杭
2)工法
• 打撃工法 • 油圧ハンマー • ディーゼルハンマー
• 埋込み工法 • プレボーリングセメントミルク注入工法
• プレボーリング拡大根固め工法(騒定工法)
杭周固定液 ※ あり • なし
• 中掘拡大根固め工法(騒定工法)
• 回転埋設根固め工法(騒定工法)
• 回転杭工法
先行掘削 ※ あり • なし
3) 杭径,設計耐力,本数表

杭径(拡底部)mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考
( )					
( )					
( )					
( )					

4) 杭の構成は設計図による。
5) 杭頭補強
• かご筋 • スタッド溶接 • 杭外周溶接

4-5 場所打鉄筋コンクリート杭,場所打鋼管コンクリート杭
1) 工法
• アースドリル工法 • 拡底アースドリル工法
• リバース工法 • オールケーシング工法 （• ペノト工法 • ）
• BH工法 •
2) 杭径,設計耐力,本数表(拡底部は施工径を示す)

杭径(拡底部)mm	管厚 mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考
( )						
( )						
( )						
( )						
( )						

3) 杭先端深さ • GL− m • 杭リストによる • 杭伏図による
4) 孔壁測定 （ 2方向 ）
※ 行う （• 全数 • %） • 行わない
5) 使用材料 コンクリートの仕様は設計図による。特配のない場合JASS5水中コンクリートによる。
コンクリート Fc （• 普通ポルトランドセメント • 高炉セメントB種 ）
鉄筋 • D 以下 SD295 • D 以上 SD345
• D 以上 SD390
鋼管(リブ付) • SKK400 • SKK490

4-6 杭打地業共通事項
1)[• 試験杭 • 試験掘] • 行う(本) • 行わない
2) 載荷試験 • 行う (箇所,長期設計耐力の3倍を確認する) ※ 行わない
3) SL塗布 • 行う ※ 行わない

§5 鉄筋工事

5-1 材種

種 類	径		継 手
⦿ SD295	D16 以下		※ 重ね継手 • スパイラル • 工場溶接
⦿ SD345	D19 以上		• 重ね継手 ※ ガス圧接 • 溶接継手
• SD390	D 以上		※ ガス圧接 • 溶接継手 • 機械継手(級)
• SD490	D 以上		• ガス圧接 ※ 溶接継手 • 機械継手(級)
• 溶接金網			• 重ね継手
• 高強度せん断補強筋	• 1275級	P	• フック加工 • スパイラル • 工場溶接
	• 785級	K	
	• 685級	U	

5-2 ガス圧接部の検査(第三者機関による)外観検査全数(引張り試験の場合、施工者自主検査でもよい)
⦿ 抜取り検査
• 引張り試験 (JISZ3120)
1検査ロットにつき ※ 3 本 • 原則 柱・梁の径毎に3本
⦿ 超音波探傷試験 (JISZ3062) • 熱間押抜き試験
1検査ロットにつき ⦿ 30箇所 •
◦ 不合格となった圧接部は切り取って再圧接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。
1検査ロットは1組の作業班が1日に施工した圧接箇所の数量で200箇所以内

5-3 溶接、機械式継手の検査は各々の認定方法による他,日本継手協会仕様書(2017年)及び下記を参照する。
JIS Z 3063 (鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波探傷試験方法及び判定基準)
JIS Z 3064 (鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定試験方法及び判定基準)

5-4 梁貫通補強
補強筋は原則として工場製品(評定品)を使用する。

5-5 その他
基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として ⦿ ①一般 • ②地反力を受ける
• ③上載荷重が大きい場合 とする。
梁の余長 ℓ_1 の採用 ~~大梁・小梁 ※ D'(梁有効成) • 端部上下筋15d 中央上下筋20d~~
~~基礎梁 ※ min(D', L2) • 端部上下筋15d 中央上下筋20d~~
構造関係共通図による。
鉄筋の組立は適切な位置にスペーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。
コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。
コンクリート打設前に工事監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

§6 コンクリート工事

6-1 レディーミクストコンクリート(JIS A5308-2019)
1) セメント ※ 普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ JISR5210 • 高炉ｾﾒﾝﾄB種
• 低熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ JISR5210 •
2) 粗骨材 • 砂利 ※ 砕石 • 高炉ｽﾗｸﾞ骨材 • 人工軽量骨材 • 再生骨材
最大径(mm) ※ 20 • 25 • 40
3) 設計基準強度 (N/mm2) (使用区分は設計図の軸組図に示す)
⦿ 普通コンクリート
• Fc18 • Fc21 ⦿ Fc24 • Fc27 • Fc30 • Fc • Fc
• 軽量コンクリート （※ 1種 • 2種 気乾単位容積質量 ※ 18.5 • ）
• LFc18 • LFc21 • LFc24 • LFc27 • LFc30 • LFc
4) 土間コンクリート ⦿ Fc18（屋外）(ただし柱,壁等と同時に打込む場合は躯体の強度とする)
5) 捨てコンクリート ⦿ Fc18
6) 防水押さえコンクリート ⦿ Fc18 • LFc （ 気乾単位容積質量 ※ 18.5 • ）
7) かさ上げコンクリート ⦿ Fc18 • LFc （ 気乾単位容積質量 ※ 18.5 • ）

6-2 混和材 ※ AE減水剤 • 高性能AE減水剤 • 躯体防水材 • 膨張材
注1),混和剤は所定の品質を確保するためにプラントの特性に応じたもの使用する。

6-3

箇 所	基礎・基礎梁	一 般			備 考
スランプ cm	15	18			
水セメント比 %					65以下
単位水量 kg/m3					185以下
単位セメント量 kg/m3					270以上

注2),スランプは特配なき限り施工者が決め監理者に報告する。

6-4 試験 (躯体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う)
1) 骨材 [• 塩分含有量 • アルカリシリカ反応性] ※ 行う ⦿ 行わない
2) フレッシュコンクリート [⦿ スランプ ⦿ 空気量] ※ 行う • 行わない
3) 躯体のせき板取り外し時期決定圧縮試験 ※ 行う • 行わない
4) コンクリートコア抜き取り圧縮試験 • 行う ※ 行わない
5) マスコンクリートのひび割れ照査(温度応力解析) • 行う ※ 行わない
6) 単位水量測定 • 行う ⦿ 行わない

6-5 調合 (補正値は工事費に含む)
計画供用期間の級( )は耐久設計基準強度 Fd
• 短期(18) ⦿ 標準(24) • 長期(30) • 超長期(36)
調合管理強度 Fm=Max(Fc,Fd)+S S=3〜6
材齢28日の調合強度Fは下記の両式を満足するものとする。
$F \geqq Fm+1.73\sigma$ $F \geqq 0.85Fm+3\sigma$

6-6 せき板及び支柱の在置期間(普通ポルトランドセメントの場合)

		基礎、梁側、柱、壁	スラブ下	梁 下
コンクリートの材齢による場合	15 ℃以上	3 日	17 日	28 日
	5 ℃以上	5 日	25 日	
	0 ℃以上	8 日	28 日	
圧縮試験による場合		5N/mm2	注) 0.85Fcまたは12N/mm2	注) 設計基準強度

注) かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全が確認されるまで。

6-7 住宅性能表示
劣化等級 • 等級 2 • 等級 3
劣化等級2又は3を指定する場合は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)2-7かぶり厚さが変わる為,かぶりを訂正又は,設計図に明示する

6-8 Fc36を超える場合は高強度コンクリートとし、仕様は別配特記仕様書（JASS5等）による。

§7 鉄骨工事

7-1 材種及び使用箇所

規 格 名 称	鋼 材 名		備 考
一般構造用圧延鋼材	⦿ SS400 •		鉄骨使用箇所：屋外階段 A-504,505による。
溶接構造用圧延鋼材	• SM400A	• SM490A	
建築構造用圧延鋼材	• SN400A •		
	⦿ SN400B	• SN490B	
	• SN400C	⦿ SN490C	
一般構造用角形鋼管	• STKR400	• STKR490	
冷間成形角形鋼管	⦿ BCR295 •		
	• BCP235	• BCP325	
熱間成形角形鋼管	• SHC400B	• SHC400C	
	• SHC490B	• SHC490C	
一般構造用炭素鋼管	• STK400	• STK490	
	• STKN400	• STKN490	
一般構造用軽量形鋼	⦿ SSC400 •		
建築構造用圧延棒鋼	⦿ SNR400		

7-2 高力ボルト 使用箇所：屋外階段 (A-504,505)

高力ボルトの種類		使用箇所
トルシア形高力ボルト	※ S10T	全般
JIS形高力ボルト	• F10T	トルシア形が使用できない部分
溶融亜鉛メッキ高力ボルト	⦿ F8T	母材が亜鉛メッキされている部分
超高力ボルト	• S14T	屋内環境

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【その他】 構造特記仕様書 (1)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田 文武	設計者名 安川 雅巳	縮尺 A1:− A3:−	図面番号 S − 501

構 造 特 記 仕 様 書 (2)

選択項目は ⦿ 印を適用し、⦿ 印が無い場合は ※ 印を適用する。
○ 印が複数有る場合は、共に適用する。

7-3　普通ボルト,アンカーボルト　使用箇所 屋外階段(A-504,505)

1) 材質　⦿ SS400　• SS490(M　以上)
　• ABR400　• ABR490　• ABM400　• ABM490(ABMはM24以上)

2) 大臣認定柱脚(メーカー仕様による)　• 使用する ⦿ 使用しない

7-4　頭付きスタッド

径	長　さ (mm)	使 用 箇 所
16 φ	• 80　• 100　• 120　• 150　•	
19 φ	• 80　• 100　• 120　• 150　•	
22 φ	• 100　• 120　• 150　•　•	

7-5　溶接材料

1) アーク溶接に使用する溶接棒,ワイヤ及びフラックスは母材の種類,寸法,及び溶接条件に相応したものを選定する。

2) ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。

7-6　スカラップ形状　※ ノンスカラップ工法　⦿ スカラップ工法

7-7　継手

	柱		梁	
フランジ	• 高力ボルト	• 現場溶接	※ 高力ボルト	• 現場溶接
ウェブ	• 高力ボルト	• 現場溶接	※ 高力ボルト	• 現場溶接

7-8　溶接手法及び管理

1) 使用する溶接ワイヤー、入熱量及びパス間温度等の仕様については鉄建協又は全構協の仕様で、専任の溶接施工管理技術者により管理を行うこと。

2) 完全溶け込み溶接はAW検定の有資格者が行うとする指定を　※ 行う • 行わない

3) 本工事で代替タブを使用する場合は、代替タブ溶接技能者技量検定付加試験を　※ 行う • 行わない
但し、代替タブのAW検定有資格者は技量検定付加試験を免除する。

7-9　デッキプレート　(単位mm)

1) 床用　高さ •　板厚 •

2) 合成スラブ用　高さ •　板厚 •

3) 型枠用　高さ •　板厚 •　形版　タイプ

4) 防錆処理　• プライマー　• 亜鉛メッキ　• Z12　• Z27

7-10　塗装(工場塗 ※ 2回　• 1回、現場タッチアップ程度とする)

1) 素地調整　※ ケレン　⦿ ブラスト

2) 下塗り用塗料

適用 屋外	適用 室内	塗　料	種 別		標準膜厚
	※	鉛、クロムフリー錆び止め　JISK5674	※1種	※2種	30μm
	•	水系さび止めペイント　JASS18　M-111			30μm
•		変性エポキシ樹脂プライマー　JASS18　M-109	• 1種	• 2種	40μm
•		有機ジンクリッチプライマー　JISK5552		• 2種	15μm
•		構造物用さび止めペイント　JISK5551	A種		30μm

3) 溶融亜鉛メッキ　⦿ 行う　• 行わない

4) 常温亜鉛メッキ　⦿ 行う　• 行わない　※原則、溶融亜鉛メッキ

5) 高耐食メッキ鋼板 (t3.2mm以下)　• 用いる　⦿ 用いない

7-11　溶接部の検査(受入検査)　※ 行う　• 行わない

1) 受入検査を行う第三者検査機関は、建築主、設計者、工事監理者又は工事施工者(元請)との直接契約による。

2) 第三者検査機関は(社)日本溶接協会によるCIW検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を取得した事業者とし、当該工事の鉄骨製作工場の社内検査を行っていない事業者とする。

3) 受入検査は目視による外観検査と超音波探傷検査とし、社内検査完了後に行う。

4) 外観検査の合否判定は国土交通省告示1464号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会「JASS6 鉄骨工事 2018 付則6. 鉄骨精度検査基準」の限界許容差による。

5) 超音波探傷検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説」2018により、合否判定は7.2.1疲労を考慮しない溶接部のうち、引張応力が作用する溶接部の項を適用する。

6) 溶接箇所数の数え方は「JASS6 鉄骨工事 2018」表10.1溶接箇所数の数え方による。

7) 受入検査の抜取り方法及び抜取り率は以下による。

a) 工場溶接の場合

ⅰ. 検査ロットは各節、各工区毎に溶接箇所300箇所以内で構成する。

ⅱ. 抜取り数は各ロット毎に30箇所をランダムにサンプリングする。

ⅲ. 大きさ30個のサンプル中の不適合個数が1個以下のときはロットを合格とし、4個以上のときはロットを不合格とする。ただし、サンプル中の不適合数が1個を超え4個未満のときは、同じロットからさらに30個のサンプルを抜取検査する。総計60個のサンプルについての不適合個数の合計が4個以下のときはロットを合格とし、5個以上のときはロットを不合格とする。

b) 現場溶接の場合

ⅰ. 全数検査とする。

8) 検査により不合格と判定された溶接部はすべて補修を行い、再検査して合格とならねばならない。

9) ずれ・食い違いの補修方法は、独立行政法人 建築研究所監修「突き合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。

7-12　鉄骨製作工場　下記○印のグレード認定工場の内、納期・製作能力・鉄骨数量を勘案して工場選択のこと

国土交通省大臣認定(グレード)					
S	H	Ⓜ	R	J	

§8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PCa板工事

8-1　コンクリートブロック

1) 種類　• A種　• B種　• C種

2) 厚さ mm　• 100　• 120　• 150　• 190

8-2　ALCパネル

1) 使用箇所　• 床　• 屋根　• 外壁　• 内壁

2) 厚さ mm　• 75 (80)　• 100　• 120(125)　• 150　• 175

3) 外壁取り付け構法

方 向	構　法	使 用 箇 所	備　考
縦	• ロッキング構法		
横	• アンカー構法		

8-3　押出成形セメント板

外壁取付構法及び厚さ mm　⦿ 60　•

方 向	構　法	使 用 箇 所	備　考
縦	⦿ ロッキング構法	外壁	
横	• スライド構法		

8-4　PCa板

1) 床及び屋根　• 床　• 屋根
　• PCa板単独 厚さ mm　•　•
　• 合成板

PCa板厚さ mm	現場打厚さ mm	合計厚さ mm	備　考

2) 外壁 厚さ mm　•　•

§9 施工方法等計画書

9-1　構造体コンクリート強度の検査

1) 構造体コンクリートの圧縮強度の検査は、工事現場で試料を採取して作製した円柱供試体の圧縮強度試験によって行う。

2) 1回の試験は、コンクリートの打込み日ごと、打込み工区ごとに行う。ただし、1日の計画打込み量が150m3を超える場合には、150m3以下にほぼ均等に分割した単位ごとに1回行う。

3) 1回の試験には、適当な間隔をおいた3台の運搬車から、1個ずつ採取した合計3個の供試体を使用する。

4) 試験結果の判定は、1回ごとに行う。

5) 試験結果が、表9-1-1を満足すれば、合格とする。

6) 5)において、標準養生供試体の代わりに、あらかじめ準備した現場水中養生供試体によることができる。その場合の判定基準は、材齢28日までの平均気温が20℃以上の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値が調合管理強度以上であり、平均気温が20℃未満の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値から3N/mm2を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

7) 5)において、コア供試体の代わりに、あらかじめ準備した現場封かん養生供試体によることができる。その場合の判定基準は、材齢28日を超え91日以内にn日において、3個の供試体の圧縮強度の平均値から3N/mm2を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

8) 試験結果が、表9-1-1または 6)あるいは 7)を満足しない場合の措置は、工事監理者の指示による。

表9-1-1 構造体コンクリートの圧縮強度の判定基準

供試体の標準方法	試験材齢(※1)	判定基準
標準養生(※2)	28日	X ≧ Fm
コ　ア	91日	X ≧ Fq

ただし、 X：1回の試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値(N/mm2)
Fm：コンクリートの調合管理強度(N/mm2)
Fq：コンクリートの品質基準強度(N/mm2)

注)　(※1) 所定の年齢より早い材齢において試験を行った結果が合否判定基準を満たした場合は、合格とする。
(※2) 工事監理者の承認を得て、供試体成型後、翌日までは20±10℃に日光および風が直接当たらない箇所で、乾燥しないように養生して保管することができる。

9-2　材料及び調合の条件

コンクリートの耐久性を確保するための材料及び調合の条件は、 特記された事項以外は下記による。

1) AE剤、AE減水剤または高性能AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は、特記による。特記のない場合は4.5%とする。

2) 水セメント比は、調合強度が得られる値とする。

3) 水セメント比の最大値は、表9-2-1による。表9-2-1に示す以外のセメントを用いる場合の水セメント比の最大値は、特記による。

4) コンクリートに含まれる塩化物量は、塩化物イオン量で0.30kg/m3以下とする。

5) コンクリートは、アルカリシリカ反応を生じるおそれのないものとする。

表9-2-1　水セメント比の最大値

	セメントの種類	水セメント比の最大値 (%) 短期・標準・長期	水セメント比の最大値 (%) 超長期
ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 中庸熱ポルトランドセメント	65	55
	低熱ポルトランドセメント	60	
混合セメント	高炉セメントA種 フライアッシュセメントA種 シリカセメントA種	65	ー
	高炉セメントB種 フライアッシュセメントB種 シリカセメントB種	60	

9-3　養　生

9-3-1　養生温度

1) 外気温の低い時期においては、コンクリートを寒気から保護し、打込み後５日間以上温度を２℃以上に保つ。ただし、早強ポルトランドセメントを用いる場合は、この期間を3日間以上としてよい。

2) コンクリートの打込み後、初期凍害を受けるおそれがある場合は、初期養生を行う。

3) コンクリートの打込み後、セメントの水和熱により部材断面の中心部温度が外気温より25℃以上高くなるおそれがある場合は、温度応力の悪影響が生じないような養生を行う。

9-3-2　湿潤養生

打込み後のコンクリートは、透水性の小さいせき板による被覆、養生マットまたは水密シートによる被覆、散水、噴霧、膜養生剤の塗布などにより湿潤養生を行う。その期間は、計画供用期間の級に応じて表9-3-1によるものとする。

表9-3-1　湿潤養生の期間

計画供用期間の級 / セメントの種類	短　期 および 標　準	長　期 および 超長期
早強ポルトランドセメント	3日以上	5日以上
普通ポルトランドセメント	5日以上	7日以上
中庸熱および低熱ポルトランドセメント 高炉セメントB種、フライアッシュセメントB種	7日以上	10日以上

9-3-3　振動及び外力からの保護

1) 凝結硬化中のコンクリートが、有害な振動や外力による悪影響を受けないように、周辺における作業の管理を行う。

2) コンクリートの打込み後、少なくとも1日間はその上で作業をしてはならない。やむを得ず歩行したり作業を行ったりする必要がある場合は、工事監理者の承認を受ける。

9-3-4　型枠の存置期間及び取外し

1) 型枠の取外しは、型枠の最小存置期間の経過後に行う。

2) 型枠の存置期間は、次による。

ア) 最小存置期間は、表9-3-2及び表9-3-3により、コンクリートの材齢又はコンクリートの圧縮強度により定める。寒冷のため強度の発現が遅れるおそれのある場合は、コンクリートの圧縮強度により存置期間を定める。ただし、セメントの種類が普通エコセメントの場合の最小存知機関は、特記による。

イ) コンクリートの圧縮強度を圧縮強度試験により確認する場合は、コンクリートの試験結果及び関係法令等に基づく安全を確認するための資料により、工事監理者の承認を受ける。

表9-3-2 せき板の最小存置期間

施工箇所 / セメントの種類 / 存置期間中の平均気温		基礎・梁側・柱・壁 早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント,高炉セメントA種,シリカセメントA種,フライアッシュセメントA種	高炉セメントB種,シリカセメントB種,フライアッシュセメントB種	中庸熱ポルトランドセメント,低熱ポルトランドセメント
コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	2	3	5	6
	5℃以上	3	5	7	8
	0℃以上	5	8	10	12
コンクリートの圧縮強度による場合	ー	圧縮強度が5N/mm2以上になるまで。			

注)　圧縮強度を圧縮強度試験により確認する場合は、工事現場における水中養生供試体又は封かん養生供試体の圧縮強度とする。

表9-3-3 支柱の最小存置期間

施工箇所 / セメントの種類 / 存置期間中の平均気温		スラブ下 早強ポルトランドセメント	スラブ下 普通ポルトランドセメント,高炉セメントA種,シリカセメントA種,フライアッシュセメントA種	スラブ下 中庸熱ポルトランドセメント,低熱ポルトランドセメント,高炉セメントB種,シリカセメントB種,フライアッシュセメントB種	梁下 左記の全てのセメント
コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	8	17	28	28
	5℃以上	12	25		
	0℃以上	15	28		
コンクリートの圧縮強度による場合	ー	圧縮強度が設計基準強度(Fc)の85%以上又は12N/mm2以上であり、かつ、施工中の荷重及び構造計算外力について、により安全であることが確認されるまで。			圧縮強度が設計基準強度(Fc)以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで。

注)　圧縮強度を圧縮強度試験により確認する場合は、工事現場における水中養生供試体又は封かん養生供試体の圧縮強度とする。

3) 片持梁、ひさし、長大スパンの梁、大型スラブ等の型枠を支持する支柱、施工荷重が大きく、コンクリートに支障が生じるおそれがある場合の支柱等は、必要に応じて、存置期間を延長する。

4) スラブ下及び梁下のせき板は、支柱を取外し後に取外す。ただし、これにより難い場合は、工事監理者と協議する。なお、支柱の盛替えは行わない。

5) 支保工除去後、その部材に加わる荷重が構造計算書におけるその部材の設計荷重を上回る場合には、上述の存置機関にかかわらず、計算によって十分に安全であることを確かめた後に取り外す。

§10 施行令第129条の2の3の事項　※設計が該当する項目は、□ に ✓ を記入。

建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

☑ 建築設備(昇降機を除く。)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとすること。

□ 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するもの(以下「屋上水槽等」という。)は、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。

□ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支柱を設けたものを除き、90cm以下とすること。

□ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。

☑ 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備（給湯設備[注]を除く。）は、

　☑ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。

　☑ 建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。

　☑ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。

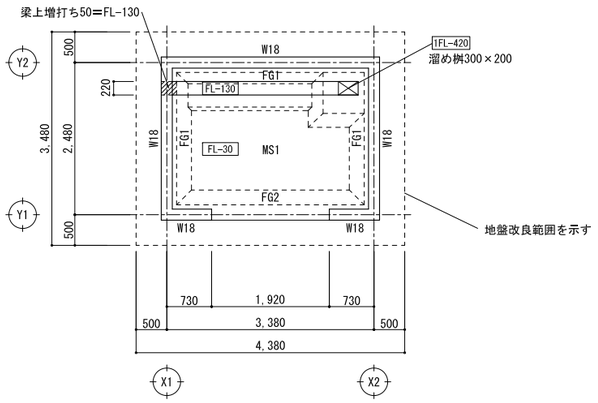
　☑ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。

□ 法第20条第1項第一号から第三号までの建築物に設ける屋上水槽等にあっては、平成12年建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとすること。

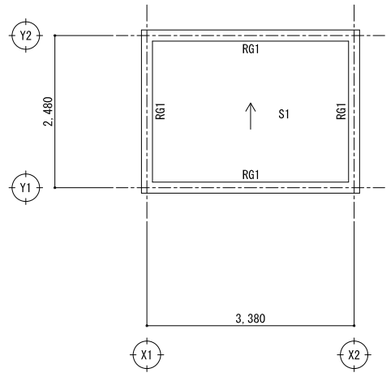
□ 給湯設備[注]は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。

注)　「給湯設備」：建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの。

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【その他】 構造特記仕様書 (2)		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 / 小田　文武	設計者名 / 安川　雅巳	縮尺 / A1:ー A3:ー	図面番号 / S - 502



基礎・1階床梁伏図　1/50



R階床梁伏図　1/50

注）特記なき限り下記による。

- 1CL=GL+20=1FL-30とする。
- 地中梁天端はGL-150とする。
- 地中梁上は170増打ち＝FL-30とする。
- R階スラブ天端レベル＝RCL(水上) ～RCL(水下)
- 壁はW18とする。通芯＝壁芯とする。
- 床版の主筋方向は、図面に対して ⇕ とする。
- FL+50 はFLからのスラブレベルを示す。
- ⟶ は水勾配を示す。

梁および地中梁断面リスト　1/50

巾止め筋　D10(スターラップの3列毎)

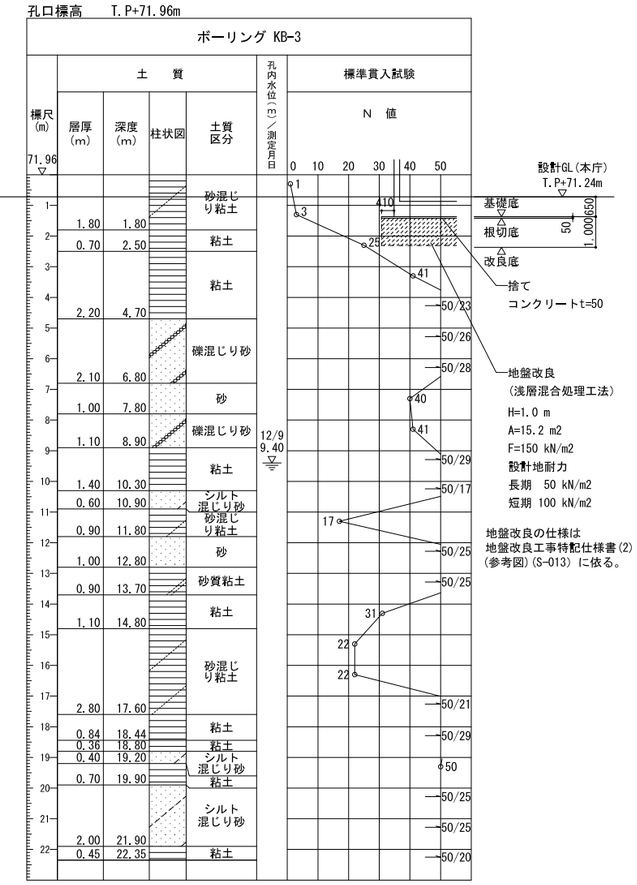
符号	FG1	FG2	RG1
スパン	2,480 3,380	3,380	2,480 3,380
位置	全断面	全断面	全断面
B	250	250	180
D	500	500	490
上筋	2-D16	2/1-D16	1-D13
断面	GL 150 D B	GL 150 D B	
下筋	2-D16	2-D16	1-D13
スターラップ	□D10@200	□D10@200	コ-D10@200
腹筋	2-D10	2-D10	1-D10

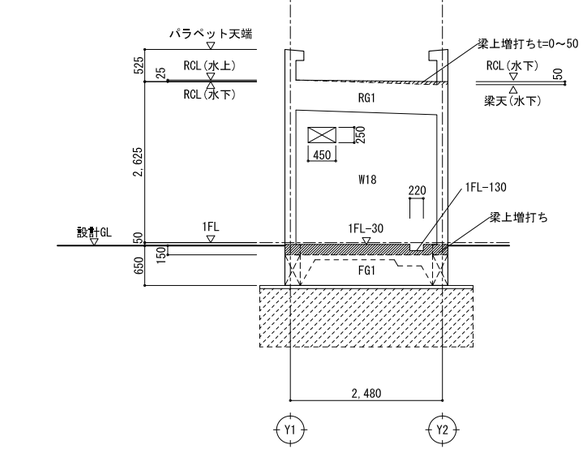
壁配筋表　1/50

符号	W18
断面	20 180 10 (外) (内)
タテ筋	D10@200
ヨコ筋	D10@200

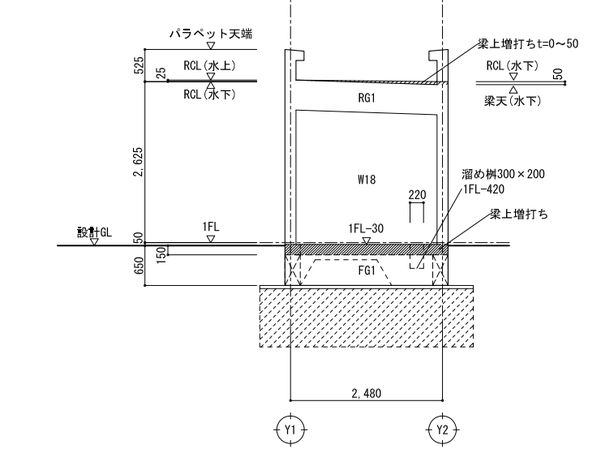
調査場所
調査期間　令和3年12月6日～令和3年12月9日
施工業者　株式会社 ニュージェック

孔口標高　T.P+71.96m





Y1通軸組図　1/50

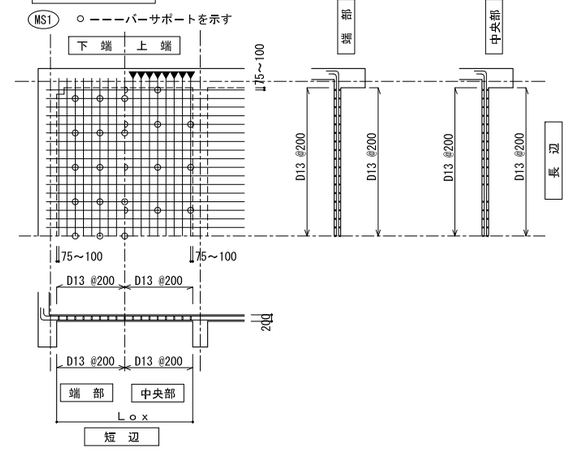


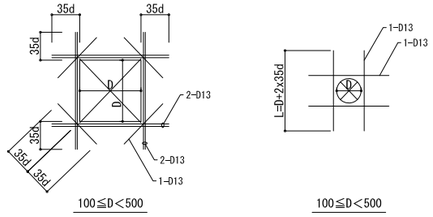
Y2通軸組図　1/50

床配筋表

符号	版厚	位置	短辺 端部 D	短辺 端部 @	短辺 中央部 D	短辺 中央部 @	短辺 周辺部 D	短辺 周辺部 @	長辺 端部 D	長辺 端部 @	長辺 中央部 D	長辺 中央部 @	長辺 周辺部 D	長辺 周辺部 @
S1	150	上端			10,13	200					10	200		
		下端			10	200					10	200		
MS1	250	上端			13	200					13	200		
		下端			13	200					13	200		
バーサポート	・上端筋，下端筋共　1．3個／㎡　程度（鋼製，コンクリート製とする） ・庇 及び はね出し床版の端部上端筋の高さに注意													

床版配筋例



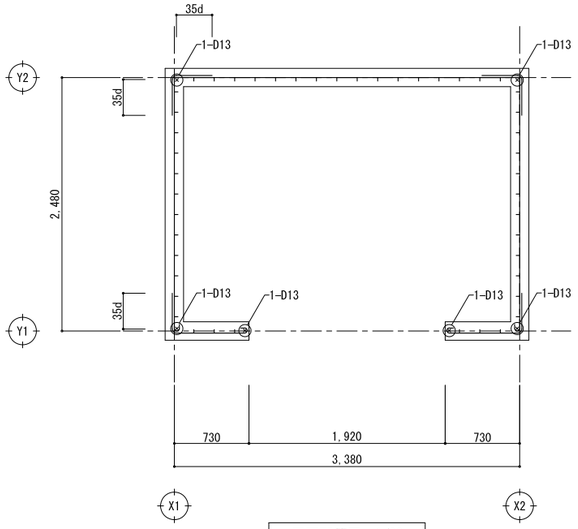


壁開口部補強配筋図

X1通軸組図　1/50

X2通軸組図　1/50

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【その他】 屋内貯蔵所 伏図、軸組図		2023/03
NEWJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田 文武	設計者名 安川 雅巳	縮尺 A1:1/ 50 A3:1/100	図面番号 S - 503

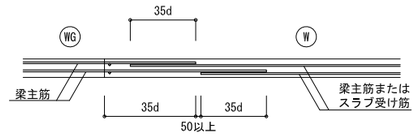


平面配筋図　1/30

特記なき限り　壁符号は、W18 とし、配筋はタテヨコ共にD10@200とする。

注）特記なき限り下記による。

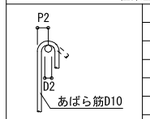
1　壁梁内での継手はなるだけ設けないようにし、
　壁梁で継手をもうけるか、壁への定着とする。



2　スラブ受け筋は、シングル配筋の場青は、1-D13とし壁筋の要領で定着する。
　又壁梁のない場合も配筋する。

3　壁梁主筋は下図による。

柱梁主筋		
P2	D2	P2
	D13	26
	D16	26
	D19	26



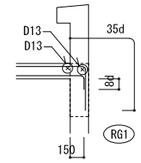
4　凡例

180° フック,余長 4d を示す。

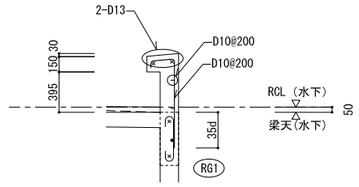
90° 折り曲げ定着、 定着長さ 35d を示す。

5　継手長さ35d、定着長さ35dとする。

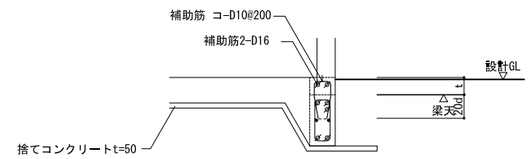
6　下記の事項は、S-002～005[共通]構造関係共通事項
(配筋標準図その1～その4)による。
鉄筋のあき、かぶり厚さ



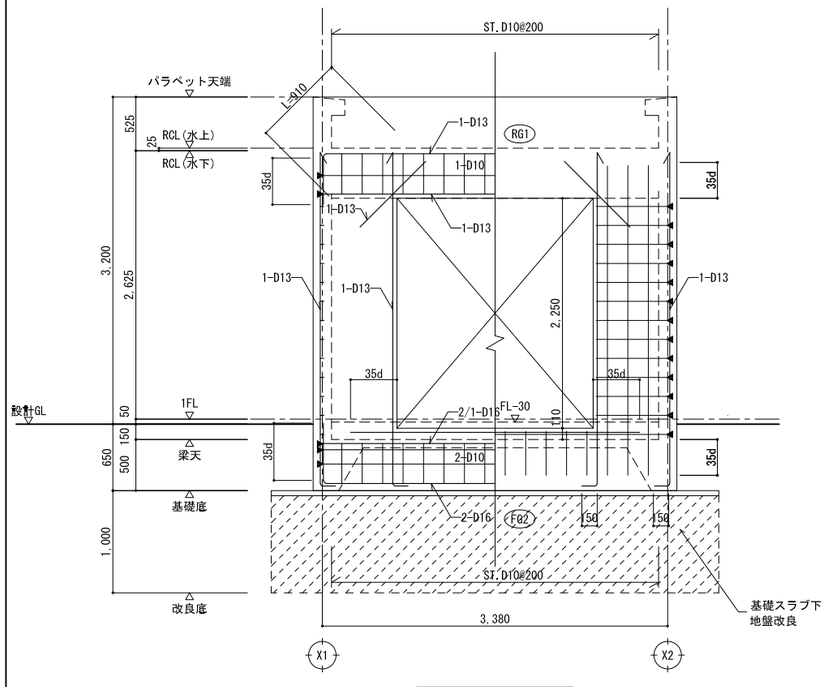
S1配筋要領図　1/30



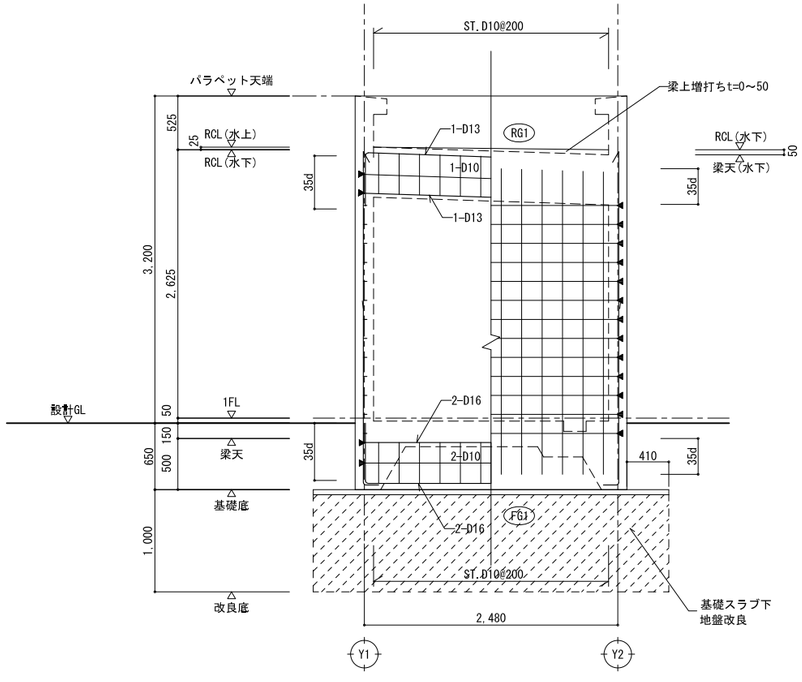
パラペット配筋図　1/30



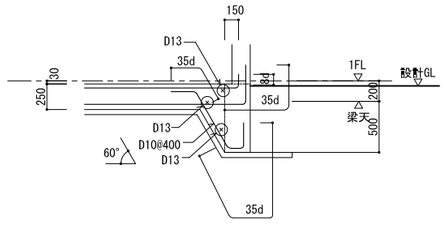
基礎梁増打ち要領図　1/30



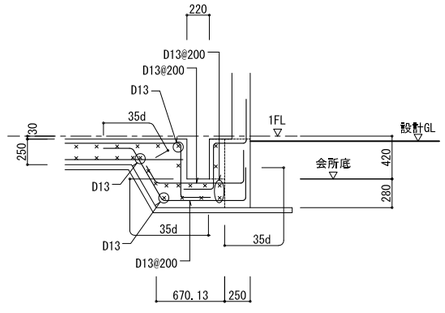
Y1通架構配筋図　1/30



X1通架構配筋図　1/30

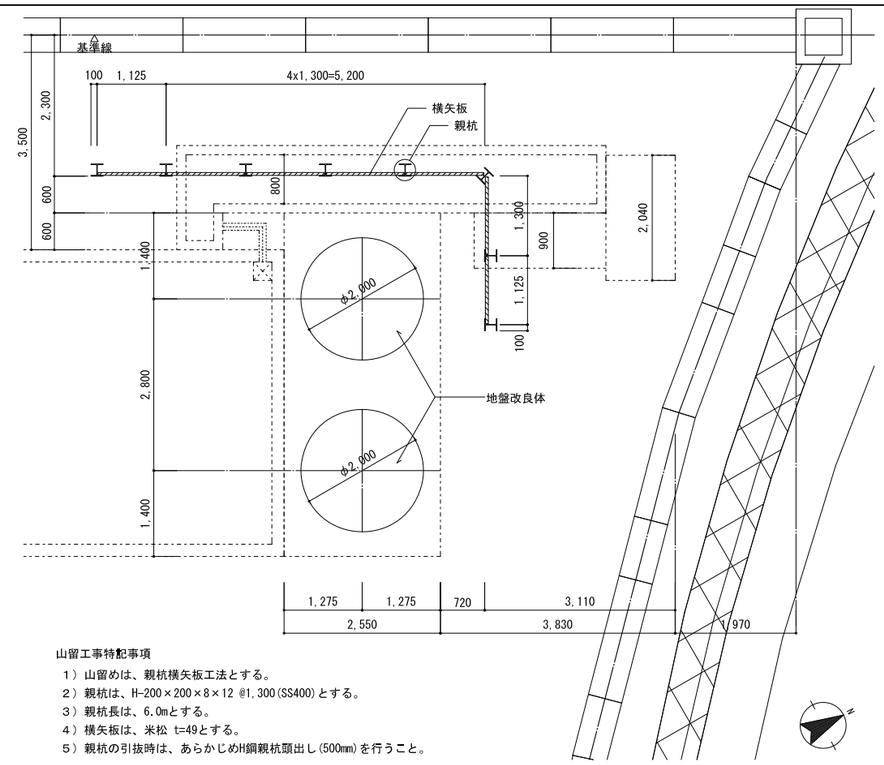


MS1配筋要領図　1/30



会所配筋要領図　1/30

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【その他】 屋内貯蔵所 架構配筋図		2023/03
NEWJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/30 A3:1/60	図面番号 S - 504



山留工事特記事項

1）山留めは、親杭横矢板工法とする。
2）親杭は、H-200×200×8×12 @1,300(SS400)とする。
3）親杭長は、6.0mとする。
4）横矢板は、米松 t=49とする。
5）親杭の引抜時は、あらかじめH鋼親杭頭出し(500mm)を行うこと。

調査場所
調査期間　令和3年12月23日～令和3年12月24日
施工業者　株式会社 ニュージェック

孔口標高　T.P+71.60m

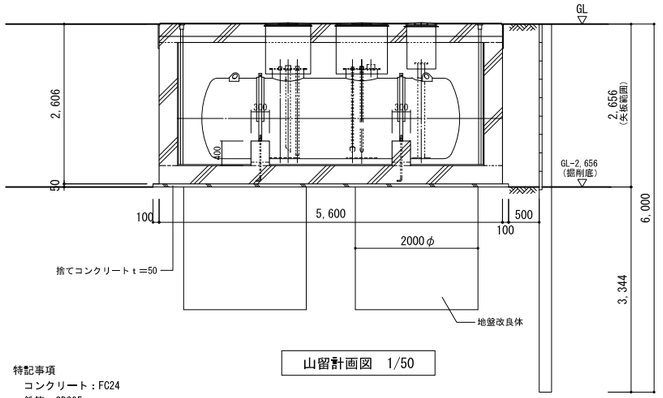
ボーリング KB-1

標尺(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 N値 0 10 20 30 40 50
71.60						設計GL T.P+71.24m
	0.70	0.70		砂混じり粘土		5
1	1.10	1.80		粘土		16
2	0.80	2.60		砂礫混じり粘土		5
3	1.20	3.80		砂混じり粘土		4
4						
5	1.90	5.70		粘土		12
6						28
7						50/28
8				砂		50/26
9	3.10	8.80			12/24 9.20	29
10	1.10	9.90		粘土		22
11	0.45	10.35		砂		50
12						50
13				砂		50/29
14	3.45	13.80				50/27
15	1.30	15.10		砂混じり粘土		50/26
	0.32	15.42		砂		50/27

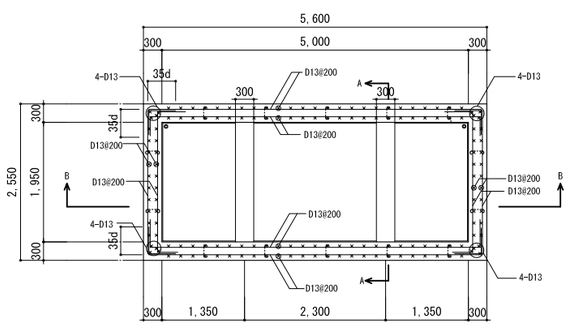
2,550
2,000
50

地盤改良体
(Fc=1100kN/m2)

地盤改良の仕様は地盤改良工事特記仕様書(1)
(参考図)(S-012) に依る。

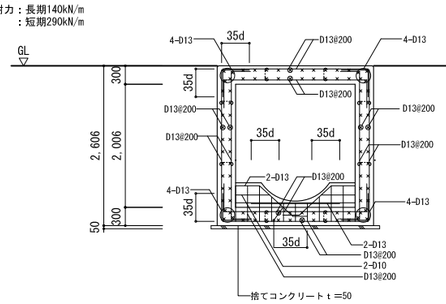


山留計画図　1/50

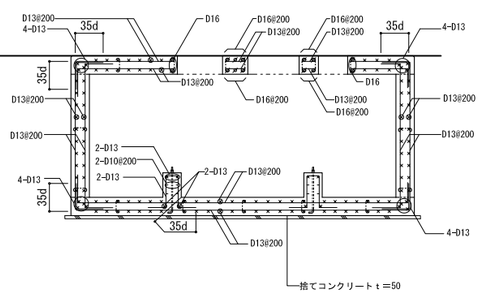


配筋図(平面)

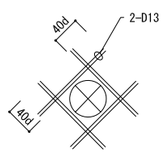
特記事項
コンクリート：FC24
鉄筋：SD295
設計地耐力：長期140kN/m
：短期290kN/m



A-A　断面 配筋図

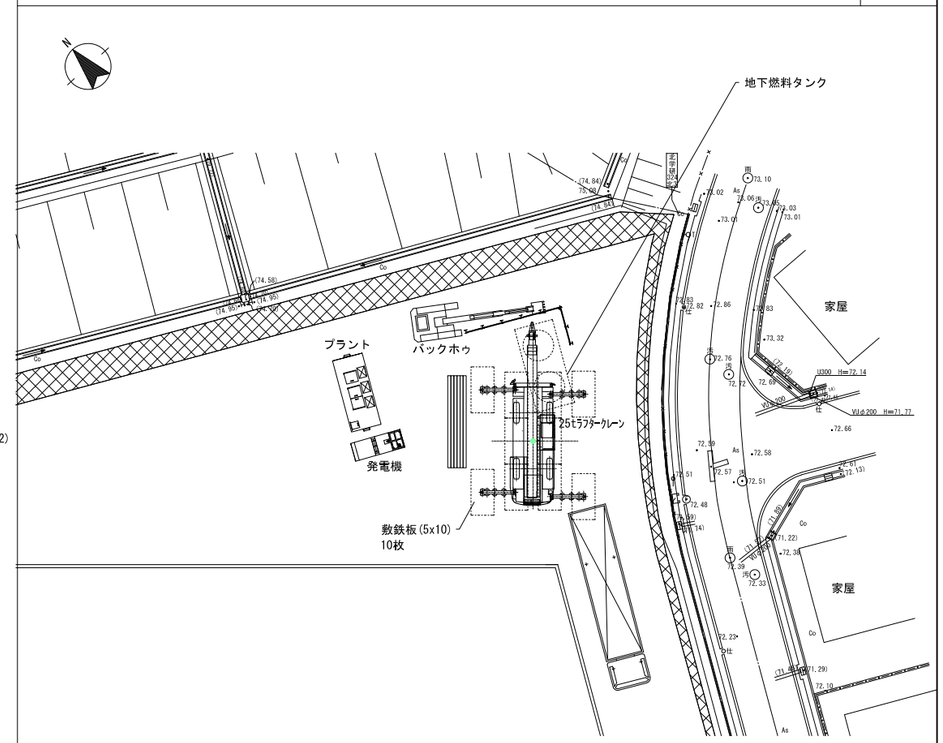


B-B　断面 配筋図

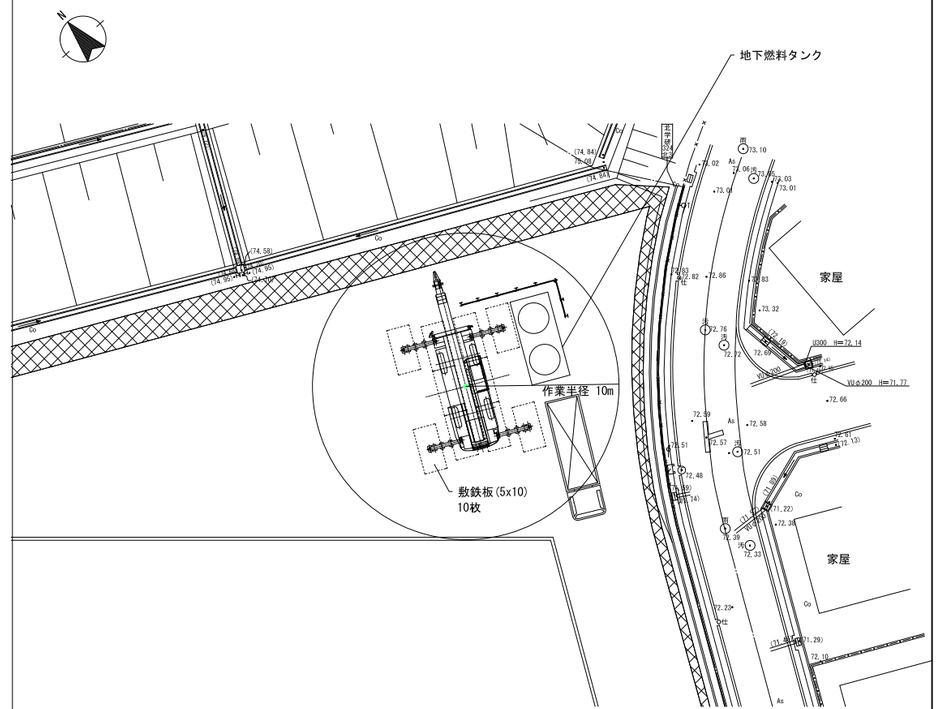


開口部補強配筋図

山留計画図　親杭打設時　1/200



山留計画図　親杭引抜時　1/200



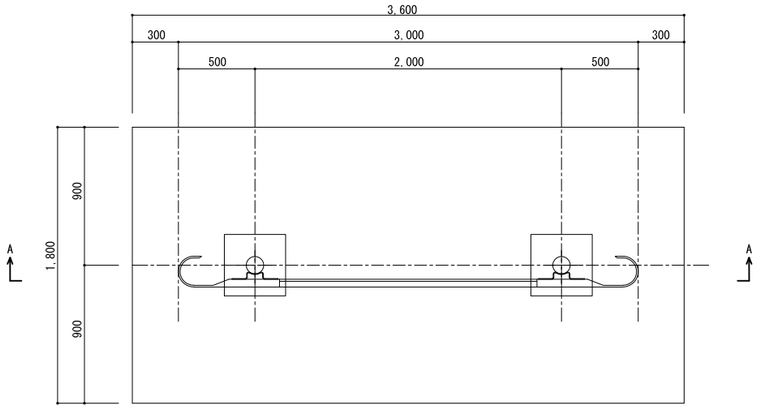
工事名	図面の名称	作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事	【その他】 地下燃料タンク配筋図・地盤改良図・山留計画図(参考図面)	2023/03

NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名	設計者名	縮尺	図面番号
	小田　文武	安川　雅巳	A1:1/ 50,1/200 A3:1/100,1/400	S - 505

訓練棟側　着脱式ガードレール　基礎図

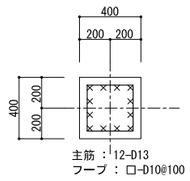
A1:1/20
A3:1/40

特記事項
コンクリート：FC24
鉄筋：SD295
設計地耐力：長期100kN/m^2
　　：短期200kN/m^2
運用最大荷重：30KN



基礎伏図

A-A断面図

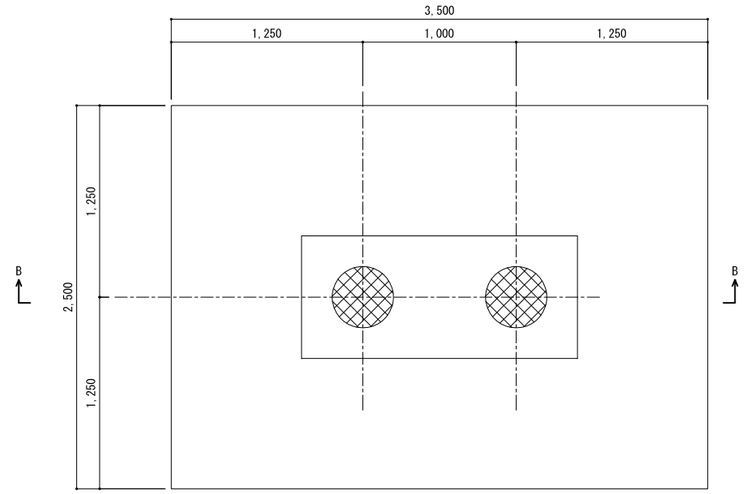


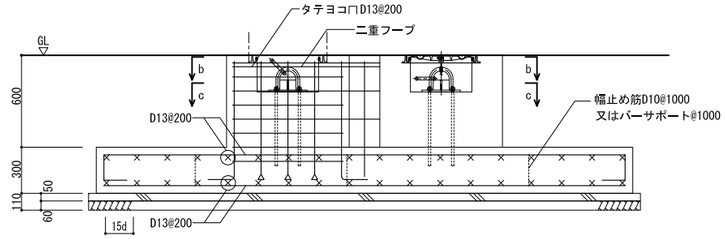
a-a断面図

訓練棟側　斜めブリッジ地上金物　基礎図

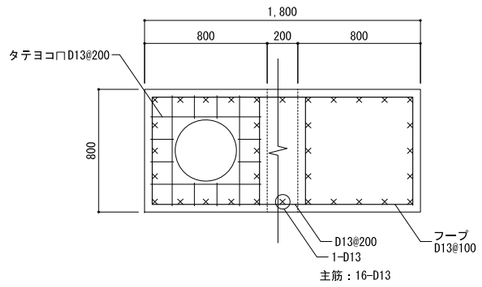
A1:1/20
A3:1/40

特記事項
コンクリート：FC24
鉄筋：SD295
設計地耐力：長期50kN/m^2
　　：短期100kN/m^2
運用最大荷重：20KN





B-B断面図



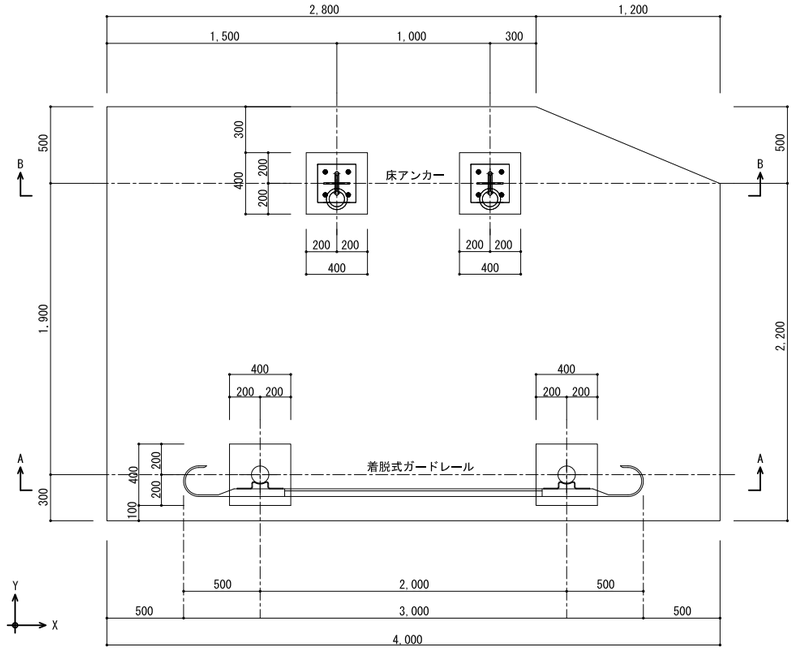
b-b断面図　　c-c断面図

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【その他】 外構基礎図（1）		2023/03
NEXJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/20 A3:1/40	図面番号 S - 506

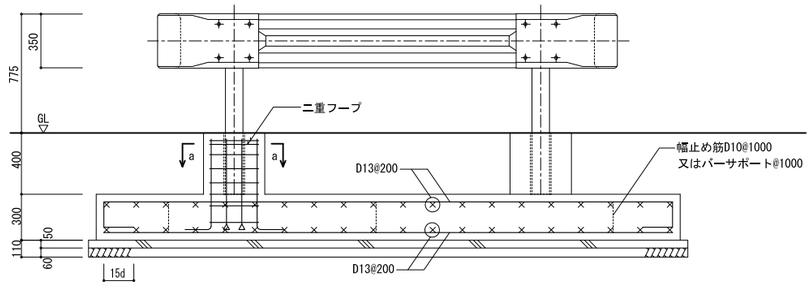
傾斜地訓練施設　床アンカー・着脱式ガードレール　基礎図

A1:1/20
A3:1/40

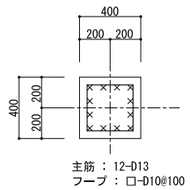
特配事項
コンクリート：FC24
鉄筋：SD295
設計地耐力：長期25kN/m²
　　：短期50kN/m²
床アンカー：運用最大荷重：20KN
着脱式ガードレール：運用最大荷重：30KN



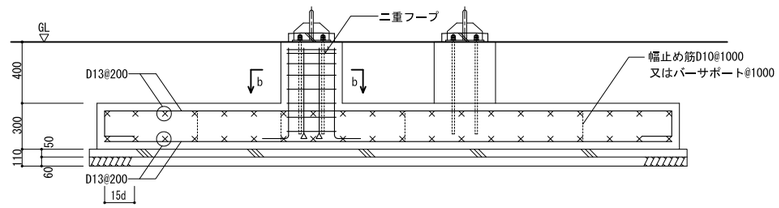
基礎伏図



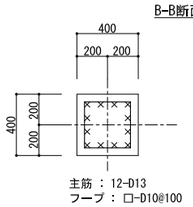
A-A断面図



a-a断面図



B-B断面図



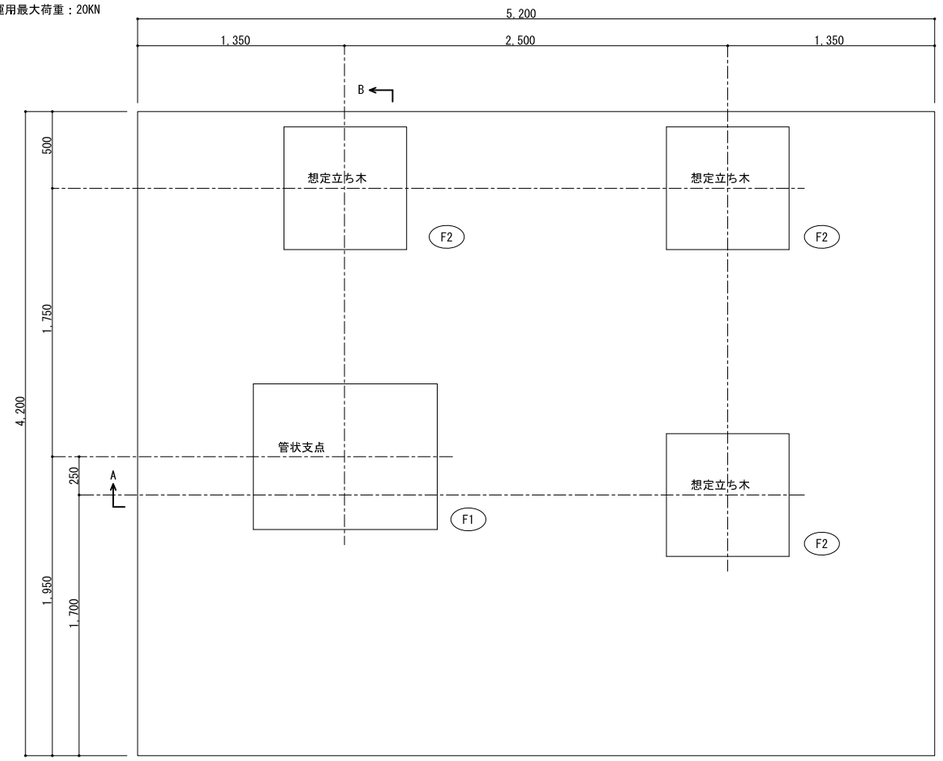
b-b断面図

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【その他】 外構基礎図（2）		2023/03
NEOJEC 株式会社ニュージェック	管理技術者名 小田　文武	設計者名 安川　雅巳	縮尺 A1:1/20 A3:1/40	図面番号 S - 507

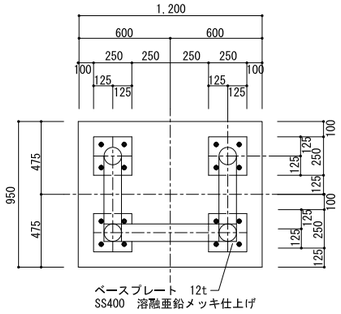
傾斜地訓練施設　管状支点・想定立ち木 基礎図

A1:1/20
A3:1/40

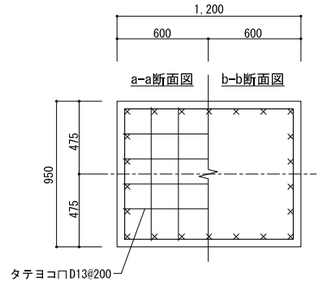
特記事項
コンクリート：FC24
鉄筋：SD295
設計地耐力：長期25kN/m²
　　：短期50kN/m²
管状支点：運用最大荷重：20KN
想定立ち木：運用最大荷重：20KN



基礎伏図

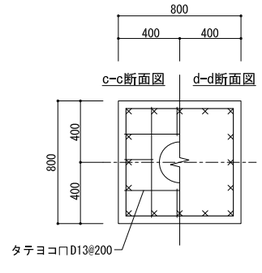


柱脚詳細図
想定立ち木



主筋 ： 22-D13
フープ ： □-D13@100

F1配筋図
想定立ち木



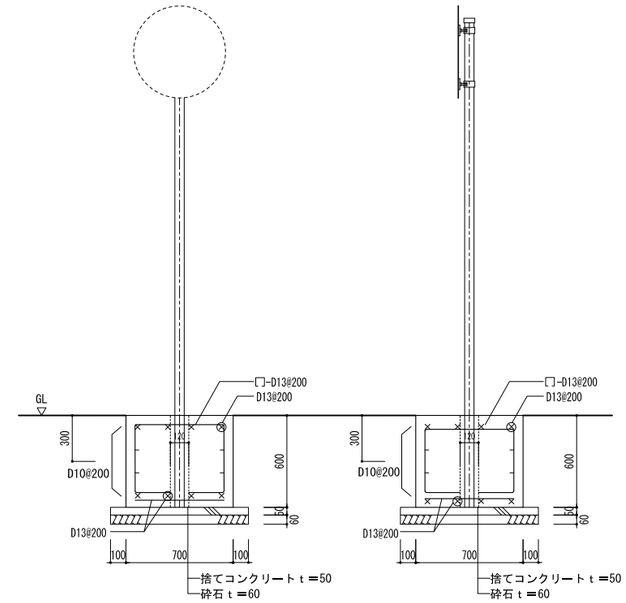
主筋 ： 16-D13
フープ ： □-D13@100

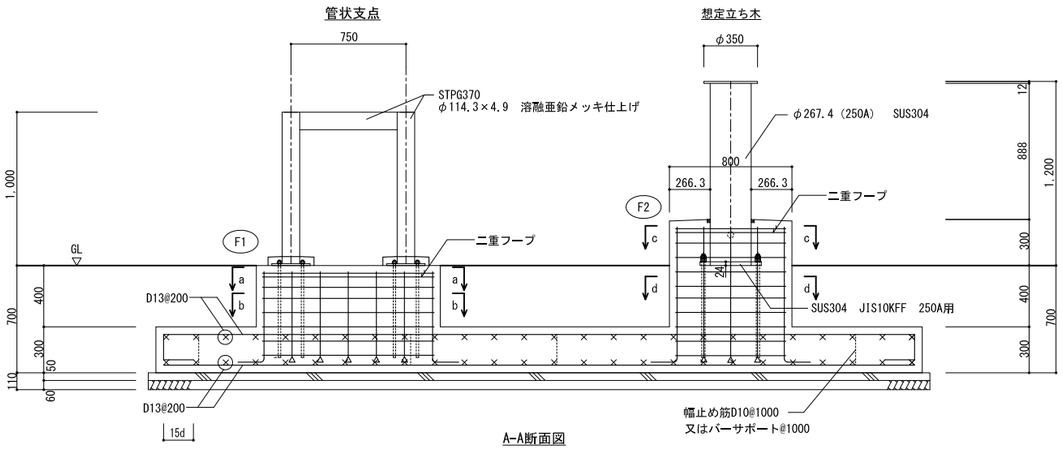
F2配筋図
管状支点

防火水槽標識 基礎図

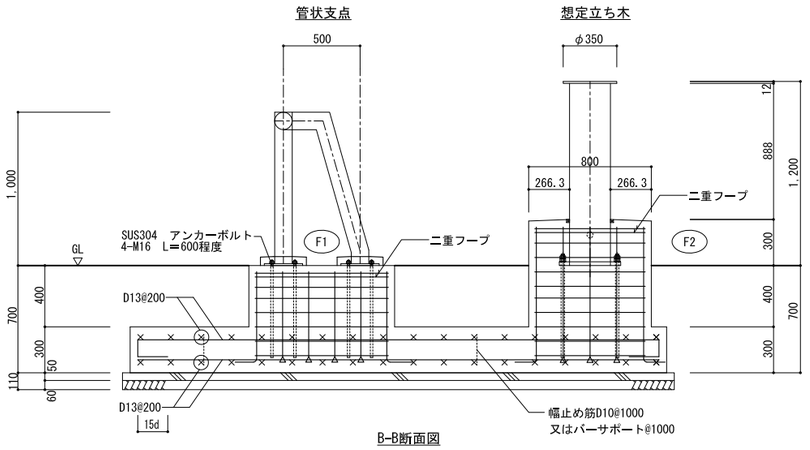
A1:1/20
A3:1/40

特記事項
コンクリート：FC24
鉄筋：SD295
設計地耐力：長期20kN/m²
　　：短期40kN/m²





A-A断面図



B-B断面図

工事名		図面の名称		作成年月日
相楽中部消防組合消防本部（署）新庁舎建設工事		【その他】　外構基礎図（3）		2023/03
NEWJEC　株式会社ニュージェック	管理技術者名：小田　文武	設計者名：安川　雅巳	縮尺：A1:1/20 A3:1/40	図面番号：S － 508